講義科目名称：　日本国憲法　　授業コード：

英文科目名称：　The Constitution of Japan

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１年	２単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
髙　希麗			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：H107
添付ファイル			
カリキュラムマップ（日本国憲法）.pdf			
ルーブリック様式（日本国憲法）.pdf			

講義概要	憲法とは、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた、国の最高のきまりである。本講義では、まず憲法とはどのような法であるか、日本とその他諸外国における憲法の歴史的展開を扱う。さらに、統治機構と基本的人権に関する概要や重要判例などを概説する。現代のグローバル社会における具体的課題（例えばSDGsにある環境保護や個人情報保護、多様性の尊重、少子高齢化、安全保障）に関する素材を提供しながら、憲法の基本的知識をもって考え、発言できるための法的思考を学ぶ。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション、法とは何か 憲法について学ぶ前に、そもそも法とは何かについて、道徳や慣習といった社会規範との違いの中から学ぶ。 E：あり　F：あり 第2回　国家とは、憲法の基本原理とは 憲法の特質と基本原理について取り上げる。特に立憲主義については、ドイツ・フランス・イギリス・アメリカ・アジア等における憲法の歴史についても比較することで、日本の立憲主義との違いを学ぶ。 E：あり　F：あり 第3回　日本における憲法の展開 大日本帝国憲法および日本国憲法それぞれの起草過程、歴史的展開を、映像資料などを通じて学ぶ。両憲法の重要条文のちがいを比較することで、内容の理解を深める。 E：あり　F：あり 第4回　平和主義 憲法９条「平和主義」の内容および自衛隊の位置づけについて学ぶ。憲法改正手続きとその限界について学んだうえで、9条を中心とした憲法改正にまつわる最近の議論について考える。 B：小　E：あり　F：あり 第5回　国会の地位、内閣の権能、地方自治 立法権をもつ国会の地位等を説明し、二院制の意義や国会議員の地位、国会の具体的な運営（法案審議過程・議事運営）を学ぶ。行政権の意味を示し、行政権を担う内閣の権能について紹介し、国の政治運営の方法を学ぶ。地方分権改革の流れを含めて地方自治体の統治制度や住民参加の具体的な事例を考える。 E：あり　F：あり 第6回　裁判所の仕事と仕組み 司法権の意味を確認し、日本の裁判制度、違憲審査制の類型、訴訟類型について、他国と比較しながら学ぶ。また、司法制度改革に伴い導入された裁判員制度の方法や課題についても考える。 B：小　E：あり　F：あり 第7回　人権保障の総論（基本的人権の意味、権利享有主体性） 基本的人権の意味について歴史的な変遷を学び、日本国憲法の人権主体について考える。 B：小　E：あり　F：あり 第8回　包括的人権（プライバシーの権利や自己決定権・環境権など） 憲法13条「幸福追求権」および14条「法の下の平等」について、重要判例を通じて考える。 B：小　E：あり　F：あり 第9回　思想良心の自由・信教の自由 憲法19条「思想良心の自由」および憲法20条「信教の自由」について、重要判例を通じて考える。 B：小　E：あり　F：あり 第10回　表現の自由・集会結社の自由 憲法21条「集会、結社、表現の自由、通信の秘密」について、重要判例を通じて考える。 B：小　E：あり　F：あり 第11回　学問の自由・教育を受ける権利 憲法23条「学問の自由」について、重要判例を通じて考えると同時に、社会権である26条「教育を受ける権利」についても学ぶ。 B：小　E：あり　F：あり 第12回　人身の自由と刑事手続き 憲法18条「奴隷的拘束の禁止」および憲法31条「刑事手続の保障」について、刑事訴訟手続や死刑制度について考える B：小　E：あり　F：あり 第13回　経済活動の自由 憲法18条「奴隷的拘束の禁止」および憲法31条「刑事手続の保障」について、刑事訴訟手続や死刑制度について考える。また、憲法22条「職業選択の自由・居住移転の自由」および憲法29条「財産権」といった経済的自由について、重要判例を通じて考える。 B：小　E：あり　F：あり 第14回　社会権 憲法25条「生存権」および憲法27条「勤労の権利」・28条「労働基本権」といった社会権につい

	て、重要判例を通じて考える。 B：小　E：あり　F：あり 第15回　ディスカッション 議題は学生の話し合いたい事をとりあげる。 グループに分かれディスカッションをし、発表し、全体で討論会を行う。 期末試験 A：中　B：中　D：中　F：あり
教育目標との関連	思想・良心の自由、表現の自由などの精神的自由、人身の自由、職業選択の自由、居住移転の自由などの経済的自由などの国家からの自由、国の政治に参加する参政権、経済的、社会的弱者を国家が保障する社会権など人権とは何かを学ぶ。立憲主義の歴史を紐解く。法の支配、自然権、自然法の理論、平和主義への歩みを理解する。国家とは何か。戦争とは何か。地球全体の大きな視野に立ち、国際的な平和共存の実現に向け、次世代を担い、周囲の状況や他者の気持ちを理解し、適切な判断ができる者を育成する。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．　日本国憲法とは何か、法秩序における憲法の位置付けを理解した上で、憲法に関する基本的な知識を身に着け、憲法に関する用語について説明することができる。現代のグローバル社会における具体的課題に関心を持ち、積極的に調べ、法的な観点から考え、述べることができる。 ３．　重要な憲法判例の概要を理解し、その判例（判例で扱う争点）について、自身の考えを持ち、論理的な思考に基づき、的確に議論・討論ができる。 ５．人権問題を学ぶことを通じて、広い視野をもち、異なる価値観や多様性を尊重することができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	提出課題　50% 平常点評価　　50% 評価方法は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	なし
参考書	井上典之編『憲法の時間』（有斐閣、2017年）、斎藤一久・堀口悟郎編『図録日本国憲法＜第2版＞』（弘文堂、2018年） その他、参考資料は講義中に配布するか適宜指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	毎回授業中に示す復習・予習課題を調べる・熟読する。時事問題に常に関心をもち、図書館や新聞記事、インターネットを活用して、予習復習を心がけてほしい。必要な時間は一時間以上。
履修上の注意、条件等	ノートパソコンやスマートフォン、タブレットなど、インターネットに接続できる電子機器を授業に持ち込むことが望ましい。 現代のグローバル社会における具体的課題に常に関心を持ち、疑問があれば自分で調べること。 身近な人と意見交換を行い、自身の考えを持ち、発信することを心掛けること。
オフィスアワー	授業中に質問を受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 幼児教育と情報機器演習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Computer Training for Early Childhood Education Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
福田尚子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D102
添付ファイル			
curriculum map_1.pdf			
rubrick_1.pdf			

講義概要	「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」（1年生前学期）、「幼児教育と情報機器演習Ⅱ」（2年生後学期）を通して保育者にふさわしい情報リテラシーを獲得するために、情報モラルや必要な情報を探索する方法、収集した情報を分析、評価する方法、そして効果的に表現する技法を主に演習を通して学んでいく。また、情報機器を取り入れた保育や教育のあり方についても考察していく。 「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」においては、まずは一般的な情報リテラシーの獲得と文書作成能力を培うことを目標とする。 他教科でも学習の基盤として使用するGmail、Google Classroom、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google スライドの効果的な使い方を演習を通して学び、それらを活用した双方向型授業を実施する。 担当講師は、中学校・高等学校の英語教員免許を持つ。ICT企業においてシステムエンジニア、技術営業職を経てWeb制作会社でのプロジェクトマネージャーとして勤務した実務経験を有する。その経験を活かし、教育的視点と実践的なICTを組み合わせた授業を行う。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション － 幼児教育と情報機器演習の関係性 国内および諸外国での保育現場における情報機器の活用状況をもとに、本授業の意義を説明する。また、現時点での実力を確認するため実力テストを行う（タイピングテストと簡単なクイズ・アンケート）。 F：あり 予習：「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」（本授業）のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておく（1時間） 第2回　学習環境の解説 － Google Classroom（授業環境）とは何か 学習環境（Google Classroom）と今後の授業の進め方について説明する。また、タイピング練習方法について説明する。 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（３０分） 第3回　フォーマルメールを学ぶ Gmailを用い、フォーマルメール（学内外の目上の方への丁寧なメール）の送り方について学ぶ。宛先の設定（To:Cc:Bcc）、文章の構成（宛名、挨拶文、本題、締めくくり）などメールを送る際のルールを学ぶ。 事前準備：学校から配布されたGmailアドレスとパスワードを準備する。 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（３０分） 第4回　情報モラルを学ぶ　１ 学校で生活する上で必要な情報モラル（LINEやインスタグラムなどのSNSの利用やインターネット利用時の著作権、肖像権、個人情報の保護など）について学ぶ。 また、本授業の内容をもとに、指示されたテーマについて考えをまとめフィードバックする。（形式は授業中に指示） A: 少 E ： あり F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（３０分） 第5回　レポート作成の基礎を学ぶ　１（情報の探索、分析、評価、整理） ある課題解決をするために情報探索し、分析・評価・整理したものをレポートとしてアウトプットする。またその際の注意事項（引用、著作権など）、Google ドキュメントを用いたレポート作成方法について学ぶ。また、第4回で提出された課題についてフィードバックする。 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（３０分） 第6回　レポート作成の基礎を学ぶ　２（情報のアウトプット） 本学共通のレポートフォーマットを学ぶ。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（３０分） 第7回　文書作成の基礎を学ぶ　１（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、簡単な文書を作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（３０分） 第8回　文書作成の基礎を学ぶ　２（情報のアウトプット） Google ドキュメントを用い、簡単な文書（画像を含む）を作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分）

	復習：学びの振り返りとタイピング練習（３０分） 第9回　文書作成の基礎を学ぶ　３（情報のアウトプット） 幼稚園・保育園の「お便り」を題材に、これまで学んできた機能を使い必要な情報を効果的にアウトプットする方法を学ぶ。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（３０分） 第10回　情報モラルを学ぶ　２ 幼稚園や保育園など職場で必要な情報モラル（インターネットやSNSの利用や著作権、肖像権、個人情報の保護など）について学ぶ。 また、本授業の内容をもとに、指示されたテーマについて考えをまとめ提出する。（形式は授業中に指示） A:少 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（３０分） 第11回　プレゼンテーションの基礎を学ぶ　１（情報のアウトプット） Google スライドを用い、プレゼンテーションの基礎を学ぶ。また、第10回で提出された課題についてフィードバックする。 E:あり F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（３０分） 第12回　プレゼンテーションの基礎を学ぶ　２（情報のアウトプット） Google スライドを用い、前回作成した資料をブラッシュアップする。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（３０分） 第13回　プレゼンテーションの基礎を学ぶ　３（情報のアウトプット） 前回作成したプレゼンテーションを発表する。 A:多 D：多 F：あり 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。発表の準備をする。（６０分） 復習：学びの振り返りとタイピング練習（３０分） 第14回　総括と学習到達度の確認テスト 1回目から14回目の授業についての総括を行い、この回の中で学習到達度の確認テストを実施する。 第15回　学びの振り返り 当該科目の到達目標と各自の到達度チェックを行う。
教育目標との関連	本授業では、保育者として、また一社会人として必要な教養、基礎的な専門知識を身につけ、学習した知識・技術を活用して、保育や子育て支援に必要な実践・表現ができる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.一般的な情報機器の特性(メリットテ゛メリット)について理解し、説明することか゛て゛きる 3.大学生として、学内・学外に通用する文書・資料作成を行うことができる 添付資料のカリキュラムマップ（到達目標）を参照
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	提出課題　　80%：各授業で作成する成果物を提出課題として評価します。 最終確認テスト　　20%：最終確認テストを実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。(試験の解説も同時間内に行います) 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
教科書	特になし
参考書	必要に応じて資料をオンライン配信する
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業時に必要に応じて指示する。
履修上の注意、条件等	教育職を志す学生として自覚を持ち、授業に積極的に取組むこと。
オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。また、Google Classroomの限定コメントやEメールでの質問も随時受け付ける。
備考・メッセージ	全ての回で対面授業

講義科目名称： 幼児教育と情報機器演習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Computer Training for Early Childhood Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
福田尚子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D204
添付ファイル			
curriculum map_2.pdf			
rubrick_2.pdf			

講義概要	この授業では「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」で得たことをベースに、より実践的なスキルの獲得を目指す。保育現場で事務作業（書類作成、データ管理、情報共有など）を円滑に行うスキルや子供達の興味・関心を高めたり表現力を引き出すための情報機器を利用した技法を演習を通して学んでいく。また、「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」に続き、情報機器を取り入れた保育や教育のあり方についても引き続き考察していく。 なお、この授業においても「幼児と情報機器演習Ⅰ」と同様に、Google Classroom等を活用した、双方向型授業を実施する。 担当講師は、中学校・高等学校の英語教員免許を取得後、ICT企業においてシステムエンジニア、技術営業職を経てWeb制作会社にてプロジェクトマネージャーとして勤務した実務経験を有する。その経験を活かし、教育的視点と実践的なICT技術を組み合わせた授業を行う。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション － 幼児教育と情報機器演習の関係性 本授業の目的、学習のねらいなどについて解説する。 現時点での実力を確認するため実力テストを行う（タイピングテストと簡単なクイズ・アンケート） F：あり 予習：「幼児教育と情報機器演習Ⅱ」（本授業）のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間） 第2回　文書作成の復習（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、簡単な文書を作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：タイピング練習（３０分） 第3回　文書作成の応用１（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、カレンダー（表）を作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：タイピング練習（３０分） 第4回　文書作成の応用２（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、幼稚園のお便りを作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：タイピング練習（３０分） 第5回　表計算ソフトの基礎１（情報の整理） Google スプレッドシートを用い、簡単な表を作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：タイピング練習（３０分） 第6回　表計算ソフトの基礎２（情報の整理、集計、分析） Google スプレッドシートを用い、簡単なデータの分析をする。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：タイピング練習（３０分） 第7回　アンケートの作成　（情報の収集、集計、分析） Googleフォームを用い、簡単なアンケートを作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：タイピング練習（３０分） 第8回　表計算ソフトの基礎３（情報の整理、集計、分析） 第7回で作成したアンケートの回答を集計、分析の演習を行う。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：タイピング練習（３０分） 第9回　プレゼンテーションの復習（情報のアウトプット） Google スライドを用い、テーマに合った内容のプレゼンテーションを作成する。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：タイピング練習（３０分） 第10回　プレゼンテーションの応用１（情報のアウトプット） Google スライドを用い、「幼児教育現場で情報機器を用いることに対する考察」をテーマに、情報収集、情報整理したもの、考察した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：タイピング練習（３０分）

	第11回　プレゼンテーションの応用２（情報のアウトプット） 前回の続きで、プレゼンテーションをまとめる。 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：タイピング練習（３０分） 第12回　プレゼンテーションの応用３（情報のアウトプット） グループ作業：Google スライドを用い、第9回授業で作成した資料を意見交換、作業分担しながら一つのものにまとめる。 A: あり F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：タイピング練習（３０分） 第13回　プレゼンテーションの応用４（情報のアウトプット） グループでまとめたプレゼン資料を発表する。また、発表を聞き、その内容をレポートにまとめて提出する。 A:あり F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。（３０分） 復習：タイピング練習（３０分） 第14回　総括と学習到達度の確認テスト 1回目から14回目の授業についての総括を行い、この回の中で学習到達度の確認テストを実施する。 第15回　学びの振り返り 15回目で実施した確認テスト結果を元に、これまでの授業の総括を行う。
教育目標との関連	本授業では、保育者として、また一社会人として必要な教養、基礎的な専門知識を身につけ、学習した知識・技術を活用して、保育や子育て支援に必要な実践・表現ができる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.保育者として、情報機器の特性（メリットデメリット）について理解し、説明することができる 3.保育者として、保育現場で有効な文書・資料や教材の開発・作成を行うことができる 4.保育者として、情報機器を保育の場で有効に使うことに関心を持ち、活用方法を検討することができる 添付資料のカリキュラムマップ（到達目標）を参照
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	提出課題　　80%：各授業で作成する成果物を提出課題として評価します。 最終確認テスト　　20%：最終確認テストを実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。(試験の解説も同時間内に行います) 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
教科書	特になし
参考書	必要に応じて資料をオンライン配信する
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業時に必要に応じて指示する。
履修上の注意、条件等	教育職を志す学生として自覚を持ち、授業に積極的に取組むこと。
オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。また、Google Classroomの限定コメントやEメールでの質問も随時受け付ける。
備考・メッセージ	全ての回で対面授業

講義科目名称： 英語コミュニケーションI　　授業コード：

英文科目名称： English Communication I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	１年	１単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E103
添付ファイル			
カリキュラムマップ　ルーブリック評価　英語コミュニケーションI.pdf			

講義概要	このグローバルな社会では、英語が必要な場面があります。日本で働いても、英語が必要な時が来る可能性あります。簡単な日常英会話を身につけましょう。 中学校の英文法を身に付ければ、日常英会話の9割ができます。この授業では、基本の英文法を復習しながら、英会話を練習します。 ジョーンズは20年間英語を教える経験があります。保育園から小学校、大学生と社会人まで教えた経験から、コミュニケーションに自信が付くように授業を行います。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Unit 1 It’s Nice to Meet You Be動詞を使った英文を勉強しながら、英語で自己紹介できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第2回　Unit 2 Take A Hike 一般動詞の現在形を使った英文を勉強しながら、自分の1日の行動を英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第3回　Unit ３ Don’t Wear Your High Heels 代名詞を使った英文を勉強しながら、自分の家族や友人を紹介できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第4回　Unit 4 There’s Nothing in My Backpack 前置詞を使った英文を勉強しながら、自分の回りにあるものの位置関係を英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第5回　Unit ５ What a Small World! 英語の疑問文の使い方を勉強しながら、相手に英語で質問をして、必要な情報を聞き出せるようになります。 課題１提出：自己紹介・日常生活について A:中　E:あり　F:あり 第6回　Unit 6 Let’s Eat 現在進行形を使った英文を勉強しながら、自分が今やっていることを英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第7回　Unit 7 It’s a Date 過去形を使った英文を勉強しながら、その日自分がしたことを英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第8回　Unit 8 I Have to Study 助動詞を使った英文を勉強しながら、自分ができる、やらなければならないことを英語で言えるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第9回　Unit 9 こども教育コース：What Do You Think of My Sketch? 疑問詞を使った英文を勉強しながら、場所や価格について英語で説明できるようになります。 国際こども教育コース：Ottawa ? The Capital 接続詞を使った英文を勉強しながら、長い文を英語で言えるようになります。 食べ物を注文するときに使う表現を勉強します。

	A:中　E:あり　F:あり 第10回　Unit 10 Kanji is So Difficult 不定詞・動名詞を使った英文を勉強しながら、自分が好きなことや嫌いなことについて英語で説明できるようになります。 課題２提出：Last Weekend A:中　E:あり　F:あり 第11回　Unit 11 I’ll Make a Birthday Cake 未来形を使った英文を勉強しながら、これからの予定について英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第12回　Unit 12 Saturday or Sunday? 接続詞を使った英文を勉強しながら、おすすめのお店について詳しく英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第13回　Unit 13 I’m Not Good with Computers 現在完了形を使った英文を勉強しながら、自分の経験について英語で話せるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第14回　Unit 14 Which is Better? 比較級・最上級を使った英文を勉強しながら、自分が好きな料理について、比較しながら英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第15回　Unit 15 Surprise! 受動態を使った英文を勉強しながら、自分のお気に入りの本や音楽について英語で説明できるようになります。 課題３提出：Next Weekend 課題３提出：My Recommendation A:中　E:あり　F:あり
教育目標との関連	早期英語教育が人気であり、外国人の子供が増えているという日本の状況で、外国人と簡単な日常英会話でコミュニケーション取れないといけない場面が多くなります。この授業ではその力をつけながら、基本の英文法を身につきます。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.英語でコミュニケーションをできる基本な表現や語彙を理解できる 2.海外や異文化に対する興味や関心を高めることができる 3.英語で自分のことを表現できる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	宿題　20%　毎週短いなライティングの宿題が出ます。 平常点評価　20%　グループワークの貢献度・参加度を評価します。 課題提出　30%　ライティングの課題が3回でます。 単語テスト　30%　毎週、単語テストがあります。 なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
教科書	こども教育コース「English First Starter」　Robert Hickling & Misato Usukura著　金星堂出版
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」　Raymond Murphy　著　Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	毎週、前週の授業に出た英単語テストがあります。
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	英語が苦手も、やる気が大切です！積極的に参加しましょう！ この授業は対面で行います。

講義科目名称： 英語コミュニケーションⅡ　　授業コード：

英文科目名称： English Communication Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	１単位	卒業必修　幼免必修　保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E105
添付ファイル			
カリキュラムマップ　ルーブリック評価　英語コミュニケーションII.pdf			

講義概要	このグロバルな社会では、英語が必要な場面があります。日本で働いても、英語が必要な時が来る可能性あります。２０２０オリンピックに向けて、簡単な日常英会話を身につけましょう。 この授業では英語コミュニケーションIで勉強した文法の基本にして、保育園で使える英語を勉強します。毎週、テーマ別に表現と語彙を勉強して、練習します。 ジョーンズは20年間英語を教える経験があります。保育園から小学校、大学生と社会人まで教えた経験から、コミュニケーションに自信が付くように授業を行います
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Please Speak More Slowly 英語でコミュニケーションをするときの基本表現を勉強します。保育園での基本語彙を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 第2回　Unit 1: Hi, I’m Yuri Tanaka 挨拶・自己紹介で使う表現を勉強します。英語で自己紹介できるようになります。人に何かを頼む表現を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 第3回　Unit 2: Where is the Multi-purpose Room? 位置を伝える表現を勉強しながら、英語で簡単に園内の案内できるようになります。道案内に使う英語も勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 第4回　Unit 3: Good Morning. How Are You Today? 登園時の簡単な会話を勉強します。体調を聞く・答えるを英語でできるようになります。自分の持ち物について英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第5回　Unit 4: What Color Do You Like? 工作時間の会話を勉強しながら、好き嫌いを英語で聞けるようになります。工作道具を英語で説明できるようになります。 A:中　E:あり　F:あり 第6回　Unit 5: There’s a Ladybug on the Leaf 場所を表す表現を勉強しながら、自分の回りにあるものを英語で説明できるようになります。園外散歩での会話で使う表現を勉強します。 課題１提出：Daily Life at a Nursery School A:中　E:あり　F:あり 第7回　Unit 6: It’s Time to Play Outside 命令文を勉強しながら、外で遊ぶときの簡単な会話をできるようになります。園庭にあるものを表す語彙を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 第8回　Unit 7: She Is Allergic to Eggs 食材の語彙を勉強しながら、自分の食に関する好き嫌いを英語で説明できるようになります。手洗いや歯磨きのとき使う表現を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 第9回　Unit 8: You Should Go to the Bathroom お昼寝時間の会話を勉強しながら、英語で児童にしなければならないこと・する必要があることを言えるようになります。英語のジェスチャーを勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 第10回　Unit 9: We Made Masks Today 降園時の会話を勉強しながら、英語で1日の活動や様子を説明できるようになります。気持ちや表情を表す表現を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 第11回　Unit 10: If It Rains, What Happens? 仮定の表現を勉強しながら、園の行事予定を英語で説明できるようになります。体操で使う表現を勉強します。 課題２提出：Today at Nursery School A:中　E:あり　F:あり 第12回　Unit 11: What Shall We Do Today?

	Shall I/we…?とWill you…?の表現を勉強しながら、英語で他の保育士と簡単な打ち合わせをできるようになります。時間を表す表現を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 第13回　Unit 12: I Feel Feverish 病気やけがのときに使う表現を勉強しながら、体調不良の児童と会話をできるようになります。医療品と体の部分の語彙を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 第14回　Unit 13: This is Yuri from Cosmos Day Care Center 電話対応で使う表現を勉強しながら、簡単な電話を英語でできるようになります。伝言で使う表現を勉強します。 A:中　E:あり　F:あり 第15回　Unit 14: Thank You Very Much for Everything お別れのときに使う会話を勉強しながら、お礼を英語で言えるようになります。音楽の活動に使う表現を勉強します。 課題３提出：Teacher and child conversation A:中
教育目標との関連	初期英語教育が人気であり、外国人の子供が増えているという日本の状況で、外国人と簡単な日常英会話でコミュニケーション取れないといけない場面が多くになります。この授業ではその力をつけながら、保育園で使える表現と語彙を勉強します。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.教育・保育現場で使う英語の表現が理解できる 3. 保育に関する基本的な英語の語彙を正しく使うことができる 2. 異文化理解を深めることができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	宿題　20%　毎週短いなライティングの宿題が出ます。 平常点評価　20%　グループワークの貢献度・参加度を評価します。 課題提出　30%　ライティングの課題が3回でます。 単語テスト　30%　毎週、単語テストがあります。 なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
教科書	「Happy English for Childcare」　土屋　麻衣子　編　金星堂
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」　Raymond Murphy　著　Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	毎週は先週の授業に出た英単語テストがあります。
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	英語が苦手も、やる気が大切です！積極的に参加しましょう！ この授業は対面で行います。

講義科目名称：　文章表現法　　授業コード：

英文科目名称：　Japanese Writing Skills

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修　保育士必修
担当教員			
相澤京子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：E102
添付ファイル			
文章表現法2022.pdf			

講義概要	自分の意思を言葉によって的確に表現することは、学生としても保育者としてもあらゆる活動の基礎となる。しかし、普段から話したり書いたりしている日本語を改めて振り返る機会はほとんどないであろう。そこで本講義では、自身の用いている日本語を見直すことからはじめ、自身の考えを適切な文章で書き表すための基本的なルールを具体的な演習課題を通して習得し、各自の日本語力の向上を図ることを目的とする。 他の科目との関連：自分の思いを文章で書き表す行為は、本学で開講されているすべての講義の基盤となる。特に、「キャンパスライフデザイン」では、本講義での学びを生かし、実際にレポートを作成する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション―保育者に必要な文章力とは― シラバスを用いて、本講義のねらいと内容、及び受講上の注意と約束を説明する。 保育者に必要な文章力とは何か、また日本語力を向上させるためにはどのようにしたら良いかについて学ぶ。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておく。（約30分） 復習：自身の言葉への関心度・言語環境を振り返り、改善できるところはないか考える。（約30分） E:あり 第2回　日本語を豊かにするためのツール 日本語を豊かにするためのツールとして、辞書と新聞の使い方を学ぶ。 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） A:中　D:中 第3回　日本語の特徴と表記 諸外国語と比較した際の日本語の特徴を理解するとともに、正しい字形・表記で書くための留意点を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） B:中　D:中 第4回　文章表現の基本① 主語と述語の見分け方を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） 第5回　文章表現の基本② 主語と述語が呼応したねじれのない文章を書くための留意点を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） 第6回　文章表現の基本③ 話し言葉と書き言葉の違いと文体について学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） 第7回　文章表現の基本④ 副詞の呼応について学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） 第8回　文章表現の基本⑤ 単語を選択する際の留意点を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） 第9回　文章表現の基本⑥ 効果的な接続詞の使い方を学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） 第10回　敬語の基礎① 敬語の種類について学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） 第11回　敬語の基礎② 敬語の使い方をシーン別に学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） 第12回　敬語の基礎③ 誤りやすい敬語について学ぶ。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） 第13回　作文演習

	原稿用紙の使い方を確認する。 文例を参考にしながら、400字の作文を書く。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』の指定箇所を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） 第14回　総括と学習到達度の確認テスト これまでの授業の内容についての総括を行い、学習到達度の確認テストを実施する。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』と今まで配布したプリントを見直しておく。（約1時間） 復習：学習到達度の確認テストで分からなかったところをプリント等で見直しておく。（約30分） 第15回　学びの振り返り 各自の到達度について振り返りを行い、今後の学習課題を明確にする。 予習：『入学前課題～ことばと漢字～』と今まで配布したプリントを見直しておく。（約30分） 復習：これまでの授業の内容を振り返っておく。（約1時間） E:あり
教育目標との関連	各自の日本語力の向上を図ることにより、学習した知識を適切に相手に伝達することができる。また、読まれることを意識しながら文章を作成することは、自らを客観的に見る視点と他者に配慮する姿勢を養うことにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP3.日本語の表記・文法などの基本的なルールを理解した上で表現できる DP5.文章を作成する際に、読み手の立場を尊重できる 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	試験　60%　・講義で取り上げた日本語の基礎が身についているかを評価する 小テスト　20%　・範囲を指定して出題する小テストに対する取り組みを評価する 提出課題　20%　・授業内で行う課題に対する取り組みを評価する 成績評価は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	毎回プリントを配布する。
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。本講義の受講前に『入学前課題～ことばと漢字～』に取り組み、自己採点をしておくこと。
履修上の注意、条件等	クラス分けテストにより、上級と初級のクラスに分けて授業を行う。シラバスの内容は、履修学生の理解度等により変更の可能性もある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面授業で行う。 日本語の能力を高めるためには、日々の積み重ねが肝要である。従って、授業に休まず出席し、演習課題をこなすことが何よりも求められる。また、日常生活においても活字に触れる機会を増やすとともに、自身や他者の用いる日本語に意識的になってもらいたい。

講義科目名称：　キャンパスライフデザイン　　授業コード：

英文科目名称：　Campus Life Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修　保育士必修
担当教員			
百瀬志麻　大見由香　相澤京子　他担任（専任教員）			
授業形態：演習	担当形態：共同	実務経験：あり（全員）	ナンバリング：H105
添付ファイル			

講義概要	本科目は、建学の精神、教育理念を体現した初年次教育という位置づけである。自らの人生において、どのようなプロセスを描き、何を実現したいかを明確にするのがキャリアデザインである。本科目である「キャンパスライフデザイン」は、建学の精神、キャンパスライフスタートアップ、保育の基礎、キャリア・プランニング、社会人基礎力アップの5つのシリーズで編成されている。1年生対象の本科目は、初年次教育として短大生活へのスムーズな移行を促すこと、そして自身がどのような人生設計を描くのか、キャリアイメージをふくらませていくことを目的とする。また、本科目の担当教員は、主に1年生の担任教員で構成され、全員が大学教員以外の社会人経験（一般企業等）を持ち、様々な視点から社会人基礎力の向上のための授業をおこなう。 他の教科との関連：本学で開講されているすべての科目の基礎となるのが本科目である。レポートの書き方等、短大での学びの基礎を培う。また、園児との自然遊びの授業も含まれており、子どもと関わる実体験によって実習の基礎ともなっている。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 【対面】 建学の精神に学ぶ①　愛の教育、国際こども教育の学びへの誘い ●概要… ・ねらいと内容・教員紹介 ・建学の精神：愛の教育 ・ 国際こども教育の学びへの誘い ・新入生研修の準備について ●予習…入学前課題で購入している「新・保育者の常識」を読む（約30分） ●アクティブラーニング…B　少 第2回 【対面】 建学の精神に学ぶ②　チームビルディング研修（日帰り） ●概要…この授業は、新入生のクラスごとに短大の敷地および三輪緑地を活用して日帰りでおこなう研修である。チームビルディングにより、学生生活を支えあう仲間との信頼関係やアクティブラーニングの姿勢をつくる。 ●予習…オリエンテーションの資料にしっかり目を通し、事前準備を整える。（約30分） ●アクティブラーニング…A　多　/　D　多　E　あり 第3回 【対面】 キャンパスライフ・スタート講座①　図書館との出会いと味わい ●概要…聖書贈呈式とともに、学びの源である本学の豊かな図書館をどのように活用できるかを紹介する。 ●予習…事前に図書館を訪れ、どのような活用ができそうか調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…C　多 第4回 【対面】 キャンパスライフ・スタート講座②　文章で表すこと（レポートの書き方）（1） ●概要…レポートの書き方の手順を説明する。また、辞書をひき、課題文を読み、感想を書くことにより、レポート作成の下準備を行う。 ●予習…一般的なレポートの書き方について図書館やインターネット等で調べ、どのようなものか知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…E　あり　　F　あり 第5回 【対面】 キャンパスライフ・スタート講座③　子どもたちと一緒に遊ぼう ●概要…附属園の子どもたちを短大に招き、クラスごとに子どもたちと一緒に遊び、保育の基本となる子ども理解を深めよう。 ●予習…本学の附属園（認定こども園と小規模保育園2園）について図書館やインターネット等で調べ、どのような方針をもち、どのような年齢層の子ども達がいるか事前に理解しておく。（約30分） ●アクティブラーニング…C　多　　F　あり（別日） 第6回 【対面】 キャンパスライフ・スタート講座④　文章で表すこと（レポートの書き方）（2） ●概要…レポートの課題の中にある文献の引用について考え方を理解し、一般的なレポートの書き方をマスターする。実際にPCで文字入力をしながら課題を仕上げていく。 ●予習…前回までのレポートの書き方について授業を復習し、指定されたところまでレポートを作成しておく。（約60分） ●アクティブラーニング…E　あり　/　F　あり 第7回 【対面】 キャンパスライフ・スタート講座② 担任との個人面談 ●概要…担任との面談を通して、これからの学生生活の目的を再確認する。面談以外の時間は、レポート課題の作成をおこなう。 ●予習…前回までのレポートの書き方について授業を復習し、指定されたところまでレポートを作成しておく。（約60分） ●アクティブラーニング…E　あり　/　F　あり 第8回 【対面】 保育の基礎② 読み聞かせの基礎

	●概要…外部講師による実践的な講義により、読み聞かせの基礎となる発音・発声の仕方、気持ちを言葉にのせる方法を理解する。 ●予習…読み聞かせの方法や留意点について、図書館やインターネット等で調べておく。（約30分） ●アクティブラーニング…D　中 第9回 【対面】 保育の基礎③　子どもたちと一緒に遊ぼう２ ●概要…附属園の子どもたちを短大に招き、クラスごとに子どもたちと一緒に遊び、保育の基本となる子ども理解を深めよう。 ●予習…本学の附属園（認定こども園と小規模保育園2園）について図書館やインターネット等で調べ、どのような方針をもち、どのような年齢層の子ども達がいるか事前に理解しておく。（約30分） ●アクティブラーニング…C　多　　F　あり（別日） 第10回 【対面】 キャンパスライフ・スタート講座⑤　文章で表すことーレポートを完成するー ●概要…これまでのレポートの書き方に関する授業の内容を受けて、レポートの課題の仕上げをおこなう。 ●予習…レポートの返却をうけ、指示の通り修正そおこない、指定されたところまでレポートを作成しておく。（約60分） ●アクティブラーニング…E　あり　　F　あり 第11回 【対面】 保育の基礎④　子どもたちと一緒に遊ぼう３ ●概要…附属園の子どもたちを短大に招き、クラスごとに子どもたちと一緒に遊び、保育の基本となる子ども理解を深めよう。 ●予習…本学の附属園（認定こども園と小規模保育園2園）について図書館やインターネット等で調べ、どのような方針をもち、どのような年齢層の子ども達がいるか事前に理解しておく。（約30分） ●アクティブラーニング…C　多　　F　あり（別日） 第12回 【対面】 キャリア・プランニング講座①　保育者として働くということ　～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～ ●概要…保育者としての現在のしごとについて卒業生の話を聴き、対話する。学生の視点で、積極的に質問をしてもらいたい。 ●予習…学生支援スペースで、就職先のファイルや卒業生の残した資料を見ておく（約1時間） ●アクティブラーニング…B　少 第13回 【対面】 社会人基礎力アップ講座①　　お金の教養 期末試験 ●概要…授業の前半は人生を豊かにするためのお金の教養を身に着ける。また、後半は期末テストを実施する。 ●予習…若者向けのお金についての本を読んでみる（約１時間） ●アクティブラーニング…A　中 第14回 【対面】 社会人基礎力アップ講座②　社会人としての立ち居振る舞いとマナー（実習に向けて）　フィードバック ●概要…マナーについてのDVDを視聴した上で、社会人としての立ち居振る舞いとビジネスマナーについて学ぶ。 ●予習…ビジネスマナーについての本を読んでみる（約１時間） ●アクティブラーニング…A　中 第15回 【対面】 社会人基礎力アップ講座③　救命救急講習 ●概要…約４時間の普通救命講習を受講する。修了者には、3年間有効な「救命技能認定証」が後日交付される。内容は、AEDの実技講習を含む。クラスごとに、3日間に分かれて実施する。 ●復習…身近な施設のどこにAEDが設置されてのか調べておくこと。（約1時間） ●アクティブラーニング…A　多
教育目標との関連	本学の建学の精神の根幹をなすのは「愛の教育」であり、創立以来の本学の教育理念の2つの柱の一つには、「社会でも家庭でも自分らしく生きられる女性の育成」とある。幸せに生きるためには力が必要である。その力を獲得するためには、自分らしく生きるとはどのようなことかを深く考え、自らの置かれた環境はどのようなものかを的確に認識し、自ら切り開くことのできる人生の選択肢は何かを見定め、社会の変化を受容しながら努力をすることが必要となる。本科目では、幅広い観点から、子どもと関わる自身の生き方について考える機会を提供する。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1.保育者として国内外で活躍するため、あるいは自ら子育てに関わるために必要な教養を身につけている DP2.社会の変化や自身に求められている役割をもとに、自らの生き方について判断ができる DP3.学んだ教養を活用して、大学生活や社会生活に必要な実践・表現ができる DP4.現代の社会情勢に関心をいだき、自ら主体的に関わろうとする意欲をもっている DP5.多様性を持った他者に対し、愛情をもって協力・協働を図ることができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．評価方法 期末テスト　　50%　・授業の理解度とともに、自身が感じたこと、考えたことを真摯にまとめているかを評価する。入学前課題はこの授業の期末テスト受験の条件となる。 レポート課題　　50%　・所定のレポートの書き方の理解度と表現力を評価する。 ２．オムニバスのため、ルーブリックはない
教科書	なし。授業回ごとにGoogle Classroomに資料や提出課題を掲載する。
参考書	なし。授業回ごとに参考文献は紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な	各回の授業テーマや外部講師について、予習として図書館などで調べておくこと。復習として、授業で配布した資料を必ずファイルに整理し、自身の成果物とともにポートフォリオとしてまとめていくこと。毎回、30分～1時間の事前事後学習の時間をとること。

時間	
履修上の注意、条件等	外部講師の授業は、スーツを着用すること。
オフィスアワー	担当教員の各研究室にて質問・相談を受け付ける。時間は掲示板および研究室前に掲示するが、それ以外の時間でも在室時は可能な限り対応する。遠隔授業回はGoogle Classroomの限定コメントで受け付ける。また、欠席票もGoogle Classroomから受け付ける。
備考・メッセージ	自らのキャリアについて主体的に考えるのは自分自身である。自分自身と向き合うことは時として難しいが、感性を豊かにすることにより、周囲との関係性からヒントが得られることも多い。本科目では、自分自身の生き方について前向きに考えるきっかけを多く提供していきたいと考えている。 主として対面授業であるが、感染症拡大状況によっては、オンライン（配信・Zoom同時双方向）を併用して分散して実施する。

講義科目名称：　キャリアデザイン　　授業コード：

英文科目名称：　Career Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	1単位	卒業必修　保育士必修
担当教員			
百瀬志麻　相澤京子　大見由香　他担任（専任教員）			
授業形態：演習	授業形態：共同	実務経験：あり（全員）	ナンバリング：H202
添付ファイル			
カリキュラムマップ　キャリアデザイン.pdf			

講義概要	本科目は「キャンパスライフデザイン」に続き、建学の精神、教育理念を体現した教養科目という位置づけである。「キャリア」とは、単なる職歴・経歴だけではなく、仕事を通じて実現できる生活やライフイベントなどを含んだ、生涯にわたるライフスタイルのプロセスを指す。自らの人生において、どのようなプロセスを描き、何を実現したいかを明確にするのがキャリアデザインである。本科目である「キャリアデザイン」は、1年次の「キャンパスライフデザイン」に引き続き、キャリア・プランニング、社会人基礎力アップ、就職活動の3つのシリーズで編成されている。その中でも、2年生対象の本科目は社会人基礎力アップと就職活動シリーズが中心となる。 本科目の担当教員は、それぞれの就業経験を生かし、学生の卒業後のキャリアを見通した上で指導・助言を行う。 他の教科との関連：本学で開講されているすべての科目を踏まえた上で、社会人への橋渡しをするのが本科目である。特に、「キャンパスライフデザイン」は本科目の土台となるものである。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　学習成果の振り返りと2年生に向けて 【対面】 ●概要…卒業前の2年生のお話しから、2年次の実習や就職活動等、今後の短大生活を充実させるヒントを探る。 ●予習…1年次の実習を振り返っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…A　少 第2回　キャリア・プランニング①　進路決定の流れと進路希望調査（担任面談） 【対面】 ●概要…様々な進路の概要と進路決定のスケジュールを確認した後、卒業後の進路（進学・就職）についての各自の考えを担任と共有する。面談中以外は、プレ自己分析などを行う。 ●予習…学生支援スペースを訪れ、自らの勤務希望地域にある園や施設の昨年度の求人内容について知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B　少 第3回　キャリア・プランニング②　2年生の就職活動の流れ　求人票の見方 【対面】 ●概要…学生支援室や2年生担任とどのように就職活動を進めていくか、全体の流れを説明する。実習先も実習生がそこに就職することを意識している。園選び・見学、就職試験、内定から新人研修までの流れを説明。履歴書を書いてみて、どこが書けないのか学生自身が把握する。 ●予習…履歴書の下書きを完成させておくこと。（約30分） 第4回　社会人基礎力アップ①　お金の教養と求人票の読み取り方 【対面】 ●概要…求人票に出てくる言葉の意味は何か、そこからどのようなことを考えればいいのか、社会人として必要な視点を獲得する。 ●予習…学生支援スペースで就職希望地域の園の求人票をみて調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B　少 第5回　就職活動シリーズ①　自己分析・他己分析のためのワーク 【対面】 ●概要…履歴書を作成しはじめるには、まず自己分析が大切である。自己分析の際には、自分を客観的に見つめるために、友人から自己についてのコメントをもらうことで、お互いに自己理解を深める。 ●予習…インターネットなどで、自らの勤務希望地域にある園や施設について調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B　少 第6回　キャリア・プランニング③　保育者として働くということ　～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～ 【対面】 ●概要…就職活動や就職後の現在のしごとについて卒業生の話を聴き、対話する。 夏休み中の就職活動について確認する。 ●予習…学生支援スペースで就職希望地域の園の求人票をみて調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B　少 第7回　就職活動シリーズ②　履歴書・エントリーシート作成のポイント 【対面】 ●概要…志望動機や自己PR、保育観など、履歴書・エントリーシートに必要な要素を考える。 ●予習…インターネットなどで、自らの勤務希望地域にある園や施設について調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B　少 第8回　就職活動シリーズ③　履歴書の作成と添削 夏休みの就活について 【対面】 ●概要…履歴書の作成と添削、修正をおこなう。また、夏休み中の就職活動について確認する。 ●予習…履歴書の作成 ●アクティブラーニング…B　少 第9回　就職活動シリーズ④ 社会人としてのマナー、担任面談、履歴書完成 【対面】

	●概要…プレ就職説明会を対面またはZoomでおこなう。秋からの本格的な就活に向けて、この時期に●概要…担任と個人面談をしながら、同時に就職活動における社会人としてのマナー（面接の受け方）について学ぶ。また、志望動機や自己PRなどを中心に、履歴書を完成に近づける。担任より履歴書の添削が返却されるので、各自その修正と清書を行う。 ●予習…担任との面談に備え、卒業後の進路について家族とも話をしておくこと。（約1時間） ●アクティブラーニング…B　少　F　あり 第10回【対面】　キャリア・プランニング⑤　就職説明会 ●概要…プレ就職説明会を対面またはZoomでおこなう。秋からの本格的な就活に向けて、この時期には、質問、挨拶、言葉遣い、身だしなみ等を意識できるようになってほしい。協力園や施設のブースの複数を学生は練習としてまわり、話をうかがう。 ●予習…履歴書の下書きを完成させておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B　少 第11回【対面】　就職活動シリーズ⑥　面接シミュレーション ●概要…受験で最も大切な面接にむけて、学内で面接練習をおこなう。履歴書を完成させ、（志望の理由の部分は書かない、自己PR文は別紙にて提出） ●復習…受験予定の園にあわせて志望動機等を考えておく、履歴書を清書する。（約1時間） ●アクティブラーニング…B　少　F　あり 第12回【対面】　社会人基礎力アップ③　内定後の対応方法　税金の基礎知識 ●概要…前半は町田税務署による納税についての講演から責任ある市民としての行動を考える。2回目のコミュニケーション力テストを行い、2年間弱の短大生活での成長を測る。 ●予習…税金や企画に関する本を図書館で探し、読んでおくこと。（約1時間） ●アクティブラーニング…A　少 第13回【対面】　社会人基礎力アップ④　労働法についての理解 ●概要…外部講師を招き、働く人として知っておくべき労働法や、責任ある市民としての知識を学ぶ。 ●予習…労働に関する本を図書館で探し、読んでおくこと。（約1時間） ●アクティブラーニング…B　少 第14回【対面】　社会人基礎力アップ⑤　新入社員としての心構え　（良好な職場環境・人間関係の構築） ●概要…念願の職場に就職できても、3年以内での早期離職者は多い。就職活動の段階では見えてこなかった、職場に入ってから大切な視点となる、職場内での良好な人間関係の構築の仕方を知っておくことによって、相談できる相手を職場内に作り、困難にぶつかっても周囲からの支援を得て乗り越えられる。 ●予習…働く意味や働き方に関する本を図書館で探し、読んでおくこと。（約1時間） ●アクティブラーニング…B　少 第15回【対面】　社会人基礎力アップ⑥　企画力アップのためワークと発表　２３の能力、大学満足度調査オンライン ●概要…ホームカミングデーを企画するグループワーク。企画の発表、クラスメイトからコメントをもらい、修正までおこなう。その後、２３の能力調査をはじめとしたアンケートや卒業関連の連絡、コミュニケーション力テストのフィードバックをおこなう。 ●予習…ホームカミングデーでやりたいことを考えておく。（約1時間） ●アクティブラーニング…A　多
教育目標との関連	本学の建学の精神の根幹をなすのは「愛の教育」であり、創立以来の本学の教育理念の2つの柱の一つには、「社会でも家庭でも自分らしく生きられる女性の育成」とある。幸せに生きるためには力が必要である。その力を獲得するためには、自分らしく生きるとはどのようなことかを深く考え、自らの置かれた環境はどのようなものかを的確に認識し、自ら切り開くことのできる人生の選択肢は何かを見定め、社会の変化を受容しながら努力をすることが必要となる。本科目では、幅広い観点から、子どもと関わる自身の生き方について考える機会を提供する。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1.国内外での専門職としての保育者としての生き方や自ら子育てに関わることについて実感をもって理解する。 DP2.社会の変化や求められている役割について考え、自らの生き方を思考する。 DP3.他者に傾聴し、自らの意志（特にキャリアについて）を表現する。 DP4.子どもを取り巻く広い世界に関心をもち、自ら積極的に関わろうという意欲をもつ。 DP5.自分が受けた愛情の深さを振り返り、愛情をもって他者に奉仕できるようになる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．評価方法 提出課題　70%　・毎回、出席票の中に課題を提示し、講義内容を理解しながら自分が何を感じたか、考えたか、という点がまとめられているかを評価します。 受講態度　30%　・授業内での積極的な質問やグループワーク、ペアワーク、個人ワークなどへの取り組み・貢献を評価します。 ２．オムニバスのため、ルーブリックはありません。
教科書	なし。必要に応じて、資料を配布する。
参考書	なし。必要に応じて、資料を配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の授業テーマや外部講師について、予習として図書館などで調べておくこと。復習として、授業で配布した資料を必ずファイルに整理し、自身の成果物とともにポートフォリオとしてまとめていくこと。毎回、30分～1時間の事前事後学習の時間をとること。
履修上の注意、条件等	「キャンパスライフデザイン」を履修していること。 外部講師の講演や面接練習などの授業は、スーツを着用すること。

オフィスアワー	担当教員の各研究室にて質問・相談を受け付ける。時間は掲示板および研究室前に掲示するが、それ以外の時間でも在室時は可能な限り対応する。
備考・メッセージ	自らのキャリアについて主体的に考えるのは自分自身である。自分自身と向き合うことは時として難しいが、感性を豊かにすることにより、周囲との関係性からヒントが得られることも多い。本科目では、自分自身の生き方について前向きに考えるきっかけを多く提供していきたいと考えている。

講義科目名称：　体育理論　　授業コード：

英文科目名称：　Theory of Physical Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１年	１単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂　あき子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：有	ナンバリング：H108
添付ファイル			
カリキュラムマップ体育理論校２.pdf			
ルーブリック体育理論校２.pdf			

講義概要	「体育」は「体」を「育てる」と書きますが、どういう事なのかを年間を通して考えていく。 実技と理論を通しながら、各自の体育に関する考えを整理し実践して、その過程を記録する。 体育実技と合わせて、1年間の各自が体育課題の設定を行い、それをどのように解決したか、達成したのか、もしくはしなかったのかを記録をもとに考える。 体育理論では、自らの課題を実技で試した結果から、各自が施行錯誤し調査し考察を重ねて、経験からどのような成果や発見があり、さまざまな体育理論と関連があったのかをまとめて、プレゼンテーション作成をする。 各自の成果発表を比較検討することで、深い理解につなげる。 体調管理や睡眠指導経験に基づき、記録を科学的に読み解く方法の体得を目指す。 当該科目は、「体育実技」と関連が深く、また、「幼児と健康」や「幼児と表現」分野、そしてプレゼンテーションのための「幼児教育と情報機器演習Ⅰ及びⅡ」とも関連する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション 体育実技の授業の進め方・評価方法について 課題説明と動画視聴　プレゼンテーションのための解説 C:多　F：有 第2回　体と動きの仕組みを知る 運動A：少　B：多　E:少　F:多生理学　キネシオロジー①、及び身体データのまとめ方法について E;多　E:有　F:有 第3回　睡眠と活動（運動強度と消費カロリー） 睡眠障害と睡眠リズムの獲得　消費カロリーとMETS（運動強度） 睡眠時間と体温の表とグラフの作成の補足 E:有　F:有 第4回　中間テスト 中間テスト及び解答　解説 運動発達のメカニズムとプロセス 睡眠リズムの獲得対策 E:有　F:有 第5回　プレゼンテーション① 年間目標についての個人課題を、5分程度のプレゼンテーションを行う E:有　F:有 第6回　プレゼンテーション② 身体や体力についての個人課題を、5分程度のプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。 期末考査について D:中　E:有　F:有 第7回　体育理論の最終課題 体育理論の最終課題を実地 D：中　E:有　F:有 第8回　体育理論のまとめ まとめと課題の解説と総評 D:中　E:有　F:有
教育目標との関連	自分自身の健康課題を考えることで、個人の課題から心身を含めた体育知識の理解を深め、実践できることを目標とする。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現	1. 心と体の健康や体力に関する知識を理解して、理解したことを共有することができる。 2. 心身に関する課題を判断して、目的をもって自らの健康に関する目標を設定できる。 3. 自身の心身を管理していくための知識や方法を探索して実践し、説明できる。

４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	最終課題　50　％　授業内で示した基本知識の理解を評価する。 課題提出、授業内発表及び態度　50　％　課題に取り組む積極的な姿勢と、どれだけ深く取り組めたかを評価する。 *欠席等の取り扱いは、『履修要項』に準ずる。
教科書	https://nikaidou2020.blogspot.com/　に授業スライドを提示することで、教科書の代わりとする。 グーグルクラスルーム内にて課題ドキュメントを配布する。
参考書	二階堂あき子『キッズ・ボディーコーディネーション講座　初級及び　中級テキスト』amazon 電子書籍 『幼児体育』第5版　理論と実践　日本幼児体育学会編　大学教育出版社
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業内容を、予習30分程度、復習30分程度してくること。指示されたプリントやサイトは必ず読んでくること。
履修上の注意、条件等	個人課題の発表が評価の主な対象になります。
オフィスアワー	質問等に関しては、授業の前後、又は　googleclassroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	積極的に発表することが、求められます。モダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障碍児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。現在はバレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。 遠隔授業（配信）もしくは遠隔授業（ZOOM同時双方向）を8回予定

講義科目名称：　体育実技　　授業コード：

英文科目名称：　Activities in Physical Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年	１単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂　あき子			
授業形態：実技	担当形態：単独	実務経験：有	ナンバリング：H106
添付ファイル			
ルーブリック体育実技校2.pdf			
カリキュラムマップ体育実技 校２.pdf			

講義概要	「体育」は「体」を「育てる」と書きますが、どういう事なのかを、実技と理論を通しながら、各自の考えを実践する。 体育実技として、理論化されている部分と実際の自分のデータを見比べて、保育者としての体育を考える 実技では、各自の体育関連する課題を見出し解決するために、試行錯誤することで、どのような方法が適切なのかを考え、目標に到達する過程に適合するように記録することを理解する。 レクリエーション等のゲームを発案し、それを元に他者の発表から学ぶ。 基礎体力などは、毎回、準備運動や整理運動などを基礎から体験することで、「各自が考える体育」を考察する。 体形や体調管理についての指導経験をもとに、様々なトレーニング方法も紹介する。 当該科目は、特に「体育理論」と「幼児と健康」、そして「幼児と表現」や「子どもの保健」と関連が深く、また、実習科目に関しても、当該科目で培おうとする肉体的・精神的体力が必要であるため、全般的に関連を持つ科目である。 基本は対面授業で行う、必要があれば遠隔授業（配信）で行う。 100分授業×21回授業
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション 授業の進め方や評価方法について説明する。課題設定と振り返りシートを作成する。 各自の健康や体力等に関する課題を考える。里山散策ワーク① F：有 第2回　身体について考える①　目標設定と方法 自分の体を認識するために、様々なワークを行い、各自の課題設定を決定する。（身体測定や体力測定を含む） 課題と年間予定を考える。体力の分類　記録方法　座位ウォームアップと解説① E：有　F：有 第3回　身体について考える②　体育と人間力 自分の体と向き合って、目標を達成するための方法を考える。 人間力とは　体力を考える　用語説明（体脂肪、BMI ）目標設定のアンケート 座位ウォームアップについてアンケート E：有　F：有 第4回　健康行動に関する質問と書き方　ウォームアップと縄跳びについて どのように健康を保持できるのか、その前に現在の自己イメージと理想及び現実のデータを比較する 座位ウォームアップと解説②　縄跳び（前跳び） C:多　E：有　F：有 第5回　公衆衛生と体育　防衛対策ミッション 体育科目の特性において、三密を避けられない事を認識し、各自の環境において、どのような対策をしているかをREPORTする。自主トレーニングのすすめ C:多　D:多　E：有　F：有 第6回　保育者に必要な体力について　防衛対策ミッションの解説 公衆衛生と体育の解説　防衛対策ミッションの講評　数値化の為の記録シートの書き方を確認 縄跳び：駆け足跳び C:多　E：有　F：有 第7回　体育の環境整備　及び　運動方法① 運動遊びと体育遊び① 幼児期運動指針について　保育者のなりやすい疾病　体育実技の服装TPO　運動方法①縄跳びの運動消費カロリーについて　METsとは　縄跳び（片足跳び） C:多　E：有　F：有 第8回　体育のアクティブラーニングを考える① 運動遊びと体育遊び② 授業回数7回までの整理　幼児期運動指針②　運動のトレーニングの量について考える 縄跳び（後ろ跳び） C:多　E：有　F：有 第9回　体育のアクティブラーニングを考える② 運動遊びと体育遊び③ 運動方法②　運動プログラムの手順①　「WANT TO]か「HAVE　TO]かを考える 縄跳び（あや跳び） C:多　E：有　F：有 第10回　体育のアクティブラーニングを実践する③

	鬼あそび① 幼児期運動指針のポイント　遊びと運動　基礎代謝と消費カロリーを知り計算する 縄跳び（交差跳び） A:多　E：有　F：有 第11回　体育のアクティブラーニングを実践する④ 鬼あそび② 日常の基本的な動きと運動　体内組織を考える　体育のアクティブラーニングのまとめ 縄跳び（二重跳び）　縄跳びのコツのまとめ① A:多　B:小　E：有　F：有 第12回　運動方法③　運動プログラム作成の手順② 鬼あそび③ 必要なエネルギー量について考える　縄跳びの講評②　備品の扱い方と説明 縄跳びのコツまとめ② A:多　B：小　D:中　E：有　F：有 第13回　運動方法④　運動プログラム作成の手順③ 水遊び① 子どもに活かす保育者の体育経験　運動ルーティンと消費カロリーの確認　ストレッチとは 抗重力筋について B:中　C:中　D:多　E：有　F：有 第14回　運動方法⑤　ストレッチングと筋力トレーニングについて 水遊び② ストレッチング解説及び講評　筋力トレーニングの意味　ダメージのないスクワット A：多　C:多　E：有　F：有 第15回　運動方法⑥　身体エクササイズ基礎　筋力トレーニング（無酸素運動）とダンス（有酸素運動） 水あそび③ 15回までの記録シートの確認　筋力トレーニング（背筋、腹筋） 有酸素運動（エアロビクスやダンス）について　疲労と回復について C:多　D:中　E：有　F：有 第16回　身体エクササイズ①　チームビルディング（有酸素運動・無酸素運動） チームビルディングにおける競争と協力　有酸素運動と無酸素運動（筋力トレーニング）について　負荷と強度を考える　ダンスステップの紹介　能力アップと運動の関係　最終課題説明① A:中　B:中　E：有　F：有 第17回　身体エクササイズ②（基本運動） 基本運動を学ぶ。基本運動とステップの実技テストの説明 対面授業の解説①　周辺視と歩運動（前後左右） D:中　E：小　F：有 第18回　身体エクササイズ③（自由表現運動） 対面授業の解説②基本運動から表現運動など、各自の自由な動きの編み出し方法を学ぶ 基本運動とステップの実技テスト②　ツーステップ D:中　E：有　F：有 第19回　身体表現① 対面授業の解説③　リズムとステップ：スキップ 身体表現の導入として、動きの成り立ちと分解を学ぶ 基本運動テスト②スキップ D：中　E：有　F：有 第20回　身体表現② 実習をめざして① 身体表現の発展方法とシークエンス作成方法を学ぶ リズムダンスや体操のカテゴライズ、及び身体表現のパターン認識と構造を理解して創作できる 基本運動テスト③ツーステップホップ D：中　E：有　F：有 第21回　身体表現③　と　まとめ 実習をめざして② 身体表現のまとめ及び発表と評価方法を学ぶ 各グループ活動のまとめ、各自の身体記録データ及び運動記録の整理 D：中　E：有　F：有
教育目標との関連	自分自身の健康課題を考えることで、個人の課題から心身を含めた体育技能を高め、実践できることを目標とする。 スポーツや身体ワークを行うことで、仲間づくりやコミュニケーションの重要性を理解できる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. 心と体の健康や体力に関する技能を高める知識を学ぶことができる。 2. 心身に関する課題を思考して、目的をもって自らの運動に関する目標を設定できる。 3. 自身の心身を管理していくための知識や方法を探索して実践できる。 4. スポーツや身体ワークを、意欲をもって自ら企画し参加できる。 5. スポーツ活動や健康課題を通じて、仲間づくりの重要性を理解できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	実技テスト　50　％　面接及び、動画投稿による最初の段階と最後の段階での達成度を評価する。はじめから達成した場合は上位の実技で判断する。 授業態度　　25　％　取り組む意欲、積極性を評価する 提出課題　　25　％　内容は課題を的確に捉え、量は指定された量とすることを評価する。 *欠席等の取り扱いは、『履修要項』に準ずる。 また、体育実技は科目の特性から、「見学」に関しては、教員の判断により、遅刻と同等の判断をする場合が

	ある。
教科書	https://nikaidou2020.blogspot.com/　に授業スライドを提示することで、教科書の代わりとする。 グーグルクラスルーム内、及び、上記ブロガー記事より、資料及び課題ドキュメントを配布する。
参考書	二階堂あき子『キッズ・ボディーコーディネーション講座　初級及び　中級テキスト』amazon kindle 『幼児体育』第5版　理論と実践　日本幼児体育学会編　大学教育出版社
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業内容を、予習30分程度、復習30分程度して整理しておく。指示された実技課題の自主練習をしておく。 授業中にプリント配布予定。
履修上の注意、条件等	運動に相応しい服装（体操服・体育室専用の靴下・アクセサリー不可・髪はきちんとまとめる） 体育室では、靴下で運動を行う予定なので、替えの靴下を持参 外での活動に備えて、体育のある日は、運動靴で登校下さい。
オフィスアワー	面接授業の前後にて質問等を受け付ける。質問等に関しては、googleclassroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	自発的に参加することで、学べる授業展開をするので、積極性を心がけること。 モダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障碍児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。現在はバレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。また、親子ヨガやキッズボディーコーディネーション資格の講師も勤める。

講義科目名称： 教育原理　　授業コード：

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
春学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修	
担当教員				
石見容子				
授業形態：講義	担当形態：単独		実務経験：あり	ナンバリング：A103
添付ファイル				
ルーブリック（教育原理）.pdf				

講義概要	教育の基本的概念を学ぶ。教育とは何か、という根本的なことから自身の教育観にまで発展して、その在り方について様々な角度から考える。例えば教育の歴史や思想、乳幼児期の教育の特性、教育制度、教育法規、教育行政の基本についても取り上げていく。 “教育”と“学ぶ”という両面から、人としての教養を高め、他を尊重するきもちを養い、共に学び合うことを大切にする。 担当教員は日米の乳幼児教育の経験を持ち学んできた。その経験を活かして、様々な角度から”教育”について共に考えていきたい。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション・教育の意義と目的 本講義の概要について理解する。 教育とは何か、その目的と目標について、また、人間形成との関係について考える。 B:中　E:あり　F:あり 第2回　養護と教育について 乳幼児発達の特徴について理解し、乳幼児教育の基本について学ぶ。 B:少　E：あり　F:あり 第3回　教育と福祉との関連とは 教育と福祉との関連について学び、時代の変化に伴う保育・教育の在り方の違いに気付く。また保育者の現代的役割について考える。 A:中　D:少　E：あり　F:あり 第4回　諸外国の教育思想 諸外国の様々な教育思想について学ぶ。 B:中　D:少　E：あり　F：あり 第5回　日本の教育思想 日本の教育思想について、その歴史と共に学ぶ。 B：中　D:少　E：あり　F:あり 第6回　子ども観と教育観 子どもはいつから登場したのか。その歴史を紐解きながら子ども観について考え、同時に教育とのかかわりについて考える。 B:少　E：あり　F:あり 第7回　教育制度の基礎 過去から現代にいたるまでの教育制度の変遷について知る。 A:中　B：少　E：あり　F:あり 第8回　教育の法律と行政 教育に関する法律を知り、現代の教育の意義について考える。 学校と地域との連携及び学校安全への対応を考える。 A:中　B:少　D:少　E：あり　F:あり 第9回　諸外国の教育制度 諸外国の教育制度について理解を深める中で、その課題について考える。 B：中　E：あり　F:あり 第10回　教育実践① 幼稚園における保育内容について理解を深める。 A：中　D:少　E：あり　F:あり 第11回　教育実践② 様々な教育方法について理解を深める。 B：中　E：あり　F：あり 第12回　生涯学習 生涯学習とは何か、学習と教育の違いについて理解を深め、自身にとっての生涯学習とはなにか考える。 B：少　E：あり　F:あり 第13回　現代における教育に関する課題 新聞記事などを活用し、現代における教育課題について理解したうえで、これからの保育・幼児教育・保育者の在り方について考える。 A:中　B：中　D:少　E：あり　F:あり 第14回　まとめ試験 第1回から13回までを復習する E：あり　F:あり 第15回　振り返りと今後 試験と各単元の振り返りをしながら自身の今後の課題について考える A：中　B：中　E：あり
教育目標との関連	教育の基本的概念を理解し、特に幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを十分に理解する。そのうえで、人の生涯にわたる発達を支援するということがどのような営みであるか理解する。また、教育に関する歴史や様々な思想に興味を持ち、自身の教育観について考える。

到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．幼児期における教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを認識し、教育の理念、思想について理解している。 ２．幼稚園教育をはじめ乳幼児教育全般についての制度の相違と共通性を理解しつつ、教育の本質について問題意識を持つことができる。 ３．教育の歴史を学ぶ中で、現代的課題に気付き、その解決策を考える積極性を持つ。 ４．世の中の事象に興味を持ち、教育との関連や子どもとの関連を視野に、自身の考えを述べることができる。 ５．他者の意見に耳を傾け、自身の意見に根拠を持ちながら、より良いことに向けて前進しようとする力を持つ。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	提出物・授業に向かう姿勢（参加度）　　50% 期末試験　　50%
教科書	『幼稚園教育要領解説』　　著作権所有　文部科学省　　フレーベル館　本体240円+税
参考書	『教育原理』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前にシラバス内容を確認し、必要な資料を熟読しておくこと。
履修上の注意、条件等	常に問題意識を持ち、積極的に声を出して参加することが望ましい。
オフィスアワー	研究室で受け付ける
備考・メッセージ	全ての回で対面授業

講義科目名称：　教職概論　　授業コード：

英文科目名称：　Approach to Teacher's Competency in kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
森下匡子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A104
添付ファイル			
カリキュラムマップ　教職概論.pdf			
ルーブリック　教職概論 .pdf			

講義概要	「教職概論」では、教職の意義、教員の役割及び教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）について学ぶ。保育に携わる者として社会が求める教職のありかたについては、各時代の教育法規に規定され、教育制度や教育目標達成に向けて専門職としての保育者の専門性、カリキュラム全体を通して履修科目の振り返りを行い、保育者としてあるべき姿について考えを深める。幼稚園教諭としてふさわしい資質・能力の向上をめざす。 他の科目との関連：「教育原理」で学ぶ教職の意義、教職の歴史、教員養成の変遷などの項目をさらに掘り下げて学び、幼児教育者としての資質、求められる役割について習得する。また、教育実践能力に関しては実習関連科目に深くかかわる。 森下講師は私立幼稚園での担任、公立小学校での特別支援アドバイザー、親子教育研究所における子育て支援活動など18年にわたり現場での仕事を続けている。その実務経験を活かし、保育現場での保育者として求められている姿を、より分かりやすく実践を踏まえながら授業に取り入れている。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　教職とは何か 教員の職務の意義や特質について学び、理解を深める。さらに自分自身がなぜ教職を目指したのか、その動機について振り返る。また、各回の学習を確実にするための学習ポートフォリオによる履歴を残す。 予習：教職概論のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間） Ｆ：あり 第2回　保育者の資質・能力と求められる役割① 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（3歳児前半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間） 復習：３歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約1時間） ワークシート　Ｅ：あり 第3回　保育者の資質・能力と求められる役割② 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（3歳児後半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間） 復習：３歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約1時間） ワークシート　Ｅ：あり 第4回　保育者の資質と求められる役割③ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。３歳児と比べ、その成長を読み取る４歳児の特徴と保育者との関わりを考える（４歳児） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（1時間） 復習：４歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約1時間） ワークシート　Ｅ：あり 第5回　保育者の資質と求められる役割④ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。５歳児の特徴と保育者との関わり方を学ぶ（5歳児前半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間） ワークシート　　Ｅ：あり 第6回　保育者の資質と求められる役割⑤ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（5歳児後半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（1時間） 復習：５歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約1時間） ワークシート　Ｅ：あり 第7回　保育者の資質と求められる役割⑥ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。 ３年間の記録の中で、あそびの種類や方法、ものづくり、保育者の関わり方、友人関係などを要素におきまとめる。 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間） ワークシート　Ｅ：あり 復習：２～７回のワークシートをまとめる（約1時間） 第8回　保育者の資質と求められる役割⑦ 前回の授業でまとめたものを基にグループにて考察。 予習：前回の授業内容から視聴覚資料映像の年齢による特徴的なシーンをまとめておく（約1時間） 復習：新たな視点をまとめておく（約1時間） Ｆ：あり

	第9回　保育者の資質と求められる役割⑧ 前回グループでまとめた内容を、掲示発表。クラスでの発表内容を各自記録する。 予習：２～８回の授業内容をまとめておく（約2時間） 第10回　保育現場に生かせる教材・表現方法の習得につなげる　「特別講座　紙芝居の出来るまで」 児童画家　夏目尚吾氏による特別講座　紙芝居の制作過程を知る。保育現場における紙芝居の効果、読み聞かせの方法、紙芝居の選び方を学ぶ 予習：紙芝居について、［保育内容　言葉］の授業で学んだ内容をまとめておく（約30分） 復習：専門家の仕事について、気づいたこと保育現場での、紙芝居の重要性をまとめる（約30分） 第11回　得意分野を活かせる保育者を目指して 自己分析につなげる 予習：自身の得意分野、小さい頃の好きだった遊びについてまとめておく（約30分） 復習：ワークシートの内容をまとめる（約30分） Ｆ：あり Ｅ：あり 第12回　信頼される保育者を目指して 保育現場で必要とされる保育者について、11回の授業を通してまとめる。また、信頼されるために必要な自身の課題を取り上げ、その内容についてまとめる 予習：今までのワークシートをまとめる（約1時間） F:あり 第13回　理想の保育者像とは 理想の保育者像”をワークシートに記入。 予習：授業全体を通して、理想となる保育者像についてまとめておく（約1時間） 復習：今までのワークシートの内容をまとめる（約1時間） Ｆ：あり 第14回　まとめ① 筆記試験実施 授業全体を範囲に、記入式試験。 予習：授業全体をまとめる（2時間） 復習：試験内容から復習すべき点をまとめる Ｆ：あり 第15回　まとめ②　　教育者として自己課題について これまでの授業内容のまとめとして、求められる保育者の姿を明確に、保育実習における自己課題についてにまとめる。 Ｆ：あり
教育目標との関連	幼児にとって、初めての集団生活の場となる幼稚園は、友だちや保育者と一緒に楽しく伸びやかに園生活を送れるように環境を整え、教育的愛情を持ち心をこめて関わることが求められる。子どもの個性を見つめながら、その発達を細やかに支援することができるようになるために、学生は本学の教育目標でもある、知識と教養、豊かな感性を身につけ、さらに保育者としての実践的な技能を習得しなければならない。何よりも教員として幼児の成長を支えていくために、健全な心と体に支えられた強い意志の力が必要なのである。このように、本学の教育目標の達成と本科目により示される教員の資質及び能力は密接に関わっているのである。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．教員の職務の意義や内容について幼稚園教諭としてふさわしい資質・能力として関連づけ、身につける基礎を学び、向上しようとする態度と意識を説明できる。 ２．教員の職務の意義や内容について、幼児の理解と保育の方法の実際について映像などの情報をもとに、自分なりに判断類別し考察することができる。 ３．映像教材を通して、保育技術の実践を学び、自分の得意分野などの技能を自覚し、保育現場での表現方法として活かすことができる。 ４．保育現場での話題および事例を通して教育に対してより身近な関心を持ち、教職に対する意欲を高めることができる。 ５．保育現場で教員として常に責任感を持ち、深い愛情と共感性を備えて、チーム保育者として行動できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	全14回の講義内容を理解できているか評価する 筆記試験　70%　　講義全般を理解しているか評価する 提出課題　30%　毎回の授業の中でワークシート記入を実施し、授業の理解度や授業の感想を評価する。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館　2018年3月23日発行　240円(税別)
参考書	授業内で紹介
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおりである。
履修上の注意、条件等	教育職を志す学生として自覚を持ち授業に取り組むこと。
オフィスアワー	毎回の授業後に設ける
備考・メッセージ	どのような保育者を目指すのか、自分自身で確立するために、常に学ぶ姿勢を大切にすること. 全て対面授業となる

講義科目名称： 保育の心理学　　授業コード：

英文科目名称： Psychology of childcare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
中村麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：B101
添付ファイル			
保育の心理学.pdf			

講義概要	乳幼児期から青年期に至る心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を身につける。各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導や教育、人との相互的かかわりや体験、環境の意義など基礎的な考え方を理解する。スクールカウンセラーや発達相談の実務経験を有する教員による具体的な体験事例を通して、発達に応じた子どもへの働きかけや、調和のとれた子どもの育ちを支えるための視点を養う。 他の科目との関連：発達の心理学に関する基礎知識を身につけた上で、「子ども家庭支援の心理学」でより具体的かつ実践的に子どもの発達、家庭への支援、保育者の役割について理解を深める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　発達を理解することの意義 人間の発達は生涯続くものであるが、どの時期も同じ重さを持つわけではない。初期の発達と後期の発達とでは意味や課題が異なることを理解する。 予習：「保育の心理学」のシラバス全体をよく読んで、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間） 復習：教科書第1章を読み、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：少　B：少　E：あり　F：あり 第2回　発達と環境 人間は環境の中でさまざまなことを体験して学ぶ。環境に主体的にかかわることにより、心身の発達が促進されることを映像を視聴しながら学ぶ。 復習：教科書第2章と第3章を読み、授業の内容を振り返ること（約2.5時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第3回　発達理論と子ども観 発達に関する国内外の代表的理論を踏まえ、グループワークを通して自分なりの子ども観・保育観を持てるようにする。 復習：教科書第4章を読んで、授業の内容を振り返ること（約2時間） A：中　B：中　D：少　E：あり　F：あり 第4回　知覚、認知の発達 かつて新生児は何も見えないと考えられていたが、最近になって赤ちゃんは驚くべき能力を備えて産まれてくることがわかってきた。乳幼児期の認知の発達について、映像を見ながら学ぶ。 復習：教科書第5章と第11章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） B：中　D：少　E：あり　F：あり 第5回　身体的機能と運動機能の発達 身体機能と運動機能の発達の過程と特徴について理解する。 復習：教科書第6章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） B：中　D：少　E：あり　F：あり 第6回　愛着の形成と発達 愛着の形成がその後の発達に及ぼす影響について理解する。 復習：教科書第7章を読み、授業内容を振り返ること（約2時間） B：少　E：あり　F：あり 第7回　社会情動的発達 情動とは、極めて主観的な複雑な心の動きである。人間の基本的な情動の発達や機能、情動表出について、映画視聴を通して楽しく学ぶ。 予習：自分の中にどのような情動があるか、その情動は日常生活でどのような役割を果たしているかを考えること（約1時間） 復習：教科書第8章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） A：中　B：中　D：少　E：あり　F：あり 第8回　社会性の発達 社会性は社会的相互作用の中で発達していく。特に仲間関係によって身に付く力は、幼児期以降、児童期・青年期の対人関係、コミュニケーションスキルの発達につながっていくことを理解する。 復習：教科書第9章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） A：中　B：中　D：少　E：あり　F：あり 第9回　言語の発達 産まれてすぐのまだ言葉を話せない赤ちゃんも、全身を用いて豊かな能動的コミュニケーションを実現している。そうしたコミュニケーション能力を備えて誕生してくる赤ちゃんは、言葉によらないやり取りを活発にするうちに、やがて言葉を獲得していく。このプロセスを映像を見ながら理解する。 復習：教科書第10章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） B：少　E：あり　F：あり 第10回　学習に関する理論 さまざまな学習の形態や概念、およびその過程を説明する国内外の代表的理論の基礎を理解する。 復習：教科書第12章を読み、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：少　B：少　D：少　E：あり　F：あり 第11回　主体的な学習を支える指導

	主体的な学習を支える動機づけや集団作り、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。 復習：教科書第12章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第12回　乳幼児の学びの過程と特性 乳幼児の学びに関わる基礎理論を理解した上で、それを支える保育について考える。 復習：教科書第14章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第13回　乳幼児期の学びを支える保育 子どもの発達をめぐる課題、発達課題に応じた保育、生活における学びについて考える。 理解度確認テスト 予習：テストの準備学習、復習：教科書第15章を読み、授業の内容を振り返っておくこと（約3時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 第14回　まとめと理解度確認テスト これまでの授業の総まとめを行い、理解度確認テストを行う。 予習：これまでの授業の総復習をしてテストに臨むこと（約2時間） E：あり 第15回　理解度確認テストのフィードバックと学習成果の振り返り 理解度確認テストのフィードバック、および、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して質問などを考えて授業に臨むこと（約2時間） E：あり
教育目標との関連	保育者には、どんな時も愛情深く子どもの傍らに寄り添う温かさや、伸びゆく子どもの可能性を信じる強さが求められる。それを裏打ちする心理発達の道筋についての的確な理解や正しい知識を習得する。また、これらの知識の習得が学生自身の発達について改めて考える機会となり、自らの発達を自覚的に捉え直し、人生を主体的に自分らしく生きる意志の力を身に付ける。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1:子どもの発達や保育実践にかかわる心理学の基礎について説明することができる。 DP2:子どもの心理を理解し、保育場面に応じた適切な判断ができる。 ＊添付資料のカリキュラムマップを参照
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	理解度確認テスト：50% 提出物：20% 平常点：30% *評価基準は添付資料のルーブリックを参照
教科書	『保育士を育てる 保育の心理学』 瀧口綾・福田真奈（編著） 一藝社、2020年3月　2,100円
参考書	授業内で適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおり。
履修上の注意、条件等	子どもの心理発達に関する社会情勢に関心を持ち、自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも随時受け付ける。
備考・メッセージ	授業形態はすべて対面で実施する。シラバスの内容は履修学生の理解度等により変更する場合もある。

講義科目名称： 特別支援教育（障害児保育）Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Education for Children with Special Needs Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春・秋学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
渡邊　眞理			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F107
添付ファイル			
特別支援教育Ⅰ.pdf			

講義概要	この科目は、Ⅰ・Ⅱで構成される障害児保育のⅠにあたる。Ⅰでは特に、障害児の問題を通して、人間観・子ども観・発達観とかかわらせた障害児保育の発達保障の思想について学び、障害自体についても事実を学び、障害児保育の基礎を元に個別支援計画作成の力をつける。さらに親と子、家族の生活の実態に即して障害児保育を理解する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　担当者の障害児保育観、および障害概念の変遷 障害児保育観を考え、障害概念の変遷について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間　予習：シラバスを読み授業の全体を知る。復習：授業での学びを振り返り、記録する 第2回　障害児教育・保育体制の歴史―不就学から義務制へ 特別支援教育とは何か。その意義と制度、ノーマライゼーションの理念などについて学ぶ B:少 E：あり 予習復習合わせて2時間　予習：配布資料を読む　復習：授業での学びを振り返り、記録する 第3回　特殊教育から特別支援教育へ、統合から包含（インクルーシブ）へ インクルーシブ教育の理論と実践について学ぶ B：少 E：あり F：あり 予習復習合わせて2時間　予習：配布資料を読む　復習：授業での学びを振り返り、記録する 第4回　障害児理解の視点―親と子の生活と発達と障害の関連からの理解 障害児の実態把握と相談支援について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間　予習：配布資料を読む　復習：授業での学びを振り返り、記録する 第5回　保育の中での障害理解の視点―問題行動を発達要求として― 個別の指導計画と個別の教育支援計画について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間　予習：配布資料を読む　復習：授業での学びを振り返り、記録する 第6回　障害に関する基礎知識1　知的障害一般、ダウン症 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特に知的障害一般、ダウン症について学ぶ B：少 E：あり F：あり 予習復習合わせて2時間　予習：配布資料を読む　復習：授業での学びを振り返り、記録する 第7回　障害に関する基礎知識2―自閉症スペクトラム①　自閉症 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特に自閉症について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間　予習：配布資料を読む　復習：授業での学びを振り返り、記録する 第8回　障害に関する基礎知識3―高機能自閉症②　アスペルガー障害 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特にアスペルガー障害について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間　予習：配布資料を読む　復習：授業での学びを振り返り、記録する 第9回　障害児に関する基礎知識4―発達障害①学習障害（LD） 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特に学習障害（LD）について学ぶ B：少 E：あり F：あり 予習復習合わせて2時間　予習：配布資料を読む　復習：授業での学びを振り返り、記録する 第10回　障害児に関する基礎知識5―発達障害②注意欠陥多動性障害（ADHD） 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特に注意欠陥多動性障害（ADHD）について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間　予習：配布資料を読む　復習：授業での学びを振り返り、記録する 第11回　障害児に関する基礎知識6―身体運動障害・肢体不自由 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特に身体運動障害・肢体不自由について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間　予習：配布資料を読む　復習：授業での学びを振り返り、記録する

	第12回　障害児に関する基礎知識7―視聴覚障害 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特に視聴覚障害について学ぶ B：少 E：あり F：あり 予習復習合わせて2時間　予習：テキストの目次と最初の部分を読む　復習：授業での学びを振り返り、記録する 第13回　早期発見・早期治療・早期保育へ アセスメント、医療的ケア、支援について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間　予習：配布資料を読む　復習：授業での学びを振り返り、記録する 第14回　授業の総括 これまでの授業についての総括を行い、この回の中で学習到達度の確認テストを実施する。 予習復習合わせて2時間　予習：これまでの授業の資料とテキストを読み返す　復習：テストに出た問題を振り返り、関連個所を資料などで確認する。 第15回　学びの振り返り 試験の解説 授業の学びを総括し振り返る。自己の学びの評価を行うと同時に今後の課題を明らかにする E：あり 予習復習合わせて2時間　予習：テストに出た問題を振り返り、関連個所を資料などで確認する。学びを整理し今後の課題を明確にする。
教育目標との関連	障害児保育をめぐる基礎的な知識を身に付け、深く考え、対話することにより、保育者としての確かな知識を身に付ける。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. 乳幼児の発達保障の担い手とし ての保育士に必要な知識と方法 の基礎を理解し、説明できる 1. 障害児保育を単に統合ではな く、インクルーシブな保育とし て理解し、説明できる 1. 子ども理解の視点として親子の 生活と発達と障害の関連につい て理解し、説明できる 1. 障害児保育の現状・課題を把握 し、説明できる 1. 福祉と人権の思想を理解し、説明できる （添付資料のカリキュラムマップを参照すること）
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業態度：20% 振り返りシート、課題：30% 試験：50% （添付資料のルーブリックを参照すること）
教科書	プリントを配布する
参考書	授業内で適宜紹介する
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条	シラバスの内容は履修学生の理解度により変更もある。

件等	
オフィスアワー	研究室で受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：　教育課程総論（保育の計画と評価）　　授業コード：

英文科目名称：　Curriculum in the Kindergarten, Nursery Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
石見　容子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F106
添付ファイル			
教育課程総論（保育の計画と評価）.pdf			

講義概要	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における保育や教育課程・全体的な計画の意義や編成について学び、こどもたちの主体性を活かした教育課程及び全体的な計画の在り方について考える。 教育課程及び全体的な計画の編成とそれを踏まえた指導計画の作成を実際に行うことにより、具体的に理解する。 他科目との関連：保育内容５領域において学んだねらい及び内容は、園生活の全体を通して総合的に展開されなければならない。教育課程総論(保育の計画と評価)では、５領域を総合的に捉え、指導計画を作成していくことを学ぶ。 授業担当者は、特別支援学校幼稚部・小学部、公立幼稚園、公立保育所及び知的障害児入所施設等において実務経験がある。「こども理解に基づいた評価」「幼保こ小連携」という視点から保育の計画を考える授業を行う。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション　保育の質の向上に向けた計画・実践・省察・評価 講義概要を理解する。 こどもたちの学びは、こども自らが環境に主体的に関わって生み出される遊びの中にある。保育の質の向上を目的とした計画・実践・省察・評価のプロセスを学ぶ。 予習：教育課程総論（保育の計画と評価）のシラバス全体を読み、講義概要を理解する。（約１時間） B：中　E：あり　F：あり 第2回　「教育課程」・「全体的な計画」と指導計画 全体的な計画及び教育課程が持つ役割・機能・意義について理解するともに、保育所及び幼稚園における全体的な計画と教育課程の在り方を理解する。 予習・復習：教科書P.19～36を読み、自分の考えをまとめ全体的な計画・教育課程の考え方についての理解を深める。また、授業時に配布したプリントを読み、教育課程の編成の仕方を理解する。（約１時間） Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第3回　幼稚園における教育課程と指導案 子どもたちの幼稚園おける教育への理解を深め、教育課程と指導案の在り方を理解するとともに、その編成/立案の仕方について学ぶ。 予習・復習：教科書P.37～66を読み、また、授業時に配布したプリントを読み、自分の考えをまとめ幼稚園の理解と教育課程の編成・指導案の立案についての理解を深める。（約１時間） Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第4回　保育所における計画と評価 子どもたちの保育所おける教育への理解を深め、教育課程と指導案の在り方を理解するとともに、その編成/立案の仕方について学ぶ。 予習・復習：教科書P.67～100を読み、また、授業時に配布したプリントを読み、自分の考えをまとめ幼稚園の理解と教育課程の編成・指導案の立案についての理解を深める。（約１時間） Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第5回　長期・短期指導計画作成の基本とその方法（評価の必要性） 長期指導計画と短期指導計画の関係性について学ぶ。さらに長期指導計画と短期指導計画の作成にあたり、保育における評価の必要性について理解する。 予習・復習：教科書ｐ.27～31を読み、指導計画作成の実際ついて理解する。（約１時間） Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第6回　乳幼児の計画と評価の実際 乳幼児の発達と生活の特徴を踏まえた計画と評価について考える。また。子ども一人ひとりに合わせた計画のために必要な「子どもの姿を読み取る」ことの必要性について考え、その実際に学ぶ。 予習・復習：教科書ｐ.138～143及び授業中に配布したプリントを読み、乳幼児の保育計画について理解すると共に、実際に子どもの姿を読み取りまとめる課題に取り組む。（約２時間） Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第7回　指導計画の作成と方法 指導計画の作成と方法について学ぶ。実際のエピソードに基づき、子ども理解をし、実態を捉え、長期指導計画と照らし合わせながら指導計画を立てていく一連の流れについて理解し、指導計画作成の方法を習得する。 予習・復習：教科書ｐ.101～128を読み、指導計画の作成の基本とその具体的方法について理解する。（約１時間） Ａ：多　Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第8回　1日の指導計画作成に向けて 1日の保育の様子を観察し、時系列の記録を作成することを通して、１日の指導計画に必要な観点を学ぶ。 予習・復習：授業後に時系列の保育記録を作成する。（約２時間） Ａ：多　Ｄ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第9回　発達の連続性を踏まえた小学校との接続期カリキュラム 接続期における発達の連続性について理解する。幼保小連携の実際を踏まえ、幼小連携の可能性について考える。

	予習・復習：配布資料を読み、接続期カリキュラムについて理解する。（約１時間） Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第10回　５歳児の指導計画の作成１ ５歳児の発達の特徴を踏まえた指導計画（活動案）を作成する。実際のエピソードに基づき、子ども理解をし、実態を捉え、長期指導計画と照らし合わせながら指定した時期の活動計画を考え作成する。 予習・復習：教科書ｐ.150～151を読み、５歳児の発達の特徴を理解する。（約２時間） Ａ：多　Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第11回　５歳児の指導計画の作成２ ５歳児の発達の特徴を踏まえた指導計画（週案・日案）を作成する。実際のエピソードに基づき、こども理解をし、実態を捉え、長期指導計画と照らし合わせながら次週のねらいと内容及び１日の指導計画を考える。 予習・復習：教科書ｐ.150～151を読み、５歳児の発達の特徴を理解する。（約２時間） Ａ：多　Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第12回　５歳児の指導計画の作成３ ５歳児の指導計画(週案・日案)を作成する。作成した指導計画についてオンラインでプレゼンテーションを行う。課題の指導計画（週案・日案）は、添削をした上で返却をする。 予習・復習：指導計画（週案・日案）のプレゼンテーションで指摘を受けた部分を修正する。作成した週案に基づき、日案の細案の作成を行う。（約６時間） Ａ：多　Ｄ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第13回　指導要録・保育要録の理解 保育の評価の在り方について考え、子どもの育ちを小学校につなぐ資料である「保育所児童保育要録」および「幼稚園幼児指導要録」の記載の留意点について学ぶ。 予習・復習：教科書ｐ.160～161を読み、指導要録の意義と書き方について理解する。（約１時間） Ｂ：多　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第14回　期末試験 学習の成果を確認するための期末試験に取り組む。試験後、講義内容全体を振り返り、カリキュラムマネジメントの意義について考える。また、授業の評価を行う。 予習：期末試験に備え、今まで学習したことを振り返る。 Ｂ：少　Ｅ：あり 第15回　期末試験の振り返りとまとめ 期末試験の総評の時間とし、本科目のポイントを確認する。 予習：今までのノートを振り返る Ｂ：少　Ｅ：あり
教育目標との関連	教育課程（保育の計画と評価）の基礎基本を理解し、将来保育者になるために必要な知識を獲得しなければならない。 全体的な計画・教育課程の編成及び指導計画の作成においては、こどもの発達の連続性を理論的に理解することが求められる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．教育課程・全体的な計画の在り方と意義について説明できる。 ２．保育の目標を達成するために必要な方法を判断できる。 ３．乳幼児の発達の特徴を理解した指導計画の作成ができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	試験50％：定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。 提出課題45％：授業内で指示した課題や指導計画の提出において、授業で学んだことを踏まえて立案できているか評価する。 平常点評価5％：提出課題の直し、ディスカッション及びプレゼンテーションにおける発表内容及び積極性を評価する。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	なし
参考書	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	保育者としてこどもの発達を踏まえた指導計画の作成が求められる。授業内で各年齢の部分案・日案（活動案）の提出がある。
オフィスアワー	限定コメントで受け付ける。 研究室にて受け付ける。時間は研究室掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	対面授業を行う。

講義科目名称：　自然遊びと生活環境保全Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：　Play in Nature and Heathy Living Experience Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
山下　晶子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：なし	ナンバリング：F101
添付ファイル			
カリキュラムマップ自然遊びと生活環境保全I最終版.pdf			

講義概要	乳幼児の成長にとって「自然遊び」活動は非常に重要である。保育者になる学生自身が「自然遊び」の意義を理解し、保育のあり方の観点から考えていく。　子どもの生活環境の安全に向けた内容を取り上げ、保育者として現場で生かせるように理解する。 他の科目との関連：１年前期「幼児と環境」の内容を春から秋の季節感を味わいながら体験的に学習する内容になっている。さらに２年後期の「自然遊びと生活環境保全Ⅱ」では秋から冬の季節の活動であり、１年の季節を通した内容になっている。また、これら科目を土台にしながら専攻科「保育内容特論」では保育者の視点から環境構成や活動計画を立案できるようにしている。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回　自然遊びによる自然の美しさ、不思議さ 野草図鑑をつくることで植物に親しみを感じる。 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック（約２時間）D:多　E：あり　F：あり 第２回　自然遊びによる安全 栽培活動でかぶれ、収穫物の食中毒予防 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック（約２時間） D:多　E：あり　F：あり 第３回　自然遊びによる幼児理解 幼児の自然の美しさに出会った表情を想像し、４コマ絵を描く 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック　（約２時間）D:多　E：あり　F：あり 第４回　自然遊びによる数量・図形の関心 自然の景色を切り抜いた動物絵やファッションに当てはめ、創造する 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック　（約２時間）D:多　E：あり　F：あり 第５回　植物のからだによる数量・図形の関心 植物の発芽、葉脈、茎の形から数量・図形の理解をはかる 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック　（約２時間）D:多　E：あり　F：あり 第６回　自然災害から子どもを守る① 「急な大雨・雷・竜巻」の実態及び天気予報情報の理解する。 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック　（約２時間）D:多　E：あり　F：あり 第７回　自然災害から子どもを守る② 具体的な災害映像などから「急な大雨・雷・竜巻」の対処法を理解する。 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック　（約２時間）D:多　E：あり　F：あり 第８回　遊具の安全性 公園・幼稚園・保育園などにある遊具のペンキ中に含まれる鉛汚染の実態を理解する。 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック　（約２時間）D:多　E：あり　F：あり 第９回　園外保育、散歩の事故防止 園外保育、散歩の目的や安全な保育について理解する。 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック　（約２時間）D:多　E：あり　F：あり 第１０回　自然を取り入れて遊ぶ 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック　（約２時間）D:多　E：あり　F：あり 第１１回　野菜に興味関心を持ち栽培に親しむ① 野菜の栽培に興味、関心を持ち栽培を行う。 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック　（約２時間）D:多　E：あり　F：あり 第１２回　野菜に興味関心を持ち栽培に親しむ② 野菜の栽培に興味、関心を持ち栽培を行う。 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック　（約２時間）D:多　E：あり　F：あり 第１３回　七夕行事に親しむ 幼児に七夕行事とは何かを説明できるように解説する。 予習：Google ClassRoom課題の調べ学習　復習：提出課題に関する教師からの限定コメントによるフィードバック　（約２時間）D:多　E：あり　F：あり 第１４回　「総括まとめと学習到達度の確認テスト」

	この授業のまとめを行い、到達度テストを行う。 予習：Google ClassRoom第１回～12回までの課題見直し　復習：教師からの限定コメントによるフィードバック　　（約２時間）D:多　E：あり 第15回　「学びの振り返り」 当該科目の到達目標と各自の到達度チェック
教育目標との関連	子どもの生活環境に安全性を求めたライフスタイル及び「自然遊び」に関する教材活用としての知識・理解並びに作品づくりを通して表現力を修得する。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. 子どもの生活環境保全について事故例などから安全性を理解し、説明できる。 2. classroom等による課題を通して、環境構成の方法や教材活用の視点から考え、工夫できる。 3. 子どもの春から夏の自然の美しさや面白さの表情を想像し、表現できる。 到達目標は添付ファイルのカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	①期末試験では授業の内容全般についての理解度を評価する（70%） ②授業に対する前向きさ、関心・意欲そして自然遊びの重要性の理解等を総合的に評価をする。（ 30% ） 評価基準は添付したルーブリックを参照すること。
教科書	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
参考書	教材及び資料（授業時配布する資料）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り（120分予習復習をすること）
履修上の注意、条件等	授業を構成する当事者として意欲をもって出席するようにしましょう。 私語、携帯電話等の使用は、特にこの授業では、使用不可。自然の理解ですから、自然に積極的にかかわること。条件を満たせない場合は、単位取得が難しくなります。
オフィスアワー	研究室の掲示します。
備考・メッセージ	保育者になる意識で授業に参加しましょう。

講義科目名称：　保育内容総論　　授業コード：

英文科目名称：　Contents of Early Childhood Care and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	１年	１単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
山下晶子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F103
添付ファイル			
カリキュラムマップ保育内容総論.xlsx			
保育内容総論.xlsx			

講義概要	・幼稚園、保育所、認定こども園における保育内容の理解を深め、その基本的な考え方と諸事項を総論的に学習する。 ・グループでの作業を通して、保育現場での実践力・応用力を養う。またグループメンバーと共に、子どもの生活や遊びから、子どもの姿をイメージし、具体的な保育者の援助や配慮等を学ぶ。さらに、グループ討議や課題作成を通して協働する力を養う。 ・保育を構成する理論や歴史、環境と生活からの経験的な学び、それらを支える保育方法などについて、幼稚園教育要領や保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領をはじめとする様々な資料を基に学ぶ。また、保育者実務の講話より保育実践の事例や映像を通して学び、子どもが主体的に学び育つ保育内容について理解を深める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション・保育内容の概要と目的 ・本講義の内容・構成について理解する ・子どもを取り巻く環境について知る ・保育の社会的意義と保育者の専門性などの重要性を知り、当事者として学ぶ意識を高める A:中　B：中 E:あり、F：あり 予習：シラバスを読み、本講義の全体像を把握する（30分間） 復習：学びの振り返り（1時間） 第2回　保育内容の変遷 ・保育内容の歴史的変遷について学び、社会情勢と保育内容の関係性を理解する ・環境による保育と5領域とへの歩みについて学び、その意味を理解する A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり 復習：学びの振り返り（1時間） 第3回　子どもの発達と保育内容① ・乳児期の発達の特徴を理解し、保育内容との関係性を理解する ・保育現場の保育実践の映像・講話を通し学ぶ ＊「保育内容事例研究ワークシート」に取り組む A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり 復習：学びの振り返り（1時間） 第4回　子どもの発達と保育内容② ・主体的・対話的・深い学びについて理解する ・幼児期の発達の特性を理解し、保育内容との関係性を理解する ・社会情動性（非認知能力）の重要性を学ぶ ・保育現場の保育実践の映像・講話を通し学ぶ ＊「保育内容事例研究ワークシート」に取り組む A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり 復習：学びの振り返り（1時間） 第5回　子どもの生活・家庭・地域社会と保育内容 ・行事について焦点を当てて学ぶ ・カリキュラムの基本的な考え方と保育計画、保育内容とのつながりについて学び理解する ・ワークシートをもとに考察する A:多、B：中、D：中 E:あり、F：あり 復習：学びの振り返り（1時間） 第6回　インクルーシブ保育・ダイバーシティ（多様性）と保育内容 ・家庭の影響と子どもの育ち、保育内容の関係性を学ぶ ・インクルーシブ保育の概要と個別支援計画や支援体制について事例から理解する ・社会の多様性と子ども一人一人の多様性理解と保育内容の関係を学び理解する A:中、B：中、D：少 E:あり、F：あり 復習：学びの振り返り（1時間） 第7回　記録のとり方と保育内容 ・保育内容と記録の関係について学び、記録のとり方と作成を学ぶ ・記録の保育内容への活かし方の基本を事例から学び、実践に繋げる意味を理解する A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり 復習：学びの振り返り（1時間） 第8回　評価の意味と意義（１）評価法の種類と価値 ・評価の意味と意義について理解する ・保育の事前・遊び・事後評価など、評価の視点について学ぶ ・ＰＤＣＡ、チェックリストを始め、保育における様々な評価の視点を知り、重要性を理解する

	A:中、B：中、D：中 E:あり、F：あり 復習：ノート等の整理をして、ミニテストに備える（1時間30分） 第9回　評価の意味と意義（２）質的評価とプロジェクト・アプローチ ・生涯発達の視座から幼児期の学びと育ちについて大切なことを学ぶ ・対話による探求的保育であるプロジェクト・アプローチを総合的に学ぶ ＊ミニテスト予定 A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり 予習：ミニテストに備える（1時間30分間） 復習：学びの振り返り（1時間） 第10回　保育内容と指導計画案（１）指導計画案と保育内容の関係性 ・乳幼児の育ちについて大切なことを考えた指導計画案について学ぶ ・指導計画案の作成と活かし方の重要性について理解する ＊部分指導案作成する A:中、B：中、D：少 E:あり、F：あり（指導案作成） 第11回　保育内容と指導計画案（２）指導計画案・保育内容と評価の関係性 ・指導計画案の作成と保育内容、そして評価との関係性について学ぶ ・評価の活かし方について理解する A:中、B：中、D：少 E:あり、F：あり 復習：学びの振り返り、ノートを整理する（1時間） 第12回　諸外国の保育・多様な保育（支援が必要な子どもの保育） ・諸外国の保育に学び、世界の動向への意識を高める ・多様な保育と保育者の専門性について学ぶ ・仲間の中で育ちあう保育について考察する A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり 復習：授業で紹介された国々について調べる（1時間）・期末最終課題に取り組む（1時間30分） 第13回　子どもの育ちと保育内容（保育者の役割） 社会変化の中で子どもの生活実態を理解を深め、保育内容を考える A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり 復習：学びの振り返り、最終課題に取り組む（２時間） 第14回　まとめ 本講義の内容について学んだことnいついて理解を深める。 ・子どもの最善の利益の保障となる保育内容について考える A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり 復習：学びの振り返り、最終課題に取り組む（２時間） 第15回　授業の振り返りと展望：遊びと学びの保障に向けて・地域の子育て支援の取り組み ・地域子育て支援についてどのような取り組みや地域ネットワークの活動を学ぶ ・本講義の内容について復習し、今後を展望する （映像を視聴し学ぶ） A:少、B：中、D：少 E:あり、F：あり 復習：期末最終課題に取り組む（1時間30分）
教育目標との関連	複雑化した現代社会により、保育は多機能化している。保育者は「一人ひとりの子どもの発達に責任を持ち、子どもの最善の利益」を保障することが必須である。そこには、子どもが社会に順応することを求めるだけではなく、生活を創造し、社会を変革しながら活き活きと生活する基礎を培うことが保育内容であると捉えることが求められる。保育者も子どもと共に生活する中で、学び成長する者として、保育内容を展開することが大切である。ゆえに保育内容総論では、歴史、思想、保育方法等の知識を習得し思考し、自分の意見をもてるように学ぶ。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	授業の到達目標 1.　子ども理解と保育との関連性を理解し具体的な保育の過程に繋げ説明できる。 3.　保育内容の方法と原理、及び保育者の役割を理解し、５領域の内容が総合的に理解でき論理的な考えに基づき論じ合うことができる。 5.　保育者としての態度の必要性を理解し、その基礎を理解することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	保育内容プロジェクト　（指導計画案と教材作成）：授業内容全般について理解度を評価する。　５０％ ミニテスト：授業内で与えた課題について、自分なりの考察がなされているかを評価する。　２０％ 受講態度：グループワーク、ディスカッション等において、理解度や取り組みの積極性等を評価する。３０％ ＊欠席等については「履修要項」に準ずる。
教科書	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」解説書
参考書	安心感と憧れが育つひと・もの・こと　齋藤政子編著（明星大学出版部）2,484円
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	毎回の授業における課題に取り組む。授業で不明な用語・内容理解のための復習が欠かせない。
履修上の注意、条件等	授業を構成する当事者として出席するように ・私語・携帯電話等の教室内使用は不可。条件を満たせない場合は、単位取得が難しくなります。 ・シラバスの内容は授業展開に応じて変更する場合があります。

オフィスアワー	研究室に掲示します。
備考・メッセージ	学ぶ者の姿を見て子どもたちは学びます。よく生きようとする者の姿を見て子どもたちは良く生きようとします。保育者として、学びよく生きるとは何かについて常に問題意識を持ち、授業に臨んでほしいと思います。

講義科目名称： 幼児と健康　　授業コード：

英文科目名称： Infants and Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
三浦由美			
授業形態　講義	担当形態　単独	実務経験　あり	ナンバリング：A203
添付ファイル			
幼児と健康2020.pdf			

講義概要	近年における幼児を取り巻く社会状況や教育的課題を踏まえ、領域「健康」の指導に必要な基盤となる基礎的知識・基礎的技能を身につけることを目指す。主に、幼児の健康、心身の発達と基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達と身体活動を軸に展開する。 後学期の「保育内容（健康）の指導法」では、子ども自らが成長とともに「健康な心と体を育て、安全な生活を作り出す力を養う」ため、その保育実践に向けてグループワークを通して実践的に援助方法を学ぶ。学生はその基盤となる知識・技能を本科目で学び理解を深める。 他の科目との関連：1年次に学ぶ「子どもの保健」をもとに、「子どもの健康と安全」「保育内容（健康）の指導法」「体育実技」、「体育理論」、「実習に関する科目」などの基礎知識として本科目の教育内容・方法を学び、実習に備える。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　幼児期までに育てたい10の姿（健康な心と体）の理解－健康の定義と乳幼児の健康の意義－ 授業の進め方と、授業の評価方法の説明をする。 乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活環境を理解する。 A:中　B:中　E:あり 第2回　安全・健康について（学校における安全管理と危機管理：リスクとハザード） 子どもの安全への意識や態度を育むことへの重要性と安全管理を理解する。 A:中　B:中　E:あり 第3回　事例から学ぶ安全管理と危機管理（５大事故および災害対策－裁判事例からの学びも含む） 「子どもの健康と安全」授業内で作成するハザードマップの基本的観点として危険予知力を理解する。 A:中　B:中　E:あり 第4回　身体の諸機能の発達－身体・運動・精神― 乳幼児期の脳の発達に伴い諸器官が発達することを理解する。 A:中　B:中　E:あり 第5回　幼児期の発達障害 乳幼児期を取り巻く生活環境の課題（食生活、睡眠、運動）からの子どもの発達障害（自閉症スペクトラム障害、ADHD、学習障害） A:中　B:中　E:あり 第6回　幼児期の生活習慣の獲得および生活リズム形成とその意義～一斉保育と主体性保育～ 将来にわたる社会面、生活面での心地よい生活と自立に向けた基本的生活習慣獲得について理解する。 乳幼児期の生活習慣の獲得時期の目安を理解する。 A:多　B:多　E:あり 第7回　日常生活における運動と遊びとしての運動 楽しく遊ぶための基本的理論（フロー理論、内的動機づけ、やる気）を理解する。 A:中　B:中　E:あり 第8回　保育実践に向けて　まとめ 子どもの健康の保障、全面発達の保障について、大人の役割、保育者の役割について理解する。 授業のまとめ「幼児と健康」について、これまでの授業や課題提出などに関し総括と振り返りを行う。 A:多　B:多　E:あり
教育目標との関連	健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.　幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解する。 2.　幼児期の体の諸機能、運動の発達と生活習慣の形成を理解する思考力と発達段階に応じた判断力を高める。 3.　安全な生活と怪我や病気の予防に必要な技能と相手に伝える能力を高める。 4.　幼児を取り巻く健康に関する社会状況や教育的課題に関心を持ち、意欲的に授業に取り組む。 5. 幼児が自らの健康を保つよう気づきを促し必要感や達成感を育めるように、グローバルな視野と豊かな人間性を生かし社会に貢献する姿勢をもつ。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照のこと。

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	最終課題レポート　60　%　授業内の振り返り課題　50% 課題に取り組む積極的な姿勢と、どれだけ深く取り組めたかを評価する。
教科書	授業中の配布資料、並びに授業スライドを提示することで、教科書の代わりとする。 グーグルクラスルーム内にて課題ドキュメントを配布する。
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針解説』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他　共にフレーベル館 その他　参考URLなどは授業中に提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	最終課題レポート60　%　授業内の振り返り課題50% 課題に取り組む積極的な姿勢と、どれだけ深く取り組めたかを評価する。 授業で提示された資料や扱った内容について、ネットや新聞から関連した話題を見つけ、最終の評価レポートに役立てたい。
履修上の注意、条件等	グループディスカッションの成果は、各授業時間ごとにグループ連名の小レポートとして提出するが、最終の評価レポートとともに評価の対象とします。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は掲示する。
備考・メッセージ	

講義科目名称：　幼児と人間関係　　授業コード：

英文科目名称：　Young Children and Human Relationship

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
渡邊　眞理			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A106
添付ファイル			
2021正カリキュラムマップ幼児と人間関係.pdf			
2021正ルーブリック様式幼児と人間関係.pdf			

講義概要	現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、乳幼児教育で保障すべき、養護・教育の内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で、幼児期の人とかかわる力が育つことを理解する。子どもの人間関係の発達過程の理論と実践について、実務経験のある本授業担当者から保育現場における事例を通して学ぶ。子どもが主体的に学び、人間関係を育む保育者としての当事者意識を高める。 他の科目との関連：乳幼児の人間関係は他の領域とも関係が深く、生活や遊びを通して総合的に発達することを理解した上で、本講座で学んだ理論を他の領域と関連付けながら具体的な保育場面につなげていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション・子どもと人間関係（対面） 【対面】 ・現代社会と幼児の人間関係・自分自身の人間関係について振り返る ・子どもを取り巻く環境（社会文化・自然を含む）について知る 予習：シラバスを読み、本講義の全体像を把握する（30分間） 復習：学びの振り返り（1時間） A：少、B:中、D：少　E：あり、F:あり 第2回　乳児期における人間関係（配信） 【配信】 ・身近な大人との関係を基盤として育つ子ども ・アタッチメントの理解 予習：配布資料を読んで授業に臨む（５０分間） 復習：学びの振り返り（1時間） A：少、B:中、D：少　E：あり、F:あり 第3回　幼児期における人間関係（配信） 【配信】 ・関係性の育ちや個と集団の育ち ＊「事例研究１」に取り組む 予習：配布資料を読んで授業に臨む（５０分間） 復習：「事例研究１」をまとめる（２時間）次回授業時に検討 A：少、B:中、D：少　E：あり、F:あり 第4回　幼児期における協同性の育み（対面） 【対面】 ・主体性と遊びの関係を学び理解する ・社会情動性（非認知能力）の重要性を学ぶ 予習：配布資料を読み、授業に臨む（５０分間） 復習：学びの振り返り（1時間） A：多、B:中、D：少　E：あり、F:あり 第5回　幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち（配信） 【配信】 ・子どもの発達と善悪の認識の関係性 ・葛藤、いざこざの意味に学ぶ ＊「事例研究シート２」に取り組む 予習：幼稚園教育要領における10の姿から、道徳性・規範意識の芽生えについてを熟読する（５０分間） 復習：「事例研究シ２」をまとめる（２時間）次回授業時に検討 A：多、B:中、D：少　E：あり、F:あり 第6回　幼児の人間関係の育み：１）家庭との関係性（配信） 【配信】 ・家庭の影響と子どもの人間関係との関係性について学ぶ A：中、B:中、D：中　E：あり、F:あり 予習：「事例研究２」の考察を深める。（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間） 第7回　幼児の人間関係の育み：２）地域との関係性　授業の総括・振り返りと最終課題シート（対面） 【対面】 ・地域の影響と子どもの人間関係との関係性について学ぶ。 ・最終課題シートに取り組む。その後、解説を聞き、多面的視点から保育を捉える。 予習：授業のキーワードで不明なところをまとめておく。最終課題に備える（2時間） 復習：学びの振り返り（1時間） A：中、B:中、D：少　E：あり、F:あり

	第8回　幼児の人間関係の育み：３）幼・保・小との連携　諸外国（フィンランドのプレスクール）との比較より（対面） 【対面】 ・生涯発達の視座から乳幼児期の人間関係の育ちについて大切なことを考える ・外国の保育システムについて学び、日本の乳幼児教育の課題と展望について考察する 予習：授業のキーワードで不明なところをまとめておく（40分間） 復習：演習全体の学びの振り返り。（1時間） A：少、B:中、D：少　E：あり、F:あり
教育目標との関連	保育所保育指針が示す乳児保育における養護及び教育について、保育者が行う援助や関わりについて、保育者として必要な教養、子どもや保育の内容・方法を理解し、基礎的な専門知識、技法、態度を身につける。また、身に付けた教育・福祉の専門知識を活かして、地域社会及び家庭においても、人間関係を円滑にする役割を果たすことができるようになる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．子どもの人間関係の発達論について理解し、自分の言葉で説明・解説できる ３．子どもとの関係性を育むための言葉づかいや表情等について、指摘できる ５．保育者は子どもの人間関係の育ちのための人的環境であることを自覚して、多様な他者を尊重し、受け入れることができる 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業態度・毎回の授業の振り返り　40%（各回８×５） 事例研究シート（2回）　30% 最終課題シート　30% ＊欠席等の取扱いについては「履修事項」に準ずる。
教科書	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び解説書
参考書	授業にて随時紹介する
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	復習：振り返りを行い、不明な用語、内容について理解しておくように努める（1時間）、予習：毎授業における課題に取り組み、授業に臨むこと（1時間）
履修上の注意、条件等	・シラバスの内容は、履修学生の理解度等による変更もあります。
オフィスアワー	研究室に掲示する
備考・メッセージ	対面授業（第1回、第4回、第7回、第8回）と配信（左記以外の回）を併用する。（ハイブリッド授業）

講義科目名称：　幼児と環境　　授業コード：

英文科目名称：　Infants and Environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年生	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
松田　清美			
授業形態：講義	担当形態：複数	実務経験：なし	ナンバリング：A107
添付ファイル			
松田清美　幼児と環境　カリキュラムマップ.pdf			
松田清美　幼児と環境　ルーブリック.pdf			

講義概要	保育における環境について具体的に理解しつつ、子どもの発達と関連付けながら領域「環境」の意義と「ねらい」「内容」を学んでいく。保育の実践の様子や事例に触れることで、子どもの発達を促す保育者の援助やかかわりについても学び、保育者としての専門性の基礎を身に付ける。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回対面　保育における環境とは何か 保育における「環境」とは何を指すのかを具体的に理解し、その重要性を考える。 予習：シラバスとテキスト第1章を読み、これからの学習に対して理解する。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。（1時間） E：あり 第２回配信　子どもの発達と環境 領域「環境」の考え方について理解し、子どもの発達との関連を考える。 予習：教育要領の領域「環境」部分とテキスト第2章を読む。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解を確認する。課題プリントを仕上げる。（1時間） E：あり　F：あり 第３回配信　人とのかかわり―人的環境としての友達・保育者 園生活において友達や保育者とかかわる様子を具体的に知り、人的環境の意義や重要性を考える。 予習：自身の幼児期における身近な人とのかかわりについて思い起こし、どのようにかかわり、影響し合ったかを考え、ノートにまとめる。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解や考えを深める。課題プリントを仕上げる。（1時間） E：あり　F：あり 第４回対面　ものとのかかわり―遊びにおける子どもの発達 園生活において、子どもが玩具（もの）とどのようにかかわり、発達していくかを映像視聴から考える。 予習：テキスト第3章を読む。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解や考えを深める。課題プリントを仕上げる。（1時間） E：あり　F：あり 第５回配信　自然とのかかわり―子どもの興味や意欲に基づく活動の展開 子どもは自然物に対してどのように興味をもちかかわっていくのか、保育者はどのようにして子どもの主体性を尊重しながら保育を展開していくのかを、事例を通して考える。 予習：自身の幼少期に「自然（植物・ペット以外の生き物）とかかわった経験について思い出し、自分にとってどういう意味があったかを考える。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解や考えを深める。課題プリントを仕上げる。（1時間） E：あり　F：あり 第６回配信　文化・社会とのかかわり―地域の文化や伝統に親しむ 文化や社会を環境として考える意義を理解し、身近な地域の伝統文化や風習について調べ、レポートにまとめる。 予習：テキスト第5章を読む。社会や文化を環境として捉え、自身との関わりを考える。（1時間） 復習：課題（身近な伝統文化について調べる）に取組み、仕上げる。（2時間） E：あり　F：あり 第７回対面　定期試験 試験実施後に、解説を行う。 予習：第1回から第6回までの学習内容を総合的に振り返り、理解を確かにする。（2時間） 復習：試験を振り返り、特にできなかった事項について理解を確実にする（1時間） E：あり 第8回配信　本授業のまとめ これまでの授業の振り返りを行い、各自の成果と課題を明確にする。 予習：これまでの学習と学習成果について振り返る（0.5時間） 復習：学習成果を振り返り、今後の自己課題を明確にする。（0.5時間） E：あり
教育目標との関連	領域「環境」の視点から、子どもの発達や保育者の役割を理解し、保育者としての資質を高めることを目指す
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	・保育における「環境」の重要性を理解し、幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本と関連付けて考えることができる。 ・領域「環境」に示される「ねらい」「内容」を踏まえ、さまざまな環境にかかわる幼児の姿から発達を捉えることができる。 ・幼児の主体的・対話的で深い学びを実現できる保育者の援助やかかわりについて理解し、自分の考えを述べることができる。

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	評価 ①課題等の提出物…50% ②定期試験…50% 評価基準 添付のルーブリックを参照のこと
教科書	・『新しい保育講座９　保育内容「環境」』久保健太・高嶋景子・宮里暁美編著　ミネルヴァ書房 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年
参考書	授業にて紹介する
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業計画欄を参照のこと
履修上の注意、条件等	配信授業の回では、授業内で課された課題を当日中に提出することで「出席」とする。 詳細は初回の授業にて説明する。
オフィスアワー	研究室にて、質問等に対応する
備考・メッセージ	・ハイブリッド形式(配信授業：第2・3・5・6・8回授業、対面授業：第1・4・7回）で行う。 ・提出課題に対するフィードバックは、授業内にて行う。

講義科目名称： 幼児と言葉　　授業コード：

英文科目名称： Young Children and Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
秋学期	1年	1単位	卒業必修　幼免必修　保育士必修	
担当教員				
相澤京子				
授業形態：講義	担当形態：単独		実務経験：なし	ナンバリング：A109
添付ファイル				
幼児と言葉2022.pdf				

講義概要	領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につける。具体的には、人間の証と言える「言葉」の意義と機能について理解した上で、乳幼児の言葉の発達過程を学ぶ。さらに、乳幼児の言葉を育み、言葉に対する感覚を豊かにする絵本や紙芝居などの児童文化財や言葉遊びの実践に関する基礎的知識を身につける。 他の科目との関連：「保育内容（言葉）の指導法」では本講義で学んだ理論を具体的な保育場面につなげていく。また、総合的に保育内容を理解するためには、他の領域に関する科目もそれぞれに関連している。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション―人間にとって「言葉」とは何か？ シラバスを用いて、本講義のねらいと内容、及び受講上の注意と約束についての説明を受ける。 ワークショップを踏まえて言葉とは何かを考える。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておくこと。（約30分） A:中　F:あり 第2回　言葉の機能 前回のワークショップを踏まえて、言葉の機能について学ぶ。 絵本カードの課題についての説明を受ける。 復習：テキストpp17-21を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） A:中　F:あり 第3回　乳幼児の言葉の発達① ビデオを視聴し、乳幼児の言葉の発達の全体像を把握する。 予習：自分自身の幼少期の言葉について保護者等に聞いておく。（約30分） 復習：ビデオ確認プリントの内容を復習しておくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） A:少　E:あり　F:あり 第4回　乳幼児の言葉の発達② 出生後から前言語期までの言葉の発達を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp39-41を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第5回　乳幼児の言葉の発達③ 初語から一語文の時期までの言葉の発達を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp42-45を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第6回　乳幼児の言葉の発達④ 二語文から多語文が出てくる時期までの言葉の発達を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp45-46を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第7回　乳幼児の言葉の発達⑤ 書き言葉に関心を持ち、習得する時期までの言葉の発達を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp47-49を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第8回　言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財① 児童文化財の種類と乳幼児にとっての意義を学ぶ。 復習：テキストpp99-102を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第9回　言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財② 絵本の読み聞かせの方法を学び、実際に実践する。 復習：テキストpp102-103を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:多　F:あり 第10回　言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財③ 絵本と紙芝居の違いと、紙芝居の演じ方を学ぶ。 復習：テキストpp110-112を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第11回　言葉に対する感覚を豊かにする実践① 言葉の美しさや楽しさを実感するためのワークショップを行う。 復習：自身の身近にある言葉から、言葉の面白さが分かる例を探す。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） A:中　F:あり 第12回　言葉に対する感覚を豊かにする実践② 言葉遊びの種類を知るとともに、実際に実践する。 復習：テキストpp116-121を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） A:中　F:あり 第13回　言葉に対する感覚を豊かにする実践③ 児童文化財や言葉遊びの保育への取り入れ方を学ぶ。

	復習：これまでの授業の振り返りを行う。絵本を読み、記録をとること。（約2時間） B:中　F:あり 第14回　総括と学習到達度の確認テスト 授業についての総括を行い、学習到達度の確認テストを実施する。 復習：確認テストで分からなかった部分を見直す。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第15回　学びの振り返り 本科目の到達目標と各自の到達度を確認する。 絵本カードの課題を提出し、感想をまとめる。 復習：これまでの授業のノート・プリント類を整理し、見直す。（約1時間） E:あり
教育目標との関連	乳幼児の言葉の発達やそれを支える児童文化財等の基礎的知識を習得することにより、社会生活に必要な教養と保育者として確かな知識を身につける。また、言葉に対する感覚を豊かにする実践を行うことは、学生自身の豊かな感性を育てることにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1.言葉のもつ意義と乳幼児の言葉の発達について理解し、説明できる DP1.乳幼児の言葉に対する感覚を豊かにする実践に関する基礎的知識を習得し、説明できる DP3.乳幼児の言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財を実践できる DP4.乳幼児の言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財に関心を持つ 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	試験　60%　・授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを評価する 提出課題　30%　・絵本を読んだ記録をきちんと取れているかを評価する 授業への参加度　10%　・授業内での実践や課題に対する取り組み姿勢を評価する 評価方法は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	『保育者をめざす人の保育内容「言葉」　第2版』（駒井美智子編、みらい）定価2,200円（税込）
参考書	『幼稚園教育要領解説』（平成29年3月告示　文部科学省） 『保育所保育指針解説』（平成29年4月告示　厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。提出課題以外にも、絵本や紙芝居などの児童文化財に接する機会を多く持つこと。
履修上の注意、条件等	受講者全員に絵本の読み聞かせの実践をしてもらう予定である。シラバスの内容は、履修学生の理解度等により変更の可能性もある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面授業で行う。授業の進め方の都合により、50分授業を15回実施する。

講義科目名称：　幼児と表現　　授業コード：

英文科目名称：　Young Children and Expression

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
秋学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修	
担当教員				
大見由香、成清北斗、安田真紀子				
授業形態：演習	担当形態：オムニバス		実務経験：各教員共に有（講義概要欄参照）	ナンバリング：A108
添付ファイル				
yohyogen22.pdf				

講義概要	幼稚園教育要領と保育者保育指針等に於ける感性と表現に関連する領域「表現」について理解する。 領域「表現」に関する乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、乳幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につける。 学生自身の啓発及び、感性を刺激することで、学生自身が子どもの表現するモデルとなれることを目指す。 当該科目は、保育の他領域「幼児と言葉」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」と関連する。表現は、他領域を「表現」することに深く結びついているからである。 また、当該科目を基本として、「表現の指導法Ⅰ」及び「表現の指導法Ⅱ」に続く科目となる。 全8回のうち配信授業6回、対面授業2回で行う。 大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。 成清先生の実務経験 アーティストとして、「社会とアートをつなぐ」を目的に、子どもを含む多様な市民に向けたアートプロジェクトや造形ワークショップを数多く実践してきた。また、教員としても、多様な教育機関において、表現、とりわけアートや造形に関わる授業を数多く担当してきた。 安田先生の実務経験 パネルシアター創始者古宇田亮順氏に師事し、パネルシアター公演を約17年1000回以上行っている。幼稚園、保育園、子育て支援施設、特別支援学校、福祉イベント等を中心に活動し、親子向けワークショップや保育者講習会の講師も務める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回【対面】　オリエンテーション・表現とは何か 授業の概要　保育の基本と表現（担当：大見、成清、安田） 領域「表現」及び、表現総論　身近なものの音に出会う C：小　E：あり　F：あり 第２回【配信】　造形表現① 多様な表現方法について（担当：成清） 事前事後学習は、Google Classroomと授業内で示す（1時間） E：あり　F：あり 第３回【配信】　造形表現② 多様な表現者について（担当：成清） 事前事後学習は、Google Classroomと授業内で示す（1時間） E：あり　F：あり 第４回【配信】　複合的表現（パネルシアター）① 様々な要素を用いての表現について（担当：安田） 事前事後学習は、Google Classroomと授業内で示す（1時間） E：あり　F：あり 第５回【配信】　複合的表現（パネルシアター）② 表現とコミュニケーションについて（担当:安田） 事前事後学習は、Google Classroomと授業内で示す（1時間） E：あり　F：あり 第６回【対面】　音楽表現① うたを用いた表現について（担当：大見） 事前事後学習は、Google Classroomと授業内で示す（1時間） A:多　D:中　E:あり　F：あり 第７回【対面】　音楽表現② 器楽合奏について（担当：大見） 事前事後学習は、Google Classroomと授業内で示す（1時間） A:多　D:中　E:あり　F：あり 第８回【配信】　領域「表現」の授業全体のまとめ 領域「表現」の授業全体を振り返り、その目標の達成について確認する（担当：大見　成清　安

	田） 事前事後学習は、授業内で示す（1時間） E:あり　F:あり 課題：まとめレポート
教育目標との関連	「社会生活に必要な教養と保育者として豊かな知識を身に付ける」ために、感性をどのように磨き、どのような表現活動を為しうるのかを、実際に思考錯誤することで修得する。それには、自身の精神力・努力が重要である。様々な物事に好奇心を持ち関連づけていくことで、「表現」の領域を経験的に学ぶ。 他の科目との関連：「実習・実践・研究に関する科目」の基礎知識として「保育内容（表現）」の教育内容・方法を学び、実習に備える。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1. 子どもの遊びを豊かに展開するために「表現」領域の内容や知識を修得する。 DP1. 造形表現、音楽表現、複合的表現等の表現活動に必要な技術方法や知識を理解し、修得する。 DP3. 子どもの「表現」援助に必要な指導力の向上を目指して、自身の表現力や感性を養うことに努力できる。 到達目標は、添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1. レポート及び主体的・対話的・協調性などの授業態度を評価する（各担当教員による４０％） 2. 発表及び課題提出を評価する（各担当教員による６０％） *欠席等の取り扱いは、『学生ハンドブック』の履修要項に準ずる。 評価基準は、添付資料のルーブリックを参照のこと。
教科書	『改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育』神原雅之 監修　教育芸術社　2019年　2,200円 テキスト　プリントを適宜、配布する 『幼稚園教育要領』文部科学省　240円(税別) 『保育所保育指針』厚生労働省320円(税別) 『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』内閣府他　385円 共にフレーベル館
参考書	授業中に適宜資料を配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前事後学習は、各教員が授業内で示す
履修上の注意、条件等	実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的な授業参加することで評価の対象となる。
オフィスアワー	質問等に関しては、Google Classroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	全8回授業であるため、欠時オーバーにならないよう提出日、受講日のスケジュール管理をしっかり行うこと。 第6回、7回目のみ対面授業であるがクラスにより授業回が前後することがある。Google Classroom の掲示やメール通知良く見ること。

講義科目名称： 保育内容（健康）の指導法　　授業コード：

英文科目名称： Childcare Content Health Guidance Method

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
近藤　洋子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：	ナンバリング：F208
添付ファイル			
保育内容（健康）の指導法CMRubric.pdf			

講義概要	乳幼児において「自ら健康な心と体を育て、安全な生活をつくり出す力を養う」ために、発育・発達の基本を踏まえ、領域「健康」のねらいと内容や、遊びや生活の中での効果的な指導法を理解するとともに、指導に必要な知識・技能を修得する。 教科書や関連図書・資料や実習等での実践的な学びをもとに、知識・理論と実践を関連付け、保育内容（健康）の指導法について考える。さらに、国内外の子どもの健康に関する課題、感染症・アレルギー・事故予防、保健活動の実践などについて、グループワークや課題レポートに取り組み、グローバルな視野やダイバーシティの視点から、子どもに対する理解を深めながら保育のあり方について考える。 他の科目との関連：1年次に学ぶ「子どもの保健」をもとに演習を進める。「子どもの健康と安全」、「幼児と健康」、「体育実技」、「体育理論」、「実習に関する科目」の基礎知識として本科目の教育内容・方法を学び、実習に備える。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション　保育内容（健康）の概要について 授業の進め方と、授業の評価方法の説明をする。 幼稚園教育要領や保育所保育指針等を理解する。「子どもの健康な育ちを保障する」ための課題について考える。 予習：幼稚園教育要領や保育所保育指針では「健康」をどのようにとらえているか確認する。（1時間） A:中　B:中　E:あり 第2回　ライフサイクルからみた健康 ライフサイクルを通して健康や発育・発達の特徴を学び、「健康な子ども、元気な子どもの姿とは」何か、それを実現するための保育のあり方について考える。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:中　B:中　E:あり 第3回　基本的な生活習慣 健康の基礎になる基本的な生活習慣（運動・食・睡眠・生活リズム）の現状やその重要性について学び、乳幼児期の生活習慣に関連する問題への保育者としての関わり方について考える。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:中　B:中　E:あり 第4回　幼児と運動・遊び 幼児の運動発達とともに、様々な遊びの中での多様な運動経験の重要性を理解し、運動発達に応じた運動や遊びの指導のあり方について考える。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:中　B:中　E:あり 第5回　幼児と食生活を考える1 幼児の食生活の現状について学ぶ。さらに、朝食や共食の意義を確認し、孤食などの食生活面の問題への対応について、家庭との連携・協力の視点も含めて考える。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:中　B:中　E:あり 第6回　幼児と食生活を考える2 幼児期の食生活面の問題として、偏食や少食などについて、食べる意欲や楽しく食べるという視点から保育者としての関わり方や多職種連携について考える。また、食物アレルギーの現状や対応法についても学ぶ。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:中　B:中　E:あり 第7回　幼児の睡眠・生活リズムと健康1 子どもの生活リズムについて、睡眠・覚醒リズムの発達から理解する。さらに保護者と子どもの生活リズムの関わりについても考えることにより、家庭と保育現場との連携の重要性について考

		察を深める。保育者を志す、受講生自身の生活リズムについても見直しや振り返りを行う。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:中　B:中　E:あり
	第8回	幼児の睡眠・生活リズムと健康2 子どもの生活リズムと健康の関係について、スマホやゲームの利用状況をふまえ、望ましいメディアとのつきあい方やICT活用のあり方について理解する。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:中　B:中　E:あり
	第9回	子どもの感染症とその予防 子どもの感染症やその予防策について理解した上で、保育の中の健康教育のあり方について考える。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:中　B:中　E:あり
	第10回	子どもの事故防止と安全教育 子どもの事故の特徴について理解し、事故防止の視点から保育環境の構成を確認する。さらに、子ども自身の事故回避能力を育むための安全教育について考える。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:中　B:中　E:あり
	第11回	子どもの生活と育ちを考える1 幼稚園や保育所等の年間計画や年間行事の中に、日本の文化を伝える行事や遊びが含まれていることを理解し、保育活動の中の指導法のあり方や、健康とのつながりについて考察を深める。 領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できるようにする。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:多　B:中　C:中　D：中　E:あり　F:あり
	第12回	子どもの生活と育ちを考える2 保育の中の食育活動について、実践的な事例をふまえ、これまで学んだ基本的生活習慣とのつながりなどを理解し、保育活動の中の指導法のあり方や、健康とのつながりについて考察を深める。 領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できるようにする。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:多　B:中　C:中　D：中　E:あり　F:あり
	第13回	子どもの生活と育ちを考える3 保育の中で実践されている保健活動や安全教育などの実例をふまえ、子どもの健康増進のための指導法のあり方について考える。 領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器や教材の活用法を理解し、保育の構想に活用できるようにする。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:多　B:中　C:中　D：中　E:あり　F:あり
	第14回	子どもの健康を支援する 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や保幼小連携について学び、乳幼児期の健康は児童期の健康や生涯の健康につながっていることや保育者としての支援のあり方について理解する。 予習・復習：前回学んだ内容や、今回の配付資料を確認し、疑問点などを明確にしておくこと。（1時間） A:中　B:中　E:あり
	第15回	授業のまとめ　振り返り 授業内容を振り返り、保育における健康の意義を改めて考え、保育者の役割について考察を深める。 予習・復習：これまでに学んだ内容について振り返り、今後の学びやキャリアにどのように生かすか考える。（1時間） A:中　B:中　E:あり
教育目標との関連	・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、「健康」領域のねらい及び内容について理解し、乳幼児期の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現することを目指し、指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。	

	・保育全体の目標や保健活動と関連付けながら、乳幼児期の発育・発達に応じた健康面に関する保育計画を立案することができるようになる。 ・児童期を見据えた支援や、子どもが他者及び多様性を尊重し協力・協働を図れるような指導ができるようになることを目指す。 ・さらに、保育者として自身の心身の健康を保持増進することの重要性についても理解できるようになる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.　「健康」領域のねらい及び内容や発育・発達に関する知識を習得し理解できる。 2.　子どもの健康に関する知識をもとに、保育者として留意・配慮すべき事項や保育のあり方について考え、子どもや保護者への望ましい関わり方を判断することができる。 3.　子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な場面を想定した保育を構想するための技能の向上を目指すことができる。 4. 子どもの「健康」に関心をもち、グルーバルな視野やダイバーシティの視点から、課題や対策を考えることができる。 5.　子どもの全人的な発達の保証という保育者の役割を理解し、自らの健康も管理できる保育者を目指すことができる。 到達目標は、添付資料のカリキュラムマップを参照のこと。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1.最終課題レポート　50　%　授業内の課題（グループディスカッションやプレゼンテーション）に関するレポート　50% 2.課題に取り組む積極的な姿勢と、どれだけ深く取り組めたかを評価する。添付資料のルーブリックによる評価基準を参照のこと。
教科書	『子どもの健康と安全』児童育成協会監修、松田道雄他編集、中央法規、2019
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針解説』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他　共にフレーベル館 その他　参考資料やURLなどは授業中に提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	シラバスやテキストおよび事前配布資料を参照し、課題に取り組む。授業によっては情報収集を事前課題とする場合がある。既知の用語だけでなく、新しい健康関連の言葉・保育用語を理解しておくこと。
履修上の注意、条件等	授業内の課題（グループディスカッションやプレゼンテーションの成果）は、各授業時間でグループ連名の小レポートとして提出するが、最終課題レポートとともに評価の対象とする。
オフィスアワー	授業終了後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	子どもの健康を守り、心身の健康状態を向上させるのための指導法に関連する情報を収集しておくこと。

講義科目名称：　保育内容（人間関係）の指導法　　授業コード：

英文科目名称：　Teaching Method of Contents in Childhood Care and Education (Human Relationship)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
渡邊眞理			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F104
添付ファイル			
2021正カリキュラムマップ保育内容（人間関係）の指導法.pdf			
2021正ルーブリック様式保育内容（人間関係）の指導法.pdf			

講義概要	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、保育等の経験者である講師から、幼児の発達過程にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育の具体的な方法について学び、子どもの姿を多面的に考察し、保育を構想する方法を身に付ける。 他の科目との関連：乳幼児は総合的に生活や遊びを通して発達することから、他の領域と密接に関連する。本講座で学んだ理論を他の領域と関連づけながら具体的事例を通して理解を深める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　授業の概略説明 ・環境との出会いと関わり合いを学び、人間関係の基礎を理解する 「私」にとっての人間関係とは 予習：保育所保育指針、幼稚園教育要領解説書に目を通しておくこと（50分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第2回　育ち合うとは何か ・子どもと保育者の関わり合いを考え、乳幼児の自己とそれを支える保育者の役割を理解する 予習：テキスト第1章を熟読すること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第3回　乳幼児期の発達と人間関係 ・「乳幼児と保育者の出会いと関わり」と保育者の援助について理解する 予習：テキスト第2章を熟読すること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第4回　子どもと保育者の関わり ・「子どもの自己主張を支える」保育者の援助について理解する 予習：テキスト第3章を熟読すること（40分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第5回　遊びの中の人との関わり合い① ・「遊びの中の人との関わり合い」と保育者の援助について理解する 3歳児の事例から 予習：テキスト第4章§1.2.3を熟読すること（30分程度必要） 復習：ミニテストに備え、今まで学習した範囲を復習すること（2時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第6回　遊びの中の人との関わり合い② ・「遊びの中で共有すること」と保育者の援助について理解する 4歳児の事例から ★ミニテスト実施 予習：テキスト第4章§4を熟読すること（30分程度必要） 復習：今まで学習した範囲及びミニテストの内容を復習する。 A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第7回　遊びの中の人との関わり合い③ ・ミニテストのフィードバック ・「遊びをつくること」と保育者の援助について理解する 5歳児の事例から 予習：ミニテストの振り返り。テキスト第4章§5を熟読すること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第8回　生活を通して育つ人との関わり合い ・「家庭や園生活を通しての人との関わり合い」と保育者の援助について理解する 予習：テキスト第5章に目を通すこと（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第9回　個と集団の育ち① ・「一人ひとりを理解する」「個と集団の関係」の重要性と保育者の援助について理解する 予習：テキスト第6章§1.2を熟読すること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第10回　個と集団の育ち② ・「集団で活動する楽しさ」や「協同性を育む」ことの重要性と保育者の援助について理解する

	予習：テキスト第6章§3,4を熟読すること。ミニテストに備えること（30分程度必要） 復習：ミニテストに備え、今まで学習した範囲を復習すること（2時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第11回　人との関わり合いを見る視点① ・「他者との信頼関係および依存と自立」と保育者の援助について理解する A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり ★ミニテスト実施 予習：ミニテストの準備。テキスト第7章に目を通すこと（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第12回　人との関わり合いを見る視点② ・ミニテストのフィードバック ・「自我の発達、葛藤、集団の中での役割と責任・道徳性の芽生え」と保育者の援助について理解する 予習：テキスト第8章を熟読すること（40分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返り、テストの準備（２時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第13回　幼児教育の現代的課題と療育及び諸外国の保育 ・領域「人間関係」における現代的課題と療育に対する視座を諸外国（フィンランド:ネウボラ）の乳幼児教育からも考察し、理解を深める。・テスト 予習：・今までの授業内容をテキストをもとにまとめる。テキスト第8章を熟読すること（2時間程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第14回　授業の総括・振り返り ・学びの統括として試験を実施する。 テスト及び授業全体を振り返り「自己の課題と自学の目標」の明確化 予習：すべての授業を振り返り試験に向けて学びの整理をする。（1時間） 復習：試験に出た問題を振り返り関連個所をテキストなどで確認する（１時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第15回　全体の振り返りを通しての今後の課題の明確化 ・試験の解説。学びを総括し自己の学びのを評価すると同時に今後の課題を明らかにする。 予習：テキスト、ノートなどに目を通して学びを整理し今後の課題を明確にする。 B:あり　E：あり
教育目標との関連	乳幼児期教育はその後の人格形成の基盤となするということを理解し、保育者として必要な子どもや保育の内容・方法について乳幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容に関する知識、技能、態度を習得する。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。また、身に付けた教育・福祉の専門知識を活かして、地域社会及び家庭においても、多様性を尊重したコミュニケーションによって人間関係をより豊かに円滑にすることができるようになる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．乳幼児が人と関わる力を育む為には、保育者が重要な役割を果たすことを理解し、説明できる ３．幼児期の遊びや生活の中で育つ人間関係の発達について、個と集団の中での育ちを観点として討論できる ５．保育者には幼児のモデルとなる役割があるという自覚をもって、自主的・自律的に行動し、多様な他者と協調することができる 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業への参加態度・取り組み28%　ミニテスト22%　試験50%
教科書	『新訂　事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係』　無藤隆監修、岩立京子編者代表 2018年出版　2,200円　萌文書林
参考書	資料を適宜配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	授業では、幼児教育と自分がどのようにつながるか、自分だったらどうするかという当事者意識をもって、参加すること。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解度等により、変更することもあります。
オフィスアワー	研究室に掲示する
備考・メッセージ	

講義科目名称：　保育内容（環境）の指導法　　授業コード：

英文科目名称：　Teaching Method of Contents in Early Childhood Care and Education(Environment)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
松田　清美			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務形態：なし	ナンバリング：F105
添付ファイル			
松田清美　保育内容（環境）の指導法　カリキュラムマップ.pdf			
松田清美　保育内容（環境）の指導法　ルーブリック.pdf			

講義概要	幼稚園教育要領や保育指針を踏まえ、保育において重要となる具体的な環境を取り上げ、子どもの主体的なかかわりと発達への関連を学ぶ。さらに、環境へのかかわりを支える保育者の役割を理解した上で、実際に保育を構想し、模擬保育として実践することを通して、保育者としての専門性を養う。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回　領域「環境」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 教育要領や保育指針を踏まえ、「領域」と「環境」のねらい・内容と、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の考え方について理解する。 予習：シラバスとテキストを読む。（0.5時間） 復習：授業内容を振り返り、理解を確かにする。（1時間） Eあり 第２回　乳児保育における「3つの視点」と「環境」 保育所保育指針に示されている乳児保育の3つの視点について、特に環境とのかかわりから理解する。 予習：テキスト第7章と保育所保育指針を読む。（1時間） 復習：学習内容を振り返り、理解を確かにする。（1時間） Eあり 第３回　ものとのかかわりと子どもの発達 事例を用いて遊びの中でのものとのかかわりの様子を知り、子どもが発達していくことを理解する。 予習：テキスト第8章を読む。（1時間） 復習：学習内容を振り返り、理解を深める。（1時間） Eあり、Fあり 第４回　保育者の環境構成と遊びの援助―グループワーク 園の室内・屋外では、保育者による環境構成がどのようになされ、そこからどのような子どもの遊びが生まれ展開していくのかを、グループワークによって考える。 予習：図書館等で環境づくりに関する本を探し、読む。(1時間) 復習：授業でまとめた発表内容をさらに充実させる。（1時間） A多、B多、Eあり、Fあり 第５回　保育者の環境構成と遊びの援助―グループごとの発表 環境構成と遊びに援助についてグループで話し合しまとめた考えを発表する。発表を聞き、他のグループのメンバーも意見を出し合う。 予習：発表の準備や練習をする（1時間） 復習：自他の発表を振り返り、考えや理解を深める。（1時間） A多、B多、D多、Eあり 第６回　身近なものを用いる遊びと保育者の援助 身近な廃材や道具を用いて、子どもと車をつくる活動を構想し、実際に製作する。 予習：材料集めや作り方の情報収集を行い、製作の準備をする。（1時間） 復習：準備段階からの自己の取り組みを振り返り、課題を明らかにする。（1時間） Eあり 第７回　環境としての文字・数量 幼稚園での実践を知り、子どもが文字や数量に遊びや生活の中で触れ、体得していくことを理解し、保育者の役割を考える。 予習：自身の幼少期を思い出し、文字や数にどのようにかかわり、習得したかを考える。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、考えや理解を深める。（1時間） A多、B中、C中、Eあり 第８回　自然物を活かした遊具の製作と遊びの展開 身近な自然物を収集し、それらを用いた遊具製作や遊びを計画し、実施する。 予習：自然物を収集し、遊びを構想する。（1時間） 復習：準備段階からの自己の取り組みを振り返り、課題を明らかにする。（1時間） A中、B中、Eあり、Fあり 第９回　教材研究　「文化・伝統を感じる活動」の立案―ICTを活用する 前期「幼児と環境」において作成したレポートを用いて、保育場面において地域の文化や伝統に

	触れ理解を深める活動を計画する。 予習：レポートを踏まえ、どのような活動を行うか構想する。（0.5時間） 復習：計画を仕上げる。（1.5時間） Eあり、Fあり 第１０回　保育指針・教育要領における領域「環境」 保育指針や教育要領を用いて、領域「環境」について「育みたい資質・能力」との関連や、具体的な「ねらい」「内容」から学ぶ。また、領域「環境」と他の領域とのつながりや小学校における「教科」とのつながりについても理解する。 予習：保育指針、教育要領、テキスト第9章を読む。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解を確かにする。（1時間） Eあり 第１１回　「文化・伝統に親しむ活動」の模擬保育（前半の学生） 作成した指導案をもとに、1人ずつ模擬保育を行う。互いに評価し合い、フィードバックすることによって、高め合う。 予習：模擬保育の準備・練習を行う（1時間） 復習：自他の模擬保育を振り返り、自己の課題を明確にする。（1時間） B多、C多、Eあり 第１２回　「文化・伝統を感じる活動」の模擬保育（後半の学生） 前回に続き、作成した指導案をもとに、1人ずつ模擬保育を行う。互いに評価し合い、フィードバックすることによって、高め合う。 予習：模擬保育の準備・練習を行う（1時間） 復習：自他の模擬保育を振り返り、自己の課題を明確にする。（1時間） B多、C多、Eあり 第１３回　環境に関する現代的課題と保育 E領域「環境」をめぐる保育や子どもの発達に関係する今日の課題について知り、考察する。 予習：テキスト第12章を読む。（1時間） 復習：授業内容を振り返り、考えや理解を深める。（1時間） Eあり 第１４回　定期試験 試験後に、教員による解説と、自身による振り返りを行う。 予習：これまでの学習を振り返り、理解を確かにする（2時間） 復習：試験を振り返り、わからなかった箇所・誤った箇所を中心に再確認する（0.5時間） Eあり 第１５回　本科目のまとめ―領域「環境」と保育者の役割 本科目を総合的に振り返り、レポートにまとめる。 予習：これまでの学習を総合的に振り返り、自身の学習成果と課題を考える。（1時間） 復習：今後の学習に向けて、自身の意欲や課題を明確にする。（1時間） Eあり
教育目標との関連	保育について領域「環境」の視点から専門性を深め、保育者としての実践力の基礎を習得することを目指す。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	・領域「環境」について、教育要領・保育指針をもとに、子どもに育みたい資質・能力およびそれを実現するためのねらいや内容に関して理解している。 ・保育における環境の重要さがわかり、身近な環境に主体的にかかわることによって子どもの発達や学びが促されていくことを説明できる。 ・環境をつくりだす保育者の役割を理解し、保育を計画し展開する実践力を積極的に習得している。 ・保育の実践や課題について、自身の考えを述べ、他者と意見を交わすことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	評価方法 課題等の提出…50% 定期試験…50% 評価基準 添付のルーブリックを参照のこと
教科書	・『保育内容「環境」』久保健太・髙島景子・宮里暁美　編著　ミネルヴァ書房　2020年 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年
参考書	授業にて紹介する
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業計画欄を参照のこと
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	研究室にて、質問等に対応する。
備考・メッセージ	提出課題に対するフィードバックは、授業内にて行う。

講義科目名称：　保育内容（言葉）の指導法　　授業コード：

英文科目名称：　Teaching Method of Contents in Early Childhood Care and Education(Language)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期/秋学期	2年	1単位	卒業選択　幼免必修　保育士必修
担当教員			
相澤京子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F203
添付ファイル			
保育内容（言葉）の指導法2022.pdf			

講義概要	乳幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 他の科目との関連：「幼児と言葉」で学んだ理論を本演習では具体的な保育場面につなげていく。また、総合的に保育内容を理解するためにあ、他の領域に関する科目もそれぞれに関連している。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション―保育における「言葉」とは何か シラバスを用いて、本講義のねらいと内容、及び受講上の注意と約束について説明を受ける。 領域「言葉」のねらい及び内容を学ぶ。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておく。（約30分） 復習：テキストpp25-35を読んでおく。（約30分） E:あり　F:あり 第2回　育みたい資質・能力と領域「言葉」との関係 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「言葉」との関係性を理解する。 復習：テキストpp35-37を読んでおく。（約1時間） E:あり 第3回　子どもの言葉の発達過程① 実習での体験を踏まえ、子どもの言葉の発達過程についてまとめる。 予習：「幼児と言葉」のノート・プリントを見直す。（約1時間） E:あり 第4回　子どもの言葉の発達過程② 子どもの言葉の発達過程を踏まえ、生活に必要な言葉の習得について理解する。 予習：「幼児と言葉」のノート・プリントを見直す。（約1時間） E:あり 第5回　言葉を育む環境構成と保育者の援助① 子どもが話したい、聞きたいという意欲を生み出す援助方法、また言葉がうまく伝わらないもどかしさに対する援助方法を学ぶ。 復習：テキストpp63-70を読んでおく。（約1時間） B:少 第6回　言葉を育む環境構成と保育者の援助② 文字などで伝える楽しさを生み出す援助方法、特別な配慮が必要な子どもへの援助方法を学ぶ。 復習：テキストpp70-86を読んでおく。（約1時間） B:少 第7回　言葉を育む環境構成と保育者の援助③ 外国にルーツのある子どもへの援助方法を学ぶ。 復習：テキストpp75-86を読んでおく。（約1時間） 第8回　子どもの言葉を豊かにする児童文化財① 絵本や紙芝居などの児童文化財の保育の中での活用方法や留意点を学ぶ。 復習：授業で紹介された絵本や紙芝居を読んでみる。（約1時間） B:中 第9回　子どもの言葉を豊かにする児童文化財② 紙芝居の演じ方を練習し、実演する。 復習：実演してみて気づいたことについてまとめておく。（約1時間） B:中 第10回　言葉に対する感覚を豊かにする実践 言葉遊びを実際に行うとともに、保育の中での活用方法を学ぶ。 復習：授業で扱った以外の言葉遊びを実践する。（約1時間） A:多 第11回　子どもの言葉を育む保育の構想と実践① 指導案作成に向けて、教材研究を行う。 復習：教材研究の不足分を補っておく。（約1時間） A:多 第12回　子どもの言葉を育む保育の構想と実践② 子どもの言葉を育むための具体的な保育場面を想定した指導案を作成する。 予習：指導案の基本的な書き方について確認しておく。（約30分） 復習：作成した指導案を見直しておくこと（約30分） A:多 第13回　子どもの言葉を育む保育の構想と実践③ 模擬保育を実践し、その内容について振り返りを行う。 予習：模擬保育に向けての準備を行う。（約1時間）

	復習：模擬保育の内容を踏まえ、指導案を書き直す。（約1時間） E:あり 第14回　総括と学習到達度の確認テスト（最終レポート作成） 授業についての総括を行い、学習到達度の確認テスト（最終レポート）を作成する。 予習：最終レポート作成のための準備をする。（約30分） 復習：最終レポートで曖昧だった部分を見直しておく。（約30分） F:あり 第15回　学びの振り返りと今後の課題 各自の学習到達度について振り返りを行い、今後の学習課題を明確にする。 復習：これまでの授業のノート・プリント類を整理し、明確になった学習課題について補っておくこと。（約1時間） E:あり
教育目標との関連	乳幼児の言葉を育む保育者の援助を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想することは、保育者としての確かな知識を実践的な技能に結びつけることになる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1.領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、説明できる DP1.乳幼児の言葉を育む環境構成と保育者の援助についての基礎的な知識を理解し、説明できる DP3.乳幼児の発達や学びの過程を理解した上で、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想できる DP4.言葉に対して関心をもち、自身の言葉を豊かにしようと努めることができる 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	最終レポート　30%　・授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する 提出課題　40%　・授業内で行う課題に対する取り組みを評価する 授業への参加度　30%　・模擬保育等のグループ活動への貢献度を評価する 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	『コンパス保育内容言葉　第2版』（内藤和美・新井美保子編著、建帛社）定価2,200円（税込）
参考書	『幼稚園教育要領解説』（平成29年3月告示　文部科学省） 『保育所保育指針解説』（平成29年4月告示　厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。その他にも、絵本や紙芝居などの児童文化財に接する機会を多く持つこと。
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は、履修学生の理解度等により変更の可能性もある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。遠隔授業においてはGoogle Classroomの限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面授業で行う。

講義科目名称：　保育内容（表現）の指導法Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：　Teaching Method of Contents in Childhood Care and Education (Representaion) Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
大見由香、成清北斗、安田真紀子			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：全員有（講義概要欄参照）	ナンバリング：F202
添付ファイル			
hyogen1mr22.pdf			

講義概要	保育内容を総合的に捉え各領域との関わりから、表現活動を中心に乳幼児に即した展開や指導方法を学ぶ。 身体的・音的・物的・時間空間的認識から五感へと、全ての環境資源を利用して、表現活動の特徴や面白さを確認し、乳幼児に指導するための、構想・計画・実践を身に付ける。 各教員の経験からくる「暗黙知（プロの技）」から、学生自身の啓発及び、感性を刺激することで、学生自身が子どものよき表現するモデルとなれることを目指す。 第2回目から第13回目は３つのグループに分かれ各分野4回のゼミ授業を受ける。ゼミ受講の順番はグループにより異なる。 他の科目との関連：当該科目は、「幼児と表現」を基本として、「表現の指導法Ⅱ」に繋がる重要な科目である。また保育の他領域「幼児と言葉」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」と重なり関連する。表現は、他領域を「表現」することに深く結びついているからである。「幼児音楽Ⅰ、Ⅱ」などとも深く関連する。 大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。 成清先生の実務経験 アーティストとして、「社会とアートをつなぐ」を目的に、子どもを含む多様な市民に向けたアートプロジェクトや造形ワークショップを数多く実践してきた。また、教員としても、多様な教育機関において、表現、とりわけアートや造形に関わる授業を数多く担当してきた。 安田先生の実務経験 パネルシアター創始者古宇田亮順氏に師事し、パネルシアター公演を約17年1000回以上行っている。幼稚園、保育園、子育て支援施設、特別支援学校、福祉イベント等を中心に活動し、親子向けワークショップや保育者講習会の講師も務める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとF	第１回【対面】　オリエンテーション 担当教員の紹介 領域「表現」と当該科目の概要について F:あり 第２回【対面】　ゼミ活動：造形表現の探索方法（成清） 子どもを対象とする造形ワークショップについて学ぶ A：少、B：少、E：あり、F：あり 第3回【対面】　ゼミ活動：造形表現の展開方法（成清） 子どもを対象とする造形ワークショップの素材や技法について学ぶ A：多、B：中、E：あり、F：あり 第4回【対面】　ゼミ活動：造形表現の発展方法①（成清） 子どもを対象とする造形ワークショップの企画や進行について学ぶ A：多、B：中、E：あり、F：あり 第５回【対面】　ゼミ活動：造形表現の発展方法②（成清） ゼミ内作品発表 A：多、B：少、E：あり、F：あり 第６回【対面】　ゼミ活動：複合的表現（パネルシアター）の探索方法（安田） パネルシアターの表現要素を探索し、子どもを対象としたパネルシアター作成方法について学ぶ A：少　B：少　E：あり　F：あり 第７回【対面】　ゼミ活動：複合的表現（パネルシアター）の展開方法（安田） 子どもを想定したパネルシアター制作とその活用方法について学ぶ A：多　B：多　E：あり　F：あり 第８回【対面】　ゼミ活動：複合的表現（パネルシアター）の発展方法①（安田） パネルシアターの表現方法と実践の方法を学ぶ A：多　B：多　D：少　E：あり　F：あり 第９回【対面】　ゼミ活動：複合的表現（パネルシアター）の発展方法②（安田）

の宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	ゼミ内作品発表 A：多　B：少　D：多　E：あり　F：あり 第１０回【対面】　ゼミ活動：音楽表現の探索方法（大見） 音楽表現の技法について音の素材や曲作りのプロセスを事例を通して学ぶ E：あり　F：あり 第１１回【対面】　ゼミ活動：音楽表現の展開方法（大見） 協同創作の方法 ： 即興で音を楽しむ A：多　D：少　E：あり　F：あり 第１２回【対面】　ゼミ活動：音楽表現の発展方法①（大見） 発想を豊かにする個人創作の発展方法：ICTを利用した音楽表現 子どもへの活用方法と場面を探る A:中　B：少　E：あり　F：あり 第１３回【対面】　ゼミ活動：音楽表現の発展方法②（大見） ゼミ内作品発表 A：少　D：少　E：あり　F：あり 第１４回【対面】　模擬保育に向けた表現の指導方法 各ゼミ内容の学年発表　指導方法のまとめ B：中　E：あり　F：あり 第１５回【対面】　まとめと評価法 乳幼児の表現活動分野の広がり、評価方法について学ぶ 後学期に向けてクラス内でグループ分けを行い、ディスカッションする B：中　E：あり　F：あり 課題：まとめレポート
教育目標との関連	（１）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 1）幼稚園教育の基本と領域「表現Jのねらいや内容を包括的に理解している。 2）領域「表現」を乳幼児の発育・発達に応じて、指導の留意点を理解している。 3）幼稚園教育の評価の考え方を理解している。 4）領域「表現」における「接続期」の課題を理解している。 （２）幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1）造形表現、音楽表現、複合的表現や環境に関わる表現等の活動に必要な指導技術や知識を理解している。 2）自身の表現力や感性を養い、乳幼児の「表現」援助に必要な情報機器及び教材の活用法を理解し、指導力の改善や向上の必要性を理解している。 3）協同により自身の特性を理解し、表現における創意工夫を身につける。 4）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。 5）子どもが主体的・対話的に表現することの意味を理解して、保育環境をより向上させる構想力に取り組むことができる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP3.子どもの遊びを豊かに展開するために「表現」領域の内容や知識を修得できる。 DP2.自身の得手不得手を自覚し、創意工夫により思考し、力量形成している。 DP2.子どもが主体的に表現することの意味を理解し、判断してその環境作りに協力できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１.レポート及び主体的・対話的・協調性などの授業態度を評価する（各担当教員による４０％） ２.発表及び課題提出を評価する（各担当教員による６０％） *欠席等の取り扱いは、『学生ハンドブック』の履修要項に準ずる。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
教科書	プリントを適宜、配布する 『幼稚園教育要領』文部科学省　240円(税別)　『保育所保育指針』厚生労働省320円(税別)　『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』内閣府他　385円 共にフレーベル館
参考書	『生活事例からはじめる 一保育内容― 表現』 徳安敦・関口明子編著　青踏社　1,900円＋税
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前事後学習（各1時間）は、詳しくは、各教員が授業内で示す
履修上の注意、条件等	実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的な授業参加することが評価の対象となる。
オフィスアワー	質問等に関しては、Google Classroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	掲示板や参考URL等を良く見ておき、発表日や提出日を忘れないようにする。

講義科目名称：　保育内容（表現）の指導法Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：　Teaching Method of Contents in Childhood Care and Education (Representaion)Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
秋学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修	
担当教員				
大見由香、成清北斗、安田真紀子				
授業形態：演習	担当形態：オムニバス		実務経験：全員有（講義概要欄参照）	ナンバリング：F207
添付ファイル				
hyogen2mr22.pdf				

講義概要	乳幼児期に於ける育みたい資質や能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある内容を表現と関連して理解を深める。 乳幼児期の発達を踏まえて、援助・指導できる実践的な場面を想定して、乳幼児の主体性を鑑みて保育構想を立案する方法を身に付ける。 これまで「表現の指導法Ⅰ」で学んだノウハウを、学生が主体となり幼稚園児向けのワークショップを作りあげる活動をすることで、実践的な活用ができるようになることを目的としている。 各回講義の後グループワークを行い、作業記録をポートフォリオにまとめる。 他の科目との関連：当該科目は、保育の他領域「幼児と言葉」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」と重なり関連する。また５領域と実習に関する科目全てと関連する。「幼児と表現」を基本として、「表現の指導法Ⅰ」から総括に繋がる重要な科目である。 大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。 成清先生の実務経験 アーティストとして、「社会とアートをつなぐ」を目的に、子どもを含む多様な市民に向けたアートプロジェクトや造形ワークショップを数多く実践してきた。また、教員としても、多様な教育機関において、表現、とりわけアートや造形に関わる授業を数多く担当してきた。 安田先生の実務経験 パネルシアター創始者古宇田亮順氏に師事し、パネルシアター公演を約17年1000回以上行っている。幼稚園、保育園、子育て支援施設、特別支援学校、福祉イベント等を中心に活動し、親子向けワークショップや保育者講習会の講師も務める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する	第１回　オリエンテーション① シラバスの解説、領域「表現」のねらいから指導方法を考え、各自の課題を設定する（課題） ワークショップについての説明を受ける A：小　B：中　E：あり　F：あり 第２回　オリエンテーション②　表現の各領域について 各国の音楽教育の事情 各自の構想と協働学習を設定し、模擬保育の構想を想定する 構成と主題（テーマ）について A：中　B：中　E:あり　F：あり 第３回　表現と協同遊び 遊びから組み立てる表現について考える A：中　B：中　E:あり　F：あり 第４回　インクルーシブ保育と表現の可能性 各領域との関連性を考える 記録方法（ドキュメンテーションとポートフォリオ） A：中　B：中　E:あり　F：あり 第５回　表現とイマジネーション 子どもの想像力を促すための表現方法を考える A：中　B：中　E:あり　F：あり 第６回　表現とコミュニケーション 子どもの発想力を促すための対話と援助 グループプロジェクトの中間発表に向けた準備 A：小　B：中　E：あり、F:あり 第７回　第７回　発表（学内）と推敲 各グループのプロジェクト計画を発表する A：中　B：中　D：多　E:あり　F：あり 第８回　模擬保育　準備①　クラス単位 子どもの動機を整理する、表現構想 プロジェクトの修正 A：多　E：あり、F:あり 第９回　模擬保育　準備②　クラス単位 子どもの思いを形にする、指導案（進行表）作成方法 A：多　E：あり、F:あり 第１０回　模擬保育　準備③　クラス単位 子どもの発見を反映する、指導案の修正

場合に【あり】と表記されます。	A：多　E：あり、F:あり 第１１回　模擬保育　準備④　クラス単位 ワークショップの会場準備とリハーサル 第１２回　模擬保育　発表（ワークショップ）　クラス単位 実技テストとしての評価対象 A:多　D:多　E：あり、F:あり 第１３回　模擬保育の振り返り 園の評価方法 B：中　E：あり、F:あり 第１４回　保育の向上を目指して① 保育の表現と評価方法 課題説明　ドキュメンテーションとポートフォリオ作成方法のまとめ　（提出物が評価対象） E：あり、F:あり 第１５回　保育の向上を目指して② まとめと振り返り （ドキュメンテーションとポートフォリオの用法）提出物が評価対象 （ポートフォリオ等の修正・整理と、成績評価方法と実技演習を含む） E：あり　F：あり 課題：まとめレポート
教育目標との関連	（１）幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領におけるねらいと内容を理解する。 1）幼稚園教育の基本と領域「表現Jのねらいや内容を包括的に理解している。 2）幼稚園教育要領のねらいから、各領域と領域「表現」の関連性を理解して指導上の留意点を理解している。 3）幼稚園教育における評価を理解している。 4）小学校を意識して、なだらかな「接続期」を目指して保育内容を構想することを身に付ける。 （２）乳幼児の発達や学びを理解して、領域「表現」に関わる指導法を構想し、保育内容の向上に努めることができる。 1）領域「表現」の指導上の留意点を乳幼児の発達や学びの過程において理解できる。 2）自身の表現力や感性を養い、乳幼児の「表現」指導・援助に必要な情報機器及び教材の活用法を理解し、指導力の改善や向上の必要性を理解している。 3）協同により自身の特性を理解し、表現における創意工夫を身に付ける。 4）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。 5）子どもが主体的に表現することの意義を理解して、保育環境をより向上させる構想力に取り組むことができる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP3.造形表現、音楽表現、複合的表現等の表現活動に必要な技術方法や知識を修得する。 DP5.子どもの「表現」援助に必要な指導力の向上を目指して、個性や現状に応じた表現を実践できる。 DP5.子どもが主体的に表現することの意味を理解し、判断してその環境作りに協力できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１.レポート、課題提出及び主体的・対話的・協調性などの授業態度を評価する（各担当教員による４０％） ２.発表及び課題提出を評価する（各担当教員による６０％） *欠席等の取り扱いは、『学生ハンドブック』の履修要項に準ずる。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
教科書	テキスト　プリントを適宜、配布する 『幼稚園教育要領』文部科学省　240円(税別)　『保育所保育指針』厚生労働省320円(税別)　『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』内閣府他　385円 共にフレーベル館
参考書	参考書・参考資料等 『生活事例からはじめる 一保育内容―　表現』 徳安敦・関口明子編著　青踏社　1,900円＋税
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前事後学習（各1時間）は、詳しくは、各教員が授業内で示す
履修上の注意、条件等	実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的な授業参加することが評価の対象となる。
オフィスアワー	質問等に関しては、Google Classroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	全ての回を対面で行う。 掲示板や参考URL等を良く見ておき、発表日や提出日を忘れないようにする。

講義科目名称：　保育・教育方法技術論　　授業コード：

英文科目名称：　Theory on the Methods and Techniques of Childcare and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	２年	２単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
橋元知子　百瀬志麻			
授業形態：講義・演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：F205
添付ファイル			
2022保育・教育方法技術論カリキュラムマップ (2).pdf			
2022保育・教育方法技術論ルーブリック (2).pdf			

講義概要	この科目では、これまでに他の科目で学んだことを踏まえ、これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な保育・教育の方法及び技術、教材の活用に関する基礎的な知識や技能をさらに深める。 また、保育とは何か、保育者がどのような役割を担っているのか、保育職とは何かについて自ら考え、保育の感覚をつかむことを目指す。 担当教員は、授業で学んだ知識・技能を現場でどのように活かすことが出来るかについて学生に学んでもらえるよう、保育者としての実務経験に基づいた実践的な内容を交えた授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション、保育・教育方法とは何か？ 授業の概要、評価、担当教員について知る。保育・教育方法とは何かについて学ぶ。 予習：保育・教育方法技術論のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと。（約1時間） A：少 D：あり E：あり F：あり 第2回　子ども理解にもとづいた保育方法と評価 子ども理解にもとづいた保育方法と評価とはなにかについて学ぶ。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり 第3回　子どもにふさわしい園生活と保育形態 子どもにふさわしい園生活について考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり 第４回　養護と教育が一体となった保育の方法 保育は養護と教育が一体となったものであることについて知る。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 B：多 D：中 E：あり F：あり 第５回　環境を通した保育の方法 環境を通して保育を行うとはどのようなことであるかについて学ぶ。 また、多文化理解を育むような環境とはどのようなものであるかについての知識を得る。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 B：中 D：多 E：あり F：あり 第6回　遊びを通した保育の方法 遊びを通して子どもが学ぶ際の保育者の援助の仕方について学習する。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 B：多 D：中 E：あり F：あり 第7回　個と集団を活かした保育の方法

		個と集団両方を育てる保育の方法について知る。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 B：中 D：多 E：あり F：あり
	第8回	０・１・２歳児の発達に応じた保育方法 ０・１・２歳児の発達を考えた保育方法について知る。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり
	第9回	３・４・５歳児の発達に応じた保育方法 ３・４・５歳児の発達を考えた保育方法について知る。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 B：多 D：中 E：あり F：あり
	第10回	保育の計画・実践・評価 多種多様な子どもの興味・関心を活かす保育の計画・実践・評価について考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり
	第11回	家庭・地域と連携した保育 様々な文化的背景をもつ家庭や、特色のある地域と連携した保育方法について学ぶ。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり
	第12回	小学校との接続のデザイン 幼児期と小学校の教育との連携方法について考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 B：多 D：中 E：あり F：あり
	第13回	配慮を要する子どもへの保育方法 様々なこどものニーズに答えられるよう、保育者として多文化理解力が不可欠である。 本授業では配慮を要する子どもに対しての保育の方法について知る。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり
	第14回	教材や情報機器を活かした保育方法 教材や情報機器を活かした保育方法について考える。 予習・復習：前回学んだ内容について復習しておくこと。テキストを熟読し、生じた疑問や考えたことを次回授業で共有できるよう、書き留めておく。（約2時間） A：中 B：中 D：多 E：あり F：あり
	第15回	授業全体の総括 予習：前回学んだ内容について復習しておくこと。授業で学んだことを各自で振り返り、自分の保育にどのように活かせるかについて考え、書き留め、共有できるようにしておく。（約1.5時間） A：中 B：多 E：あり
教育目標との関連	これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な保育・教育の方法及び技術、教材の活用に関する基礎的な知識や技能をさらに深めることは、保育者に必要な力を高めることである。	

	また、保育とは何か、保育者がどのような役割を担っているのか、保育職とは何かについて考え、保育の感覚をつかむことは保育者として必要な資質を高めることにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1：保育・教育方法の基礎的理論と実践について理解している。 DP3：これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するための教育方法のあり方について理解している。 DP4：様々な場面における保育・教育に関心を持ち、保育者になる者として自ら考え、子どもの目で世界を見ようとしている。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1. レポート40%　提出課題30%　参加姿勢30%　を基本とし、総合的に評価する。 2. 添付資料のカリキュラム・マップ（到達目標）を参照。
教科書	大豆生田啓友・渡邉英則編（2021）『新しい保育講座⑥　保育方法・指導法』ミネルヴァ書房
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省、2017年 『保育所保育指針』 厚生労働省、2017年 『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』 内閣府、2017年
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	準備学習は、授業計画を参照のこと。
履修上の注意、条件等	事情により初回授業に欠席する場合には、あらかじめ連絡する。 シラバスの内容は、履修生のスケジュールや理解度などにより変更の可能性がある。 授業内容や授業形態等を変更する場合は事前に連絡をします。
オフィスアワー	授業の前後で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	授業で学んだ内容を常に自分事として捉え、保育者として自分がどうありたいかについて考えてください。将来保育者として活躍されるとき、主体的に学び続ける姿勢から子どもたちも物事に主体的に取り組むようになります。一緒に楽しく学びましょう！

講義科目名称：　子ども理解と相談・援助　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年生	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
渡邊眞理			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：B 201
添付ファイル			
ルーブリック様式　子ども理解と相談援助.pdf			
カリキュラムマップ様式　子ども理解と相談援助.pdf			

講義概要	幼児教育の礎となる幼児理解について、子ども観、子どもの発達、遊びと生活の意味と意義を理論と実践から学び、実践者としての基礎力を養う。具体的な保育現場における子どもの姿等の事例から子どもを理解するための知識・技能・態度を身につける。また、近年保育者に子育て支援等の役割が強調される中で相談援助の基本的な考え方やカウンセリング・マインドをふまえた相談への対応が求められている。幼児理解に欠かせない保護者との連携や子育て支援の方法について、保育、相談の実務経験を有する教員よりワーク等を通して実践的に学ぶ。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション　幼児理解の意味と意義：保育理解との関係性を学ぶ（対面） 【対面】 ・幼児理解の意義・実践・評価の関係を学ぶ。幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂（定）の要点を理解し、これからの保育について考える。 Ｂ：中 Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：シラバスを読んでくる（１時間） 復習：学びの振り返り（１時間） 第2回　幼児の発達理解：発達観と幼児理解の関係性（対面） 【対面】 ・子ども観・発達観と幼児理解の関係性について学ぶ。主体的・対話的な学びについて理解する。 Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：配布資料を読んでくる（１時間） 復習：学びの振り返り（２時間） 第3回　幼児理解と観察：１）観察の重要性と方法について学ぶ（対面） 【対面 ・こども理解に欠かせない観察とその方法について理解を深める。ラーニング・ストーリーについて実践事例をもとに学ぶ。 Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：日常の幼児の姿に留意する（１時間） 復習：学びの振り返り（１時間） 第4回　幼児理解と観察：２）『学びの物語』乳児の事例に学ぶ（対面） 【対面】 ・子ども理解（乳児期）について、ワークシートから実践的・体験的に観察と記録について学ぶ Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：配布課題を読んでくる（１時間） 復習：学びの振り返り（２時間） 第5回　幼児理解と観察：３）『学びの物語』幼児の事例に学ぶ（対面） 【対面 ・子ども理解（幼児期）について、ワークシートから実践的・体験的に観察と記録について学ぶ Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：事例研究に取り組む（１時間） 復習：学びの振り返り（２時間） 第6回　保護者との関わりと子ども理解：１）家庭との信頼関係・互恵関係（対面） 【対面】 ・保護者について理解を深め、事例を通して保育者の知識・スキル・姿勢を学ぶ ★理解度確認ミニテスト① Ｂ：中 Ｄ：少 Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：ミニテストに備えて第1回～第5回目の復習（２時間） 復習：学びの振り返り（１時間） 第7回　保護者との関わりと子ども理解：２）保護者を巡る現代の課題（対面） 【対面 ・ひとり親、貧困、ＤＶ、虐待、発達障害、国際化等、保護者を巡る現代の課題とその支援を学ぶ Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：課題を読んでくる（１時間） 復習：学びの振り返り（１時間）

	第8回　保護者との関わりと子ども理解：３）ロールプレイから学ぶ（対面） 【対面 ・幼児理解のための保護者との関係性構築について実践的に学ぶ Ｅ：あり Ｆ：あり 予習： 復習：学びの振り返り（１時間） 第9回　特別なニーズ（権利）を有する子ども理解（対面） 【対面 ・インクルージョン・ダイバーシティの視座から子ども（乳幼児期～青年期）理解を深め、適切な支援について考える Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：文献を読む（１時間） 復習：学びの振り返り（１時間） 第10回　子育て支援と幼児理解：１）カウンセリングマインドへの誘い（対面） 【対面】 ・カウンセリングマインドの意味と意義をロールプレイを通して理解する ★理解度確認ミニテスト② Ｂ：中 Ｄ：中 Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：ミニテストに備えて第7回～第9回までの復習（２時間） 復習：学びの振り返り（２時間） 第11回　子育て支援と幼児理解：２）カウンセリングマインドの技法（対面） 【対面】 ・カウンセリングマインドの基礎的な実践について、その姿勢と技法を学び、保育者としての当事者意識を高める。 Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：課題に取り組む（1時間） 復習：学びの振り返り（１時間） 第12回　多文化共生理解と子ども理解（対面） 【対面】 ・多様化、国際化する社会における子ども理解と課題について学ぶ。保育者として、多様な国籍を持つ子どもや帰国子女の子どもたちをその家族を含めた具体的な支援の方法および課題を事例をもとに考える。 Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：指定文献を読む（1時間） 復習：学びの振り返り（１時間） 第13回　幼児理解と子ども観再訪、及び今までの振り返り（対面） 【対面】 ・子どもを市民として捉えるレッジョ･エミリア市の実践に学ぶ。レミダにおけるモノとの対話を通して、日本の保育を考える。 Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：配布資料を読む（1時間半） 復習：授業振り返り（２時間） 第14回　授業の総括・振り返り①（対面） 【対面】 ・学びの総括として試験を実施する。 Ｂ：少 Ｄ：中 Ｅ：あり 予習：授業で学んだ内容を振り返り、理解できたこと・できなかったことを洗い出しておく。ノートなどをまとめ試験に向けて学びの整理をす(2時間) 復習：今後の課題を考える(1時間) 第15回　授業の総括・振り返り②（対面） 【対面】 ・試験の解説。 ・今学期の学びを総括し、自己の学び評価を行うと同時に今後の課題・展望を明らかにする。 Ｂ：少 Ｄ：中 Ｅ：あり 予習：ノートなどに目を通して学びを整理し、今後の課題を明確にする(1時間)
教育目標との関連	幼児理解について知識を理解し、子ども、同僚、及び保護者と関わる姿勢、スキルを身につける。特に、記録等子ども理解を可視化できるようにする。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	2. 子ども理解の意味と意義、発達を理解し、現状の保育の課題との関係性を考察することができる 3. 様々な言葉・方法で幼児理解のあり方について表現することができる 4. 保育の専門家として歩むための学びであると当事者意識を高めることができる

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業態度：20% 理解度確認ミニテスト（対面授業におけるミニテスト）：30% 試験：50%
教科書	授業中にレジュメを配布する。
参考書	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」他、授業にて提示・紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記のとおり。
履修上の注意、条件等	・シラバスの内容は、履修学生の理解度等により変更もあります。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育・教職実践演習（幼）　　授業コード：

英文科目名称： Practical Seminar for the Teaching Profession

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
石見容子、橋元知子			
授業形態：演習	担当形態：複数		ナンバリング：G207
添付ファイル			

講義概要	「良い保育者」とはどのような保育者でしょう。保育者に求められる力とはどのような力でしょう。「現場で役立つ実践力」に磨きをかけることを目標に、実際に子どもとのかかわりを大切にしながら、今までの学修と実習の集大成としての演習を行います。保育に主体的に参加し、仲間と協力しながら計画的に準備を進めます。最後には、これまでの学びを振り返りながら履修カルテの作成に取り組み、専門家としての自覚を持ちます。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　保育・教職実践演習のねらい 演習の概要及びねらいについて理解する。 これまでの講義・演習・実習を通して学んだ内容について分析を通して、自己課題を明らかにし、不足している知識・技能を補完していくために必要な学習に自ら取り組めるようにする。 予習・復習：参考資料などに興味を持ち、関心のあるページに目を通す（各1時間） B:中　E:あり　F:あり 第2回　環境マップ型記録について① 実際に園に足を運び、その環境における子どもの様子を環境マップ型記録にとる。 予習：配布資料に目を通す（1時間） 復習：環境マップをまとめる（1時間） B：中　C:中　E：あり　F:あり 第3回　環境マップ型記録について② 実際に園に足を運び、その環境における子どもの様子を環境マップ型記録にとる。 予習：配布資料に目を通す（1時間） 復習：環境マップをまとめる（1時間） B：中　C:中　E：あり　F:あり 第4回　ドキュメンテーション型記録について① 実際に園に足を運び、その環境における子どもの様子をドキュメンテーション型記録にとる。 予習：配布資料に目を通す（1時間） 復習：環境マップをまとめる（1時間） B：中　C:中　E：あり　F:あり 第5回　ドキュメンテーション型記録について② 実際に園に足を運び、その環境における子どもの様子をドキュメンテーション型記録にとる。 予習：配布資料に目を通す（1時間） 復習：環境マップをまとめる（1時間） B：中　C:中　E：あり　F:あり 第6回　演習内容検討 グループに分かれ、実際に園で保育を展開することを考え、演習内容について検討する。 予習：配布資料に目を通す（1時間） 復習：参考資料として授業内で提示した保育雑誌等に目を通す（1時間） A:多　F:あり 第7回　演習計画と準備 グループに分かれ、実際に園で保育を展開することを考え、子どもの様子を想像しながら演習内容についての計画を立てる。また、実際に保育を展開するにあたっての質問等をまとめる。 予習・復習：参考資料に目を通す（各1時間） A:多　F:あり 第8回　演習準備 グループに分かれ、実際に園で保育を展開することを考え、配慮事項等の詳細を想像しながら準備を進める。 予習・復習：演習に必要な教材をそろえる（各1時間） A:多　F:あり 第9回　演習日 グループに分かれ、実際に子どもとの時間を過ごしながら、保育者としての経験を増やす。 予習：演習に必要なものを準備する（２時間） 復習：演習を振り返り、まとめる（1時間） A:多　F:あり 第10回　演習日 グループに分かれ、実際に子どもとの時間を過ごしながら、保育者としての経験を増やす。 予習：演習に必要なものを準備する（２時間） 復習：演習を振り返り、まとめる（1時間） A:多　F:あり 第11回　振り返りとポスター作成 演習を振り返り、その成果をグループごとにポスターにまとめる。 予習：ポスターのまとめ方について、授業を振り返る（1時間） 復習：ポスター作成の不足を補う A:多　F:あり 第12回　ポスター発表

	互いの発表を見て、お互いに意見を出し合う。 予習：ポスターを作成する（2時間） 復習：指定用紙に発表を聞いてのまとめをする（1時間） B:多　D:多　E:あり 第13回　保護者対応について 現代における保護者のニーズに気付き、保育者の子育て支援の役割について理解を深める。 予習：事前に配布する参考資料に目を通し、講義に対する質問を考える（1時間） 復習：指定用紙に講義を聞いての感想と、自身の課題についてまとめる（1時間） B:中　E:あり 第14回　理想の保育者像についての討論 理想の保育者とはどのような保育者か、理想の保育環境とはどのような環境か、互いに意見を出し合い、自身の保育観を養う。 予習：今までの授業を振り返り、資料に目を通す（1時間） B:中　F：あり 第15回　総括、これまでの全体の振り返り、履修カルテの記入 これまでを振り返り、履修カルテにまとめる。さらに、はじめに立てた自己課題と、実際の学修を振り返り比較し、専門職としての保育者を目指す者としての次の課題を設定する。 予習：今までの授業と併せて、2年間に学んだ科目について振り返る（1時間） 復習：履修カルテを清書し提出する（1時間）
教育目標との関連	実習をはじめとするこれまでの学びを振り返り、保育者の求められる資質能力について理解し、自己課題をみつける。 またグループ討議、グループワーク、演習など現場を意識した学びを通し、保育者としての自覚と実践的な指導力を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．子どもの発達状況に応じた適切な指導を行うことができるクラスの経営の基礎を習得する。 ２「幼稚園教育要領」に対応した教科や保育の的確な指導力・実践的なマネージメント力を身につける。。 ３.現場における教員間の協調性、保護者・地域住民や地域の社会資源との連携の重要性を理解したうえで、対人関係を構築できる ４．実際の教育現場で自身が教育活動を行うことを想定して課題に向き合い、成長し学び続ける保育者像を具体的に描けるようにする。 ５.教員に求められる資質・能力・技術に照合して、自己の課題を具体的に明確にして学び続けることができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	課題提出　40% 演習への取り組み・参加度　30% 発表に向けての取り組み・参加度　30%
教科書	なし
参考書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	上記の通り
履修上の注意、条件等	子ども達のより具体的な姿を想像することが大切になります。今までの経験を思い出し、集大成としての授業であることに意識を持ちましょう。
オフィスアワー	研究室に掲示するとともに、質問等は限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	対面

講義科目名称： 幼児造形Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Infant of modeling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
成清北斗			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D103
添付ファイル			
Infant of Modeling 1 Curriculum Map.pdf			
Infant of Modeling 1 Rubric.pdf			

講義概要	保育者として必要となる造形の基礎的な知識や技能を身につけるため、幼児の発達段階における造形表現の理論や保育現場で用いられる様々な素材や道具の扱い方を学ぶとともに、演習を通じ自ら造形の楽しさを知る。当科目は「幼児造形Ⅱ」に加え、「幼児と表現」、「保育内容（表現）の指導法Ⅰ」、「保育内容（表現）表現の指導法Ⅱ」との関連性を持つ。 全15回の授業はすべて対面での実施となる。 担当講師はアーティストとして、「社会とアートをつなぐ」を目的に、子どもを含む多様な市民に向けたアートプロジェクトや造形ワークショップを数多く実践してきた。また、教員としても、多様な教育機関において、表現、とりわけアートや造形に関わる授業を数多く担当してきた。それらの経験を活かし造形の魅力について幅広く伝えていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回【対面】　オリエンテーション 全15回の授業説明を行った後、世界各国の様々な幼児造形の理論について学ぶ コミュニケーションを図るための造形ワークショップを実施する 事前学習：シラバスをよく読み、不明な点について調べておくこと（1時間） A：少、B：少、E：あり、F：あり 第2回【対面】　ポートフォリオ制作について 授業の記録として提出するポートフォリオの制作方法と情報機器の活用について学ぶ 事前事後学習は、Google Classroomと授業内で示す（1時間） B：少、E：あり、F：あり 第3回【対面】　身近な描画材による表現①人物画 観察の練習と描画材に慣れることを目的に、鉛筆による人物クロッキーを行う。 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） A：多、B：少、E：あり、F：あり 第４回【対面】　身近な描画材による表現②風景画 様々な発見と色彩を用いた表現に慣れることを目的に、キャンパス内の自然や環境を色鉛筆やクレヨンで描く。 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） B：少、C：多、E：あり、F：あり 第5回【対面】　切り絵オリジナルカレンダー①切り絵の仕組みとアイデアスケッチ はさみやのりなどの道具の使い方を確認しながら切り絵の仕組みについて学び、各月のイメージとなるアイデアスケッチを行う 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） B：少　E：あり　F：あり 第6回【対面】　切り絵オリジナルカレンダー②制作 アイデアスケッチをもとに折り紙の切り絵によって表現する。 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第7回【対面】　切り絵オリジナルカレンダー③貼り付け 切り絵を貼り付けカレンダーを完成させる 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第8回【対面】　モダンテクニックで表現する世界①技法の練習 絵画技法の基本となる様々なモダンテクニックについて学び、絵の具の使い方を確認する 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） B：少　E：あり　F：あり 第9回【対面】　モダンテクニックで表現する世界②アイデアスケッチ 心の中を表現するためのアイデアスケッチを行う 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第10回【対面】　モダンテクニックで表現する世界③制作

	アイデアスケッチをもとにモダンテクニックを用いた絵画制作を行う 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第11回【対面】　モダンテクニックで表現する世界④細部の表現 前回の作業を継続し、より細部まで表現し完成させる 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第12回【対面】　ステンシル版画でオリジナルエコバッグ①版画の仕組み 様々な版画の仕組みについて学び、アイデアスケッチを作成する 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） B：少　E：あり　F：あり 第13回【対面】　ステンシル版画でオリジナルエコバッグ②ステンシル制作 アイデアスケッチをもとにステンシル（型）作成する 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第14回【対面】　ステンシル版画でオリジナルエコバッグ③着彩 ステンシルを用いて絵の具で着彩し完成させる 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第15回【対面】　まとめ 授業を振り返り、期末レポートおよびポートフォリオを提出する 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） B：中　E：あり　F：あり
教育目標との関連	幼児造形について学ぶことは、社会生活に必要な教養と保育者として豊かな知識を身に付けることにつながる。 また、課題制作を通じた学びは、自分を知り、豊かな感性を育てることと、保育者としての実践的な技能を身につけることにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．幼児期の発達段階における造形表現の特徴について理解し、説明できる ３．造形の基礎的な技法や表現について習得し、説明できる ４．幼児の造形について関心意欲を持つことができる 到達目標は、添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．課題（作品）およびポートフォリオ（70%） ３．期末レポート（20%） ４．授業への関心、意欲、態度（10%） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
教科書	特に用いない。 必要に応じて資料を配布、共有する。
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省 『保育所保育指針』厚生労働省 『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』内閣府他　　共にフレーベル館
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前事後学習の具体的な内容については、授業中に示す。
履修上の注意、条件等	演習授業のため、学生各自の主体的な参加を求める。
オフィスアワー	作品に対するフィードバックは原則として授業中に解説する。 その他の質問等がある場合は、Google Classroomの限定コメントおよび研究室（時間は掲示）にて受け付ける。
備考・メッセージ	安全に配慮しながら制作をすること。 準備、後片付けを徹底すること。 授業に必要な道具や材料は忘れずに用意すること。 Google Classroom の掲示やメール通知の確認を怠らないこと。

講義科目名称： 幼児造形Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Infant of modeling Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
成清北斗			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務形態：あり	ナンバリング：D105
添付ファイル			
Infant of Modeling 2 Curriculum Map.pdf			
Infant of Modeling 2 Rubric.pdf			

講義概要	保育者として求められる造形の応用的な知識や技能を身につけるため、幼児の発達段階における造形表現の事例や保育現場で求められる様々な素材や道具の扱い方の応用を学ぶとともに、演習を通じ自らの個性や特徴を生かした造形に取り組む。 当科目は「幼児造形Ⅰ」に加え、「幼児と表現」、「保育内容（表現）の指導法Ⅰ」、「保育内容（表現）表現の指導法Ⅱ」との関連性を持つ。 全15回の授業はすべて対面での実施となる。 担当講師はアーティストとして、「社会とアートをつなぐ」を目的に、子どもを含む多様な市民に向けたアートプロジェクトや造形ワークショップを数多く実践してきた。また、教員としても、多様な教育機関において、表現、とりわけアートや造形に関わる授業を数多く担当してきた。それらの経験を活かし造形の魅力について幅広く伝えていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回【対面】　オリエンテーション 全15回の授業説明を行った後、世界各国の様々な幼児造形の事例について学ぶ コミュニケーションを図るための造形ワークショップを実施する 予習：シラバスをよく読み、不明な点については事前に調べておくこと1時間） A：少、B：少、E：あり、F：あり 第２回【対面】　粘土で本物そっくりお弁当づくり①立体造形について 身近なものを造形することを目的に、様々な立体造形や道具の使い方について学びアイデアスケッチを完成させる 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） B：少、E：あり、F：あり 第３回【対面】　粘土で本物そっくりお弁当づくり②形づくり 石粉粘土を用いてお弁当の大まかな形を作る 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり、F：あり 第４回【対面】　粘土で本物そっくりお弁当づくり③細部の表現 ヘラやサンドペーパーなどを用いてお弁当の細部を表現する 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり、F：あり 第５回【対面】　粘土で本物そっくりお弁当づくり④着彩 石粉粘土に絵の具で着彩しニスを塗って完成させる 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり、F：あり 第６回【対面】　ポップアップ・クリスマスカード①仕掛けについて 様々なポップアップ（飛び出す）の仕掛けについて学ぶ 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） B：少　E：あり　F：あり 第７回【対面】　ポップアップ・クリスマスカード②アイデアスケッチと試作 アイデアスケッチと仕掛けの試作を制作する 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第８回【対面】　ポップアップ・クリスマスカード③ポップアップの作成 試作をもとにポップアップの仕組みを制作する 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第９回【対面】　ポップアップ・クリスマスカード④細部の表現 アイデアスケッチをもとに細部を表現し完成させる 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第10回【対面】　壁面装飾・プッシュステンド①壁面装飾とプッシュステンド 様々な壁面装飾の事例とプッシュステンドの技法について学ぶ

	事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） B：少　E：あり　F：あり 第11回【対面】　壁面装飾・プッシュステンド②アイデアスケッチ 展示を意識した作品としてアイデアスケッチを完成させる 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第12回【対面】　壁面装飾・プッシュステンド③制作 台紙をカットしセロファンを貼り付けていく 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第13回【対面】　壁面装飾・プッシュステンド④細部の表現 前回の作業を継続し、より細部まで表現し完成させる 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） E：あり　F：あり 第14回【対面】　プレゼンテーションシート作成 プレゼンテーションボード作成 情報機器を活用した見せる指導案としてのプレゼンテーションボードを作成し、互いに鑑賞する 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） A:中　B：少　D：少　E：あり　F：あり 第15回【対面】　まとめ 授業を振り返り、期末レポートおよびポートフォリオを提出する 事前事後学習の内容は、Google Classroomと授業にて示す（1時間） B：中　E：あり　F：あり
教育目標との関連	幼児造形について学ぶことは、社会生活に必要な教養と保育者として豊かな知識を身に付けることにつながる。また、課題制作を通じた学びは、自分を知り、豊かな感性を育てることと、保育者としての実践的な技能を身につけることにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．　幼児期の発達段階における造形表現の事例について理解し、説明できる ３．　造形の発展的な技法や表現のについて習得し、説明できる ４．　幼児の造形について関心意欲を持つことができる 到達目標は、添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．課題（作品）およびポートフォリオ（70%） ３．期末レポート（20%） ４．授業への関心、意欲、態度（10%） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
教科書	特に用いない。 必要に応じて資料を配布、共有する。
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省 『保育所保育指針』厚生労働省 『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』内閣府他　　共にフレーベル館
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前事後学習の具体的な内容については、授業中に示す。
履修上の注意、条件等	演習授業のため、学生各自の主体的な参加を求める。
オフィスアワー	作品に対するフィードバックは原則として授業中に解説する。 その他の質問等がある場合は、Google Classroomの限定コメントおよび研究室（時間は掲示）にて受け付ける。
備考・メッセージ	安全に配慮しながら制作をすること。 準備、後片付けを徹底すること。 授業に必要な道具や材料は忘れずに用意すること。 Google Classroom の掲示やメール通知の確認を怠らないこと。

講義科目名称： 幼児音楽Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Musical Study for Child Education Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
グループ学習：大見　由香　　※ピアノ指導担当教員は備考欄参照			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：D104
添付ファイル			
幼児音楽ⅠCMROL.xlsx　.pdf			

講義概要	子どもの生活と遊びの中での音楽について学ぶ。子どもの歌を支える歌唱やピアノの技能を習得しレパートリーを増やす。また打楽器の基礎的な奏法を学ぶ。2つのグループに分かれ、ピアノの個人レッスンとグループ授業を週ごとに交互に受講する。シラバス内容の順序はグループにより異なる。 ピアノ：保育者として必要なピアノの演奏技術を個人レッスンを通して習得する。毎回授業終了時にはレッスンや練習の成果の振り返りを行う。 グループ授業：毎回ピアノの課題曲やテクニック練習を行い、読譜や曲の理解に必要な音楽理論（楽典）を学ぶ。また声楽の演奏技術を学び子どものうたを数多く歌えるようにする。毎回授業開始時にウォームアップ、呼吸、発声練習、音程練習を行う。 他の科目との関連：本科目の理論は「幼児音楽入門（ピアノ）」と内容が重複する部分もあるが、本科目の方がはやく進む。また、実技は「幼児音楽Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」・「声楽Ⅰ、Ⅱ」の基礎となる。 実務経験：インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回【対面】　グループ授業（１）　音の高さ・春のうた ぶんぶんぶん・ちょうちょ・チューリップ・こいのぼり＊（＊ピアノは上級向け） 表現活動の中での保育者のピアノの活用法や歌唱活動と子どもの声域について理解する。発声と呼吸についての基礎を学ぶ。音の高さについて学ぶ。 春のうたを歌いピアノ演奏のポイントを学ぶ。 予習・復習：シラバス、Google Classroom の概要を読んでおく。ピアノ 授業で学んだ曲やピアノの課題を練習する。 歌 授業で歌った歌を練習し暗譜で歌えるようにする。（2時間） A：中 D：少 E：あり F：あり 第2回【対面】　ピアノレッスン（１）姿勢と手の形 グループ授業や日程表で提示された課題曲を教員の前で演奏し、アドバイスを受ける。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり 第3回【対面】　グループ授業（２）音の長さ・付点のリズム・子どもの生活のうた あくしゅでこんにちは・おかたづけ・おはようのうた＊ 音の長さ、付点のリズムについて学ぶ。 予習・復習：ピアノ 授業で学んだ曲やピアノの課題を練習する。ユーチューブプレイリストの生活のうたと春のうたを聴いておく。 歌 授業で歌った歌を練習し暗譜で歌えるようにする。（2時間） A：中 D：少 E：あり F：あり 第4回【対面】　ピアノレッスン（２）譜読みと指づかい 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第5回【対面】　グループ授業（３）全音と半音・変化記号・へ長調の音階と調号・打楽器の奏法 きらきらぼし・ハッピーバースデー・おはながわらった＊、おべんとう＊ 打楽器（すず、カスタネット、タンブリン）の奏法を学び、「おはながわらった」などの歌に合わせて演奏する。 全音と半音、変化記号の意味と書き方を学ぶ。ハ長調、へ長調の音階と調号について学ぶ。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。 変化記号の意味、使い方、書き方を復習する。ユーチューブプレイリストの春のうたを聴いておく。 宿題：プリント「へ長調の練習」を練習する。（2時間） A：少 D：少 F：あり 第6回【対面】　ピアノレッスン（３）強弱をつける 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第7回【対面】　グループ授業（４）ト長調の音階と調号・強弱記号・子どものうた 前半授業のふりかえりを行い進度の確認をする。 ト長調の調号、音階について学ぶ。 こどもの歌、ふしぎなポケット・おおきな古時計、大きな太鼓を歌う。 強弱記号について学び、打楽器（大太鼓、小太鼓）で演奏する。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。プリント「ト長調の練習」を練習する。ユーチューブプ

	レイリストの子どものうたを聴いておく。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり 第8回【対面】 ピアノレッスン（４）レガートとノンレガート 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり 第9回【対面】 グループ授業（５）繰り返し記号・表現をつけて歌う 表現をつけてうたう：おつかいありさん＊、あめふりくまのこ＊ 6月のうた「かたつむり」　などを歌う。繰り返し記号について学ぶ。 予習・復習：グループ発表で歌う曲を準備する。繰り返し記号のプリントを行う。ピアノの課題を練習する。（2時間） A：中 D：中 E：中 F：あり 第10回【対面】 ピアノレッスン（５）メロディと伴奏のバランス 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり 第11回【対面】 グループ授業（６）グループ発表テスト 各グループで選んだこどものうたを表現を工夫して演奏する。他グループの演奏の評価をする。 予習・復習：ピアノテスト曲の復習をする。研究発表の曲を練習する。（2時間） D：中 E：あり F：あり 第12回【対面】 ピアノレッスン（６）「おはようのうた」 ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表の曲を練習する。（2時間） D：中 F：あり 第13回【対面】 グループ授業（７）夏のうた・ニ長調の音階と調号・３連音符 おばけなんてないさ・おもちゃのチャチャチャ・おはようのうた ニ長調の調号、音階について学ぶ。３連音符について学ぶ。 グループ発表の準備 予習・復習：ピアノの課題を練習する。プリント「ニ長調の練習」を練習する。（2時間） A：少 D：少 F：あり 第14回【対面】 ピアノレッスン（７）テスト曲の準備 ″テストで弾く曲の最終確認。課題曲でまだ合格していない曲を完成させる。 予習・復習：ピアノテスト曲の復習をする。研究発表の曲を練習する。（2時間） D：中 E：あり F：あり″ 第15回【対面】 実技発表テスト　まとめと振り返り マスタークラス形式でテストを行う。お互いの演奏を聞き合い、教員から成果と課題について講評を受ける。幼児音楽Ⅱへの課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり
教育目標との関連	保育者に必要なピアノと声楽の演奏技能を身につける。季節のうた、生活のうたなど、さまざまな音楽に触れ、学生自身の感性を豊かにする。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．園生活のなかで子どものうたがどのように歌われているか説明できる。 ２．子どもの状況に合った曲を選び、適切な表現で演奏できる。 ３．子どもたちのために『子どものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 ４．保育現場で子どもが楽しく歌えるように工夫できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	練習課題の取り組み・進度　65% 実技発表　授業内に行ううたのグループ発表、ピアノの演奏テスト　20% 提出課題　15% （子どもの歌のピアノ課題曲をすべて合格していない場合は再試験対象となる） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること
教科書	『選べる３ステップ　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第1巻』　大海由佳 他　学研プラス　2019年　1,500円（税抜） 『選べる３ステップ　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第2巻』　大海由佳 他　学研プラス　2019年　1,500円（税抜） 授業中に適宜プリントを配布する。
参考書	改訂『幼児のための音楽教育』神原雅之　編著　教育芸術社　2019年　2,000円（税抜） 『幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）解説』（フレーベル館、2018年） 『保育所保育指針（平成29年4月告示　厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	ピアノは練習（予習と復習）をしてレッスンに臨むこと。毎日30分は練習し、毎週２曲以上は合格するよう取り組むこと。 全授業対面を予定しているが、オンライン課題もあるためGoogle Classroomからの通知を必ず見ること。

履修上の注意、条件等	日々の練習を行って技術を修得する意欲のある者。テキストは各自にあったアドバイスを記入するため、必ず自分の物を持ってくること。楽譜への記入は鉛筆（またはシャープペン）を使用すること。
オフィスアワー	大見：大見研究室。時間は研究室に掲示する。 ピアノ担当教員：レッスンの前後、または3階講師室外にて受け付ける。
備考・メッセージ	※ピアノ指導担当教員：宮本眞理子、大平美樹、栗村葉子、小梶由理、原嶋唯、藤澤桐子、矢浪桂子 子どもの歌のピアノ課題曲リストは授業とGoogle Classroom内にて配付する。

講義科目名称： 幼児音楽Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Musical Study for Child Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
グループ学習：大見　由香　※ピアノ指導担当教員は備考欄参照			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：D106
添付ファイル			
幼児音楽ⅡCMR.xlsx .pdf			

講義概要	子どもの生活と遊びの中での音楽について学ぶ。子どもの歌を支える歌唱やピアノの技能を習得しレパートリーを増やす。また打楽器の基礎的な奏法を学ぶ。2つのグループに分かれ、ピアノの個人レッスンとグループ授業を週ごとに交互に受講する。シラバス内容の順序はグループにより異なる。 ピアノ：保育者として必要なピアノの演奏技術を個人レッスンを通して習得する。毎回授業終了時にはレッスンや練習の成果の振り返りを行う。 グループ授業：毎回ピアノの課題曲やテクニック練習行い、読譜や曲の理解に必要な音楽理論（楽典）を学ぶ。また声楽の演奏技術を学び子どものうたを数多く歌えるようにする。毎回授業開始時にウォームアップ、呼吸、発声練習、音程練習を行う。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ」で習得した技術を向上させ、「幼児音楽Ⅲ、Ⅳ」・「声楽Ⅰ、Ⅱ」の基礎となる。 大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回【対面】　グループ授業（１）幼児音楽Ⅰの復習・秋のうた 前学期の復習（リズム、くり返し記号）。 秋のうた「どんぐりころころ」、「きのこ」、研究発表のうたを歌う。 予習・復習：シラバスを読んでおく。ピアノの課題を練習する。研究発表のうたを練習する。 ユーチューブプレイリストの秋のうたを聴いておく。 グループ　『弾き歌い伴奏集』第1巻もしくは第2巻から曲を選び、歌う練習をする。（2時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第2回【対面】　ピアノレッスン（１）「山の音楽家」 夏季休暇中に練習してきた曲のレッスンを受ける。練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第3回【対面】　グループ授業（２）臨時記号と調号のルール・秋のうた 臨時記号のルールを学び調号との違いを確認する。 秋のうた「まつぼっくり」「山の音楽家」「もみじ」、研究発表のうたを歌う。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。ユーチューブプレイリストの秋のうたを聴いておく。（2時間） A：少　D：少　F：あり 第4回【対面】　ピアノレッスン（２）「おべんとう」 練習してきた曲のレッスンを受ける。2週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第5回【対面】　グループ授業（３）コードネーム・秋のうた コードネームについて学ぶ。 秋のうた「はたけのポルカ」を歌う。研究発表のうたを歌い、歌詞の意味に沿った表現をつける。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表のうたを練習する。ユーチューブプレイリストの秋のうたを聴いておく。（2時間） A：少　D：少　F：あり 第6回【対面】　ピアノレッスン（３）「おべんとう」仕上げ 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第7回【対面】　グループ授業（４）コードと転回形の練習・秋のうた コードをと転回形を弾く。コードネームをもとに伴奏をつける。 秋のうた「やきいもグーチーパー」、「きのこ」を歌う。研究発表の歌をうたい響きや声の重なり合いを楽しむ。 また歌詞の意味を味わう。様々なポジションについて学ぶ。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。ポジションのプリントを練習する。研究発表のうたを練習する。ユーチューブプレイリストの秋のうたを聴いておく。（2時間） A：少　D：少　F：あり

	第8回【対面】 研究発表曲の会場練習 研究発表の曲を会場で練習し、会場の雰囲気や響きを確認する。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表の曲を練習する（2時間） A：多　F：あり 第9回【対面】 音楽研究発表と音楽鑑賞 音楽研究発表会にて合唱曲を演奏する。また他者による演奏を鑑賞する。 予習：研究発表の曲を練習をする。（1時間） 課題：感想文を書く。 A: 中　D：中　F：あり 第10回【対面】 ピアノレッスン（４）「おかえりのうた」 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第11回【対面】 グループ授業（５）アーティキュレーション・冬のうた アーティキュレーションについて学ぶ。 冬のうた「ゆき」「あわてんぼうのサンタクロース」「お正月」を歌う。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。ユーチューブプレイリストの冬のうたを聴いておく。（2時間） A：少　D：少　F：あり 第12回【対面】 ピアノレッスン（５）「おかえりのうた」仕上げ 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少　D：少　E：あり　F：あり 第13回【対面】 グループ授業（６）歌のテスト・復習プリント・冬のうた 準備してきた曲の中から一曲暗譜で独唱する。復習プリントを行う。 冬のうた「まめまき」「うれしいひなまつり」「おもいでのアルバム」を歌う。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。ユーチューブプレイリストの冬のうたを聴いておく。（2時間） C：多　D：少　F：あり 第14回【対面】 ピアノレッスン（６）まとめと復習 ピアノ：テスト曲のレッスンを受ける。幼児音楽Ⅱで習得した曲を復習し、今後の課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少　D：中　E：あり　F：あり 第15回【対面】 グループ授業（７）まとめと復習 テスト曲や幼児音楽Ⅱの課題曲を練習し、よりスムーズに演奏できるようにする。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。Google　Classroomよりテスト曲のエントリーをする。（2時間） A：少　D：中　E：あり　F：あり 第16回【対面】 ピアノ発表テストと振り返り ピアノ：子どものうたを１曲を演奏会形式のテストで演奏する。幼児音楽Ⅱで習得した曲を復習し、今後の課題を見出す。 予習・復習：ピアノのテスト曲を練習する。（2時間） A：少　D：中　E：あり　F：あり
教育目標との関連	保育者に必要なピアノと声楽の演奏技能を身につける。また周囲の音に耳を澄ませ、季節のうた、生活のうたなど、さまざまな音楽に触れ、学生自身の感性を豊かにする。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．園生活のなかで子どもの歌がどのように歌われているか理解している。 ２．子どもの状況に合った曲を選び、適切な表現で演奏できる。 ３．子どもたちのために『こどものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 ４．保育現場で子どもが楽しく歌えるように演奏できる。 ５．うたのグループ授業を通して、周囲の状況を把握し、協調し合う事ができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	練習課題の取り組み・進度　60% 実技発表　授業内に行ううたのテスト、ピアノの演奏テスト　25% 提出課題　15% （子どもの歌のピアノ課題曲をすべて合格していない場合は再試験対象となる） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること
教科書	『選べる３ステップ　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第1巻』　大海由佳 他　学研プラス　2019年　1,500円（税抜） 『選べる３ステップ　保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第2巻』　大海由佳 他　学研プラス　2019年　1,500円（税抜） 授業中に適宜プリントを配布する。
参考書	改訂『幼児のための音楽教育』神原雅之　編著　教育芸術社　2019年　2,000円（税抜） 『幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）解説』（フレーベル館、2018年） 『保育所保育指針（平成29年4月告示　厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年）

準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	ピアノは練習（予習と復習）をしてレッスンに臨むこと。毎日30分は練習し、毎週２曲以上は合格するよう取り組むこと。全授業対面で行うが、オンライン課題もあるためGoogle Classroomからの通知を必ず見ること。
履修上の注意、条件等	日々の練習を行って技術を修得する意欲のある者。テキストは各自にあったアドバイスを記入するため、必ず自分の物を持ってくること。楽譜への記入は鉛筆（またはシャープペン）を使用すること。
オフィスアワー	大見：大見研究室。時間は研究室に掲示する。 ピアノ担当教員：授業の前後、または3階講師室外にて受け付ける。
備考・メッセージ	※ピアノ指導担当教員：宮本眞理子、大平美樹、栗村葉子、小梶由理、原嶋唯、藤澤桐子、矢浪桂子 子どもの歌のピアノ課題曲リストは授業とGoogle Classroom内にて配付する。

講義科目名称： 幼児音楽Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称： Musical Study for Child Education Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士選択
担当教員			
宮本眞理子（グループ学習）　※ピアノの個人レッスン担当教員は備考欄参照　（※リトミック：栗村葉子）			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり（宮本）	ナンバリング：D203
添付ファイル			
「幼児音楽Ⅲ」カリキュラムマップ(到達目標).pdf			
「幼児音楽Ⅲ」ルーブリック.pdf			

講義概要	この授業では、ピアノ演奏の技術や幼児の音楽指導に必要なことを学び、『こどものうた』のレパートリーを増やしていく。グループ学習で『こどものうた』の譜読みに取り組み、ピアノの個人レッスンで完成させる。 グループ学習のトーンチャイムの演奏では、一つの音楽を作り出す喜びを味わう。（1年次の「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ」の内容を引き続いて学ぶ。） グループ学習の担当者（宮本）は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、効果的で分かりやすい練習方法を取り入れた授業を行う。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」などの音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容（表現）の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くピアノの課題も学ぶので実習とも関連がある。 今年度は、全ての回を対面授業で行う。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　春季課題の生活のうた3曲（「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」） グループ：（上級・初級）授業の内容と進め方について説明を受ける。 「おかえりのうた」の要点を学び両手で弾く。 ピアノ：（上級・初級）ピアノ担当教員の前で、春季課題の生活のうた3曲を演奏し、アドバイスを受ける。 予習・復習　生活のうた3曲を練習する。（毎日30分） A:中　F:あり 第2回　生活のうた グループ：（上級・初級）「おはようのうた」「おべんとう」の要点を学ぶ。 ピアノ：（上級・初級）「おかえりのうた」を仕上げる。 予習・復習　生活のうた3曲を練習する。（毎日30分） A:中　F:あり 第3回　生活のうた・春のうた グループ：（上級・初級）「せんせいとおともだち」の譜読みをする。 ピアノ：（上級・初級）「おはようのうた」「おべんとう」を仕上げる。 予習・復習　生活のうた3曲と「せんせいとおともだち」を練習する。（毎日30分） A:中　F:あり 第4回　春のうた・子どものうた グループ：（上級・初級）「すてきなパパ」の譜読みをする。 ピアノ：（上級・初級）「せんせいとおともだち」を仕上げる。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:中　F:あり 第5回　子どものうた・生活のうた グループ：（上級・初級）「はをみがきましょう」の譜読みをする。 ピアノ：（上級・初級）「すてきなパパ」を仕上げる。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:中　F:あり 第6回　生活のうた・夏のうた グループ：（上級）「あめふりくまのこ」、（初級）「かたつむり」の譜読みをする。 ピアノ：（上級・初級）「はをみがきましょう」を仕上げる。 実習園からの課題がある場合には、その課題を優先してレッスンを受ける。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:中　F:あり 第7回　夏のうた グループ：（上級）「たなばたさま」、（初級）「とんぼのめがね」の譜読みをする。 ピアノ：（上級）「あめふりくまのこ」、（初級）「かたつむり」を仕上げる。 実習園からの課題がある場合には、その課題を優先してレッスンを受ける。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:中　F:あり 第8回　夏のうた・実習課題（子どもたちの前で弾くには･･･） グループ：子どもたちの前にいると想定して弾く練習をする。弾き歌いと先歌いの練習をする。 ピアノ：（上級）「たなばたさま」、（初級）「とんぼのめがね」を仕上げる。 実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日1時間） A:中　F:あり

	第9回　実習課題（子どもたちの前で弾くには･･･） グループ：子どもたちの前にいると想定して弾く練習をする。弾き歌いと先歌いの練習をする。 ピアノ：実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。 （上級）各自のレベルに合った行進曲を担当教員と相談して決める。（行進曲のプリント配付） 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日1時間） A:中　F:あり 第10回　実習課題・子どものうた・行進曲 グループ：（上級）「シューベルトの子守歌」、（初級）「みつばちのマーチ」の譜読みをする。 ピアノ：実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日1時間） A:中　F:あり 第11回　教育実習の振り返り・行進曲・ペダル奏法 グループ：教育実習におけるピアノの取り組みについて振り返りをする。 （上級）「シューベルトの子守歌」でペダル奏法を学ぶ。（初級）「おじぎの和音」でペダル奏法を学ぶ。 ピアノ：（上級）任意の行進曲、（初級）「みつばちのマーチ」のレッスンを受ける。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日45分） A:中　E:あり　F:あり 第12回　行進曲・ベダル奏法 グループ：（上級）「シューベルトの子守歌」でペダル奏法を学ぶ。（初級）「おじぎの和音」でペダル奏法を学ぶ。 ピアノ：（上級）任意の行進曲、（初級）「みつばちのマーチ」のレッスンを受ける。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日45分） A:中　F:あり 第13回　行進曲・トーンチャイム グループ：（上級・初級）トーンチャイムの演奏を楽しむ。 ピアノ：（上級）任意の行進曲、（初級）「みつばちのマーチ」のレッスンを受ける。 予習・復習　実技発表の課題（行進曲）を中心に練習する。（毎日1時間） A:中　F:あり 第14回　行進曲・トーンチャイム グループ：（上級・初級）トーンチャイムの演奏を楽しむ。 ピアノ：（上級）任意の行進曲、（初級）「みつばちのマーチ」を仕上げる。 予習・復習　実技発表の課題（行進曲）を練習する。（毎日1時間） A:中　F:あり 第15回　実技発表 グループ：なし ピアノ：実技発表をする。　・（上級）任意の行進曲、（初級）「みつばちのマーチ」 発表後に担当教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。 D:多　E:あり
教育目標との関連	ピアノにおいては『こどものうた』を数多く知ること、グループ学習のトーンチャイムにおいては心を合わせて一つの音楽を作り出す喜びを味わうことが大切である。どちらも保育者として実践できる力をつけることで、豊かな感性と愛の心を育てることができる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.(DP3)子どもたちのために『こどものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 2.(DP5)心を合わせて一つの音楽を作り出すことに喜びを見いだすことができ、聴く人達にも喜びを伝えることができる。 3.(DP3)保育者としての音楽的センスと音楽の基礎技能を持ち、現場で子どもたちを指導することができる。 添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	ピアノの個人レッスンの課題に対する取り組みと進度を評価する。　50% 実技発表を評価する。　20% グループ学習での取り組みを評価する。　30% 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
教科書	『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第1巻』　大海由佳 他　学研パブリッシング 2019　1,500円（税抜） 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第2巻』　大海由佳 他　学研パブリッシング 2019　1,500円（税抜）
参考書	『こどものうた140選』和田葉子　他　ドレミ楽譜出版社　2019　1,800円（税抜） その他　適宜プリントを配付する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	ピアノの練習は積み重ねが大事であるので、必ず毎日（30分～45分、実習前と実技発表前は1時間）練習すること。 レッスンを受けた内容をその日のうちに復習することで、大きな成果が得られる。
履修上の注意、条件等	保育士選択となっているが、実習に向けた内容や実習園からの課題を学ぶことができるので履修することを勧める。
オフィスアワー	曜日・時間は、研究室に掲示する。ピアノについてはレッスン時に担当教員に質問すること。
備考・メッセージ	※ピアノの個人レッスン担当教員：大見由香,大平美樹,栗村葉子,小梶由理,原嶋唯,藤澤桐子,矢浪桂子

	・全15回を対面授業で行う。 ・最終回にリトミックの特別授業を行う予定である。

講義科目名称： 幼児音楽Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称： Musical Study for Child Education Ⅳ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	卒業選択、幼免選択、保育士選択
担当教員			
グループレッスン（ピアノ）： 宮本眞理子・大見由香　グループ学習（トーンチャイム）： 宮本眞理子　（リトミック）： 栗村葉子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり（宮本）	ナンバリング：D207
添付ファイル			
「幼児音楽Ⅳ」ルーブリック.pdf			
「幼児音楽Ⅳ」カリキュラムマップ(到達目標).pdf			

講義概要	この授業では、ピアノ演奏の技術や幼児の音楽指導に必要なことを学び、『こどものうた』のレパートリーを増やしていく。グループレッスンで、『こどものうた』の譜読みに取り組み完成させる。グループ学習のトーンチャイムの演奏では、一つの音楽を作り出す喜びを味わう。またリトミックについても学ぶ。 主担当者（宮本）は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、効果的で分かりやすい練習方法を取り入れた授業を行う。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」などの音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容（表現）の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くピアノの課題も学ぶので実習とも関連がある。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　トーンチャイム（1） グループ：楽器について、演奏方法について学ぶ。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多　F:あり 第2回　秋のうた ピアノ：（上級・初級）「どんぐりころころ」の譜読みをし、仕上げる。 （上級）「きのこ」、（初級）「やきいもグーチーパー」の譜読みをする。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多　F:あり 第3回　トーンチャイム（2） グループ：正確な譜読みを心がける。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多　F:あり 第4回　秋のうた・子どものうた ピアノ：（上級）「きのこ」、（初級）「やきいもグーチーパー」を仕上げる。 （上級）「くだものれっしゃ」、（初級）「手をたたきましょう」の譜読みをする。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多　F:あり 第5回　トーンチャイム（3） グループ：部分練習をする。美しい音を出す振り方を学ぶ。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多　F:あり 第6回　秋のうた・子どものうた・冬のうた ピアノ：（上級）「くだものれっしゃ」、（初級）「手をたたきましょう」を仕上げる。 （上級）「ちいさな世界」、（初級）「ゆき」の譜読みをする。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多　F:あり 第7回　トーンチャイム（4） グループ：部分練習を重ね、曲が出来上がる喜びを知る。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多　F:あり 第8回　子どものうた・冬のうた ピアノ：（上級）「ちいさな世界」、（初級）「ゆき」を仕上げる。 （上級）「にじ」、（初級）「思い出のアルバム」の譜読みをする。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多　F:あり 第9回　トーンチャイム（5） グループ：全曲通し練習をする。 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多　F:あり 第10回　トーンチャイム（6） グループ：幼稚園の誕生会のリハーサルをする。「ハッピー・バースデー」「クリスマスソング」他 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分）

	A:多　F:あり 第11回　トーンチャイム（7） グループ：幼稚園の誕生会で演奏する。「ハッピー・バースデー」「クリスマスソング」他 予習・復習　ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多　F:あり 第12回　子どものうた・冬のうた・実技発表の曲 ピアノ：（上級）「にじ」、（初級）「思い出のアルバム」を仕上げる。 （上級）「うれしいひなまつり」の譜読みをする。（上級・初級）実技発表の曲を練習する。 予習・復習　実技発表の曲を練習する。（毎日1時間） A:多　F:あり 第13回　冬のうた・実技発表の曲 ピアノ：（上級）「うれしいひなまつり」を仕上げる。 （上級・初級）実技発表の曲を練習する。 予習・復習　実技発表の曲を練習する。（毎日1時間） A:多　F:あり 第14回　実技発表の曲 ピアノ：（上級・初級）実技発表の曲を仕上げる。 予習・復習　実技発表の曲を練習する。（毎日1時間） A:多　F:あり 第15回　実技発表・リトミック グループ：リトミックについて学ぶ。 ピアノ：（上級・初級）実技発表をする。（課題曲は12月初旬に掲示する。） 発表後に担当教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。 A:多　D:多　E:あり
教育目標との関連	ピアノにおいては『こどものうた』を数多く知ること、グループ学習のトーンチャイムにおいては心を合わせて一つの音楽を作り出す喜びを味わうことが大切である。どちらも保育者として実践できる力をつけることで、豊かな感性と愛の心を育てることができる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.(DP3)子どもたちのために『こどものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 2.(DP5)心を合わせて一つの音楽を作り出すことに喜びを見いだすことができ、聴く人達にも喜びを伝えることができる。 3.(DP3)保育者としての音楽的センスと音楽の基礎技能を持ち、現場で子どもたちを指導することができる。 添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	ピアノのグループレッスンの課題に対する取り組みを評価する。　40% 実技発表を評価する。　20% グループ学習のトーンチャイムの演奏への取り組みを評価する。　40% 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
教科書	『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第1巻』　大海由佳 他　学研パブリッシング 2019　1,500円（税抜） 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第2巻』　大海由佳 他　学研パブリッシング 2019　1,500円（税抜）
参考書	『こどものうた140選』和田葉子　他　ドレミ楽譜出版社　2019　1,800円（税抜） その他　適宜プリントを配付する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	ピアノの練習は積み重ねが大事であるので、必ず毎日（30分、実技発表前は1時間）練習すること。 レッスンを受けた内容をその日のうちに復習することで、大きな成果が得られる。
履修上の注意、条件等	幼免選択・保育士選択となっているが、秋・冬の『こどものうた』を学ぶことができるので履修することを勧める。
オフィスアワー	曜日・時間は研究室に掲示する。ピアノについてはレッスン時に担当教員に質問すること。
備考・メッセージ	全15回を対面授業で行う。

講義科目名称： 英語コミュニケーションⅠ（国際コース）　　授業コード：

英文科目名称： English Communication Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	１年	１単位	卒業必修　幼免必修　保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E103
添付ファイル			
カリキュラムマップ　ルーブリック評価　English Communication Ⅰ.pdf			

講義概要	As students of the Global Early Childhood Education course, you will have several chances to study abroad. For your first general English course, we will focus on basic English needed to live comfortably in an English-speaking country. We will learn basic phrases that are useful for many situations, while learning the vocabulary to deal with certain situations from talking about rules to shopping. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1　Introducing Yourself -Talk about your university and major -Talk about your club -Talk about your free-time activities A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 2　Arriving -Talk about travel experiences -Fill out arrival cards -Understand instructions and advice A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 3　People -Introduce people -Talk about jobs and personality -Talk about present activities A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 4　House Rules -Describe the location of things -Understand house rules -Understand how to use your room A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 5　Orientation -Explain using "If" sentences -Talk about your schedule -Ask about meaning A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 6　First Lesson Day -Talk about self-study activities -Understand directions -Talk about location A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 7　Activities and Trips -Say what you want to do -Express necessity -Express obligation A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 8　Housework -Make requests -Ask permission

	-Offer to help A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 9　Food and Drink -Describe food and drink -Ask for and offer food -Give your impression of food A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 10　Money and Shopping -Shop for clothes -Compare shopping items -Talk about size A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 11　Safety on Campus -Talk about an incident -Give details about an incident -Describe lost property A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 12　Information -Understand notices and messages -Explain the content of notices and messages -React to notices and messages A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 13　Farewell -Say Goodbye -Thank people -Talk about future hopes and plans A:多い　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 14　Final Exams Final Exam Class 15　Review -Return of final exams -Overview of course
教育目標との関連	Student will learn the basic English skills needed to study abroad.
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	3. Students will acquire the English skills needed to live and study abroad. 4. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. 2. Students will be gain a new understanding and appreciation of foreign cultures.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	40% Final Exam 30% Vocabulary Quizzes 20% Homework 10% Participation
教科書	Ready for Takeoff!!　English for Study Abroad　Alan Jackson 内田ひろ子　著　金星堂　出版
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	The instructor will post office hours on her office door.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： 英語コミュニケーションⅡ（国際コース）　　授業コード：

英文科目名称： English Communication Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１年	１単位	卒業必修　幼免必修　保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E105
添付ファイル			
カリキュラムマップ　ルーブリック評価　English Communication II.pdf			

講義概要	In English Communication I, you learned the basic English skills you will need to live abroad. In this course, you will gain the basic English skills required to talk about Japan and Japanese culture. Many foreigners are interested in Japan and Japanese culture, so it is good to be prepared. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1　Greetings and Manners - Common greetings in Japan - General manners - Omotenashi - Grammar: Basic sentence structures A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 2　Seasonal Events in Japan -National holidays in Japan -Seasons in Japan -Traditional holidays -Grammar: Sentence types A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 3　Popular School Events -School life in Japan -School subjects -Sports festival -Grammar: Tenses A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 4　Eating in Japan -Japanese Dietary Habits -Popular Japanese food -Foreign food in Japan -Grammar: Modals A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 5　Sightseeing -Popular Japanese tourist sights -Traveling in Japan -Popular Japanese traditional experiences -Grammar: Nouns/Articles/Plural A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 6　Ancient Agriculture -History of Farming in Japan -Rural life in Japan -Grammar: Infinitive and Gerund A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 7　Politics -Japanese government -Laws in Japan -Grammar: Active voice/ Passive voice A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 8　Economy

	-Sales tax/Income tax -Part-time jobs -Grammar: Conjunctions A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 9　Sports -Popular sports in Japan -Japanese athletes -Grammar: Conjunctions A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 10　Changes in Japanese Sports -History of sports in Japan -Traditional sports in Japan -History of sumo -Grammar: Comparative A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 11　Favorite Places to Visit -Popular areas to visit in Japan -Traveling in Japan -The bullet train -Grammar: Superlative A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 12　Japanese Cooking -Tradition Japanese ingredients -Popular homemade dishes -Umami -Grammar: relative pronouns A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 13　Japanized Foreign Culture -Foreign food in Japan -Foreign holidays and festivals in Japan -Grammar: Relative adverbs A:多　B:少　E:あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. Class 14　Final Exams Final Exams Class 15　Review -Final Exam return -Review of the course
教育目標との関連	Students will gain the ability to talk about and explain Japanese culture.
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	3. Students will acquire the English skills needed to talk about and explain different aspects of Japanese culture. 4. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. 2. Students will be gain a new understanding and appreciation of Japanese culture.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Final Exam: 40% Vocabulary quizzes: 20% Writing assignments: 20% Homework: 20%
教科書	「Real-Time Japan in Basic English」 JACET　編　朝日出版社　出版
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	Office hours will be posted on the instructor's door.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称：　教育実習指導　　授業コード：

英文科目名称：　Instruction for Teaching Practices in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	１単位	幼免必修
担当教員			
石見容子、松田、安田			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G202
添付ファイル			
ルーブリック教育実習指導 (2).xlsx			
カリキュラムマップ教育実習指導 (1).xlsx			

講義概要	教育実習に向け、これまで学んできた理論や技術を教育実習でどのようにいかしていくか具体的に考え、自己課題を設定する。実習生として有るべき姿、実習に臨む姿勢について考え、準備を整える。また、教材研究の時間を十分に取り、保育を計画することの重要性に気づき、実践力につなげていく。 他科目との関連：保育実習指導Ⅰ（保）で、保育実習に向けた事前事後指導において学んだ心構えや、実践的な保育技能の修得の上に、さらに幼稚園教諭として望ましい教師像を形成できるようにする。 担当教員（石見）は、国内外の幼稚園において、10年以上の実務経験がある。幼児理解に基づいた環境の大切さや、子どもを主体とすることの重要性について、演習や討論を通してともに学びを深めていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション　「教育実習指導」の授業内容について 教育実習の概要と、学内で定めた実習の履修基準について理解する。 幼稚園教諭の多様な役割について理解する。 課題：保育者に求められる資質についてレポート作成 復習：シラバスと手引きを読み返し、大切な箇所に下線を引く。（約１時間） Ｂ：少　Ｆ：あり 第2回　保育実習と教育実習の違い 保育実習と比較し、教育実習の内容を理解する。実習に向けての目的意識をもつ。また実習生としての責任と役割を自覚する。幼稚園教諭に求められる知識と態度について考え、現在の自分と比較することによって教育実習前の自己課題を明確化する。 課題：授業内で視聴するDVDついてレポート作成 予習：手引き内、保育実習と教育実習のページを読み、違いについて書き出す（約1時間） 復習：本日のノートで大切な箇所に下線を引く。授業内で視聴したワークに取り組む（約1時間） Ｂ：少　Ｆ：あり 第3回　記録すること、計画することの意義 指導力、技術力の大切さについて、自身の力を振り返り、次の課題を考えるきっかけとする。また、幼児理解を基に記録をとることの大切さを確認する。 課題：授業内でワークに取り組む 予習：保育実習の日誌で大変だったこと、困ったこと、工夫したことを挙げておく（約1時間） 復習：教科書内、日誌の書き方のページと指導計画の立て方のページを読む（約１時間） Ｂ：少　Ｆ：あり 第4回　記録の書き方のポイント 日誌についての書き方を確認し、これからの自身の課題について考えるきっかけとする。 課題：授業内でワークに取り組む 予習：教科書の日誌の書き方について読み、わからないところにチェックしておく（約1時間） 復習：本日のワークに取り組み、大切と思う箇所に下線を引く（約１時間） Ｂ：少　Ｆ：あり 第5回　実習に向けて、自己課題の設定 個人票の作成を主な活動とする。 その中で、各々の実習に向けての目的や目標を明確にし、達成のための具体的手立てを考える。 課題：授業内で仲間の意見を聞きながら各自の目標を考える。 予習：教科書を読み、前回の保育所実習を思い出しながら次の実習について期待を持つ（1時間） 復習：教育実習前の自己課題について考える。（約１時間） Ｄ：多　Ｆ：あり 第6回　日誌の書き方①ー１ 日誌の書き方を再確認し、実際に動画を視聴しながら日誌にまとめてみる 課題：DVDを視聴し、ワークに取り組む 「実習の課題」を作成する。 予習：日誌の書き方のページを読み、不安な点や、保育所実習でうまくできなかった場面を記しをしておく（1時間） 復習：ワークに取り組む（約１時間） Ｄ：多　Ｆ：あり 第7回　日誌の書き方①ー２ 日誌の書き方を修得し、実際に動画を視聴しながら日誌にまとめる練習をする。 課題：授業内ワークに取り組む 予習：教科書の日誌のページを読み、書き方の確認をする（1時間） 復習：ワークに取り組む（約１時間） Ｂ：少 第8回　日誌の書き方②ー１ 違った形での日誌の書き方（エピソード記述式）について理解する 課題：日誌の書き方ワークに取り組む 予習：教科書のエピソード記述のページを読み、わかりずらい箇所に記しをする（1時間） 復習：本日のワークに取り組む（１時間） Ｂ：少　Ｆ：あり

	第9回　日誌の書き方②ー２ エピソード記述式の日誌について理解を深める 予習：前回のプリントを見直す（1時間） 復習：ワークに取り組む（１時間） Ａ：多　Ｆ：あり 第10回　学内オリエンテーション グループごとに教育実習をイメージし、実習に向けての目標を確認する 予習：手引きの教育実習について書かれたページを読む（1時間） 復習：実際の実習に向けて、目標と、自身の成長のための具体的手立てをまとめる（約１時間） Ａ：多　F:あり 第11回　指導計画の立て方 指導計画の立て方、書き方を確認する 予習：教科書の指導計画についてのページを読む（1時間） 復習：ねらいと内容についての書き方を確認する（１時間） Ａ：多　F:あり 第12回　幼児理解と指導計画の関連について 実際の保育の様子を一部見て、指導案におこす 課題：自分なりに考えた保育者の配慮などを書き込み、指導案を完成させる 予習：教科書の指導計画についてのページを読む（1時間） 復習：指導案の作成。（１時間） Ａ：多　F:あり 第13回　模擬保育 前回にかいた指導案を、仲間と相互添削し、新たな学びを得る 予習：指導案のページを読み、書き方やポイントを確認する（1時間） 復習：仲間からももらったコメントを読み返し、次の課題について考える（1時間） Ｂ：多 第14回　直前オリエンテーション 実習を通した気付きや学びについてのプレゼンテーションを行う。 幼稚園教諭として必要な知識と態度を身につけるために、教育実習の自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 予習：実習に行くことを想定した服装など準備する（1時間） 復習：1回目～14回目までの授業ノートを読み返し、振り返る（１時間） Ｄ：多 第15回　実習事後指導、実習を振り返り、自己課題について考える
教育目標との関連	保育者として、理論に基づいた確かな知識を身につける。実技指導は、授業内で学んだものを模擬保育などの実践を通して保育技術修得を目指す。 また実習生としての立場を理解し謙虚にかつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行うことで、社会生活に必要な教養を身に付ける。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.幼稚園の役割や機能を具体的に説明できる。 2.保育を計画・実践・評価し、改善に必要な方法を判断することができる。 3.これまでに獲得した保育の知識と技術を適切に活用することができる。 4.実習の目的・意義を理解し、自ら立てた実習課題に主体的に取り組む。 5.実習生として保育者としてふさわしい人間性をを身につけ、他者と協調することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	提出課題60%　指導案や授業内における課題の理解度で評価する。 受講態度40%　実習に必要な手続きが期限内に提出しているか評価する。 授業内でルーブリックを示し評価方法を解説する。
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』2017　小櫃智子他　わかば社　1400円（税別）
参考書	『幼稚園教育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回、予習復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	教育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。
オフィスアワー	限定コメント及び対面授業の際に受け付ける。
備考・メッセージ	原則、対面授業で実施する。なお、諸般の状況を鑑み、遠隔授業になる場合もある。授業内容は、学生の理解度などにより、変更の可能性がある。

講義科目名称： 教育実習　　授業コード：

英文科目名称： Teaching Practices in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	４単位	幼免必修
担当教員			
石見容子、松田、安田			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G201
添付ファイル			
カリキュラムマップ教育実習.xlsx			
ルーブリック教育実習 (2).xlsx			

講義概要	各幼稚園での指導を受ける。保育観察・保育参加・責任実習などを通して、幼児理解をはじめ、記録や計画の大切さに気付く。実際の保育を経験することにより、使命感や責任感を持って教育実践できる能力を身につけることを目的とする。また事前に立てた各々実習課題を追究する。幼稚園では子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識し、常に学ぶ姿勢をもち、体調に留意しながら実習に臨む。 授業担当者(石見)は、国内外の幼稚園における実務経験、並びに現場においての実習指導経験を有する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	幼稚園の機能と役割 １．実習園の概要を知る ２．幼稚園の1日の流れを把握する ３．保育室の環境構成について理解する ４．園と家庭・地域・小学校との連携の意義と方法について理解する 幼児理解と援助方法 １．幼児の遊びに参加し、こどもの実態について理解する ２．遊びや生活における発達段階の違いを理解する ３．配属クラスの特徴及び個々のこどもの特徴について理解する ４．保育における保育者の援助の在り方を理解する ５．特別な配慮を必要とする子どもへの関わり方について理解をする 保育計画の作成・実践・記録・評価 １．実習記録の取り方、省察について学ぶ ２．月案・週案を参考に、こどもの実態に応じた指導計画を作成する ３．指導計画の立案、保育実践、評価、改善を通してカリキュラムマネジメントについて理解する。 幼稚園教諭の役割と職業倫理 １．幼稚園教諭の職務内容を理解する ２．教員間の役割分担や連携について理解する ３．幼稚園教諭の職業倫理を学ぶ ※以上の内容について、３週間の実習を行う。教員が巡回指導を行い、スーパービジョンを実施する。
教育目標との関連	幼稚園での実習を通して、幼児と愛情を持って接するなかで、幼児の心身の発達についての具体的な知識と確かな保育技術を修得する。また、保育現場に自ら身を置くことにより、社会生活に必要な教養を身につける。実習体験は、保育者としての使命感や倫理観を養うとともに、保育者への適性を見直すこととなり、自己理解を深めることに繋がる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．実習園の特色及び、幼稚園の役割や機能を具体的に説明できる。 ２．幼児理解に基づいた保育を計画・実践・評価し、改善に必要な方法を判断することができる。 ３．これまでに獲得した保育の知識と技能を保育現場において適切に活用することができる。 ４．幼稚園教諭の職務や専門性を理解し、自ら立てた実習課題に主体的に取り組む。 ５．幼稚園において教職員と協働し、深い愛情をもってこどもたちに接することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習園が与えた評価　　40% 実習日誌など　　60% 授業内でルーブリックを示し評価方法を解説する。 ※委細については、保育・教職の手引きを参照すること。

教科書	なし
参考書	『幼稚園教育要領解説』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	教育実習指導の授業内容の復習をしておくこと。実習について省察をすること。
履修上の注意、条件等	本実習科目を履修するにあたっては、合わせて教育実習指導を履修しなければならない。 本科目を修得できない場合は、教育実習指導も修得できない。
オフィスアワー	質問は授業の前後に受け付ける。また、実習中の質問は実習センターでメールまたは電話にて受け付ける。
備考・メッセージ	より良い教育実習を実施できるよう、自ら努力する姿勢が求められます。主体的、積極的な態度で実習に臨みましょう。

講義科目名称： 保育原理　　授業コード：

英文科目名称： Principles of Early Childhood Care and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
松田　清美			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：A105
添付ファイル			
松田清美　保育原理　カリキュラムマップ.pdf			
松田清美　保育原理　ルーブリック.pdf			

講義概要	前半では、保育の意義・目的や制度および保育の思想や歴史的変遷を学ぶことによって保育について広く捉えていくことを目指す。続いて、保育の内容や方法について「養護と教育」「保育の環境」「子ども理解」を中心に、主に保育所保育指針に拠りながら理解していく。終盤では、保育者としての専門性に関する理解を深め、現代の保育や子どもをめぐる状況を多角的に捉える視点を養い、現在とこれからの保育を考えていく力を養うことをめざす。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　保育者の資格と保育の法令・制度 保育者の資格と、保育所・幼稚園・認定こども園に関する法令や制度を理解する。 予習：シラバスとテキスト第1章第1節、第5章を読む。（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。（約1時間） B：少　E：あり 第2回　保育の理念・目的と社会的意義 保育は理念や目的・目標等について、理解する。特に現代における保育の社会的意義について考える。 予習：テキスト第1章第2・3節を読み、概要を理解する。（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、自身の考えを深める。（約1時間） B：少　E：あり 第3回　海外の保育思想：ルソーとフレーベル ルソーとフレーベルについて、子ども観と保育方法を中心に学ぶ 予習：テキスト第3章第1節を読み、概要を理解する（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、重要事項を確認しつつ、理解を深める。(約1時間) B：少　E：あり 第4回　海外の保育思想：オーベルランとオーエン オーベルンランとオーエンについて、フレーベルと比較しながら、その思想や実践の特徴を学ぶ。 予習：テキスト第3章第2節を読み、概要を理解する。(約30分) 復習：授業内容を振り返り、重要事項を確認しつつ理解を深める。(約1時間) B：少　E：あり 第5回　日本の保育の歴史 明治期に、幼稚園や託児所が誕生した背景や特徴を知る。また、二葉保育園など歴史的功績を残した保育施設やそこでの実践について学ぶ。 予習：テキスト第4章を読み、重要事項を整理する。（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。（約1.5時間） B：少　E：あり 第6回　日本の保育思想：倉橋惣三と城戸幡太郎 倉橋惣三と城戸幡太郎について、比較をしながらそれぞれの思想や実践を学ぶ。 予習：テキスト第3章を読み、重要事項を整理する。（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。(約1時間) B：少　E：あり 第7回　保育所保育指針にみる保育の基本 保育所保育指針に則り、保育所保育の基本事項を学ぶ。 予習：保育所保育指針を読み、理解している箇所と理解していない箇所を明確にする。（約1時間） 復習：授業内容を振り返り、新たに学んだ事項を中心に、理解を深め定着させる。(約1時間) E：あり 第8回　保育所保育の基本：養護と教育 養護と教育を一体に行う保育について、自身の実践経験をもとに考え、学ぶ。 予習：テキスト第6章を読む。(約0.5時間) 復習：授業内容を振り返り、理論と実践に対する理解を深める。(約1時間) B：中　D：少　E：あり 第9回　保育所保育の基本：環境を通して行う保育 環境を通して行う保育について、自身の実践経験をもとに考え、学ぶ。 予習：テキスト第7章第1節を読む。自身の経験と結びつけながら理解する。(約0.5時間) 復習：授業内容を振り返り、理論と実践に対する理解を深める。(約1時間) B：中　D：少　E：あり 第10回　保育者の役割と専門性：子ども理解と援助 保育者の子ども理解や援助について、保育者の実践事例をもとに考え、理解を深める。 予習：テキスト第2章を読む。特に第1節を丁寧に読み、要点を捉える。(約1時間) 復習：授業内容を振り返り、これまでの自身の実践も振り返りながら理解を深める。(約1時間) B：少　E：あり 第11回　保育者の役割と専門性7：保育者のチームワーク

	保育者のチームワークについて、保育所で実際に起った事故の事例をもとに考える。 予習：テキスト第9章を読む。(約o.5時間) 復習：授業内容を振り返り、考えを深める。(約1時間) B：中　E：あり 第12回　現代の子どもと保育をめぐる問題：資料収集とレポート作成 現代の子どもと保育をめぐる問題について学ぶ。さらに、各自で特に関心のあるテーマを決め、情報を収集し、レポートを作成する。 予習：テキスト第12章を読み、関心のあるテーマについて考える。（約1時間） 復習：レポートを仕上げる。（約2時間） B：小　E：あり　F:あり 第13回　現代の子どもと保育をめぐる問題：発表とディスカッション 各自が作成したレポートをグループ内で発表し、意見交換をする。 予習：レポートを見直し、発表の準備をする。(約2時間) 復習：自身と他者の発表を振り返り、内容に対する理解を深める。（約1時間） B：中　D：多　E：あり 第14回　定期試験 試験を実施した後、教員による解説を踏まえて振り返りを行う。 予習：試験に向けて、これまでの学習内容を定着させる。(約2時間) 復習：試験においてできなかった箇所を中心に再度学習し、身に付ける。（約1時間） B：少　E：あり 第15回　本科目のまとめ これまでの学習を振り返り、成果を確認するとともに、今後の自己課題を明確にする。 予習：第1回から第14回までの学習を確認する。(約1時間) 復習：これまでの授業内容を振り返り、学びの定着を高める。（約1時間） E：あり
教育目標との関連	保育についての知識や保育者の専門性について理解を深めるとともに、保育者をめざす自己を見つめることを目標とする。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1：保育の意義・制度・思想・歴史等について理解している。 DP2：保育の基本に基づき、保育者としてふさわしい考え方を身に付けている。 DP4：子どもや保育について広く関心をもち、向上心や課題意識を持って取り組むことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．課題等の提出物…50% 試験…50% ２．添付の評価基準を参照のこと
教科書	・『保育原理　はじめて保育の扉をひらくあなたへ　第2版』咲間まり子監修　中野明子・林悠子編　みらい　2019年 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年
参考書	・『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業計画欄を参照のこと
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	研究室にて、質問等に対応する
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育者論　　授業コード：

英文科目名称： General Theory of Early Childhood Caregivers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
森下匡子			
授業形態：対面	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A201
添付ファイル			
コピー2020ルーブリック保育者論　(1).pdf			
2020カリキュラムマップ　保育者論　.xlsx			

講義概要	「保育者論」は、保育者としての意義、役割及び専門職としての資質について学ぶ。多種多様な時代を生き抜いていく子どもたちが最初に経験する社会生活に関わる中で、保育者の重要性を考え、求められる保育者像を明確にする。保育職を目指すものとして、自己の振り返り、自身に必要となる専門的な学びを深める。 他の科目との関連：「保育原理」で学ぶ保育に必要な基礎的事項や、保育全般の理念など、保育者としての角度から学ぶ。 「保育実習Ⅰ」での経験をもとに、保育現場での実践から、保育者の資質能力について学びを深める。 講師は私立幼稚園での担任教諭、保育園での保育士経験、親子教育研究センターでの子育て支援スタッフ、公共ホールでの託児事業担当、公立小学校での支援員などの経験から、子供の成長に合わせた保育の事例を基に、保育現場での実践につながる内容を授業に取り入れている。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　保育者とは 保育者とはどのような人のことをいうのか。保育者の仕事の本質・特性について考える。また、授業ガイダンスにおいて、授業の内容を確認する。 予習:教科書P3～12（30分）　教科書ワークあり　30分　F：あり 第2回　保育者になるために 幼稚園教諭免許、保育士資格について学ぶ。また、保育者に求めに求められる心構えや服務について考えを深める。予習:教科書P23～28(30分)　教科書ワークあり　30分　F：あり 第3回　幼稚園教諭の仕事とその一日 保育幼稚園教諭の仕事について、DVD教材を通して具体的に学ぶ。また、幼児の集団生活の中での保育者の指導方法について考えを深める。　予習：教科書P37～40　(30分)　F：あり 第4回　保育士の仕事とその一日 保育士の仕事について、教科書を通して具体的に学ぶ。また、保育実習Ⅰの経験から、保育士の姿、子どもとのかかわり方をまとめ、各自の課題を明確にする。　予習：教科書P72～74　F:あり 第5回　子どもの内面や発達を理解する保育者 子どもの発達について考えを深める。教科書の事例から子どもの姿と保育者のかかわり方を読み取り、子どもの発達を支える重要性を学ぶ。　予習：教科書P77～85を読む（30分）F：あり 第6回　遊びを援助する保育者① 子どもの成長発達における遊びの重要性について考えを深める。子どもにとっての「あそび」とは、子どもの興味関心を捉え、次にの姿を予測する保育の効果を学ぶ。　予習：教科書P95～100 F:あり 第7回　遊びを援助する保育者② 遊びの体験を通して、個別の遊びから集団遊びへの援助について学ぶ。また、子どもが遊びを通して成長する過程について考えを深める。　教科書P106～110　F:あり 第8回　個と集団を活かす保育者 個と集団の違いやとらえ方を、保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園保育要領などからまとめる。保育者のかかわり方で集団での個の成長発達につながる重要性を学ぶ。　予習：教科書P113～121（30分）F：あり 第9回　家庭や地域と連携・支援する保育者　多様な子どもの理解と支援する保育者 家庭や地域との連携、園とのかかわり方を学ぶ。特に現代における子育て支援の必要性について、社会資源としての園の在り方について考える。　予習：教科書P133～138 教科書ワークあり(30分) 現代社会における子どもの問題や社会的課題により生じる子どもの多様性について学ぶ。そのうえで、保育現場での対応、保育士のかかわり方を理解する。また、海外での保育事情に触れ、保育に対する考え方を学ぶ。　F：あり 第10回　教材などを通して学びを深める保育者① 子どもの興味関心を強め、豊かな経験につながる保育教材について学ぶ。幼稚園教育実習の経験から実際の教材の取入れ方法や、子どもへのアプローチの方法をまとめる。　予習：教科書P183～188を読む(30分)　F:あり 第11回　教材などを通して学びを深める保育者② 11回目の授業で学んだ教材についてまとめ、自身が実際に保育に活かせる教材について、その目的と、方法を考える。また、その教材を活かした保育内容をまとめる F:あり 第12回　成長する保育者と同僚性 保育現場でのチームワークの重要性を学ぶ。保育の中の協同性、協調性について考えを深める。予習：教科書P193～201を読む　30分　教科書ワークあり　(30分)　F:あり 第13回　保育者の専門性についてまとめる 保育者として求められる資質、能力について、学生自身の考えをまとめる。さらに保育の質の向上の重要性について学びを深める。 1　予習：教科書P209～216を読む　(30分)　F:あり

	第14回　まとめ 13回の授業内容を範囲とした筆記試験 予習：今までの授業ノートをまとめる　3時間 第15回　振り返り 試験の振り返りをし、13回の授業をまとめる。 予習　試験について自己評価をしておく（1時間）
教育目標との関連	保育者の職務の意義や内容について知識を深め理解し、保育者としての基本を身につける。また、保育者の職務の意義や内容について自身が考察し、保育者としての適切な判断ができることが重要と考える。そのうえで保育現場で必要となる環境構成や、子どもの遊びを支える技術を確実に身につける学びを深め、実践力へとつなげる。さらに保育に関わる視聴覚資料や参考資料により、子どもの育ちに興味関心を持ち保育者に対する意欲を高める。保育者論の学びを通して、保育者としての責任感を持ち、自覚しながら行動することは保育現場でも求められる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１、保育者としての本質を理解し、保育の専門性を深める知識を身につける ２、保育内容の向上を目指し、保育現場での実践につながる方法を理解する
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	割合　評価基準 筆記試験　70%　14回目に筆記試験を実施 課題　20%　各授業毎に出された課題の提出期限と内容を評価する。 授業態度　10%　毎回の授業態度　授業中の約束の厳守などを評価する。
教科書	アクティベート保育学02 『保育者論　』　大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸［編著］　ミネルヴァ書房　2019年4月30日出版　定価2000円（税別）
参考書	保育所保育指針　厚生労働省 編　フレーベル館　2018年3月23日発行　定価320円(税別) 幼稚園教育要領　文部科学省編　フレーベル館　2018年3月23日発行　定価240円(税別) 認定こども園保育要領　内閣府　文部科学省　厚生労働省編　フレーベル館　2018年3月29日発行　定価350円(税別)
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	教科書の指定ページをよく読み予習をすること。 毎回の授業記録をノートにまとめ、授業内容を復習する。
履修上の注意、条件等	保育者を目指す学生としての自覚を持ち、授業に取り組むこと。
オフィスアワー	授業の前後に質疑応答の時間を設ける
備考・メッセージ	全て対面授業とする 各回、授業内容をノートに記録し、毎回の授業に教科書　ノートを用意すること

講義科目名称： 社会福祉　　授業コード：

英文科目名称： Social Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	１年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
森脇　晋			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A101
添付ファイル			
カリキュラムマップ【社会福祉】.pdf			
ルーブリック【社会福祉】.pdf			

講義概要	本科目は、社会福祉系科目の入り口であり、後続する社会福祉系科目を学修し、実習や就職後に活用できるようにするために、社会福祉系科目の共通概念を捉えることが極めて重要といえる。一方、社会福祉課題は常に変化し、制度・実施体制を理解・活用することは子どもの成長に対して日々直接的に関わっている保育者にとっては苦手分野であることが多い。こうしたことを鑑みて、本科目では社会福祉の普遍的な概念を意識し、「子どもの最善の利益」を追求する社会福祉の専門職の在り方の全体像を把握できることを志向する。 【他科目との関連】 子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、子ども家庭支援論等の科目を学修するにあたっての基本的な概念を学ぶ。 【担当教員の実務経験】 母子生活支援施設の施設長、全国母子生活支援施設協議会の総務委員長、高齢･障害者在宅ケア施設の評議員等の経験等で培った実践知を元に、社会福祉の概念を教授する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション、社会福祉の理念と概念（対面） ・この講義全体の説明を聞き、全15回で社会福祉にどんなことを学ぶのかの全体像を持つ。 ・現代社会の動向および社会福祉の理念と概念について学ぶ。 予習：教科書P11の「ｲﾒｰｼﾞをつかむｲﾝﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」、P12･19の「3分Thinhing」を考える。(60分) 復習：教科書P24の「学びを振り返るｱｳﾄﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」で授業内容を振り返る。(60分) B少　E有　F有 第2回　社会福祉の歴史（対面） ・欧米の社会福祉の歩みについて学び、理解する。 ・日本の社会福祉の歩みについて学び、理解する。 予習：教科書P27･28の「ｲﾒｰｼﾞをつかむｲﾝﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」、P29･30･33の「3分Thinhing」を考える。(60分) 復習：教科書P39の「学びを振り返るｱｳﾄﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」で授業内容を振り返る。(60分) B少　E有　F有 第3回　社会福祉法制（対面） ・福祉分野の法律について学び、理解する。 ・社会福祉基礎構造改革と福祉サービスの利用の仕組みを学び、理解する。 予習：教科書P41の「ｲﾒｰｼﾞをつかむｲﾝﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」、P42･49の「3分Thinhing」を考える。(60分) 復習：教科書P53の「学びを振り返るｱｳﾄﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」で授業内容を振り返る。(60分) B少　E有　F有 第4回　社会福祉の実施体系（対面） ・社会福祉の行政機関、民間専門機関、団体実施体系を学び、理解する。 ・社会福祉の財源を学び、理解する。 予習：教科書P55･56の「ｲﾒｰｼﾞをつかむｲﾝﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」、P57･62･64の「3分Thinhing」を考える。(60分) 復習：教科書P67の「学びを振り返るｱｳﾄﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」で授業内容を振り返る。(60分) B少　E有　F有 第5回　社会福祉の施設と専門職（対面） ・社会福祉施設の概要を学び、理解する。 ・社会福祉の専門職について学び、理解する。 予習：教科書P69の「ｲﾒｰｼﾞをつかむｲﾝﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」、P70･72･64の「3分Thinhing」を考える。(60分) 復習：教科書P80の「学びを振り返るｱｳﾄﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」で授業内容を振り返る。(60分) B少　E有　F有 第6回　社会保障制度（対面） ・社会保障制度について学び、理解する。 ・社会保険・公的扶助について学び、理解する。 予習：教科書P82･83の「ｲﾒｰｼﾞをつかむｲﾝﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」、P84･86･90の「3分Thinhing」を考える。(60分) 復習：教科書P98の「学びを振り返るｱｳﾄﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」で授業内容を振り返る。(60分) B少　E有　F有 第7回　第1~6講の振り返り（対面） ・第1～6講を振り返える。　(第1回小テスト①) ・第1～6講にかかる保育士試験に取り組んでみる。　(第1回小テスト②) 予習：第1～6講を教科書を中心に振り返っておくこと。(60分) 復習：第1回小テストを振り返えること。(60分) B少　E有　F有 第8回　子ども家庭福祉の法と制度（対面） ・子ども家庭福祉の理念を学び、理解する。 ・子どもと家庭への支援と子ども家庭福祉制度・子育て支援にかかる今日的動向について学び、理解する。 予習：教科書P100の「ｲﾒｰｼﾞをつかむｲﾝﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」、P102･106･111の「3分Thinhing」を考える。(60分) 復習：教科書P116の「学びを振り返るｱｳﾄﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ」で授業内容を振り返る。(60分) B少　E有　F有 第9回　高齢者福祉の法と制度（対面） ・高齢者を取り巻く状況を学び、理解する。

	・高齢者を支える法制度・地域包括ケアシステムについて学び、理解する。 予習：教科書P118･119の｢ｲﾒｰｼﾞをつかむｲﾝﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ｣､P120･121･126の｢3分Thinhing｣を考える。(60分) 復習：教科書P129の｢学びを振り返るｱｳﾄﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ｣で授業内容を振り返る。(60分) B少　E有　F有 第10回　障害者福祉の法と制度（対面） ・障害者福祉の理念を学び、理解する。 ・障害者を支える法制度・障害者福祉にかかる今日的動向について学び、理解する。 予習：教科書P131の｢ｲﾒｰｼﾞをつかむｲﾝﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ｣､P132･138の｢3分Thinhing｣を考える。(60分) 復習：教科書P145の｢学びを振り返るｱｳﾄﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ｣で授業内容を振り返る。(60分) B少　E有　F有 第11回　社会福祉とソーシャルワーク（対面） ・ソーシャルワークの概要・体系を学び、理解する。 ・相談援助におけるバイステックの７原則・ソーシャルワークの実践モデルと視点について学び、理解する。 予習：教科書P147･148の｢ｲﾒｰｼﾞをつかむｲﾝﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ｣､P149･152･157の｢3分Thinhing｣を考える。(60分) 復習：教科書P161の｢学びを振り返るｱｳﾄﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ｣で授業内容を振り返る。(60分) B少　E有　F有 第12回　福祉サービスの利用支援と権利擁護（対面） ・社会福祉における利用者支援について学び、理解する。 ・利用者の権利擁護・苦情解決・第三者評価・成年後見制度等について学び、理解する。 予習：教科書P163･164の｢ｲﾒｰｼﾞをつかむｲﾝﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ｣､P165･168･173の｢3分Thinhing｣を考える。(60分) 復習：教科書P178の｢学びを振り返るｱｳﾄﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ｣で授業内容を振り返る。(60分) B少　E有　F有 第13回　地域福祉の動向と課題（対面） ・地域福祉の動向について学び、理解する。 ・地域福祉の担い手と推進策について学び、理解する。 ・第8～14講を振り返える。　(第2回小テスト①) 予習：教科書P180の｢ｲﾒｰｼﾞをつかむｲﾝﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ｣､P181･184の｢3分Thinhing｣を考える。(60分) 復習：教科書P188の｢学びを振り返るｱｳﾄﾌﾟｯﾄﾉｰﾄ｣で授業内容を振り返る。(60分) B少　E有　F有 第14回　教科「社会福祉」の振り返り（対面） ・期末試験(60分) ・期末試験の模範解答を解説する。 予習：第8～14講を教科書を中心に振り返っておくこと。(60分) 復習：期末試験を振り返えること。(60分) B少　E有　F有 第15回　社会福祉の総括（対面） ・期末試験の振り返りを通して、社会福祉に関しする共通概念と種別による特性を振り返る。 予習：ﾆｭｰｽやﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ等で、社会福祉に関する記事を検索し、自身の考えを纏める。(60分) 復習：社会福祉の一翼を担う保育者となる為の自己課題と今後の学びに関して纏める。(60分) B少　E有　F有
教育目標との関連	1.社会福祉の概念を理解し、社会福祉系科目の学修に繋げる。 2.社会福祉的視点をもって地域および家庭に接することができる。 3.社会福祉の理論と各種技術の基本を理解し、他者と円滑なコミュニケーションを志向できる。 4.社会や福祉に広く関心を持ち、積極的に貢献しようとする意欲を養う。 5.子どもの最善の利益を追求する福祉の専門職として、何を成すべきかを考え実践できる素地を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷・社会福祉における子ども家庭支援の視点を説明できる。 2.社会福祉の制度や実施体系等を具体的に説明でき、社会福祉的な思考・判断に役立てることができる。 3.社会福祉における相談援助の基礎理論を理解し、その実践ができる。 4.社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて説明することができる。 5.社会福祉の動向と課題について多角的な視座で関心を持つことができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	＜評価方法＞ 期末試験：50% 学修到達度テストを行う。授業全般の理解度を評価する。 振り返りシート等の小テスト：50%　授業内容の理解度を評価する。 ＜評価基準＞ 添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	みらい×子どもの福祉ブックス「社会福祉」、志濃原亜美編集、みらい、2020年発行、2,100円
参考書	・必要に応じて授業中に適宜指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	・予習・復習がしやすい教科書を選定しているので、自らアクティブラーニングに努めることを期待する。 ・復習の課題に関しては、感じたこと・理解できなかったこと、疑問点に関しては、Googleクラスルームで提出すること。 ※Googleクラスルームに提出された課題に関しては、原則、提出後１週間程度でレスポンスを返す。
履修上の注意、条件等	・本科目は社会福祉系科目の基盤となるので、後続する科目に繋げる為にも、積極的に学んで欲しい。 ・小テストの評価配分が高いので、復習を怠らず、知識の定着に努めること。
オフィスアワー	・研究室にて受け付ける。時間は研究室掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	・すべての授業回は対面授業を予定しているが、オンライン授業になっても良いように準備しておく。 ・楽しく学べる講義を志向するので、積極的に講義に参加し、授業の感想を寄せて欲しい。 ・授業に関して、基本的に過剰支援はしないので、自ら学ぶ姿勢で取り組んで欲しい。

講義科目名称：　子ども家庭福祉　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
小川　一幸			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A102
添付ファイル			
カリキュラムマップ　子ども家庭福祉.pdf			
ルーブリック　子ども家庭福祉.pdf			

講義概要	現在の子どもを取り巻く社会的環境は大きく変化し、その結果として少子化、核家族化、家庭や地域の子育て機能の弱体化、経済的問題（子どもやひとり親家庭の貧困）、女性の社会進出による保育ニーズの増大・多様化など様々な課題をもたらしている。 そのような現実の中で、子ども家庭福祉は単に子どもを健やかに育てることを支援するだけではなく、子どもを育てている全ての親や家庭を支援するという社会的に重要な役割を担っている。 子ども家庭福祉の現状と役割について、毎回授業に関連する映像を見て、より現実を認識出来るように心掛け、グループディスカッション等も取り入れ、より理解を深める。 他の科目との関連：「子ども家庭福祉」は「社会福祉」の一分野であり、社会福祉全体の中での子ども家庭福祉の基本的枠組みを理解する。また、保育士の仕事は人との関りが不可欠であり、「相談援助」においては専門性を身に付け、実践に生かせるように学ぶ。 実務経験については、３８年間の社会福祉の実務経験あり、１８年間は児童福祉関係、特に１０年間は「児童相談所」で児童福祉司として子どもの支援に直接携わってきた。子どものおかれている現状や課題などについて、具体的な事例なども紹介しながら授業をすすめて行く。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　子ども家庭福祉を学ぶにあたってのガイダンス 「子ども家庭福祉」を学ぶにあたって、社会福祉全体の中での「子ども家庭福祉」の基本的な枠組みを理解する。子ども家庭福祉のとらえ方、児童等の定義、保育所・保育園の言葉使いの違いなどの共通理解を形成する。保育士の仕事の映像を見て、保育士の役割りは何かなどディスカッション等を通じて明らかにする。 予習：　テキストP13～16、「子ども家庭福祉を学ぶ前に」を読んでおく。 現在子ども家庭福祉が抱えている具体的な課題はどのようなものがあるか考えておく。　約４５分 Ｂ：少 第2回　少子（超）高齢社会と子ども家庭福祉 少子・（超）高齢社会と言われる中で、子どもの生活・養育環境が大きく変化してきている。社会の変容、地域・家庭の機能の弱体化が、家庭や子どもの生活にどのような影響を与えているのかなどを考察する。また近年、大きな社会問題になって２０２５年についても考える。 予習：　テキストＰ19～Ｐ32、「子どもと家庭を取り巻く現状」を読み、また家庭・社会・地域の変容の中での子どもの置かれている現状の課題などについて考える。　約４５分 A:少　B：中　Eあり 第3回　社会的養護と子ども家庭福祉 子ども家庭福祉の原点といえる社会的養護とはどのようなものなのか、また、社会的養護が必要とされる児童の現状、と特に平成２９年度に出された「新しい社会的養護ビジョン」の中で家庭養護中心に対応するとの方針が示されたが、その中心的役割を期待されている里親制度と特別養子縁組制度についも学ぶ。　第1回振り返り小テストを行う。（授業内容の理解度の確認）を行う 予習：乳児院、児童養護施設とはどのような施設なのか、また、里親制度の種類についても調べておく。テキストＰ147～Ｐ159、「社会的養護」を読んでおく。約４５分 Ａ：少　Ｂ：少　Ｅあり 第4回　子ども家庭福祉の歴史と子どもの権利 子ども家庭福祉の歴史を学び、今日の児童福祉制度がどの様に形成されてきたのかをそれぞれの時代の社会背景を踏まえて理解を深めていく。 昭和２２年、戦後まもなく成立したすべての児童を対象とするとの理念を持った児童福祉法が平成２８年に改正され、より子どもの権利が明確化された。日本における子どもの権利についての現状と子ども観の変容、「子どもの権利条約」が批准された経過やのその内容について学習する。 予習：テキストＰ33～Ｐ47、「子どもの権利」を読んでおく。約４５分 Ｂ：少　Ｅありれた。 第5回　子ども家庭福祉の法律と児童福祉行政・実施機関 ども家庭福祉の基本法である児童福祉法をはじめとする子ども家庭福祉を支えている「児童福祉六法」と、それに基づく法体系のあらまし、子ども家庭福祉施策を推進していく実施（相談）機関について学ぶ。特に子どもの相談機関の中心となっている児童相談所の具体的業務内容、役割などについて事例やDVDの映像を利用して理解を深める。 予習：テキストＰ64～Ｐ75「子ども家庭福祉に関係する法律」、テキストＰ78～Ｐ80、「子ども家庭福祉の行財政と実施機関、テキストＰ83～Ｐ85「子ども家庭福祉を支える機関」を読んでおく。約４５分 Ｂ：少　Ｅあり 第6回　児童福祉施設と子ども家庭福祉 児童福祉施設の果たしている役割、種類とその概要、設置と運営、利用の現状などを学び、地域・在宅福祉と施設福祉の機能の特徴、児童福祉施設の今後の方向性などについて考察し、話し

		合う。 予習：P87～88「児童福祉施設及び事業」を読んでおく。約４５分 Ｂ：少　Ｅあり 予習：１回目～5回目までのレジュメを読んでおく 【振り返り２】第1回～第5回までの振り返り小テストを行う。（授業内容の理解度の確認）を行う
	第7回	保育サービスと子ども家庭福祉 保育所は子ども家庭福祉の中でも人々の関心とニーズが高いサービスである。その制度の概要や歴史的役割の変化と保育所の抱えている現状と課題、特に待機児童の増加にに伴い認可外保育施設の増加の是非などについて考え、話し合う。 予習：待機児童問題について考え、、テキストＰ121～Ｐ131+、「保育サービス」を読んでおく。約６０分 Ａ：少　Ｂ：少　Ｅあり
	第8回	子ども子育て支援新制度と子ども家庭福祉 子ども・子育て支援に関する制度改革が、平成２７年度より「子ども・子育て支援新制度」として実施された。施設型給付・知育型保育給付が設けられ、地域の子ども・子育て支援の充実などがうたわれ様々な子ども育成施策がとられてきている、その制度の内容、現状の課題などについて学ぶ。 予習：テキストＰ100～Ｐ107「子ども・子育て新制度の事業」を読んでおく。約６０分 Ｂ：中　Ｅあり
	第9回	母子保健と子ども家庭福祉 母子保健法は児童福祉法から独立した法律であり、妊娠期から幼児期における母と子の健康を支援する施策、実施体制、サービスの概要などについて学ぶ。子ども虐待による死亡事例は乳幼児の子どもが多く占めており、特定妊婦の支援、子育て世代包括支援センターの活動と子ども家庭福祉との連携などについて考察する。 予習：テキストＰ109～Ｐ120、「母子保健サービス」テキストＰ110～Ｐ119、を読んでおく。約４５分、 Ａ：少　Ｂ：少　Ｅあり
	第10回	障がいがある子どもの福祉 障がいとは何か、障がいの定義と障がいの捉え方の変遷、障がい児に対しての具体的な支援施策、ノーマライゼーションについての理念、障がいの理解を妨げている「社会的障壁（しょうへき）なのについての理解を深める 予習：テキストＰ109～Ｐ120、「障がいのある子どもの福祉」を読んでおく。約４５分、 Ａ：少　Ｂ：少　Ｅあり
	第11回	ひとり親家庭と貧困について ひとり親家庭が年々増加している中で、ひとり親家庭の生活の実態とどのような課題を抱えているのか実態とその課題を学び、ひとり親家庭を支えるのに必要な支援について考える。また、ひとり親家庭の貧困率は４８，２％とＯＥＣＤ加盟国の中で高い数値を示している。貧困の種類、貧困の定義、母子世帯の貧困の実態について映像を見て、実態を学ぶ。 予習：テキストＰ161～Ｐ177、「ひとり親家庭への福祉」を読んでおく。約３０分 Ｂ：少　Ｅあり
	第12回	児童虐待と子ども家庭福祉（原因）ー１ー 童虐待の相談件数は２０万件を超え、また死亡事例の増加などにより、社会的にも大きな関心を集めている、子ども家庭福祉の中でも大きな課題の一つである。児童虐待についての種類や内容、児童虐待が生じる保護者の背景や現状を学び、なぜ虐待をしてしまうのか原因を話し合う、 予習：テキストＰ135～Ｐ141、「児童虐待」を読んでおく。約４５分 Ａ：少　Ｂ：少　Ｅあり
	第13回	児童虐待と子ども家庭福祉（対応）ー２ー 児童虐待への対応には子育て支援を中心とした予防的なものと、虐待そのもに法的権限を持って対応するものがある。子どもの命を救うための児童虐待に対する児童相談所の持っている法的権限の内容とどのように行使するかなど、児童相談所が実際に子どもを救出する映像を利用しながら理解を深める。 予習：テキストＰ135～Ｐ141、「児童虐待」を読んでおく。約４５分 Ａ：少　Ｂ：少　Ｅあり
	第14回	子ども家庭福祉の総括と学習到達点の確認テスト １回目～１４回目の授業についての総括を行い、この回の中で学習到達度の確認テストを実施する 予習：１回目～１３回目まで配布したレジュメ、特に授業の中で重要と指摘した項目を中心を読んでくる。約２時間
	第15回	子ども家庭福祉の課題と展望 子ども家庭福祉は社会福祉制度の中でも特に大きな役割を担っており、子どもの豊かな育ちと権利擁護の実現を目指している。子どもを取り巻く社会・生活環境・家庭機能が大きく変わっている中で、これからの子ども家庭福祉の役割と課題、特に、保育士の役割りについて考察し、話し合う。 Ａ：少　Ｂ：少　Ｅ：中
教育目標との関連	保育士は、２００３年（平成１５年）より法制化された国家資格である。保育士は単に保育所に通園している子どもの保育に携わるだけでなく、子どもを養育している家庭、地域の子育て家庭への養育支援などの役割を果たすことを担わされており、様々な知識を要求されている。保育士や幼稚園の教諭は単に技術や知識を習得するだけではなく、「福祉は人なり」といわれているように、関わった人との信頼関係を築くことが出来、生	

	活実態や課題をしっかり理解し、プライバシーを尊重し人権を重んじるという考え方や実践力を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.現在の子どもを取り巻く社会的環境は大きく変化し、少子化、核家族化、家庭や地域の子育て機能の弱体化、などによって様々な課題をもたらしていることを理解し的確に説明できるように学ぶ 2.子ども家庭福祉の基礎をなす法律の体系を理解し、それに基づく援助の制度・実施体制などについて類別することができるように学ぶ 3.今日の子どもの置かれている状況や子ども家庭福祉の抱える課題について理解出来、どのような支援・援助体制があるかなど表現できるように学ぶ。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	試験　８０％　定期試験を実施して、授業内容全般についての理解度を評価する。 提出課題　５％　与えられた課題を講義内容との関連での理解度を評価する。 提出課題については授業時にルーブリックの表を公表し、その基準に従って評価を行う 振り返り　１０％　振り返り小テストの評価 平常点評価　５％　毎回の授業の中での質問への応答、授業の理解度、積極　性などを評価する。
教科書	「保育と子ども家庭福祉」　櫻井奈津子編　みらい　２０１９年　２１００円（税別）
参考書	授業の時に適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習は上記のとおり。授業期間を通じて、子ども家庭福祉に関連する新聞記事、ニュースなどに積極的に関心を持つ。
履修上の注意、条件等	子ども家庭福祉のTV番組など視聴する。 新聞記事などはスクラップをして授業の参考にする。
オフィスアワー	授業終了後と授業実施日の昼休みの時間帯に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	授業の理解度により、シラバスの変更あり、（事前に通知）

講義科目名称：　子育て支援　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
森下匡子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F210
添付ファイル			
2020カリキュラムマップ　子育て支援改訂版.pdf			
2020ルーブリック子育て支援改訂版.pdf			

講義概要	現代社会における多様化する家族の形の中で、子育てを楽しみ、保護者自身が積極的に子どもへ関わることができるよう、保育者が専門的に支援することの重要性が問われている。この状況に対応できる保育者になるために、保護者とのかかわり方、支援方法の実践を学ぶ。子どもを通して関わる保護者との関係を理解し、適切な支援への重要性を理解する。また、現代では家庭での養育力（子育て力）の低下が社会的に大きな課題となっている。保育所・幼稚園・認定子ども園は、地域での子育て支援にも積極的に実践することが求められている中で、保育者としての専門性を活かした適切な対応とその責任を学ぶ。さらに、SDGｓにかかわる課題より、世界の子育て支援環境についても理解を深める。 講師は私立幼稚園での担任教諭、保育園での保育士経験、親子教育研究センターでの子育て支援スタッフ、公共ホールでの託児事業担当、公立小学校での支援員などの経験から保護者のニーズに合わせた支援の重要性を実践事例として授業に取り入れている。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　第　1　回　子育て支援とは 保護者が必要とする子育て支援における保育者の役割と、保育相談支援の重要性を考える。また、授業ガイダンスにおいて、授業内容・授業進行・評価方法・評価基準を確認する 予習：教科書P1～5　20分　E:あり　復習　60分 第2回　第　2 回　保護者との相互理解と信頼関係の形成 子育て支援において基本となる、保護者との相互理解と信頼関係の構築について学ぶ。バイステックの７原則を理解し、支援の際の保育者の基本的態度を身につける 予習：教科書P14～16 20分　教科書ワーク①　F：あり　復習　60分 第3回　第　3 回　保護者の抱える支援ニーズのへの気づき 保護者の抱える子育ての不安や、悩みなどに気付き、その背景や家庭環境から適切な支援とつなげていく。国の子育て支援に対する施策と現状について学び、そのうえで、それぞれに適した支援を考える。また、諸外国における子育て支援の状況について理解する。 予習：教科書P26～29　20分　F：あり　復習　60分 第4回　第　4回　社会資源とは何か、また関係機関との連携について理解する 現代の社会ではなぜ子育てを社会で取り組むことが重要となるのか？保育現場と社会との関係性など、地域との連携について学ぶ。また、子育て支援に必要な社会資源についてまとめる。 予習：教科書P84～85　20分　教科書ワーク②　E：あり　復習　60分 第5回　第　5 回　園における支援　① 在園児の保護者に向けて設定される子育て支援の実際を、教科書の事例から学ぶ。特に、通常の保育の中で実践できる保護者支援について、その技術・方法を学び、適切な保育者対応について考えを深める。 予習：教科書P96～98　20分　　復習：　60分　　F：あり 第6回　第　6 回　園における支援　② 保育現場の環境設定から保護者支援につながる要因について考える。保護者支援につながるための適切な環境設定について学ぶ。 予習：教科書P104～105 20分　　教科書ワーク③　F：あり　復習　60分 第7回　第　7 回　地域における支援 地域における“子育て支援の拠点”とは何かを考え、現代社会における、子育て家庭への支援の重要性と、保護者の適切な子ども理解への援助を、園全体の役割として担うことを学ぶ。特に、一時預かり・子育てひろば・子育て相談の実施の重要性について事例から考えを深める。 予習：教科書P108～113　20分　　教科書ワーク④　　E：あり　　F：あり(教科書ワーク⑤) 復習　60分 第8回　　第　8回　特別な配慮を要する子どもおよびその過程に対する支援 複雑な家庭環境、障害のある子どもの家庭、多様化する家庭に対する支援について学ぶ。それぞれの子育ての課題を適切に判断し、より安心して子育てが出来る環境設定の提案など、保育者の責任ある対応を理解する。 予習：教科書p120 132　156 20分 Fあり　復習　60分 第9回　第　9 回　子どもの虐待予防と対応 児童虐待における原因、保護者の背景、子育ての環境について学ぶ。保育者として適切な行動から虐待防止への基本姿勢を学ぶ。また、実際の事例から虐待について把握することが重要となる。 予習：教科書P144～147　20分　Fあり　復習　60分 第10回　第 １０ 回　保育相談支援の展開・支援計画について 保育相談支援における、ケースワークの展開・計画案について学ぶ。保護者の状況を把握し、課題を明確化し、実際の支援へつなげる流れを理解する。 予習：教科書P36～38　p48～49　20分　E:あり　　復習　60分 第11回　第 １１ 回　保護者支援の評価、カンファレンス 園における相談支援の評価について学ぶ。また、保護者支援のにおける職員間の連携や重要性について考える。 予習：教科書P60～63　P72～74 20分　教科書ワーク⑥　　F：あり

	第12回　第１２ 回　保育相談支援における個別面談実践 個別面談の方法を学ぶ。実践に向けて準備を行う 予習：配布資料読み取り　20分　　Ｆ：あり　復習　90分 第13回　第１３ 回　個別面談実 1グループごとに事例から面談実践を行う。それぞれが、保育者・保護者・観察者となる。各回のポイントをまとめる。ワークシートあり 予習：教科書P168～171　　20分　　復習60分　　Ａ：多 第14回　第１４ 回　まとめ　試験 全授業内容を範囲とした筆記試験を実施する。 予習：授業全般の復習　ノート整理　３時間　Ｆ：あり 第15回　第１５ 回　　まとめ　振り返り 試験内容を振り返る。今までの授業についてまとめる。 Ｆ：あり
教育目標との関連	本講義では、現代における子育て支援の重要性を正しく理解し、保育者としての知識を身につけるとともに、子育て支援に対する適切な対応を保育者自身が考えることにより、保育現場での適切な判断力を養う。 また、授業内容の中でも重要とされる、個別相談の技術を身につけ、保護者に伝わりやすい表現を用いて子育て支援に携わる。現代における多様な社会変化による子育ての課題に対して積極的に関心を持ち、保育現場での適切な対応に意欲的に取り組むことが重要である。そのためにも、保育者として、直接保護者と関わり、多様化する保護者を尊重することができるよう学びを深める。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	2、社会における子育て支援の重要性を理解、その課題に関心をもって保育者としての正しい判断ができる 3、保育現場で行われる、子育て支援に対する適切な技術を身につける
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	割合 筆記試験　70%　14回目に筆記試験を実施する 提出物　課題　20%　ワークシートや、教科書ワークなどの課題の提出期限と課題の内容について評価する 授業態度　10%　授業中の約束の厳守、課題実践の態度などから評価する。
教科書	新基本保育シリーズ19　「子育て支援」　監修　公益財団法人児童育成協会 編集　西村重稀　青井夕貴　出版：中央法規　2019年2月20日発行 定価2,000円(税別)
参考書	保育所保育指針　厚生労働省 編　フレーベル館　2018年3月23日発行　定価320円(税別) 幼稚園教育要領　文部科学省編　フレーベル館　2018年3月23日発行　定価240円(税別) 認定こども園保育要領　内閣府　文部科学省　厚生労働省編　フレーベル館　2018年3月29日発行　定価350円(税別)
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業前：前回の授業内容の振り返り、教科書の指定されたページをよく読んでおく。30分 授業後：毎回ノートをまとめ、授業内容の理解を確認する。　30分 授業で配布する資料･新聞記事はまとめて保管し、毎回の授業に持参すること。
履修上の注意、条件等	日頃からニュース等における、保育・子育ての問題に関心を持ち、現代の社会状況、多様な子育て環境を理解すること。
オフィスアワー	授業の際には前後に教室で質問を受けます。
備考・メッセージ	全て対面授業で行う アクティブラーニングの内容は、遠隔授業の際にはこの通りではない。 普段の園生活を通して、子ども・保護者に寄り添うことが何よりも重要となり、その中から子育て支援につなげることができる保育者を目指す。現代の子ども理解や多様な家庭環境への対応の学びを深め、保育現場での保護者支援の実践に丁寧に取り組む姿勢を身につけましょう。また、園が担う地域での子育て支援の重要性を正しく理解する。

講義科目名称： 社会的養護Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Care of Society Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：A202
添付ファイル			
社会的養護Ⅰmap.pdf		カリキュラムマップ	
社会的養護Ⅰr.pdf		ルーブリック	

講義概要	子どもが児童虐待等の理由で、家庭における養育が受けられない場合、社会が代わってその子を養育する。これが社会的養護である。この授業では、社会的養護の社会的背景・制度・施設を理解した上で、各施設で行われている子どもたちへの支援内容を学ぶ。「子どもの最善の利益」を常に考えながら社会的養護の原理を実践できる保育士の育成を目標として、全体の学びの中で、この授業を位置付けるものである。教科担当教員は、家庭養護における実務経験（里親経験）から、要保護児童の自立支援、養子縁組里親の支援、NPO法人における活動から、障害児（者）の支援についての具体的方法を教育に活かしたい。 他の科目との関連：この科目を学ぶ前提の知識として社会福祉論・児童家庭福祉などがある。２年次の相談援助、社会的擁護内容を学ぶ上での基本となる科目であると同時に保育実習（施設）においても実習を遂行する上で基本的な知識となる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　社会的養護の理念と概念 社会的養護とは何かをテーマに、先ず各自で親元で生活できない子どもたちの背景についてイメージした上で、今後の学習の進め方について解説する。 予習：シラバスを読んで、社会的養護の全体像を把握しこの科目のイメージを持っておくこと。（約１時間） B少　E有　F有 第2回　社会養護の歴史的変遷 社会的養護について福祉が制度化される過程で、これまでどのように歩んできたか理解した上で現状を概観する基礎を学ぶ。 予習：前期の社会福祉論から社会福祉の制度化の歴史についてワークシートを作成し整理する。（約２時間） B少　E有　F有 第3回　児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 社会養護の問題は単なる親子関係の問題ではなく家庭や地域レベルでの支援が必要であることを学び理解する。 予習：児童虐待の事例から、その問題の根源がどこにあるかワークシートを作成しながらイメージする。（約２時間） B少　E有　F有 第4回　児童の権利と社会的養護 子どもの権利とはどのようなものか、その権利の保障方法について考え理解する。 予習：子どもの権利とはどのようなものか「子どもの権利ノート」からワークシートを作成し整理する。（約２時間） B少　E有　F有 第5回　社会的養護の制度と法体系 社会的養護の根幹にある「パレンスパトリエ」の考え方を理解した上で、それぞれの法律の目的や対象が何かを理解する。 予習：未成年犯罪の事例を読み、その背景についてワークシートを作成して整理する、（約２時間） B少　E有　F有 第6回　社会的養護の仕組みと実施体制 社会的養護の基本的な仕組みについて理解する。 予習：東京都のホームページから社会的養護の体制を調べ、ワークシートを使って整理する。（約２時間） B少　E有　F有 第7回　施設養護の原理 施設養護において生活する子そもたちにとってのアイデンティティ形成と強化、親子関係を再構築する為のアタッチメント形成支援などについて理解し、子ども一人一人のライフストーリーワークの必要性について学ぶ。 予習：ライフストーリーワークを行う為に必要な資料を揃える。（約２時間） B少　E有　F有 第8回　施設養護の実際１（障害系施設：継続的なケアの必要性） ドキュメント動画を通して、障害系施設で生活する利用者について理解する。 障害系施設においては、児童から成人までの永続的なケアが実施されている。なぜ永続的なケアが必要なのか保育士の支店で理解する。 予習：「障害」について、各自のイメージをワークシートに記入する。 施設養護において生活する子そもたちの背景を理解し、その原理（アドミッションケアからアフターケアまで）と役割について学び、「自立支援』の考え方を理解する。 B多　E有　F有 第9回　施設養護の実際２（乳児院：施設養護から家庭養護へ） ドキュメント動画を通して、施設養護で生活する子どもと里親との親子関係構築について理解する。さらに保育士がどのような役割を果たしているかを考察する。 予習：施設で生活する子どもたちの課題についてワークシートにキーワードを記入する。（約２

	時間） A多　E有　F有 第10回　施設養護の実際３（児童養護施設：施設養護の課題） ドキュメント動画を通して、施設養護で生活する子どもが退所・自律に向けてどのような課題があるか理解する。そのうえで保育士や施設職員がどのような自立支援をしているか、その実際を見た上で考察する。 予習：施設で生活する子どもたちの課題についてワークシートにキーワードを記入する。（約２時間） A多　E有　F有 第11回　施設養護とソーシャルワーク１（アドミッジョンケアからインケアに向けて） 施設養護の養育者として必要なソーシャルワークの視点を学び、施設においてソーシャルワークの視点がどのように展開されるか事例を通して確認する。特にアドミッジョンケアからインケアに向けて、入所時の児童の課題についてワークを行う。 予習：事例シートの事例を熟読して、各自でアセスメントをしておくこと。（約２時間） A多　E有　F有 第12回　施設養護とソーシャルワーク２（リービングケアからアフターケアに向けて） 施設養護の養育者として必要なソーシャルワークの視点を学び、施設においてソーシャルワークの視点がどのように展開されるか事例を通して確認する。特にリービングケアからアフターケアに向けて、退所時の児童の課題についてワークを行う。 予習：事例シートの事例を熟読して、各自でアセスメントをしておくこと。（約２時間） A多　E有　F有 第13回　倫理の確立 倫理とは社会生活上の行動規範であるが、ここでは、社会的養護の専門職としての倫理について考える。 予習：教科書（P.182～）を参考にワークシートを作成する。（約２時間） B少　E有　F有 第14回　総括と学習到達度の確認テスト 1 回目~14 回目の授業についての総括を行い、この回の中で 学習到達度の確認テストを実施する。 第15回　学びの振り返り 各自の到達度チェック（自己評価及び学修成果の確認）
教育目標との関連	社会的養護における教育目標は以下の通りである。 １．いかなる環境の子供であっても、その人格を尊重し、その健やかな育ちを保障する為の基礎力を養う。 ２．個々の子どものニーズや背景を受容し、養育支援を行える基礎力を養う。 ３．子どもの気持ちに寄り添う支援、子どもたちが自立するために必要な支援を実施する為の基礎力を養う。 ４．社会的養護の実現に向けて、職場や関係機関との連携の為に必要な基本亭な知識とコミュニケーション力の基礎を養う
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．社会的養護の制度や実施体制について説明できる。 ２．社会的養護の形態と、その原理について理解し、保育士としてその原理に基づいた思考・判断ができる。 ４．社会的養護の現状とその課題について把握し、問題意識を持つことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	＜評価方法＞ 定期試験：60%　定期試験を実施します。授業全般の理解度を評価します。 課題シート・振り返りシート：20%（Google classroomのフォームから入力します） 　授業に臨む前の予習の態度（授業参加への積極性）、授業で何が修得できたか、授業内容について深く考察できたかを評価します。 受講態度：20%　授業への集中、グループワーク等の貢献度、説明に対しての積極的傾聴態度、授業内容の記録、教員の質問・問いかけに対し真剣に考えているか等を評価します。 ＜評価基準＞ 別途、ルーブリックに従う
教科書	新・基本保育シリーズ６「社会的養護Ⅰ」、相沢仁他編著、中央法規、2019年発行、2,200円
参考書	授業中に適宜指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業資料は、Google classroomにあります。授業前に目を通してください。 社会的養護は、社会福祉・児童家庭福祉をベースに授業を展開するので、これらの科目のテキストや資料を再読すること。
履修上の注意、条件等	子どもたちとその背景にある環境を、保育の専門職として幅広い視点で考えてみてください（個人の主観的な感情ではなく）。
オフィスアワー	研究室にて基本的にはオフィスアワー受け付ける。
備考・メッセージ	全ての回で対面授業 ただし、授業中の振り返りシート等は、Google classroomから入力します。また、各回の授業資料についても、Google classroomにあります。必要に応じて印刷してください。

講義科目名称： 社会的養護Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Care of Societ Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年生	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F204
添付ファイル			
社会的養護Ⅱmap.pdf		カリキュラムマップ	
社会的養護2R.pdf		ルーブリック	

講義概要	社会的養護に関する基本的な重要（必要）事項の学習とそれに関する演習課題への考察を通して、児童福祉施設の保育士が行う児童ケア（のあり方）を的確にとらえるための基本的視点を学ぶと同時に、施設の保育士に求められる倫理・資質を学ぶ。 【他の科目との関連】 「社会的養護」における社会的養護の制度と実施体系、施設養護の基本原理、児童の権利擁護等に関する基本的な学びを、演習課題への考察等を通してさらに深めていく。 【教員の実務経験】 家庭養護における実務経験（里親経験）から、要保護児童の自立支援、養子縁組里親の支援 NPO法人における活動から障害児（者）の支援についての具体的方法を教育に活かしたい。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　子どもの権利擁護 子どもの権利擁護　〈演習・課題シート１〉 社会的養護における子供の権利擁護について理解し、その基本的なあり方について学ぶ。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習：権利擁護とは何か、社会福祉ならびに社会的養護１の教科書を読んで理解しておく（1時間） 第2回　保育士の倫理と責務 社会的養護における子どもの理解　〈演習・事例検討〉 社会的養護のもとで生活する子どもの理解の方法や」その家庭環境について理解を深める。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習：施設入所児童の入所理由や措置理由を調べる（1時間） 復習：「あたりまえの生活」の「あたりまえ」とは何か考える（1時間） 第3回　施設養護の特性および実際１ 社会的養護の内容　①日常生活支援　〈演習〉 日常生活のもち意味、日常生活を支えるとは具体的に何をすることなのかを学ぶ。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習；日常生活を過ごすために、どのような知識や技能が必要か（生活能力）、児童の年齢に応じて具体的にまとめる（1時間） 復習：日常生活支援がなぜ必要日考える（1時間） 第4回　施設擁護の特性および実際２ 社会的養護の内容　②心理的支援　〈演習〉 社会的養護で行われる基本的な心理的紫衣bんを事例を通して学ぶ。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習；愛着障害、パーソナリティ障害について調べる（1時間） 復習：被虐児童の被害的世界観について考える（1時間） 第5回　施設養護の特性および実際３ 社会的養護の内容　③自立支援　〈演習・課題シート１〉 自立支援について事例を通して「自立」とは何かを学ぶ。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習：自立とは何か、社会福祉並びに兒童家庭福祉の教科書を読んでまとめておく（1時間） 第6回　個別支援計画の作成１ 施設養護の生活特性および実際　①乳児院等〈演習・事例検討〉 施設擁護の中で、乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設について、それぞれの施設の支援対象や特性を確認した上で、施設における援助内容について演習を通して学ぶ。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習：乳児院の法的根拠ならびにケアについて児童家庭福祉並びに社会的養護Ｉの教科書を読み理解する（1時間） 第7回　個別支援計画の作成２ 講施設養護の生活特性および実際　②障害児施設等　〈演習・事例検討〉 児童心理治療施設や障害児施設の特性を確認した上で、施設における援助内容について演習を通して学ぶ。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習；法律で定義される障害の種類について離開する（1時間） 復習：障害児（者）のケアや社会参加について、どのような課題があるかまとめる（1時間） 第8回　家庭用後の生活特性及びj実際 家庭養護の生活特性および実際　〈演習・事例検討〉 家庭養護について確認し、一般家庭との違い、保育士に求められる役割、里親家庭の抱える課題について演習を通して学ぶ。 Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習；兒童家庭福祉ならびに社会的養護Ｉの教科書を参考に里親の種別を離開する（1時間） 復習：里親養育を推進するにあたってどのような社会的課題があるか考える）1時間） 第9回　自アセスメントと個別自立支援計画の作成

	アセスメントと個別支援計画の作成〈演習・事例検討〉 アセスメント（事前評価）とは何かを学び、演習を通して、個別支援計画、自立支援家一句について学ぶ。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習：第4回の演習を参考に施設擁護の下で生活する児童の特性について振り返る（1時間） 復習；教科書のコラムを参考に依存欲求の強い児童に対する支援を考える（1時間） 第10回　記録および自己評価 記録および自己評価〈演習〉 記録の意義と役割、専門職としての自己評価、部門の評価方法について学ぶ。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習：記録の意義についてまとめる（1時間） 復習：自己評価の際に客観性を保つには何が必要か考える（1時間） 第11回　社会的養護における保育の専門性に関わる知識・技術者とその実際 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践　〈演習・事例検討〉 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習：保育所保育指針の「養護」に関わる部分を読み理解を深める（1時間） 復習：保育所保育しと施設保育士の専門性の共通点と違いについてまとめる（1時間） 第12回　記録と自己評価 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践〈演習・事例検討・課題シート2〉 社会的養護における保育士の役割や位置づけを確認した上で、被虐待児童に対する対応について演習を通して学ぶ。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習：記録の意義についてまとめる（1時間） 復習：自己評価の際に客観性を保つには何が必要か考える（1時間） 第13回　ソーシャルワークに関する知識・技術とその応用 社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）〈演習・課題シート３〉 社会的養護の領域のおけるソーシャルワークの知識や技術を演習を通して理解する。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習：ソーシャルワークのプロセスについて離開する（1時間） 復習：ソーシャルワークの原理やプロセスが、実際にどのように活用されるか考える（1時間） 第14回　社会的養護における家庭支援 社会的養護における家庭支援と社会的資源　〈演習〉 社会的養護の支援対象は児童だけではなく、保護者。家庭も含まれる事を確認した上で、演習を通して家庭支援のための前提である総合的なアセスメントについて学ぶ。 Ｂ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 予習：あなたがイメージする「幸せな子育て家庭」について文章＿イラストなどでまとめる（1時間） 復習：家庭が抱える課題とどのような支援が必要かを考える（復習） 第15回　学びの振り返り 今各自の到達度チェックと学修成果の確認
教育目標との関連	（要保護児童とその家族への支援を行う）施設の保育士の児童ケアにおける基本姿勢やそこで求められる倫理・資質の理解は、そのまま（施設・保育所等を問わず）保育士に広く求められる倫理・資質に直結するものと考えられる。授業や演習課題に主体的に取り組むことが、保育士としての「豊かな感性と愛の心」を育てることにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．社会的養護の対象児童と子どもの権利擁護の目的、機能、役割について説明できる。 ２．施設の保育士が行う児童ケア（のあり方）を的確にとらえるために養護の基本原理に基づいた思考や判断ができる。 ５．施設の保育士に必要なケースカンファレンスの基本的なスキルとして他者の意見を尊重し協調することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	＜評価方法＞ 期末レポート　　４０％ ワークシート・課題シート１～３　　６０％ ワークシート：指定した主要な演習課題についての各自の考察 理解度確認テスト：各テーマ理解度の確認 また、授業に対する関わり方（積極性や協調性など）も総合的に評価する。 ＜評価基準＞ 別途、ルーブリックに従う。
教科書	新・基本保育シリーズ１８「社会的養護Ⅱ」、相沢仁他編著、中央法規、2019年発行、2,000円
参考書	適宜、プリントを配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	・「社会的養護Ⅰ」の学習内容を復習・確認する。 ・新聞等の児童家庭問題に常に関心をもって受講すること。
履修上の注意、条件等	毎回の演習課題に主体的に取り組むこと
オフィスアワー	研究室にて基本的にはオフィスアワー受け付ける。
備考・メッセージ	全ての回で対面授業 授業中のワークシート等は、Google classroomから入力します。また、各回の授業資料についても、Google classroomにあります。必要に応じて印刷してください。

講義科目名称：　子ども家庭支援の心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
中村麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：B202
添付ファイル			
子ども家庭支援の心理学.pdf			

講義概要	乳幼児期から老年期までの生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得した上で、各時期における発達課題や初期経験の重要性を理解する。また、現代社会における家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。そして、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、および、子どもの心身の健康に関わる課題について考える。スクールカウンセラーや発達相談を有する教員による具体的な家庭支援の事例を通して、子ども家庭に一番身近な保育士がどのような役割を担うべきなのか考えていく。 他の科目との関連：1年生前期の「保育の心理学」で学んだ子どもの発達に関わる心理学の基礎を踏まえ、本講では子どもをめぐる家族関係について発達的な観点から理解し、包括的に捉える視点を養う。その上で、2年生後期の「子ども家庭支援論」では、家庭の状況に応じた支援のあり方や保育者の役割についてより深く学ぶ。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　ガイダンス、乳幼児期から学童期前期の発達 基本的信頼感や自己肯定感はどのように形成されるのか、乳幼児期の発達の概要を理解する。 予習：シラバス全体を読み、教科書の目次に目を通し、授業の流れを把握する。（約1時間） 復習：テキスト第1章を読み、授業内容を振り返る。（約1時間） B：少　E：あり　F：あり 第2回　学童期後期から青年期の発達 ピアジェやエリクソンの発達理論を基に、学童期後期から青年期の発達の概要を理解する。 復習：テキスト第2章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） A：少　B：少　E：あり　F：あり 第3回　成人期・老年期の発達と生涯発達の視点 成人期・老年期の発達の概要を理解する。また生涯発達心理学の考え方を学ぶ。 復習：テキスト第3章・第4章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） B：少　E：あり 第4回　家族・家庭の意義と機能 家族・家庭の機能の変容と子育てへの影響、家庭支援の必要性について考える。 復習：テキスト第5章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） E：あり　F：あり 第5回　現代の家庭における人間関係 親子関係及び夫婦関係の時代的変化と子どもの発達への影響を考える。 復習：テキスト第7章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） E：あり　F：あり 第6回　子育て経験と親としての育ち 親としての成長、家庭教育の重要性について考える。 復習：テキスト第8章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） B：少　E：あり 第7回　子育てを取り巻く社会的状況 子育て家庭をとりまく社会環境はどのように変化しているのか学ぶとともに、その変化が子育てにどのような影響を及ぼしているのか考える。 復習：テキスト第6章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） B：少　E：あり 第8回　ワークライフバランスと子育て 仕事と子育てのバランス、個々の家族メンバーの自己実現について考える。 復習：テキスト第9章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） A：多　B：多　E：あり 第9回　多様な家庭環境と子どもの育ち 家庭環境の多様化と複雑化と子どもの育ちへの影響を学ぶ。 復習：テキスト第10章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） E：あり 第10回　特別な支援を必要とする家庭 周囲の理解が得にくい特殊な状況を抱えた家庭への対応の仕方について考える。特に、状況の把握、情報提供、他機関との連携の仕方について学ぶ。 復習：テキスト第11章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） A：多　B：多　E：あり 第11回　地域社会における家庭支援 家庭支援を支える社会資源、家庭と地域の連携について考える。 復習：テキスト第12章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） D：多　E：あり 第12回　子どもの生活・生育環境とその影響 子どもの生活環境と育ちへの影響について学ぶ。 復習：テキスト第13章・第14章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） B：少　E：あり 第13回　子どもの心の健康と課題 心身症、精神疾患、児童虐待等の子どもの心の健康について理解する。

	ミニテスト 予習：ミニテストの準備学習、復習：テキスト第15章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） A：多　B：多　E：あり　F：あり 第14回　まとめと理解度確認テスト これまでの授業の総まとめを行い、理解度確認テストを行う。 予習：これまでの授業の総復習をしてテストに臨むこと（約2時間） E：あり 第15回　理解度確認テストのフィードバックと学習成果の振り返り 理解度確認テストのフィードバック、および、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して質問などを考えて授業に臨むこと（約2時間） E：あり
教育目標との関連	子どもは社会に生まれ社会の中で育つが、子どもにとって最初に出会う最も身近な社会が家庭であるといえる。家庭の中での保護者やきょうだいなどとのやり取りを通して子どもは発達していく。家庭における子どもの発達と家族の役割について理解し、目の前の家族のニーズに合わせた支援ができる保育士になることを目指す。また、自らの将来像を思い描きながら、ワークライフバランスについて自分なりに考えられるようにする。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1：1.家庭における子どもの発達と家族の役割について、説明することができる。 DP3：子どもの発達や家庭環境を理解し、子どもや子どもを取り巻く人々への支援について、自ら考え、論じることができる。 ＊添付資料のカリキュラムマップを参照
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	理解度確認テスト：50% 提出物：20% 平常点：30% ＊評価基準は添付資料のルーブリックを参照
教科書	保育士を育てる「子ども家庭支援の心理学」　藤田久美（編著）　一藝社　2020年　2,100円
参考書	授業中に適宜、資料を配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	子どもを取り巻く社会情勢について関心を持ち、自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも随時受け付ける。
備考・メッセージ	授業形態はすべて対面で実施する。シラバスの内容は履修学生の理解度等により変更する場合もある。

講義科目名称：　子どもの保健　　授業コード：

英文科目名称：　Pediatric Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
三浦　由美			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：B102
添付ファイル			
136PediatricHealth.xlsx			

講義概要	保育の本質である、子どもの命を育む「養護」のための知識と、その方法をを具体的に学ぶのが「子どもの保健」である。子どもは、絶えず発達・成長していく特性があり、先天的な条件や環境の影響を受けやすさを考慮し、その子なりに健やかに育つような働きかけと実践活動について学ぶ。子どもが自立した生活が送れるよう、保健的側面から適切な対応について理解を深める。 担当教員の専門は、公衆衛生学（社会医学）と解剖生理学（基礎医学）である。更に、精神医学（児童精神医学も含む）、整形外科などの臨床医学も長年教授した経験をもつ。子どもの健康を衛（まもる）にはどうしたらよいのか？、子どもの疾病をメカニズムから理解するにはどうしたらよいのか？公衆衛生学と解剖学的見地から、「子どもの命」を深く理解できるよう授業を展開していく。加えて、「子どもの命を護れる保育者」としての素養を身につけられるよう、現場力（保育現場での疾病対応や応急処置）も養っていく。 他の科目との関連：子どもの命を護るための予防と、その対応策を学ぶ「子どもの保健と安全」を理解するための基礎的な知識・技術を、この「子どもの保健」で習得していく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的とは　健康の概念とは 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的について知る。 世界保健機関（WHO)における健康の概念について学ぶ。。 第1講①②、第2講① B:少 予習：子どもの保健のシラバス全体をよく読んでおく。 科目でどのような知識を習得するのか把握しておくこと。（約1時間） 第2回　健康の概念とは　健康指標とは ヘルスプロモーションおよび健康指標ついて理解する。 子どもの健康と貧困ついて学ぶ。。 第2講①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書を読んでおくこと。 保育所保育指針の第1章、第3章に目を通しておくこと。（約2時間） B:少　E:あり　振り返り問題 第3回　現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策 現代社会と子どもの健康に関する現状を知る。 母子保健・子どもの健康にかかわる統計について学ぶ。 母子保健法、母子保健対策について理解する。 第3講①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。（約2時間） B:中　E:あり　振り返り問題　F:あり 第4回　身体的発育および運動機能の発達と保健 子どもの正しい身体計測の仕方を知る。 我が国の子どもの身体発育の標準と評価の仕方について知る。 子どもの身体発育や運動発達に影響するものを理解する。 第5講①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 自身の母子健康手帳に何が記入されているのかを見ておくこと。（約2時間） B:少　E:あり　振り返り問題 第5回　生理機能の発達と保健 呼吸器系、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系の生理機能を理解する。 中枢神経、内分泌系、免疫系、水分代謝、体温調節の生理機能を理解する。 睡眠のリズム、排泄機能、皮膚機能を理解する。 第6章①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 風邪や腹痛など、日常よく起こる体調不良について調べておくこと。（約2時間） B:少　E:あり　振り返り問題 第6回　健康状態の観察 子どもの健康状態の把握の方法について学ぶ。 子どものバイタルサインの特徴と正常値について学ぶ。 脱水の症状とその対応について学ぶ。 第7講①③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 体調不良時の観察ポイントをまとめておくこと。（約2時間） B:中　E:あり　振り返り問題 第7回　心身の不調等の早期発見　脱水の対応 子どもの体調不良時の主な症状とその評価、対応について学ぶ。 子どもの預かり時、引き継ぎ時の健康状態をきちんと伝えることについて学ぶ。 普段と様子が違う時に、検温し、経過を把握することについて学ぶ。 第7講①② 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 健康診断をするメリットについてまとめておくこと。（約2時間）

	A:中　E:あり　振り返り問題 第8回　発育・発達の把握と健康診断 子どもの健康診断と関連機関との連携を学ぶ。 検診を通じた子育て支援を理解する。 第8講①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 子どもに関連する障害児施設などについて調べておくこと。（約2時間） B:中　E:あり　振り返り問題 第9回　子どもの主な疾病の特徴（1）免疫　感染症と予防 子どもの免疫の発達について理解する。 世界の動向を踏まえつつ、感染症の種類と感染経路を知る。 子どものかかりやすい感染症の特徴を知る。 第12講①、第14講①② 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 出席停止など、学校の出欠に関わる疾患について調べておくこと。（約2時間） B:中　E:あり　振り返り問題 第10回　子どもの主な疾病の特徴（2）救急対応 感染経路による予防方法と、感染者が集団生活を控えるべき期間を理解する。 予防接種について理解する。 救急疾患とその対応について学ぶ。 第14章③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 予防接種をする意義について、昨今問題になっていることについて調べること。（約2時間） B:中　E:あり　振り返り問題 第11回　子どもの主な疾病の特徴（3）先天性疾患 新生児の病気、先天性疾患と対応を知る。 第10講①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 先天性疾患について調べておくこと。（約2時間） B:中　E:あり　振り返り問題 第12回　子どもの主な疾病の特徴（4）アレルギーと適切な対応 アレルギー疾患の特徴と対応を知る。 第12講② 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 アレルギー対応食について調べておくこと。（約2時間） B:中　E:あり　振り返り問題 第13回　保護者との情報共有　子育て支援 保護者との情報共有の具体的な方法について学ぶ。 慢性疾患や障害児など様々な健康状況と支援について学ぶ。 子育てをする家族への支援や子育て支援の実際を理解する。 第3講③、第9講②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 地域にどのような子育て支援があるか行政について調べておくこと。（約2時間） B:中　E:あり 第14回　地域における保健活動と子どもの虐待防止　および　まとめ 地域の子どもの健康支援において、どのような活動を行なっているか理解する。 子どもの虐待の現状を理解し、虐待防止の取り組みを考える。 子どもは社会のものなのか、家族のものなのか、グローバルな視点で思考する。 第4講②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 第2章の身体の発育や発達に関する項目を見ておくこと。(約2時間) B:中　E:あり　振り返り問題 授業について総括を行う。
教育目標との関連	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの発育・発達の特性に応じた対応に関する知識、技法、態度を修得する。 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下で幼児教育者として適切な対応ができるための知識、技法、態度を習得する。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について自分なりに考察することができるようになる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し、効果的な対処ができるようになる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について、関心を持ち意欲的に取り組めるようになる。 5. 「子どもの命を護れる保育者」の素養を身につくことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	講義内容の理解度の評価：振り返り問題（10%）定期試験（60%） 授業参加の（関心度　意欲　受講態度）の評価：30%
教科書	松田博雄・金森三枝編著　子どもの保健　中央法規　2019　2,200円
参考書	授業中、適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	講義までに授業計画を確認して事前学習をしておくこと。テキストをよく読んで、キーワードを用いてまとめておくと良い。復習は、授業の振り返りをし、教科書やプリント類をよく読んで知識をしっかり定着できるようにする。予習復習は2時間程度が望ましい。

履修上の注意、条件等	授業におけるICTの準備を整えることが望ましい。ニュースやインターネットなどは、出典先が確かな情報元から最新情報を入手しておくこと。子どもだけでなく保護者に関する支援なども重要な課題なので、関心を持って情報を得ておくとよい。
オフィスアワー	質問などは、原則、授業日に受け付ける。ICTを活用、遠隔授業で限定コメントを受け付ける。
備考・メッセージ	保育の基盤となるのが「子どもの保健」です。「子どもたちの命を護れる保育者」になるため、一緒に学びを深めていきましょう。 全て対面授業で行います。

講義科目名称：　子どもの健康と安全　　授業コード：

英文科目名称：　Child Health and Safety

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
三浦　由美			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：	ナンバリング：F209
添付ファイル			
137Child Health and Safety.xlsx			

講義概要	「子どもの健康と安全」は、子どもたちの心と身体の健康を増進することを目的とした分野である。一年生で学んだ「子どもの保健」を基礎として、子どもが疾病にならないよう保健衛生を保ち看護するといった医療的な側面を、演習を通して更に理解を深める。子どもは、絶えず発達・成長していく特性がある。先天的な条件や養育、環境の影響を受けやすい面を考慮し、その子なりに順調に健やかに育つような働きかけと実践活動について演習を通して学ぶ。子どもが自立した生活が送れるように、社会における周囲の大人の適切な対応について、実践例をふまえ理解を深める。 他の科目との関連：乳幼児教育の原理から実践に必要な技能まで、「乳児保育」「保育の心理学」「子どもの保健」など、子どもの「健康」に深く関連する。「教職概論」をもとに幼児教育者としてより深く子どもの保健を理解する資質、社会から求められる役割について習得する。 演習では、チームとして情報を共有し協働活動できる保育者を目指し、グループワークやディスカッションを行う。 保育実践における健康観察のポイントや健康に過ごすための育児支援について、具体例から理解を深める授業を行う。保育における園内施設・設備（遊具等）玩具などの安全性についての知識と考察を行う。また、様々な自然災害（地震・大雨など）世界的な規模で発生するウイルスによる疾病対策の理解を深める。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　救命救急講習 約４時間の普通救命講習を受講する。修了者には、3年間有効な「救命技能認定証」が後日交付される。内容は、AEDの実技講習を含む。クラスごとに、6日間に分かれて実施する。 復習…身近な施設のどこにAEDが設置されてのか調べておくこと。（約1時間） アクティブラーニング…A　多 第2回　救急救命講習 約４時間の普通救命講習を受講する。修了者には、3年間有効な「救命技能認定証」が後日交付される。内容は、AEDの実技講習を含む。クラスごとに、6日間に分かれて実施する。 復習…身近な施設のどこにAEDが設置されてのか調べておくこと。（約1時間） アクティブラーニング…A　多 第3回　学校における危機管理および安全管理①（チャイルドビジョンを用いたハザードマップ作成） 幼児の視野を体験することで危機予知を発見する。それを基にハザードマップを作成する（グループ活動） A:多　B:多　E:あり 第4回　学校における危機管理および安全管理②（チャイルドビジョンを用いたハザードマップ作成および発表） ハザードマップの作成と発表（グループ活動） 保育現場で発生する「注意義務（予見可能性＋結果回避可能性）」を果たしているかでグループ発表を各自評価する。 A:多　B:多　E:あり 第5回　事例から学ぶ危機管理：5大事故および災害対策 事例をもとに事故予防力と事故発生対応力を学ぶ。 A:多　B:多　E:あり 第6回　スタンダードプレコーションの理解と実践（標準的感染予防策）－手洗い演習およびグローブ着脱法－ 感染予防策を演習によって手技を学ぶとともに衛生管理の理解を深める。 A:多　B:多　E:あり 第7回　意識急変対応の理解①（アレルギー疾患：食物アレルギー、アナフィラキシーショック） 慢性疾患でもあるアレルギー疾患の基本的知識と意識急変対応が求められるアナフィラキシーショック（特に食物アレルギー）の理解を深める。 A:多　B:多　E:あり 第8回　意識急変対応の実践①（シュミレーション実習：アナフィラキシーショック） シュミレーション実習を通して、アレルギー重症度の判断力、重症に対する対応（エピペン、第１次救命処置）を会得する。第１次救命処置は振り返りとして学び直す。 過A:多　B:多　E:あり 第9回　意識急変対応の理解②（窒息：誤嚥・誤飲、溺水） 乳幼児死因の上位を占める「窒息」を引き起こす、誤嚥・誤飲そして溺水について学ぶ。 A:多　B:多　E:あり 第10回　意識急変対応の実践②（シュミレーション実習：窒息対応　） 第1次救命処置である「乳児そして小児における異物除去法」を会得する。第１次救命処置は振り返りとして学び直す。

	A:多　B:多　E:あり 第11回　慢性疾患児への対応①（喘息） 気管支喘息の病態とその対応について（服用される薬や予防法）学ぶ。 A:多　B:多　E:あり 第12回　慢性疾患児への対応②（アトピー性皮膚炎） アトピー性皮膚炎のとその対応について（服用される薬や予防法）学ぶ。 A:多　B:多　E:あり 第13回　ケガの応急処置（シュミレーション実習：外傷、熱傷） 外傷（骨折、捻挫、打撲）の応急処置（止血法、包帯法、三角巾固定法）について理解と手技を会得する。 A:多　B:多　E:あり 第14回　保健計画・評価 各自の母子手帳をもとに自身（または子ども）発育状況を把握する。発達相談の事例をもとに発育アドバイスをグループごと話し合う。 A:多　B:多　E:あり 第15回　総括　学びの振り返り 子ども達の命を守れる力が養ったか学習到達点を確認する。 A:多　B:多　E:あり
教育目標との関連	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について、ガイドラインや近年のデータを踏まえ、理解する。 衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策、感染症対策について、具体的に理解する。 子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画、評価等について具体的に理解する。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の知識を衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策、感染症対策等の観点から習得しその意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について根拠に基づいて考察する。 3. 保育における保健的観点を踏まえたガイドラインや近年のデータをもとに、保育環境や援助方法について理解し効果的な対処ができるようになる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について、関心を持ち意欲的に取り組めるようになる。 5　グローバルな視野を持ち、根拠に基づいた保健情報を子どもとその保護者に提供できるよう積極的に学び続ける。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	定期テスト60%　授業内のグループディスカッションのまとめレポートの成課　40% 課題に取り組む積極的な姿勢と、どれだけ深く取り組めたかを評価する。
教科書	子どもの健康と安全　中央法規
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業で提示された資料や扱った内容について、ネットや新聞から関連した話題を見つけ、最終の評価レポートに役立てたい。
履修上の注意、条件等	ニュースやインターネットなどは、出典先が確かな情報元から最新情報を入手しておくこと。子どもだけでなく保護者に関する支援なども重要な課題なので、関心を持って情報を得ておくとよい。
オフィスアワー	
備考・メッセージ	子供の健康と安全といった保健に関する知識や技能は、子どもの健やかな発達や成長を支援するために欠かせないものです。演習を通して一緒に学びを深めていきましょう。

講義科目名称：　子どもの食と栄養　　授業コード：

英文科目名称：　Ｉｎｆａｎｔ　Ｎｏｕｒｉｓｈｍｅｎｔ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期または秋学期	２年	２単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
田中　芳子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：無	ナンバリング：B203
添付ファイル			
「子どもの食と栄養」カリキュラムマップ.pdf			
「子どもの食と栄養」ルーブリック.pdf			

講義概要	人は適切な食事により、健全な生活を営むことが出来る。小児期は、発育・発達という特性も加わるので、栄養摂取は特に重要である。更に小児期は食生活の基礎が作られる時期でもあり、この時期の食環境がその後の生涯にわたる心身の健康を大きく左右する。以上を理解し、子どもの成長に即して「食」を実践してゆく力を養う。 他の科目との関連　：「子どもの保健で学ぶ、乳汁栄養、離乳、幼児期の栄養をより実践的に学び、体験する。」
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　子どもの健康と食生活の意義（対面） 食と栄養を学ぶ上で、『子ども』とはどのような存在か理解し、何を学ぶべきか確認する。 子どもの身体発育と栄養状態の把握の仕方を学ぶ。 食に関する体の構造、消化・吸収のしくみを確認する。 F：あり 復習：P1-P19を読み課題に取り組む（1時間） 第2回　食に関する器官の発育と発達（対面） 子どもの食べる機能と消化吸収機能の発育・発達を理解し、食事内容の関係を知る。 食と心の発育・発達の関係について理解を深める。 栄養素の種類と働きを理解する。（五大栄養・炭水化物・脂質） F:あり 復習：P32-P34を読み課題に取り組む（1時間） 第３回　栄養に関する基礎知識①（対面） 栄養素の種類と働きを理解する。（たんぱく質・ビタミン・無機質） 日本人の食事摂取基準から必要な食事量を知る。 F：あり 復習：栄養素のキャラクター作り（2時間） 第4回　乳児期の食生活①　乳汁栄養（配信） 乳汁栄養について理解する。 F：あり 復習：P86～P88を読む（1時間） 第5回　乳児期の食生活②　実習①　調乳（対面） 調理実習室準備を通して、環境の整え方や色々な殺菌法を学ぶ。 正しく調乳出来るようになる。 A：多 E：あり 予習：自身の乳汁期の聞き取りをする（1時間） 第6回　配慮の必要な子ども①（配信） 疾病及び体調不良の子どもへの対応を理解する。 障がいを持つ子どもの食生活を理解する。 食物アレルギー（アレルギーガイドライン）を理解し、その対応を学ぶ。 F:あり 復習：課題に沿ってアレルギー対応をまとめる（2時間） 第7回　乳児期の食生活③　離乳とは（配信） 離乳の意義とその必要性を理解し、離乳の進め方、調理の特徴等を学ぶ。 C：中 F：あり 復習：離乳食支援のまとめ（2時間） 第8回　乳児期の食生活④　実習②　離乳食の基礎（対面） 離乳食の基礎となる「おかゆ」や野菜の加熱による変化を体験する。 和食の基本「だし①」を体験する。 A:多 E:あり 予習：ベビーフードの試食を通して、離乳食の味や形状を体験する。（２時間） 第9回　栄養に関する基礎知識②　食事構成　食育①（配信） バランスの良い食事とはどのようなものかを知り、実践の仕方を学ぶ。 現代の日本人が抱える食の問題を知り、食の在り方を考察する。(含：学齢期・思春期の食生活) F:あり 復習:自身の推定エネルギー必要量を調べる（1時間） 第10回　配慮の必要な子ども②（対面） 食物アレルギー（アナフィラキシー)対応を体験する。 A：中 B：中 H：中

	E：あり F：あり 復習：アレルギー対応を振り返る。（１時間） 第11回　幼児期の食生活①　食育②（配信） 幼児期の栄養の特徴を理解し、食事の留意点を考察する。 日本食への理解を深める。 窒息の危険性を理解する。 食育の必要性を理解し、家庭や児童福祉施設における食生活を通しての支援の仕方を考える。 F：あり 復習：食育啓蒙ポスターの構想を練る。（1時間） 第12回　幼児期の食生活②　実習③　和食（対面） 和食の基本や調理技術を学ぶ。 和食の基本「だし②」を体験する。 A：多 E:あり F:あり 復習：食育啓蒙ポスターを作る（2時間） 第13回　幼児期の食生活③　演習　間食（配信） おやつ作りを通して、間食の意義と内容を考える。 C：多 E:あり F：あり 予習：課題添付の動画を視聴する（30分） 第14回　幼児期の食生活④　食育③　実習④　調理保育（対面） 調理保育を想定した調理を体験、考察する。 A：多 H：中 E：あり F：あり 予習：調理保育の準備を考える。（1時間） 第15回　学習到達度の確認・解説　振り返り　生涯発達と食生活（対面） 理解度到達テストを実施する。その後設問について解説を行う。 生涯を通して健康に生活するために必要なことを考える。 母体と胎児の関係を知る。 復習：確認テストの振り返りをする（1時間）
教育目標との関連	子どもの食生活は大人の作り出す食環境の影響を強く受ける。子どもにとって望ましい食環境・食生活とはどのようなものか常に考え、実践・提供できる力を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．健康な生活の基となる食に関する基礎的知識を理解し、子どもの発育・発達と関連付けて説明できる。 ３．発達段階に合わせた、正しい食事を選択、準備できる。 ３．子どもを取り巻く食の現状から、食育の必要性を理解し、日々の生活の中で「食」の大切さを伝えることができる。 １．特別な配慮の必要な子どもの食に関わる対処法を理解、実践できる。 添付資料のカリキュラムマップを参照

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	試験　　50%・第15回目の授業時間内に試験を実施し、授業の内容全般について理解度の評価を行う。 （試験の解説も同時間内に行う。） 平常点評価　50%・随時、授業理解を補う作業課題を提出してもらい、参加姿勢を評価する。 ・調理実習時、服装（エプロン、三角巾、ハンドタオル、上履き）を評価の対象とする。 実習中の態度、協力度を評価する。 実習の内容のまとめ、感想等提出してもらい、参加姿勢を評価する。 ・提出課題のルーブリックは最初の授業で配布する。 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
教科書	子どもの食生活 第５版　上田 玲子　編著　　赤石 元子著　他　ななみ書房　2.400円＋税
参考書	授業中に、適宜、資料を配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	宿題として予習・復習を課す。各回の内容は上記のとおり授業内で指示する。 課題は回収後、授業内で活用・解説する。（一部は添削して返却） 常日頃、新聞やニュース等の食に関する記事に関心を持って、生活すること。
履修上の注意、条件等	・「子どもと食」に関して、学びたいという気持ち、態度があること。 ・調理実習時には、エプロン・三角巾・ハンドタオル・上履きが必要。
オフィスアワー	質問等に関しては、googleclassroomの限定コメントにより受け付ける。
備考・メッセージ	・ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄで授業を行なう。対面と配信の授業が混在し、変更の可能性もあるのでその都度確認すること。 ・調理実習の都合により、授業の順番が変わることがある。

講義科目名称：　子ども家庭支援論　　授業コード：

英文科目名称：　Child and family support theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
渡邊眞理			
授業形態：講義	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：A204
添付ファイル			
ルーブリック様式　子ども家庭支援論.pdf			
カリキュラムマップ様式　子ども家庭支援論.pdf			

講義概要	少子高齢化や就労女性の増加などの社会変動は、家庭生活にも大きな変化をもたらした。従来の家族のあり方や養育システムが機能しづらくなり、多様化した家族生活にひずみを生じさせている。現代の社会に求められている「家庭支援」がどのようなものであるのか、その中で保育者はどのような支援を提供していくことができるのかを探る。そのために、世界の子育て支援関連制度にも目を向け、家族関係や養育システムの歴史的変遷と現状を把握し、養育環境の中に生じる問題点を考える。 保育所、相談等、実務経験を有する教員から、具体的な現場の事例等をもとに技能・態度を学ぶ。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 【対面】 子ども家庭支援の意義と役割（対面） 家族形態の変遷や家庭の社会的機能の変化を理解する。また、現代における家庭支援の意義について理解する。予習：シラバスを読み授業の全体を把握する。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約1時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第2回 【対面】 子ども家庭支援の目標と機能（対面） 児童家庭福祉から子ども家庭福祉への転換について理解し、子どもにとっての支援、親にとっての支援とは何かを考える。 予習：教科書を読んでおくこと(読むページは授業内で指示をする、約1時間)。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約1時間） E：あり　F：あり 第3回 【対面】 子ども家庭支援における保育士等の役割と子育て支援施策・次世代育成支援策の推進（対面） 保育所保育指針に定められている家庭支援について理解し、社会の変化から保育者に求められている役割について考える。また、1994年に策定されたエンゼルプラン以降の一連の子育て支援施策について学び、少子化の動向と子育て支援のニーズについて理解する。 予習：教科書を読んでおくこと(読むページは授業内で指示をする約1時間)。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約1時間） E：あり　F：あり 第4回 【対面】 保育士に求められる基本的態度（対面） 対人援助者に求められる基本的原則とされる「バイステックの原則」を学び、対人援助職の倫理や基本的態度等について理解する。 予習：教科書を読んでおくこと(読むページは授業内で指示をする、約1時間)。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約1時間） E：あり　F：あり 第5回 【対面】 保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援（対面） 保育士の専門性を生かした子ども理解の視点、保護者理解の視点を理解し、実践の場で「知識と技術」に基づいた「判断」をどのようにするのかについて、事例をもとに多面的に考える。 予習：教科書を読んでおくこと(読むページは授業内で指示をする、約1時間)。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約1時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第6回 【対面 保護者との相互理解と信頼関係の形成（対面） 子どものウェルビーイングのために、保護者と保育士の相互理解が欠かせないことについて理解する。そのためには子どもに対する専門的意識と共に、保護者に対する基本的姿勢も欠かせないことを理解し、具体的な事例をもとに、多面的に考える。 予習：教科書を読んでおくこと(読むページは授業内で指示をする、約1時間)。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） E：あり　F：あり 第7回 【対面 家庭の状況に応じた支援（対面） 保育所保育指針から見る、現代社会の中で家庭の状況を理解し、個々の家庭に応じた支援の必要性を理解する。相談・援助者は子育て家庭にどのような役割が求められているかについて考える。また、子どもの発達段階に応じた支援および家庭の状況に応じた支援の具体的な方法について考える。 予習：教科書を読んでおくこと(読むページは授業内で指示をする、約1時間)。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約1時間） E：あり　F：あり 第8回 【対面】 地域の資源の活用と関係諸機関の連携・協力（対面） 子どもや子育て家庭の支援を行う機関や施設について理解する。地域の資源にはどのようなものがあるか理解し自分が居住する地域の資源に関心を持つ。保育士としてどのような実践をしたいか考える。

	予習：教科書を読んでおくこと(読むページは授業内で指示をする、約1時間)。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第9回【対面】　子育て家庭の福祉を図るための社会資源（対面） 保育所保育指針の改定の社会的背景、および改定のポイントについて理解する。保護者・家庭および地域と連携した子育て支援に必要な社会資源としての専門機関について理解し、保育者としてどのようにかかわることができるかを学ぶ。 予習：教科書を読んでおくこと(読むページは授業内で指示をする、約1時間)。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約1時間） E：あり　F：あり 第10回【対面　子ども家庭支援の内容と対象（対面） 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援について、フィンランドのネウボラについて学びながら日本の取り組みについて理解する。保育所を利用している家庭への支援・地域の子育て家庭への支援・幼稚園の子育て家庭への支援など様々な支援の方法を取り上げ考察する。 予習：教科書を読んでおくこと(読むページは授業内で指示をする、約1時間)。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約1時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第11回【対面】　保育所等利用児童の家庭への支援（対面） 保育所における子ども家庭支援の基本的事項について理解する。保育所のさまざまな支援を実際の場面を想定したワークをしながら、保護者の心情に寄り添った援助方法を理解する。 予習：教科書を読んでおくこと(読むページは授業内で指示をする、約1時間)。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約1時間） E：あり　F：あり 第12回【対面】　地域の子育て家庭への支援（対面） 現代社会において地域の関係が希薄になっている状況がある。その中で地域の中で子どもを育てる意義を理解する。地域子育て支援センターにおけるさまざまな支援を理解し、地域に関心を持ち、地域の子育てを支えるための具体的方策について考える。 予習：教科書を読んでおくこと(読むページは授業内で指示をする、約1時間)。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約1時間） A：多　B：多　D：中　E：あり　F：あり 第13回【対面】　要保護児童およびその家庭に対する支援（対面） 要保護児童（保護者のない児童・被虐待児など）とその家庭への支援と実際について理解する。また、保育所の役割について考える。 予習：教科書を読んでおくこと(読むページは授業内で指示をする)。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約1時間） E：あり　F：あり 第14回【対面】　授業の総括・振り返り（対面） 学びの総括として試験を実施する 予習：授業で学んだ内容を振り返り、理解できたこと・できなかったことをまとめる。ノートなどをまとめ試験に向けて学びの整理をする。約2時間　復習：今後の課題を考える（約1時間） E：あり　F：あり 第15回【対面】　保育の現場での子ども家庭支援の現状と課題とまとめ（対面） 試験の解説 保育の現場における子ども家庭支援の実際と支援の方法について理解する 予習：ノートなどに目を通して学びを整理し、今後の課題を明確にする(約1時間)
教育目標との関連	社会変動が家族関係や養育システムに影響を及ぼし、個々の家庭生活の質を大きく変化させていることを認識することで、決められた一通りの支援を行う保育士ではなく、目の前の家族にニーズに合わせた支援を行える保育士になることを目指す。また、自らの将来像を思い描きながら、働き方や育児の仕方について考えることができるようにする。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．各家庭のニーズに合わせて家族や地域と連携することの大切さを説明できる。 ２．支援に関する基本的原則や手順を踏まえ、子育て支援に向けて適切な判断ができる。 ３．支援が必要な状況を分析し、論じることができる。 ４．支援が必要な人の気持ちに寄り添いながら、子どもの最善の利益を追求することができる。 ５．多様性を尊重し、望ましい解決策に導くことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業態度：20% 振り返りシート、ミニレポート：30% 試験：50％
教科書	『子ども家庭支援』　最新　保育士養成講座　総括編集委員会　編　橋本真紀、山本真実 他 共著　全国社会福祉協議会，2019年　2,090円
参考書	授業内で適宜紹介する
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。

履修上の注意、条件等	子どもを取り巻く社会情勢について関心を持ち、自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。 シラバスの内容は履修学生の理解度などにより変更もあります。
オフィスアワー	研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 乳児保育Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Infant Care Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
中村　聖子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F102
添付ファイル			
コピーカリキュラムマップ様式（乳児保育Ⅰ）.pdf			
コピールーブリック様式(乳児保育Ⅰ).pdf			

講義概要	乳児期は、人生の出発点であり、人間が一生のうちで最も著しく成長する時期である。この時期に、乳児が「安心感」を抱いて毎日を過ごすことが、将来の健全な心と身体を形成するうえで非常に重要である。全ての子どもが、安全な環境のもとで安心感を抱き、自尊感情を高くもちながら生活できる保育のあり方が求められている。2018年から施行された新たな保育所保育指針では、乳児保育の位置付けが一層重視されている。保育者にも、乳児保育を行ううえでの様々な専門性が必要とされている。 本講義では、健康管理や発達段階をしっかりと踏まえ、発達や人格の個性を見極めながら、乳児の健やかでなごやかな人格形成を援助するための知識や技術を学ぶ。子どもを一人の人間として受け止め、個性や可能性を尊重する保育、環境をとおして子どもの今、ここを大切にする保育という、乳児保育の基本的な倫理、判断についても学ぶ。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について 乳児保育の歴史をたどり、乳児保育の意識変遷について考察する。 保育所保育指針第1章『保育所保育に関する基本原則』、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章『幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本』を確認する。 復習：テキスト第1章『乳児保育の目的』を確認する。(1時間) 予習:保育所保育指針第4章『子育て支援』を読み、子どもの育ちと家庭との連携の重要性及び保育士の役割について考える。(1時間) B:少　E:あり　F:あり 第2回　育児不安の背景と、家庭での保育の現状と課題について 核家族が多くを占める我が国だが女性の社会進出と家事・育児の両立に光を当て、『育児不安の背景』『父親・母親像』『父親・母親としての成長』について意見交換をする。 復習:意見交換からいろいろな考えがあることを知り、保育士の立場から保護者支援について再考する。(1時間) 予習:子育てに関するニュースに関心を持ち、虐待事例をひとつ取り上げ、保護者の目線からまた保育士として保護者支援の立場から考察する。(1時間30分) A:多　E:あり　F:あり 第3回　3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育(1)　0歳児の発育、発達 保育所保育指針2章－1『乳児保育に関わるねらい及び内容』について確認する。 母体内から外界への環境変化に適応すべく、著しい発達・発育が見られる0歳児について学ぶ。 愛着の重要性について意見交換をする。 復習:乳児(0歳)の発育、発達についてまとめる。(1時間) 予習:テキスト第3章『0歳児の保育』及び保育所保育指針第2章－1(乳児保育の内容)を読む。(1時間30分) B:少　E:あり 第4回　3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育(2)　1歳児の発育、発達 保育所保育指針第2章－2『1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容』について確認する。 運動機能の発達、探索活動の活発化、情緒的深まりなど、1歳児ならではの特性について押さえる。自発的、能動的な働きかけが多くなり、玩具などを実物に見立てる象徴機能が発達し、人との関わりがより強まる時期であることを理解する。 復習:1歳児の発育、発達についてまとめる。(1時間30分) 予習:テキスト第3章『1、2歳児クラス』及び保育所保育指針第2章－2を読む。(1時間) B:少　E:あり　F:あり 第5回　3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育(3)　2歳児の発育、発達 保育所保育指針2章－2『乳児保育に関わるねらい及び内容』について確認していく。 基本的運動機能や指先が発達する。行動範囲は広まり、自我の育ちの表れとして自己主張が強くなる時期であることを理解する。事例を通して、２歳児クラスの保育について考える。 復習:2歳児の発育、発達についてまとめる。(1時間30分) 予習:テキスト第4章『おおむね2歳児への援助』及び保育所保育指針第2章－2を読む。(1時間30分) B:少　E:あり　F:あり 第6回　第3～5回まとめと幼児クラスへの移行 保育所保育指針第2章－3『3歳以上児の保育に関するねらい及び内容』について確認する。 乳児クラスから幼児クラス(3歳クラス)へ移行する時期と保育について、そのつながりの重要性について意見交換する。 復習:乳児クラスから幼児クラスへの移行についての配慮点をまとめる。(1時間) 予習:テキスト3～4章、保育所保育指針第2章－1、2、3を再読する。(1時間) B:少　E:あり　F:あり 【振り返り】第1回～5回の振り返りテストを行い、3歳未満児の発育発達のついての理解を深める。なおテストは第7回目に返却、解説する。 第7回　保育所における乳児保育 保育所の1日について、朝の視診・受け入れから降園までの流れ、保育内容及び保護者対応について学ぶ。基本的生活習慣とは何か。またそれを身につけるための働きかけ、内容について考える。

	復習:朝の視診の重要性及び配慮点についてまとめる。(1時間) 予習:テキスト第6章『家庭との連携』、保育所保育指針第1章『養護に関する基本的事項』を読む。(1時間) E:あり　F:あり
	第8回　保育所以外の児童福祉施設における乳児保育(1)　乳児院 乳児院の1日(24時間)について、その流れ及び保育看護について学ぶ。 乳児院の役割と変遷、機能、乳児院での養育の基本について意見交換をする。 復習:テキスト第1章『乳児保育の歴史的な流れ』を再確認し、その社会的役割を考える。(1時間) 予習:テキスト第6章乳児に関する専門機関について確認する。(1時間) B:多　E:あり
	第9回　保育所以外の児童福祉施設における乳児保育(2)　児童養護施設 乳児院から児童養護施設への措置変更について子どもの立場に立ち援助点考える。 児童養護施設の歴史的変遷及び社会的役割について、考察する。 児童養護施設に勤める保育士としての責任、位置づけについて考察する。 復習:身近にある児童養護施設の形態及び役割、職員の配置について調査する。(2時間) 予習:テキスト第4章保育所の果たす役割を読む。(1時間) C:多　E:あり 【振り返り】第7回～9回の授業の振り返りテストを行う。保護者を支援する施設の役割について理解し、さらに施設のあり方について深めたい内容をまとめる。なおテストは第10回目に返却、解説する。
	第10回　保護者との連携、協働・自治体や地域の関係諸機関との連携、協働 保育所保育指針第4章に謳われているように、保育所における保護者支援は『入所している子どもの保護者』だけではなく『地域における子育て支援』も含んでいる。保護者支援は保育士等の重要な業務である。その専門性を生かした関わり及び地域での保育所の位置づけについて学ぶ。 復習:保育所保育指針第4章を再読し『地域の保護者などに対する子育て支援』の実際について調査する。また『子どもの虐待ニュース』については常に関心をもって見るようにする。(2時間) 予習:テキスト第6章乳児保育のネットワーク、保育士の役割を読む。(1時間) A:少　E:あり　F:あり
	第11回　保育者の資質向上と連絡、協力 育児不安や悩みを抱えて子育てをしている保護者が、苦悩の末に大きな喜びを発見した事例(4例)を扱い検討する。懇談会などで保育者がファシリテータの役割をしながら、保護者の育児力を高めるためにはどうしたらよいか、また職種間の連絡、協力について意見交換をする。 復習:保育所保育指針第5章『職員の資質向上』を読む。自分が居住する地域の様々な『子育て支援』について調査する。(3時間) 予習:テキスト第2章家庭で育つ乳児と親の現状を読む。(1時間) B:多　E:あり　F:あり
	第12回　家庭における乳児の保育 家庭における0歳児、1歳児、2歳児の日常について学ぶ。 家庭と保育所二つの文化を行き来する入所している0歳児、1歳児、2歳児に焦点を当て、その生活の連続性について考察する。 また事例を通して子どもどおしの衝突と保育士の関割り方について意見交換をする。 復習:テキスト第2章『家庭で育つ・育てる』及び保育所保育指針第4章を再読しする。(1時間) 予習:第1回～12回の授業内容の再確認をする。(3時間) B:多　E:あり　F:あり
	第13回　乳児保育Ⅰ試験と各単元の解説・学びの振り返りⅠ 【振り返り】(1)乳児保育の変遷と社会的役割(2)女性の社会進出と子育ての両立・育児不安(3)3歳未満児の発育・発達(4)家庭・保育所・乳児院・児童養護施設で育つ子ども(5)専門職保育士の役割(6)地域諸機関との連携について総まとめをする。 前半に『乳児保育Ⅰ』のテストを行い、後半解説する。 復習:今回の試験の確認を行う。(1時間) 予習:今回の試験を含め、テキスト及び保育所保育指針の再確認を行う。(3時間) B:あり　E:多　F:多
	第14回　学びの振り返りⅡ 【振り返り】育児不安と保育所・保育士の役割について再確認し、乳児保育の在り方について意見交換をする。 復習：第1回～14回の配布資料(テストを含む)、保育所保育指針、テキストの学習個所を再確認する。(１時間) 保育所の乳児保育の担当保育者の話を聞く。（１時間) B:あり　E:多　F：多
	第15回　学びの振り返りⅢ 【振り返り】育児不安と保育所・保育士の役割について再確認し、乳児保育の在り方について意見交換をする。 復習：第1回～14回の配布資料(テストを含む)、保育所保育指針、テキストの学習個所を再確認する。(１時間) 乳児院の保育者の話を聞く、（１時間) B:あり　E:多　F：多
教育目標との関連	乳児保育の歴史はまだ浅く、保育現場で試行錯誤しつつ創り上げていかなければならない部分も少なくない。家庭と保育所・こども園、二つの文化の中で生きる乳児にとって、日中の保護者である保育士の存在は極めて大きい。乳児の発育発達の理解はもとより、実践に必要な知識、技術をしっかり身につけた上で現場に立ちたい。 主体的に行動し、職種間の連携を大切にし、保護者からの信頼を獲得できるよう、常に自己研鑽を怠らず、課題意識を持ち探求し続けることが求められる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲	１　乳児保育の意義及び乳児の発育発達について理解し、産休明け児及び月齢、年齢に合わせた保育実践ができる。 ２　育児不安の背景、乳児保育の今日的課題を把握し、入所児の保護者だけでなく地域の保護者等に対する子育て支援について考えることができる。 ３　保育士として求められる基本的姿勢(時間厳守、守秘義務など)を身につけるよう努力し続ける。

５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1　試験　　50%　総まとめとして定期試験を1回行う(13回目）。授業全般から総合的な理解を確認する。 2提出課題　　30%　その都度課題を与えるので授業内容を踏まえて課題意識を持ち自分なりの考えを述べてほしい。評価方法はルーブリックを用いて行う。 3発表・平常点　　20%　授業内容の振り返り(小テストを適宜行う)及び宿題確認を行う。
教科書	乳児保育演習ブック 第２版　松本峰雄 ミネルヴァ書房　2,500円 保育所保育指針 保育所保育指針解説
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	実習や日常生活の中で目にする乳児の姿に注目して、乳児について理解を深めようとする態度が必要である。 毎回、授業の最後に書くリフレクションシートをもとに、次回授業では復習や補講を行う。
履修上の注意、条件等	DVDやビデオ視聴時には、その記録を基にレポート課題の提出を求める(その都度指示)。 提出物の提出期限厳守のこと。また授業開始時間までに授業準備をし着席していること。 毎回必ず、『教科書』『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』を持参すること。
オフィスアワー	
備考・メッセージ	乳児保育の大切さ、楽しさをみなさんと共有できる授業にしたいと思います。毎回授業の最後にリフレクションシートを記入してもらいますので、感じたこと、考えたこと、質問をできるだけたくさん書いてください。

講義科目名称：　特別支援教育（障害児保育）Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免選択、保育士必修
担当教員			
古橋　真紀子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：F201
添付ファイル			
ルーブリック（特別支援教育Ⅱ）.jpg			
カリキュラムマップ（特別支援教育Ⅱ）.jpg			

講義概要	この科目はⅠⅡで構成される特別支援教育（障害児保育）のⅡにあたる。Ⅱでは昨年度主に学んできた障害自体についての学びを基礎に、子どもの保育上のニーズを理解し、効果的に支援していくために必要な具体的な方法を考え学ぶ。さらに、障害児だけでなく特別な支援を要する子どもたちを含む学級の経営について事例を通して考えていく。また、親や関係機関、小学校とどう共同・協働して切れ目のない支援を行っていくかについても学ぶ。 授業者は知的障害児入所施設、療育センター、特別支援学校幼稚部・小学部等における実務経験に基づき、具体的な事例をあげながら授業を実施する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション 講義概要を理解する。 予習・復習：テキストｐ．３を読む。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約２時間） B：少 E：あり F：あり 第2回　多様な子どもの保育 テキストを元にテーマについて学ぶ。 予習・復習：テキストｐ.10～19を読む。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約２時間） B：中 E：あり F：あり 第3回　身体障害のある幼児の困難さの理解と保育（肢体不自由・視覚障害） 身体障害（肢体不自由・視覚障害）の困難さについて学び、その理解に基づく保育や配慮について考える。 予習・復習：テキストｐ.40～46を読む。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約２時間） A：多 B：少 E：あり F：あり 第4回　身体障害のある幼児の困難さの理解と保育（聴覚障害・病弱虚弱） 身体障害（聴覚障害・病弱虚弱）の困難さについて学び、その理解に基づく保育や配慮について考える。 予習・復習：テキストｐ.46～55を読む。学んだことを発表できるようにまとめる。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約２時間） A：多 B：少 E：あり F：あり 第5回　発達障害のある幼児の困難さの理解 発達障害障害の一般的困難さについて学び、その理解に基づく保育や配慮について考える。 予習・復習：テキストｐ.20～39を読む。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約２時間） B：中 E：あり F：あり 第6回　発達障害の幼児の保育 発達障害障害の一般的困難さに基づく保育や配慮について考える。事例を検討する。 予習・復習：テキストｐ.25～31を読む。（約４時間） A：多　B：少　E：あり F：あり 第7回　多文化の子ども・養育環境による配慮を要する子どもの理解と保育/保護者への支援 予習・復習：テキストｐ.56～69,129～132を読む。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約２時間） B：中　E：あり F：あり 第8回　個別の支援計画作成とその評価（実態把握とその理論） 個別の支援計画について理解し、作成のために必要な実態把握について学ぶ。 予習・復習：テキストｐ.77～87を読む。支援計画を作成してみる。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約４時間） B：中　E：あり F：あり 第9回　個別の支援計画作成とその評価（支援計画を書いてみよう） 子どもの生活場面からインフォマールアセスメントをして、支援計画を作成する点順について学ぶ。 予習・復習：テキストｐ.77～87を読む。支援計画を作成してみる。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約４時間） B：中　E：あり F：あり 第10回　特別な支援が必要な子どもと遊び テキストを元にテーマについて学ぶ。 予習・復習：テキストｐ.96～104を読む。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約２時間） B：中　E：あり F：あり 第11回　子ども理解に基づく教材研究（指導計画案とそれに基づく教材の作成） 子ども理解からねらいや内容を考え、教材を作成する。

	予習・復習：テキストｐ.96～104を読む。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約４時間） B：中　E：あり F：あり 第12回　子ども理解に基づく教材研究（発表） 作成した教材を発表しあうことを通して教材研究を深める。 予習・復習：テキストｐ.96～104を読む。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約４時間） B：中　E：あり F：あり 第13回　専門機関・小学校との連携 テキストを元にテーマについて学ぶ。 予習・復習：テキストｐ.133～146を読む。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約２時間） B：中　E：あり F：あり 第14回　ともに育つクラス運営 テキストを元にテーマについて学ぶ。 予習・復習：テキストｐ.10～19を読む。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約２時間） B：中　E：あり F：あり 第15回　まとめテスト　学びの振り返り 到達目標と各自の到達度チェック。授業の評価を行う。 予習・復習：授業での学びを振り返る。テストに出た問題を振り返り、関連個所を資料などで確認する。授業内容を復習し、積極的に理解しようと努める。（約４時間） Ｂ：少　Ｅ：あり
教育目標との関連	障害児保育についてＩから更に学びを深め、主体的に障害児保育の理論と実践について考え、議論することで知識・思考力を身に付ける
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. 子どもの多様なニーズを把握することができる。 3. 事例から支援計画・保育計画を立案することができる。 2. 保育計画から保育展開を想定することができる。 4. 保護者の状況に関心をもち、支援方法を論じ合うことができる。 1. 他機関との連携について説明することができる。 （到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること）
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	試験50％：定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。 発表・提出課題45％：各回ミニ課題の提出がある。また、８回、９回、10回の授業内でプレゼンテーションを行う。 平常点評価5％：提出課題の直し、ディスカッション及びプレゼンテーションにおける発表内容及び積極性を評価する。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	『子どもの育ち合いを支えるインクルーシブ保育』￥1760大学図書出版2017年
参考書	『特別支援学校幼稚部教育要領解説総則編』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業開校日（金曜日）のみ出校。授業前後の時間に講師控室にて対応。
備考・メッセージ	対面授業を行う。

講義科目名称：　自然遊びと生活環境保全Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免選択、保育士必修
担当教員			
山下晶子			
授業形態：演習	担当形態：	実務経験：あり	ナンバリング：F206
添付ファイル			
自然遊びと生活環境保全IIカリキュラムマップ.pdf			
自然遊びと生活環境保全IIルーブリック.pdf			

講義概要	短大付近を散策すれば、都会の車の騒音などは聞こえず、風による葉の重なりあう音がまるで海の波の音のように聞こえ、歩けば落ち葉の絨毯が感じられる自然環境が豊かな場所である。また、四季の変化を実感できる場所でもある。一方、短大から駅まではバスや乗用車がひんぱんに通る中、親子が幼稚園に通う姿や公園で遊ぶ姿が見られる生活環境もそこにある。保育者として、遊びの素晴らしさについて、また安全や健康を守る観点からの生活環境について、体験や実験を通して考えていくことは非常に重要である。 そこで、これらの学習を「資質・能力の三つの柱」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から捉え、幼稚園や保育園などの活動に役立てることができるように行う。 他の科目との関連：1年生前期の「自然遊びと生活環境保全I」の内容は春から夏の中の活動であるが、この科目は秋から冬の季節の活動で、１年間の季節の変化が感じられる内容になっている。また、１年前期「幼児と環境」の体験型の学習内容となっている。（専攻科「保育内容特論」ではこの科目を土台にして、保育者の視点から環境構成や活動計画を立案できるようにしている。）
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回　オリエンテーション及び「育みたい資質・能力」の観点から考えるおもちゃ遊び この授業全体について「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の観点からこの活動を考える意義を説明する・予習：シラバスを読んでおく。　復習:「授業の振り返り」を classroomで提出　（約２時間） A：中　B：小　D:小　E：あり　F：あり 第２回　芝人形づくり 生命の営みにふれ、生物の多様性がもたらす「めぐみ」により豊かな生活は成り立っているということを知る。 復習:「授業の振り返り」を classroomで提出　（約２時間）　A：中　D：中　E：あり　F：あり 第３回　秋の自然散策 短大から里山までネイチャーゲームを行いながら散策する。予習：ネイチャーゲームの解説書を読んでおく。　復習:「授業の振り返り」を classroomで提出　（約２時間）A：多　B：小　C：中　D:小　E：あり　F：あり 第４回　どんぐりおもちゃ製作 短大には多くの種類のどんぐりがあり、それを集め、おもちゃを製作する。多くの。予習：解説書を読んでおく。　復習:「絵日記」のメール提出　（約２時間）A：中　D:中　E：あり　F：あり 第５回　安全に配慮した自然散歩コースづくり 自然散策を行うための安全に配慮した整備を行う。予習：事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。　復習:「授業の振り返り」を classroomで提出。　復習:「授業の振り返り」を classroomで提出。（約２時間）A：中　C：中　E：あり　F：あり 第６回　自然物モビールづくり 自然散策で集めた自然物をつかってモビールを製作する。予習：事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。　復習:「授業の振り返り」を classroomで提出。　復習:「授業の振り返り」を classroomで提出。（約２時間）A：中　C：中　E：あり　F：あり 第７回　ネイチャーゲーム① 手引書に従ってネイチャーゲーム「落ち葉の窓」などを実践し、保育の観点から意義を理解する。予習：事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。　復習:「授業の振り返り」を classroomで提出。　（約２時間）A：中　C：中　E：あり　F：あり 第８回　ネイチャーゲーム② 手引書に従ってネイチャーゲーム「しぜんだいすきさがし」などを実践し、保育の観点から意義を理解する。予習：事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。　復習:「授業の振り返り」を classroomで提出。　（約２時間）A：中　C：中　E：あり　F：あり 第９回　フリスビー遊び 古新聞紙を利用したフリスビーづくりとその遊びを行う。事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。　復習:「授業の振り返り」を classroomで提出。（約２時間）A：中　C：中　E：あり　F：あり 第１０回　交通安全 短大近くの小学校の通学路を歩き、危険だと感じられる箇所の写真を撮り、幼稚園などの安全教育として役立てる。事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習:「授業の振り返り」を classroomで提出。（約２時間）A：中　C：中　E：あり　F：あり 第１１回　植物を植えよう（花を育てよう） 春に花が咲く植物の球根を植える。春に花が咲くことを楽しみに植えて監査鵜をする。 事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習:「授業の振り返り」を classroomで提出。（約２時間）A：中　C：中　E：あり　F：あり 第１２回　自然の風と遊ぼう（凧あげ） 風を受けて遊ぶ凧あげを楽しみながら、自然の面白さを味わう。 事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習:「授業の振り返り」を classroomで提出。（約２時間）A：中　B：小　D:中　E：あり　F：あり 第１３回　室内空気汚染

	室内の化学物質による健康被害の事例から対策を安全教育として役立てる。事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習:「授業の振り返り」を classroomで提出。（約２時間）A：中　B：小　D:中　E：あり　F：あり 第１４回　学習到達度確認テスト及びまとめ この授業に関する学習成果を測る到達度テストを行い、授業全体のまとめを行う。予習：授業全体をまとめておく。　復習:「授業の振り返り」を classroomで提出。（約２時間）A：中　B：小　D:中　E：あり　F：あり 第１５回　14回の振り返り 「自然遊びと生活環境保全」の振り返り、テストのフィードバックをする。　（約２時間）A：中　B：小　D:中　E：あり　F：あり
教育目標との関連	自然体験や安全な生活環境に関する「知識・理解」並びに「表現力」を修得する。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1　「季節の自然遊び」及び「子どもの生活環境保全」を保育に役立つ視点から関係づけることができる。 2　「季節の自然遊び」及び「子どもの生活環境保全」で得た知識・理解を基にどのような保育活動が適切なのかを工夫し、思考することができる。 3　秋から冬の自然の美しさや面白さの発見を通して生命の尊重の大切さを理解し、表現できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	・授業全般について、①期末試験では授業の内容全般についての理解度を評価する（70%）、classroomなどによる振り返り「感想及びわかったこと」提出10%）出席や授業態度等（20%）総合的に評価します。 評価基準は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
教科書	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
参考書	授業中に適宜、資料を提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り（1日120分行うこと）
履修上の注意、条件等	classroomなどによる振り返りの「感想及びわかったこと」提出
オフィスアワー	研究室前に掲示します。
備考・メッセージ	原則対面授業。保育者になる意識で授業に参加しましょう。 シラバスの内容について、時間、天候等により変更する場合があります。

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ（保）　　授業コード：

英文科目名称： Practical Training Instruction I(Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１年	１単位	保育士必修
担当教員			
山下晶子、森脇晋、安田真紀子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：有	ナンバリング：G103
添付ファイル			
保育実習指導Iルーブリック・カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	本科目を通して学生は、保育実習の意義・目的及び内容を理解し、自らの課題を明確にする。また、実習に際しての留意事項（実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務）について理解し、実習生としての心構えを養う。さらに、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容などを理解した上で、具体的な準備を進めてゆく。実習終了後には、事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 他の科目との関連：本科目を通して、学生は保育実習Ⅰ（保育所）の事前準備や事後の振り返りをする。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　保育実習指導Ⅰ（保）の授業の概要について（学内オリエンテーション①） 保育実習Ⅰ（保）の概要と、学内で定められた履修基準について理解する。 保育実習Ⅰ（保）に臨むにあたっての心構えについて理解を深める。 B：中 予習・復習：「保育・教職の手引き」を読んでおくこと。（約1時間） 第2回　保育所について学ぶ ・現在、保育所に求められていることについて学ぶ。 ・夏季保育体験（半日）についての調査（用紙を）配付しその場で調べる。回収する B:中　E:あり　F:あり 第3回　実習日誌の記録方法① 観察記録の書き方について、メモの取り方やメモのまとめ方等具体的に学び、理解する。 自己紹介・手遊びの模擬保育を行う。 B：少、D：中 予習・復習：模擬保育の練習をしておくこと。（２時間） 第4回　実習日誌の記録方法② 実習園でのオリエンテーションの受け方について学ぶ。 模擬保育（自分が立案した部分指導案を使用して演じる） 予習・復習：模擬保育で必要な素材を用意し演じ方の練習をしておくこと。（2時間） D：中　F：あり 第5回　事前研修オリエンテーション 観察中のマナーや言葉遣いについて具体的に学ぶ。 自己紹介・手遊びの模擬保育を行う。 B：少、D多 予習・復習：模擬保育の練習をしておくこと。（２時間） 第6回　事前研修① 附属認定こども園に事前研修に行き、朝の自由遊び、主活動、昼食の様子、昼食後の保育の様子について観察する。 予習・復習：園の方針、概況、日課等あらかじめ調べたことについて復習をしておく。（２時間） C：多　F：あり 第7回　事前研修② 事前研修の振り返りを行い、保育所実習に向けた課題を明確にする。 予習・復習：園の方針、概況、日課等あらかじめ調べたことについて復習をしておく。（２時間） C：多　F：あり 第8回　自己課題の設定① 実習の課題の立て方について学ぶ。 夏期課題（パネルシアター・手袋シアター等）を演じる際の指導案を作成する。 予習・復習：事前研修の日誌を読んで、実習に臨むにあたっての自己課題を考えておくこと。（2時間） B：少 第9回　学内オリエンテーション② 実習園でのオリエンテーションの受け方について学ぶ。 模擬保育（自分が立案した部分指導案を使用して演じる） 予習・復習：模擬保育で必要な素材を用意し演じ方の練習をしておくこと。（2時間） D：中　F：あり 第10回　実習日誌の記録方法③ 事前研修の日誌をもとに、日々の日誌の書き方について復習する。さらに、考察の書き方について理解を深める。 模擬保育（自分が立案した部分指導案を使用して演じる） 予習・復習：模擬保育で必要な素材を用意し演じ方の練習をしておくこと。（2時間） D：中　F：あり 第11回　自己課題の設定② 実習のねらいと実習レポートの書き方について学ぶ。 模擬保育（自分が立案した部分指導案を使用して演じる） 予習・復習：模擬保育で必要な素材を用意し演じ方の練習をしておくこと。(2時間)

	D：中　F：あり 第12回　先輩の実習体験報告から学ぶ（実習への理解を深める） ２年生から施設実習体験の話しを聞き、実習に対する理解を深める。 予習・復習：あらかじめ施設実習に質問したいことを考えたうえで参加すること。（2時間） 第13回　実習直前準備 実習日誌の事前記入欄について教員の指導を受ける。 予習・復習：各自で実習日誌の記入欄を完成させておく。（2時間） 第14回　学内オリエンテーション③ 実習前の心構えと諸注意事項について理解する。 予習・復習：実習日誌、実習の手引き、実習園の資料を読み直しておく。（2時間） 第15回　実習の振り返りと自己評価 実習を振り返り、これからの実習の自己課題を明確にする。 予習・復習：実習日誌、実習園の資料を読み直しておく。（2時間）
教育目標との関連	保育実習Ⅰ（保育所）に向けて行われる準備や振り返りを通して、学生は、社会生活に必要な教養や保育者としての確かな知識および実践的技能を身につけてゆく。豊かな感性と愛の心を持った保育者を目指して学生は、実習に向けての努力を日々重ねていくことが求められる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．保育実習の意義・目的を理解する。 ２．実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ３．実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解し、実習に必要な保育技能を習得する。 ４．子どもの人権と最善の利益について考えて、一人ひとりの子どもに配慮する心を養う。 ５．実習を振り返り今後の課題や学習目標を明確にすることで、誠実に学ぶ態度を身に付ける。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	提出課題　60% 受講態度　40%
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』　小櫃智子他　わかば社　1400円（税別）
参考書	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。（1日120分取り組むこと）
履修上の注意、条件等	基本対面授業で実施。原則は、遅刻、欠席はできない。シラバスの変更あり。 保育者を目指すことの意識を持つこと。
オフィスアワー	時間及び場所は教務掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	基本対面で実施する。 夏期（休み）時、主に附属幼稚園にて保育体験を行う。夏休みの宿題あり。（ペープサート、手遊び、折り紙集等作成課題）

講義科目名称： 保育実習Ⅰ（保育所）　　授業コード：

英文科目名称： Practical Training 1 (Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１年	２単位	保育士必修
担当教員			
山下晶子、森脇晋、安田真紀子			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：有	ナンバリング：G102
添付ファイル			
保育実習I（保育所）ルーブリック・カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	本科目は保育所における実習である。実習を通して以下の5つの到達目標を達成することを目指す。 １．保育所の役割や機能を具体的に理解し、説明できる。 ２．観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ３．既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について学び、基本的なものを説明できる。 ４．保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解する。 ５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	１．保育所の役割と機能 （１）保育所の生活と一日の流れ （２）保育所保育指針の理解と保育の展開 ２．子ども理解 （１）子どもの観察とその記録による理解 （２）子どもの発達過程の理解 （３）子どもへの援助やかかわり ３．保育内容・保育環境 （１）保育の計画に基づく保育内容 （２）子どもの発達過程に応じた保育内容 （３）子どもの生活や遊びと保育環境 （４）子どもの健康と安全 ４．保育の計画、観察、記録 （１）保育課程と指導計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と職業倫理 （１）保育士の業務内容 （２）職員間の役割分担や連携 （３）保育士の役割と職業倫理 以上の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。
教育目標との関連	保育所での実習を通して、本学の目標である。幼児の心身の発達についての広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身につける。実習体験を経て、保育者への適性を見直すことにより、自己理解を深める。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．保育所の役割や機能を具体的に理解し、説明できる。 ２．観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ３．既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について学び、基本的なものを説明できる。 ４．保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解する。 ５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	原則として以下の基準に従う。 実習園が与えた評価　　40% 実習日誌などの評価　　60% ※　委細については、保育・教職実習の手引きを参照すること

教科書	なし
参考書	『保育所保育指針解説書』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	保育実習指導Ⅰ（保）の授業内容の復習をしておくこと。実習について省察をすること。
履修上の注意、条件等	本科目を履修するにあたっては、あわせて保育実習指導Ⅰ（保）を履修しなければならない。 本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅰも修得できない。
オフィスアワー	時間及び場所は、教室掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ(施)　　授業コード：

英文科目名称： Practical Training Instruction Ⅰ (Welfare Facilities)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	1単位	保育士必修
担当教員			
森脇晋　山下晶子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G204
添付ファイル			
保育実習指導ⅠカリキュラムMap&ルーブリック.pdf			

講義概要	本科目は保育実習Ⅰ(施設)に対する事前・事後指導である。事前指導では、施設の実習の意義・目的・内容を理解したうえで自らの課題を明確にする。さらに、実習施設の種別ごとに施設の支援内容に関する理解と実習の計画・観察・記録の方法について学ぶと共に、実習準備を行う。事後指導においては、自らの実習を振り返り今後の課題と改善点を明らかにし、保育実習Ⅱ・Ⅲに繋げる。 【他の科目との関連】 保育実習指導Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(保育所)は実習の所作等で共通するところが多い。こうした実習経験を元に、保育実習Ⅰ(施設)との差異を意識して、保育実習Ⅰ(施設)の事前準備や事後の振り返りを行う。 【教員の実務経験】 授業担当者は、母子生活支援施設において、社会福祉士や保育士の養成校の学生達の実習を受け入れてきた経験や、横浜市社会福祉協議会の施設啓発動画の編集委員長、厚生労働省の母子生活支援施設運営指針WG委員等の経験を元に、施設実習の在り方を学んでもらう。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　施設実習の意義と目的 保育士養成課程における施設実習の意義とその目的を理解する。施設や利用者に対する正しい理解と知識を養うために、どのような学びが必要になるのかディスカッションを通して問題意識を共有する。 予習・復習：シラバスを読み、科目の全体像を把握しておくこと。また、「社会的養護」の復習をすること。（各１時間） Ａ：多　Ｂ：多 第2回　施設をイメージしてみよう ゲストを２施設お呼びして、トークセッションの中で、施設実習とはどんなものかを探る。 予習：保育実習指導Ⅰ（保）、保育実習Ⅰ（保育所）を振り返える。　(1時間) 復習：トークセッションの感想をまとめる。　(1時間) Ｂ：少　Ｅ：あり 第3回　施設での実習内容 保育実習Ⅰ（施設）における実習の課題と観察するべきポイント、実習生に求められる心構え等を映像資料等を用いて理解する。 予習・復習：施設実習の課題と観察したいポイントを自身で考え、まとめる。　(各1時間) Ｂ：中 第4回　児童養護施設の日常 映像資料等を活用して乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設における児童の生活と職員との関係について理解する。 予習・復習：乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設における児童の生活と職員との関係について自分なりにまとめてみる。　(各1時間) Ｂ：少 第5回　知的障害児施設の日常 映像資料等を活用して知的障害児施設における利用児の生活と職員との関係について理解する。 予習・復習：知的障害児施設おける児童の生活と職員との関係について自分なりにまとめてみる。（各1時間） Ｂ：中 第6回　配属施設について理解を深める 配属された施設の概要と実習内容について、過去の実習生の記録や様々な資料、ｗｅｂで公開されている情報などを参考に把握し話し合う。 予習・復習：配属予定の施設の情報をまとめてみる。　(各1時間) Ｂ：中 第7回　施設実習への取り組み姿勢について 利用児(者)の守秘義務・プライバシー・権利擁護を含む、施設実習における実習の取り組み姿勢・留意点等について深く理解する。 予習・復習：施設実習における実習の取り組み姿勢・留意点を考えまとめる。　(各1時間) Ｂ：少　Ｆ：あり 第8回　施設実習における計画書の書き方について 施設実習における実習計画書の書き方について例を用いて具体的に学ぶ。 予習：実習で何をやりたいか自分なりにまとめてみる。　(1時間) 復習：実習計画書をまとてみる。　(1時間) Ｂ：中 第9回　実習計画書の確認 実習前に書くべき項目について書きあげる。 予習：事前に実習計画書の書くべき項目について仕上げて置くこと。（1時間） 復習：実習計画書を仕上げる。（1時間） Ｆ：あり 第10回　施設実習における日誌の書き方について 施設実習における観察記録の書き方について例を用いて具体的に学ぶ。 予習・復習：教科書を元に、実習日誌を書いてみる。（各1時間）

	Ｂ：中 第11回　実習日誌の準備 実習前に書くべき項目について学ぶ。 予習：事前に実習日誌の書くべき項目について仕上げて置くこと。（1時間） 復習：実習日誌に書くべきことをまとめる。（1時間） Ｆ：あり 第12回　実習日誌の記入練習 動画を視聴して実習日誌を書いてみる。 予習・復習：教科書を参考に実習日誌を書いてみる。（各1時間） Ｆ：あり 第13回　直前ガイダンス 『実習の手引き』の「施設実習の心得」を中心に、実習中の心得や実習生としての態度を理解する。また、実習中の事務連絡の方法等も確認する。 予習：『実習の手引き』をよく読んでおくこと。（1時間） 復習：実習中の心得や実習生としての態度、『実習の手引き』を振り返っておく（1時間） Ｂ：少 第14回　反省会① 実習施設の種別ごとに実習内容・感想・反省・課題を発表し、各学生の経験を共有することで各々の経験の理解を深める。 予習・復習：自身の実習施設の内容・感想・反省をまとめる。（各1時間） Ｂ：多 第15回　反省会② 実習施設の種別ごとに実習内容・感想・反省・課題を発表し、各学生の経験を共有することで各々の経験の理解を深める。さらに、「振り返りシート」を用いて各々が実習の自己評価を記録する。 予習・復習：級友の実習施設の内容・感想・反省をまとめる。（各1時間） Ｂ：多
教育目標との関連	1.保育所以外での福祉施設における実習への準備を通して、施設保育士としての知識や倫理を修得し、社会において活躍する可能性を広げる。 2.福祉施設で求められる生活支援の技術を学ぶことで、保育所保育士における社会福祉的専門性を向上し、保育所や認定こども園・幼稚園に登園する子ども達の中の要保護児童や要支援児童の家庭への支援が出来る専門職になれるようにする。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.保育実習Ⅰ(施設)の意義・目的や心構え法的根拠を理解し説明できる。 2.利用児(者)の理解に努め、それに基づいた基本的な判断ができる。 3.要保護児童や利用児(者)に対して､その多様な背景や課題を理解した上で､共感的･受容的態度で関わる事ができる。 4.事後指導を通して実習を客観的に振り返り､今後の課題を明確にした上で事後学習に積極的に取り組む事ができる。 5.利用児(者)に対して、保育者として守秘義務･プライバシーを守り権利を尊重する事ができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	＜評価方法＞ 課題提出　　60%　課題の成果や自分なりの考察ができているかを評価する。 受講態度　　40%　提出物の提出状況、意欲的な取り組み、発言や発表時の態度を総合的に評価する。 ＜評価基準＞ 別途ルーブリックに従う
教科書	より深く理解できる「施設実習」、松本峰雄監修、萌文書林、2021年第3版発行　2,000円
参考書	・保育実習Ⅰ(保育所)で用いた教科書 ・『保育所保育指針』 ・種別ごとの運営指針や運営ハンドブック（必要に応じて提供する）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	・予習および復習のための参考図書、課題などは必要に応じて授業時に指示する。
履修上の注意、条件等	・保育実習指導Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(保育所)を履修していること。
オフィスアワー	・研究室にて受け付ける。時間は研究室掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	・課題に関しては、Googleクラスルームで提出すること。 ※Googleクラスルームに提出された課題に関しては、原則、提出後１週間程度でレスポンスを返す。

講義科目名称： 保育実習Ⅰ（施設）　　授業コード：

英文科目名称： Nursery Practical TrainingⅠ（Welfare Facilities）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	２単位	保育士必修
担当教員			
森脇晋　山下晶子			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G203
添付ファイル			
保育実習Ⅰカリキュラム Map＆ルーブリック.pdf			

講義概要	厚生労働省「指定保育士養成施設の指定基準について」で定められた保育所以外の福祉施設における実習を通して、福祉施設の役割や機能を理解するとともに、利用児・者の理解を深める。また、施設保育士の業務内容や職業倫理、他職員との連携や生活環境の整備について実践を通して学ぶ。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。 １．施設の役割と機能 （１）施設における利用児(者)の生活と施設保育士等の援助や関わり （２）施設の役割と機能 ２．利用児(者)の理解 （１）利用児(者)の観察とその記録 （２）個々の状態に応じた援助や関わり ３．施設における利用児(者)の生活と環境 （１）計画に基づく活動や援助 （２）利用児(者)の心身の状態に応じた生活と対応 （３）利用児(者)の活動と環境 （４）健康管理、安全対策の理解 ４．計画と記録 （１）支援計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と倫理 （１）保育士の業務内容 （２）職員間の役割分担や連携 （３）保育士の役割と職業倫理
教育目標との関連	保育士資格は保育所を含めた児童福祉施設等で働くための資格である。保育所以外の児童福祉施設等での実習を通して保育者としての実践的な技能や倫理を身に着けることができる。また、施設の利用児・者の生活支援を通して豊かな感性と規則正しい生活習慣を身に着けることができる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．施設保育士として必要な福祉施設の社会的役割について説明することができる。 ２．利用児(者)の理解に努め、それに基づいた基本的な支援ができる。 ３．要保護児童や利用児(者)に対して、その多様な背景や課題を理解した上で、共感的・受容的態度で関わる事ができる。 ４．配属施設の指導者の指導に従って､実習に積極的に取り組む事ができる。 ５．ケアの基本となる積極的なコミュニケーションができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習機関の評価　４０％ 実習日誌などの評価　６０％ ※委細については、保育・教職の手引きならびにルーブリックを参照すること。
教科書	なし
参考書	授業時に指示する。

準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	「保育実習指導Ⅰ(施)」の授業および「社会的養護」・「障害児保育」の授業を復習しておくこと。
履修上の注意、条件等	本科目を履修するにあたっては、保育実習指導Ⅰ(施)をあわせて履修しなければならない。 本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅰ(施)も修得できない。
オフィスアワー	実習中の質問等は実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称：　保育実習指導Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：　Iustruction for Practical Training Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	２年こども コース	１単位	保育士必修
担当教員			
石見容子、松田清美			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G206
添付ファイル			
カリキュラムマップ（保実II）.pdf			

講義概要	これまでの実習における学びを踏まえ、保育実習Ⅱに向けての保育実習の意義・目的・内容を理解し、自己課題を明らかにする。 こども理解に基づいた指導計画を立案し、模擬保育を通して実践する力・省察する力を養う。 また事後指導では、総括、評価を行い、今後の保育活動に活かせるよう、自己課題を明確にする。 他教科との関連：保育実習指導Ⅰ（保）・教育実習指導及び保育実習指導Ⅰ・教育実習において学んだ保育者としての心構えや保育技術の習得の上に、望ましい保育者像を追求する。 担当教員（石見）は、日本の幼稚園やアメリカの幼稚園、保育園での保育者経験があり、それを活かして、より現場をイメージできるような説明をしながら実習に向けての準備をすることができるよう、授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション　保育士の仕事と役割 学内オリエンテーション①「実習参加に向けての準備」 これまでの実習を振り返り、実習生としての心構え・実習生に求められるものについて考える。 また、アメリカにおける実習の在り方を知り、本学の実習の在り方について改めて理解を深める。 B:中　E:あり　F:あり 予習：シラバスを熟読しておく（30分） 復習：次の実習に向かうにあたり、どのような準備が必要であるか、各自で考える（30分） 第2回　こども理解と日誌の書き方① こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。(流れ記録) 流れ記述式の記録の取り方についてそのポイントを確認する。 B:中　E:あり　F:あり 予習：今までに行った実習の日誌を見返す（1時間） 復習；授業内でのVTRを思い出しながら、流れをまとめる（1時間） 第3回　こども理解と日誌の書き方② こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。（エピソード記録） エピソード記述式の記録の取り方についてそのポイントを確認する。 B:中　E:あり　F:あり 予習：今までに行った実習の日誌を見返す（1時間） 復習：授業内でのVTRを思い出しながら流れをまとめる（1時間） 第4回　乳児の指導計画 ０・１・２歳児指導計画の立案の仕方について学ぶ。生活場面における個別配慮事項について理解する。 実際に計画を立てる練習をする。 B:中　E:あり　F:あり 予習：乳児の発達について教科書を見て復習する（1時間） 復習：授業内で立てた計画を見直す（1時間） 第5回　乳幼児の活動提案 ０・１・２・３・４・５歳児の発達の理解に基づいた活動の提案を行う。活動内容が発達を踏まえたものであるか、またこどもたち自らが工夫を加えることができる発展性のある教材となっているか意見交換をし検討する。B:中　E:あり　F:あり 予習：幼児の発達について教科書を見て復習する（1時間） 復習：授業内に出た他者からの意見をまとめておく（1時間） 第6回　乳幼児の活動提案② ０・１・２・３・４・５歳児の活動の提案を行う（続き）。 責任実習を想定し、改良を加える。 Ｂ：多　Ｆ：あり 予習：活動案を決めシミュレーションする（1時間） 復習：授業内でまとめた計画を見直す（1時間） 第7回　学内オリエンテーション 学内オリエンテーション② 実習前の心構えと諸注意について 予習：保育実習Iを振り返り実習前の心構えを各自まとめる（1時間） 復習：実習園についてまとめたうえで、実習前オリエンテーションの質問事項をまとめる 第8回　全日指導案の作成 活動提案型の全日指導案を作成する。 課題：全日指導案の作成 A:多　E:あり　F:あり 予習：各自の選択した歳児の発達について十分理解しておく（1時間） 復習：授業内で決めた計画の詳細をシミュレーションする（1時間） 第9回　模擬保育の準備 乳児グループ、幼児グループに分かれて、模擬保育に向けた準備をする。 A:多　E:あり　F:あり

	予習：主活動（模擬保育）に向けての準備物をまとめる（1時間） 復習：その活動に参加する実際の子どもをイメージする（30分） 第10回　模擬保育① グループごとに、保育実習Ⅱをイメージし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価し、互いの評価も行う。 Ａ：多　Ｆ：あり 予習：模擬保育の準備をする（1時間） 復習：自身の振り返りをまとめる（1時間） 第11回　模擬保育② グループごとに、保育実習Ⅱをイメージし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価し、互いの評価も行う。 Ａ：多　Ｆ：あり 予習：模擬保育の準備をする（1時間） 復習：自身の振り返りをまとめる（1時間） 第12回　日誌点検 実習に向け、日誌の在り方について再確認し、内容の点検を行う。 Ｆ：あり 予習：保育実習Iの日誌を見返す（1時間） 復習：実習日誌を書く際のポイントをまとめる（1時間） 第13回　保育実習Ⅱにおける学びについてディスカッション 保育実習Ⅱにおける学びについてディスカッションを以下の観点で行う。 ・園の特徴 ・保育者の姿勢や助言から学んだこと ・困ったことへの対応 ・これまでの実習と比較して成長したところ ・自分の保育観 Ｂ：多　F:あり 予習：実習を振り返る（1時間） 復習：自身の保育観について考える（1時間） 第14回　実習の振り返りとまとめ（学生によるプレゼンテーション及び自己評価と課題設定） 保育実習Ⅱにおける学びや自身への気づきについてプレゼンテーションを行う。 専門職としての保育士に必要な知識、態度、技能を身につけるために、保育実習Ⅱの自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 D:多 予習：実習を振り返り、プレゼンの下準備をする（1時間） 復習：次のステップに向けての自身の課題をまとめる（1時間） 第15回　実習事後指導、実習を振り返り、自己課題について考える 仲間の実習と自身の実習をそれぞれ振り返り、相互の学びの時間とする。 D:多 予習：実習を振り返り、プレゼンの下準備をする（1時間） 復習：次のステップに向けての自身の課題をまとめる（1時間）
教育目標との関連	保育者として、理論に基づいた確かな保育技術を身につける。また実習生としての立場を理解し、謙虚に誠実に、かつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行う。社会生活に必要な教養を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.保育実習Ⅱの意義、目的、心構え、法令上の事項について理解できる。 子どもの発達,子ども理解につとめるとともに、社会の中の保育園の存在意義について説明できる。 2.保育内容を観察・計画・実践・評価し、目標の達成に向けた改善及び方法について思考・判断することができる。 3.実習指導案、日誌、自己の課題等について規定及び文章作法に基づいてまとめることができる。 4.保育実習を振り返り、自身の良かった点や今後の課題について分析・自己評価することができる。 5.実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協働することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．評価方法 提出課題50%　：提出された課題は確認後、各学生へのコメント・添削をして返す。 受講態度50% ２．複数教員での担当のためルーブリックはない
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』小櫃智子他　わかば社　1400円 『自分を生かす実習ハンドブック』　関口はつ江監修　大学図書出版　2000円 『保育所保育指針解説』　厚生労働省　　フレーベル館　250円
参考書	『保育学生のための実践国語表現』原田/留美　おうふう　1100円
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各授業前にはシラバスを確認し、授業に向けての準備を整えておく。その他、具体的予習内容は各授業会に記載している。
履修上の注意、条件等	保育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。
オフィスアワー	質問等は限定コメントで受け付ける。また、研究室にオフィスアワーを掲示する。
備考・メッセージ	原則として全て対面授業でおこなう。

講義科目名称： 保育実習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Nursery Practical TrainingⅡ (Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	２年	２単位	保育士選択必修
担当教員			
石見容子、松田清美			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：あり	ナンバリング：G205
添付ファイル			

講義概要	本科目は保育所における実習である。 各保育所での指導を受け、保育観察・保育参加・責任実習などを行い、乳幼児理解をはじめ、実習記録の取り方、保育指導案の作成など保育の実際を学ぶことにより、使命感や責任感を持って教育実践できる能力を身につけることを目的とする。また事前に立てた個々の実習課題を追究する。保育所実習においては子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識し、常に学ぶ姿勢を持ち、体調に留意しながら実習に臨む必要がある。 担当教員（石見）は、日本の幼稚園やアメリカの幼稚園、保育園での保育者経験があり、それを活かして、より現場をイメージできるような説明をしながら実習に向けての準備をすることができるよう、授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約１１日間の実習を行う。教員が訪問指導を行う。 １．保育所の役割や機能の具体的展開 （１）養護と保育が一体となって行われる保育 （２）保育所の社会的役割と責任 ２．観察に基づく保育理解 （１）子どもの心身の状態や活動の観察 （２）保育士等の動きや実践の観察 （３）保育所の生活の流れや展開の把握 ３．子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （１）環境を通して行う保育、生活や遊びを通じて総合的に行う保育の理解 （２）入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 （３）地域社会との連携 ４．指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 （１）保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価とカリキュラムマネジメントの理解 （２）作成した指導計画に基づく保育実践と評価 ５．保育士の業務と職業倫理 （１）多様な保育の展開と保育士の業務 （２）多様な保育の展開と保育士の職業倫理 ６．自己課題の明確化
教育目標との関連	保育実習を通して学生は、本学の目標である幼児の心身の発達について広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場という社会で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身に着けることができる。さらに、自分の体調を管理しながら乳幼児と共に過ごすことにより、豊かな感性と愛の心を育む。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.保育実習Ⅱの意義、目的、心構え、法令上の事項について理解できる。 子どもの発達,子ども理解につとめるとともに、保護者対応や支援の意義を理解できる 2.保育内容を観察・計画・実践・評価し、目標の達成に向けた改善及び方法について思考・判断することができる。 3.実習指導案、日誌、自己の課題等について規定及び文章作法に基づいてまとめることができる。 4.保育実習を振り返り、自身の良かった点や今後の課題について分析・自己評価することができる。 5.実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協調することができる。

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習先が与えた評価　４０％ 実習日誌などの評価　６０％ 授業内でルーブリックを示し評価方法を解説する。 また保育・教職の手引きを参照すること。
教科書	なし
参考書	『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	保育実習Ⅰの指導内容、さらには保育実習指導Ⅱの授業内容を復習しておくこと。実習日誌に毎日記録をおこなう。（約2時間）提出された日誌は園でのチェックを受け、実習後に教員との評価票面談を通して振り返りをおこなう。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ（保育所および施設）を修了し、かつ保育実習指導Ⅱを履修しなければならない。 本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅱも修得できない。
オフィスアワー	実習中の質問等は実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面（園における実習）

講義科目名称：　保育実習指導Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：　Instruction for Practical Training Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	保育士選択必修
担当教員			
森脇晋			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G206
添付ファイル			
保育実習指導III　カリキュラムmap、ルーブリック.pdf			

講義概要	保育実習Ⅰ(保育所・施設)を履修した後、さらに専門的に施設の利用児(者)を理解し、施設保育士の職務内容や役割、各施設における生活と養護機能について学ぶことを目的とする。事前学習においては、関係図書などを自発的に調べ、各自の実習の課題・目標などを明確に持つ。事後学習では、実習内容を振り返り、施設保育士の専門性について理解を深める。 【教員の実務経験】 授業担当者は、母子生活支援施設において、社会福祉士や保育士の養成校の学生達の実習を受け入れてきた経験を有しており、実習施設の視点から、各実習施設における留意点を意識した実習準備を指導する。また、施設保育士を目指す学生に対して、将来の進路に対する実習の意義を自ら見出せるよう指導する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション 保育実習Ⅲの全体像を掴み、その意義と目的を理解する。 予習・復習：シラバスを読んで、保育実習Ⅲの全体像を把握するとともに、保育実習Ⅰとの違いを意識して施設実習のイメージを持つ。（各１時間） B少 第2回　実習施設の研究１ 過去の実習生が作成した実習施設ファイルを用いて各自の実習施設について理解し、まとめる。 予習・復習：養護施設や障害児(者)施設についてワークシートを用いて事前学習する。わかりやすいプレゼンテーションのための準備をする。（各１時間） B少　C中　E有　F有 第3回　実習施設の研究２（プレゼンテーション） 前回の授業でまとめた各自の実習施設について発表し情報を共有する。 予習・復習：自分や友達の発表を通して学んだことや、自身の調べた実習施設の概要や特徴について不足していた情報を調べたり、まとめ直したりする。（各１時間） B少　D多　E有　F有 第4回　実習課題の設定・実習日誌の書き方（施設における観察と記録） 保育実習Ⅰ（施設）の振り返りから保育実習Ⅲでの実習自己課題を考える。施設における観察の視点と記録方法について動画を通して理解する。実習日誌の書き方について、保育実習Ⅲとしてふさわしい書き方について具体的観点を理解する。 予習・復習：保育実習Ⅰ(施設)の実習日誌や自己評価をもとに、友達の実習経験や振り返りを踏まえ、自身の次の実習課題を考える。（各１時間） B少　E有 第5回　施設職員の役割１ 施設において利用児(者)を支援する専門職の職種と役割について調査し、レポートにまとめる。 予習・復習：児童福祉の分野の専門職ついてワークシートを作成して整理する、（各１時間） B少　C多　F有 第6回　施設職員の役割２（プレゼンテーション） 前回の授業でまとめた施設の専門職について発表し情報を共有する。 予習・復習：各自で専門職についてまとめる。（各１時間） B少　D多 第7回　利用児(者)の理解と権利養護について 「利用児(者)の最善の利益」について学ぶとともに、具体的な場面での行動について考える。 予習・復習：ワークシートを使い子どもの権利条約について簡潔に整理する。（各１時間） B少　D多　E有　F有 第8回　責任実習指導案の立案について 施設養護や障害者支援について理解を深め、責任実習の指導案を作成する。 予習・復習：各実習施設の利用者を想定して、責任実習の指導案を作成する。（各１時間） B多　F有 第9回　模擬責任実習１ 前回の授業をもとに立案した責任実習に沿って、必要な環境やモノを準備することを通して、必要におうじて指導案を訂正し、完成度をあげる。 予習・復習：各実習施設の利用者が活動する様子を想定して、必要な準備を行うと共に指導案の改善をする。（各１時間） B多　F有 第10回　模擬責任実習２ 指導案に基づく活動の展開を実際にロールプレイすることを通して、責任実習に向けての課題を明確にする。 予習・復習：ロールプレイを通して気づいたことや学んだことをもとに、指導案を改善する。（各１時間） B多　F有 第11回　自立支援計画の作成について１ 利用児(者)の自立支援とは何か事例を通して理解する。 予習・復習：実際に自立支援計画を立案する。（各１時間） B多　E有　F有

	第12回　自立支援計画の作成について２（プレゼンテーション） ケースカンファレンスを想定し、利用児・者の自立支援について各自の作成した自立支援計画についてプレゼンテーションを行う。 予習・復習：自立支援計画を作成する。（各１時間） B中　D中　E有 第13回　期末試験・実習直前ガイダンス 施設実習参加のための基本的な知識が習得できているか確認の試験を実施する。施設実習における心得や態度、また実習中の事務連絡等の方法なども理解する。 予習・復習：本学の「施設実習の心得」を再読しポイントを整理する。（各１時間） B少　E有 第14回　実習の事後報告・反省会の準備 実習を振り返り、報告・反省会に向けての準備を行う。 予習・復習：実習記録などを再読し、ポイントをまとめる。（各１時間） C中　E有　F有 第15回　実習の事後報告・反省会および総括 種別ごとに実習内容・感想・反省課題などを各自が発表する。 職業倫理に関して、実習を通して具体的に捉える。 予習・復習：授業前に評価表面接を実施、自己の課題について明確にする。（各１時間） B中　D多　E有　F有
教育目標との関連	施設実習に向けての準備を通して、施設保育士としての確かな知識を修得する。施設実習に必要な生活支援技術を学ぶことにより、自己覚知（自己を知り）し、自身の進路に関して熟慮できるようになる。また、多様な価値観を受容し、保育者としての実践的な技能を身につけることができる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	施設実習Ⅲにおける到達目標は以下の通りである。 １．各施設の目的や機能、それぞれの専門職の役割について理解し説明できる。 ２．施設保育士の倫理を理解した上で、社会的養護や療育の現場における適切な判断ができる。 ３．実習に必要な生活支援技術や療育の基礎を理解し、実践の場で使うことができる。 ４．施設保育士(専門職)として客観的に自己評価をする態度を身に付け、自らの専門性の向上をさせることに取り組むことができる。 ５．実習施設における利用児(者)の背景や人権、プライバシーの保護と守秘義務について理解し、配慮する事ができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	課題提出・授業内評価（所定の手続きを含む）：60% ※積極的傾聴態度、授業内容の記録、教員の質問・問いかけに対し真剣に考えているか等を評価する。 期末試験：40% ※課題に関しては、Googleクラスルームで提出すること。 　提出された課題に関しては、原則、提出後１週間程度でレスポンスを返す。
教科書	より深く理解できる「施設実習」、松本峰雄監修、萌文書林、2021年第3版発行　2,000円 ※保育実習指導Ⅰ(施)と同じ教科書を使用する。
参考書	・保育実習指導Ⅰ(保育所)で用いた教科書 ・『保育所保育指針』 ・種別ごとの運営指針や運営ハンドブック（必要に応じて提供する）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	・保育実習指導Ⅰ(施)と保育実習Ⅰ(施設)の内容を振り返っておくこと。 ・前提となる知識として社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、子ども家庭支援論、障害児保育を元に授業を展開するので、これらの科目のテキストや資料を再読すること。 ・復習課題に関しては、Googleクラスルームで提出すること。 　※Googleクラスルームに提出された課題に関しては、原則、提出後１週間程度でレスポンスを返す。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ(保育所・施設)を修了していること。
オフィスアワー	・研究室にて受け付ける。時間は研究室掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育実習Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称： Nursery Practical Training Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	２年	２単位	保育士選択必修
担当教員			
森脇晋			
授業形態：実習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G205
添付ファイル			
保育実習III　カリキュラムmap、ルーブリック.pdf			

講義概要	「保育実習I(施設)」を踏まえ、施設における家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに保育実践力をより確かなものにする。それにあたっては、福祉施設の役割や機能について実践を通して様々な支援、すなわち個別支援計画の作成と実践、子どもの家族への支援と対応等を実践と結びつけて修得する。さらに、専門職としての施設保育士の役割と職業倫理を学び、保育をめぐっての自己の課題を明確にする。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約１１日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い。スーパービジョンを実施する。 １．児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 ２．施設における支援の実際 （１）受容し、共感する態度 （２）個人差や生活環境に伴う利用児(者)のニーズの把握と利用児(者)理解 （３）個別支援計画の作成と実践 （４）利用児(者)の家族への支援と対応 （５）各施設における多様な専門職との連携・協働 （６）地域社会との連携・協働 ３．施設保育士の多様な業務と職業倫理 ４．施設保育士としての自己課題の明確化
教育目標との関連	施設における実習を通して、そこで生活する利用児(者)を受容し、共感する態度を養う。個人差や生活環境に伴う利用児(者)のニーズを把握し、理解を深め、利用児(者)、また家族への支援と対応を学ぶ。さらに社会的スキルを身につけ、他の専門職と円滑なコミュニケーションができる基礎的な力を養う。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	２．利用児(者)の個人差、利用児(者)の個別ニーズを理解した上で、支援計画などを考えることができる。 ３．施設保育士の倫理を理解した上で、施設保育士の現場における適切な判断・行動ができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習機関の評価　40% 実習日誌などの評価：60% ※なお、評価の委細については「実習の手引き」とルーブリックを参照すること。
教科書	適宜プリントを配布する

参考書	より深く理解できる「施設実習」、松本峰雄監修、萌文書林、2021年第3版発行　2,000円
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	保育実習指導Ⅰ(施)と保育実習Ⅰ(施設)の内容を振り返っておくこと。また、前提となる知識として社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、障害児保育をベースに授業を展開するので、これらの科目のテキストや資料を再読すること。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ（保育所・施設）を修了していること。
オフィスアワー	実習中の質問等は、実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	過剰支援はしない。自ら切り開いていく意気込みで頑張ることに対して応援する。

講義科目名称：　コンピューターサイエンス　　授業コード：

英文科目名称：　Computer science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	１単位	卒業選択
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：
添付ファイル			

講義概要	ICTの進展とともに、スマートフォンやタブレットなどが私たちの生活により身近になった「情報社会」。これからの情報社会においては、ソフトウェアを使いこなす活用能力だけではなく、「プログラミング的思考」が求められている。　初等教育においても、プログラミング教育が必須となり、国語・算数・理科・社会の各教科の中では「プログラミング的思考」の指導が求められている。このような時代の要請を受け、この講義では、「プログラミング的思考」とは何か「システム」とは何か演習を通して理解する。さらにSTEM（S：Science「科学」、T：Technology「技術」、E：Engineering「技術」、M：Mathematics「数学」）教育についても演習を通して理解し、Society 5.0（ソサエティ5.0）に向かう社会に適応しうる基礎力を養う。なお、本演習におけるプログラミングは、文字によるコードの記述ではなく、ブロックの組み合わせ「ビジュアル言語」で学ぶ。 【教員の実務経験】 SIベンダにおけるSEとしてのシステム構築経験。 企業・社会福祉法人におけるシステム管理部門部門長の経験。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション【プログラミング思考とは何か？】 Society 5.0とは、どのような「社会か？ 初等教育で実施されたプログラミング思考の指導とその内容について（理系教育ではないことを理解する）。 予習：Society 5.0とは何か調べる。 A:多　B:中　E:有 第2回　プログラミングの体験（順次処理） アルゴロジックによるプログラミングを体験し、処理の流れ、順番について理解する。 A:中　B:中　E:有 第3回　プログラミングの体験（繰り返しと条件分岐） アルゴロジックによるプログラミングを体験し、繰り返しや条件分岐について理解する A:中　B:中　E:有 第4回　Scratchの準備とキャラクターを動かす Scratchへの参加（※短大のメールアドレスとパスワードが必要です） イベントの作成とスプライトの動作。 A:中　B:中　E:有 第5回　音の取り扱い イベントの扱いを学ぶ A:中　B:中　E:有 第6回　条件分岐の処理 ゲームを作りながら条件分岐（真偽ブロック）を学ぶ。 A:中　B:中　E:有 第7回　AI（人工知能）プログラミング入門 人工知能とは。 パソコンに学習させる方法を理解する。 A:中　B:中　E:有 第9回　AIレジを作る① 画像認識とリスト 画像認識（形状認識）させる レジに登録するサンプルを３種類以上準備すること。 A:中　B:中　E:有 第10回　AIレジを作る② 画像認識とリスト レジに登録するサンプルを３種類以上準備すること。 A:中　B:中　E:有 第11回　システムをデザインする クラス図はUMLの基本となる図のひとつで、システムを構成するクラスとそれらの関係を表現します。また、各クラスが保持する属性（プロパティ）や操作（メソッド）も表現します。 A:中　B:中　E:有 第12回　システムデザインを具体化する クラス図などで表現されたクラス構成や相互関係に対して、それを具体化(インスタンス化)した

	レベルで表現されたオブジェクト図を作成します。これを理解することで、より実現がイメージしやすくなり正当性の評価も行いやすくなります。 A:中　B:中　E:有 第13回　システムの振る舞いをデザインする 連続する「実行」の移り変わり、つまり一連の「手続き」を表現するための図をアクティビティ図といいます。ある事象の開始から終了までの機能を実行される順序にしたがって記述します。 A:中　B:中　E:有 第14回　人とシステムをデザインする ユースケース図によって、ユーザ（利用者）が何を行うのかを書き出します。このことによって、より具体的な要件定義の視覚的な理解深まると同時に、不足している要件や修正するべき要件を洗い出す事が可能になります。 A:中　B:中　E:有 第15回　学びの振り返り 各自の到達度チェックと学修成果の確認
教育目標との関連	Society 5.0（ソサエティ5.0）に向っている情報社会に必要な教養を身につけ、その中で保育者として働くための確かな知識を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．コンピュータの仕組み、システムの仕組みについて理解し説明できる。 ２．システム思考・プログラミング思考に基づいた考え方や判断ができる。 ３．プログラミングの基礎理論を理解した上でシステム構築の基本的な実践ができる。 ４．情報社会の課題に関心を持ち、その課題に対して積極的に関わることができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	＜評価方法＞ 最終課題　　４０％ 演習課題　　６０％ 演習課題は、ワークシート・プログラミング課題、システム演習課題によって評価する。 ＜評価基準＞ 別途、ルーブリックに従う。
教科書	教科書については特に指定しない。 必要な授業資料はGoogle classroomにて提示します。
参考書	アルゴロジックについて https://algo.jeita.or.jp/index.html Scratchについて https://scratch.mit.edu/
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	予習・復習については適宜Google classroomで指示します。
履修上の注意、条件等	本科目のGoogle classroomに必ず登録してください。
オフィスアワー	金曜日
備考・メッセージ	初心者からのプログラミング入門になります。プログラミングやシステムの学習を通して、システマティックな思考ができるようにしましょう。

講義科目名称： 児童文化　　授業コード：

英文科目名称： Children's Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年	1単位	卒業選択
担当教員			
相澤京子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：H203
添付ファイル			
児童文化2022.pdf			

講義概要	現代社会では様々な場面において「文化」が伝承の危機を迎えている。こどもに関しても例外ではなく、都市部の開発による環境の変化や少子化等により、こどもが自由に遊ぶことが困難となり、「児童文化」が伝承しにくい状態になって久しい。しかし、こどもたちの発達を助け、感性を豊かにするためには児童文化財は欠かせないものであることから、乳幼児にかかわる保育者を目指す者として「児童文化」の理解は必要不可欠である。 そこで、本講義では、絵本や紙芝居をはじめとする様々な児童文化財を取り上げ、実践してみることにより、保育環境の中でどのように活用できるのかを体験的に学ぶことを目的とする。 他の科目との関連：「幼児と言葉」「保育内容（言葉）の指導法」などの授業で学んだ絵本の知識や言語表現技術の実践をさらに深化・発展させる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション―児童文化とは何か― シラバスを用いて、本演習のねらいと内容、及び受講上の注意と約束を説明する。 児童文化の種類を学生自身の経験を振り返ることによってまとめる。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておく。（約30分） 復習：配布したプリントの内容を踏まえ、こどもにとっての遊びの意義について自身の考えをまとめる。（約30分） D:中　F:あり 第2回　保育教材としての絵本 絵本の絵の法則やこども特有の見方について学ぶ。さらに、図書館で実際の絵本を使って絵の法則を確認する。 予習：こどもの発達段階にふさわしい絵本について調べておく。（約1時間） 復習：絵本の絵の法則について、実際の絵本で確認しておく。（約1時間） A:中 第3回　日本と外国の昔話 昔話と伝説との違いを学んだ上で、日本と外国の代表的な昔話の内容を確認する。また、昔話絵本の比較を行った上で、保育現場での活用方法についてグループディスカッションを行う。 予習：自身の知っている昔話をまとめておく。（約1時間） 復習：授業で取り上げた以外の昔話について、絵本の比較を行う。（約1時間） B:中 第4回　こどもが楽しめる企画・展示の立案 児童文化財を活用したこどもが楽しめる企画や展示をグループごとに立案する。各グループの計画内容についてディスカッションを行い、実施する内容を決定する。 予習：児童文化財を活用した子どもが楽しめる企画や展示を考えておく。（約30分） 復習：企画や展示を実施するための下準備を行う。（約1時間） A:多　B:多 第5回　こどもが楽しめる企画・展示の準備と実践 児童文化財を活用したこどもが楽しめる企画や展示を行うための準備と実践を行う。 復習：準備・練習で足りなかった部分を補っておく。（約1時間） A:多 第6回　保育教材の製作と実践 くつした人形の製作と実演を行う。 予習：自身の製作する作品をイメージしながら材料を準備する。（約1時間） 復習：くつした人形の保育現場における活用方法を考える。（約1時間） A:多 第7回　伝承遊びの実践 伝承遊びの種類を知る。さらに、折り紙・あやとり等の伝承遊びを実践する。その上で、伝承遊びの魅力とこどもにとっての意義を考える。 復習：授業で取り上げなかった以外の伝承遊びを実践する。（約1時間） A:多 第8回　総括と学習到達度の確認テスト 保育における児童文化について考えることにより、これまでの授業の総括を行う。また、学習到達度の確認テストを実施する。 予習：これまでのノート・プリント類を整理する（約1時間） B:少

教育目標との関連	様々な児童文化財を知り、実践することは、保育者として必要な知識と実践力を身につけることにつながる。その中で、こどもが生きる地域や社会、文化に関心を持つとともに、多様な他者との協調性を図るようになる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1.こどもの育ちにとっての児童文化財の意義を理解し、説明できる。 DP3.こどもの発達段階に適した児童文化財を選択し、実践できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	試験　40%　・授業の内容全般についての理解度と実践力を評価する 授業への取り組み　50%　・グループ活動や伝承遊びの実践に対する貢献度や取り組みを評価する 提出課題　10%　・授業内に行った課題に対する取り組みを評価する 評価方法は添付資料のルーブリックを参考すること。
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	『保育における子ども文化』松本峰雄編（わかば社、2014）1,980円（税込）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。指示されたほかにも、児童文化財に触れる機会を意識的に増やしてもらいたい。
履修上の注意、条件等	グループ活動や伝承遊びを実践する時間を設けるので、各自の意欲的な姿勢が求められる。また、文化祭やフェリシアアートウィークへの参加を予定している。保育教材の製作のため、材料費が100円程度かかる。 なお、シラバスの内容は履修学生の人数等によって変更の可能性がある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Googleクラスルームの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面授業で行う。

講義科目名称：　幼児音楽入門（ピアノ）　　授業コード：

英文科目名称：　備考欄に記載

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	卒業選択
担当教員			
宮本　眞理子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：D101
添付ファイル			

講義概要	幼い頃の歌いたいという体験や、リズムに合わせて身体が揺れるという体験を誰もが思い出すことができるだろう。そのような感性豊かな乳幼児期に音楽の楽しさを伝えることは、保育者の大切な役目である。 　この授業は、ピアノ初心者のための入門のコースである。ピアノが弾ける・歌える保育者になるために、楽譜を読む・書く・歌う・弾く、また音を聴き取るなどの基礎的な訓練を重ねて実践力をつけていく。 担当教員(宮本)は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、初心者向けの読譜力アップの授業に力を入れている。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「音楽（声楽）」など音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容（表現）の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くことになる『こどものうた』も学ぶので、実習とも関連がある。 今年度は全ての回を対面授業で行う。
授業計画および学習形態 　各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 　A:グループワーク 　B:ディスカッション 　C:フィールドワーク 　D:プレゼンテーション 　E:振り返り 　F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 　多：45分以上 　中：15分～44分 　少：15分未満 　Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　音楽の基礎を学ぶ（1）授業の進め方について 理論：譜表（五線と加線）・音部記号 読む：ピアノの中央と低い方のドレミファソ（10枚）のカードを覚える。 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」（Ⅰ-P.13ステップ1）をドレミで歌いながら弾く。左右の手の指番号を覚える。 聴き取る：2音の高さの違いを聞き分ける。 プリント学習：№1 予習・復習　音符カード10枚と左右の手の指番号を確実に覚える。「ぶんぶんぶん」を練習する。(毎日20分) 　A:少　F:あり 第2回　音楽の基礎を学ぶ（2） 理論：音の並びについて知る。（ドレミファソラシド・ドシラソファミレド）（ドミソシレファラド・ドラファレシソミド） 読む：10枚のカードを読み、ピアノで鳴らす。 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」（Ⅰ-P.13ステップ1と2）をドレミで歌いながら弾く。 聴き取る：聴いた音をラララで歌う。 予習・復習　10枚のカードの音をピアノで確認する。「ぶんぶんぶん」を練習する。(毎日20分) 　A:少　F:あり 第3回　音楽の基礎を学ぶ（3） 理論：音符と休符①（単純音符・単純休符の長さ） 読む：中央から下のドシラのカードを増やす。（13枚）ピアノで鳴らして確認する。 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。 歌う・弾く：バイエルNo.44（テキスト1・2・3－P.23）を歌いながら弾き、音符の長さを確認する。 聴き取る：３つの音の動きを聴き楽譜に書く。 プリント学習：№2 予習・復習　13枚のカードの音を覚え、ピアノで確認する。「ぶんぶんぶん」とバイエルNo.44を練習する。(毎日20分) 　A:少　F:あり 第4回　音楽の基礎を学ぶ（4） 理論：音符と休符②（付点音符・付点休符の長さ） 読む：13枚のカードを復習する。ピアノで鳴らして確認する。 書く：高い方の音域のメロディーを写す。 歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。 　　「ちょうちょ」（Ⅰ-P.14ステップ1）をドレミで歌いながら弾く。 聴き取る：４つの音の動きを聴き楽譜に書く。 プリント学習：№3 予習・復習　13枚のカードの音をピアノで確認する。今回までの3曲を練習する。(毎日30分) 　A:少　F:あり 第5回　音楽の基礎を学ぶ（5） 理論：リズムと拍子（拍と拍子・拍子記号） 読む：高い方のドレミファソのカードを増やす。（18枚）ピアノで鳴らして確認する。

書く：ピアノの中央の音域のメロディーを高い方と低い方に書きかえる。
歌う・弾く：「きらきらぼし」（Ⅰ-P.48ステップ1）をドレミで歌いながら弾く。
聴き取る：短いメロディ-を聴いて書く。
プリント学習：№3（続き）

予習・復習　18枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。「きらきらぼし」等4曲を練習する。(毎日30分)
A:少　F:あり

第6回　音楽の基礎を学ぶ（6）
理論：和音
読む：ピアノの中央と高い方・低い方のドレミファソを復習する。（18枚）
ピアノで鳴らして確認する。
書く：ト音記号のメロディーを同じように写す。
歌う：フランスのソルフェージュ教材より。
弾く：「きらきらぼし」の連弾をして楽しむ。
プリント学習：№4

予習・復習　18枚のカードの音をピアノで確認する。これまでに学んだ『こどものうた』3曲を練習する。(毎日30分)
A:少　F:あり

第7回　音楽の基礎を学ぶ（7）
読む：ピアノの中央と高い方のドレミファソの間のラシのカードを増やす。（20枚）
ピアノで鳴らして確認する。
書く：ヘ音記号のメロディーを同じように写す。
歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。ヘ音記号のメロディーを歌いながら、左手の練習をする。
バーナム　ピアノ　テクニックより。
聴き取る：短いメロディーを聴いて書く。
プリント学習：№4（続き）

予習・復習　20枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。(毎日30分)
A:少　F:あり

第8回　音楽の基礎を学ぶ（8）
理論：調（調子記号）
読む：これまでのカード20枚を復習する。ピアノで鳴らして確認する。
書く：ト音記号のメロディーをヘ音記号に書きかえる。
歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。ヘ音記号のメロディーを歌いながら、左手の練習をする。
バーナム　ピアノ　テクニックより。
プリント学習：№5

予習・復習　20枚のカードの音をピアノで確認する。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。(毎日30分)
A:少　F:あり

第9回　音楽の基礎を学ぶ（9）
読む：ヘ音記号の低いシラソファのカードを増やす。（24枚）ピアノで鳴らして確認する。
書く：ヘ音記号のメロディーをト音記号に書きかえる。
歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。左手の練習をする。（2拍子・4拍子・3拍子）
バーナム　ピアノ　テクニックより。
聴き取る：短いメロディ-を聴いて書く。
プリント学習：№5（続き）

予習・復習　24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。(毎日30分)
A:少　F:あり

第10回　音楽の基礎を学ぶ（10）
理論：これまでの復習をする①
読む：これまでのカード24枚を復習する。知っている音域をピアノで確認する。
書く：「たなばたさま」（Ⅰ-P.51ステップ1）を写す。（ヘ長調）
歌う・弾く：「たなばたさま」をドレミで歌いながら弾く。左手に出て来る♭（フラット）の黒鍵の位置を確認する。
プリント学習：№6

予習・復習　24枚のカードの音をピアノで確認する。「たなばたさま」の写譜を仕上げる。「たなばたさま」を練習する。(毎日30分)
A:少　F:あり

第11回　音楽の基礎を学ぶ（11）
読む：大譜表の外側の加線2本の音ドを覚える。知っているドをピアノで鳴らして確認する。加線のラとシの読み方も知る。
書く：「うみ」（Ⅰ-P.58ステップ2）を写す。（ト長調）
歌う・弾く：「うみ」をドレミで歌いながら弾く。左手の和音の読み方・弾き方を学ぶ。左手に出て来る#（シャープ）の黒鍵の位置を確認する。
プリント学習：№6（続き）

	予習・復習　24枚のカードの音と加線2本のドをピアノで確認する。「うみ」の写譜を仕上げる。「うみ」を練習する。(毎日30分) A:少　F:あり 第12回　音楽の基礎を学ぶ（12） 理論：これまでの復習をする。② 読む：大譜表の内側の加線の音の読み方を知る。楽譜の音の重なり具合を確認する。 歌う・弾く：「たなばたさま」「うみ」をドレミで歌いながら弾く。 プリント学習：№7 予習・復習　24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。「たなばたさま」と「うみ」を練習する。(毎日30分) A:少　F:あり 第13回　音楽の基礎を学ぶ（13） 読む：カードの復習をする。（確実でない音をさがす。）加線の音の読み方を復習し、確実にする。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：やさしい『こどものうた』に和音の伴奏（分散含む）を付けて弾く。 プリント学習：№8 遊びを工夫する：トーンチャイムを使った遊びを知る。（音の高低） 予習・復習　24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。(毎日30分) A:中　F:あり 第14回　音楽の基礎を学ぶ（14） 読む：カードの復習をする。カードを見てすぐピアノで鳴らせるようにする。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：「ちょうちょ」（Ⅰ-P.15ステップ2）を練習する。 プリント学習：№9 遊びを工夫する：トーンチャイムを使った遊びを知る。（リズム） 予習・復習　24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。(毎日30分) A:中　F:あり 第15回　音楽の基礎を学ぶ（15）　まとめ 読む：カードの復習をする。かるたで確認をする。 弾く：各自１曲発表する。 プリント学習：№10 遊びを工夫する：トーンチャイムの遊びを発展させ、やさしい『こどものうた』を演奏して楽しむ。 A:中　D:少　E:あり
教育目標との関連	この科目は、音楽の基礎技能や現場で役に立つ音楽指導力を身につける科目の準備段階になる。次の段階では、音楽の喜び・楽しさを知ることにより、これから関わる子どもたちにも音楽の喜び・楽しさを伝えられるようになる。保育者としての実践的な技能と共に、豊かな感性と愛の心を育てることにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.(DP1)基礎的な知識を理解し、楽譜を見て歌ったりピアノで演奏したりすることができる。 2.(DP4)歌ってみよう弾いてみようと意欲的に取り組むことができる。 3.(DP2)子どもたちにどのように音楽の楽しさを伝えるかを様々な角度から考えることができる。 添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	プリント課題　50%　毎回のプリント学習（小テスト）の成果を評価する。 実技課題　20%　ピアノの課題の取り組みを評価する。 平常点評価　30%　音楽の基礎力アップのための取り組みと成果を評価する。（音符カード等） 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
教科書	『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第1巻』　大海由佳 他　学研パブリッシング 2019　1,500円（税抜） 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第2巻』　大海由佳 他　学研パブリッシング 2019　1,500円（税抜） その他　適宜プリントを配付する。
参考書	大学所有のものを授業時のみ貸与して使用する。 ・『バーナム　ピアノ　テクニック』 ・フランスのソルフェージュ教材 ・音符カード
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	小さな積み重ね（くり返し）の努力が大きな成果となる。「幼児音楽」で使用する楽譜を身近に置き、読んだり歌ったり弾いたりすると良い。ピアノの練習をドレミで歌いながらすると読譜も早くなり歌も上達する。準備学習の音符カードとピアノの課題は必ず行うこと。（毎日20分～30分）
履修上の注意、条件等	入学時の音楽調査により読譜力アップが必要と思われる者に履修を勧める。
オフィスアワー	質問等に関してはメールにより受け付ける。

備考・メッセージ	Introduction to Musical Study for Child Education:piano ・全15回を対面授業で行う。

講義科目名称：　異文化体験Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	卒業選択
担当教員			
大見由香、百瀬志麻			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：	ナンバリング：
添付ファイル			
Culture Map.pdf			

講義概要	グローバルな時代において日本国内でも多様な文化社会がある。本科目では実地体験を通して、異文化を理解し、多様な物の見方ができるようになる。 異文化コミュニケーションの楽しさを経験するとともに、自らの課題を見出す。 フィールドワークでは、東京近郊の異文化社会やイベントなどを訪問する。事前に訪問先に関する予備知識・注意事項を学習した後体験を行ない、フィールドワークは主に土曜日に実施する。訪問先の状況により、スケジュール、内容が入れ替わることがある。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　フィールドワーク1　異文化イベントに参加しよう　オリエンテーション（学内） 授業概要について説明を受け、学生自らの異文化体験や課題についてディスカッションする。 訪問先の概要や訪問時の注意点について学習する。 B：中　F：あり 第2回　フィールドワーク1　異文化交流のツールである英語体験をする1（学外） Tokyo Global Gatewayにて海外生活の様々なシーンでのやりとり体験する。 C：多 第3回　フィールドワーク1　異文化交流のツールである英語体験をする2（学外） Tokyo Global Gatewayにて日本の魅力を英語で伝える体験をする。 C：多 第4回　フィールドワーク1　異文化交流のツールである英語体験をする3（学外） Tokyo Global Gatewayにてプロジェクトベースドラーニングを通じて、英語で専門知識を身につけられるプログラムを体験する。 C：多 第5回　フィールドワーク1　異文化交流のツールである英語体験のまとめ（学外） Tokyo Global Gatewayで体験したことを振り返る。 C：多 第6回　フィールドワーク2　オリエンテーション（学内） JICAの活動について調べ、訪問時の注意点について学習する。 F：あり 宿題：訪問先について調べ、見てきたい事、聞きたいことを考えておく。 第7回　フィールドワーク2　JICAの活動とさまざまな社会１（学外） JICAを訪問し、JICAの活動について学ぶ。 C：多　F：あり 第8回　フィールドワーク2　JICAの活動とさまざまな社会２（学外） JICAの活動について自らの興味や問題意識を見出し探究する。 C：多　F：あり 第9回　フィールドワーク2　JICAの活動とさまざまな社会３（学外） JICAの活動から学び、自らの興味や問題意識について考察する。 C：多　F：あり 第10回　まとめ（学内）異文化経験者との交流　オリエンテーション（学内） フィールドワーク2で体験したことについてディスカッションをし、各自の体験や考察をまとめる B：中　E：あり 宿題：フィールドワークの体験内容をまとめ、考察する。 第11回　フィールドワーク3　異文化経験者との交流1　オリエンテーション（学内） 多文化親子サークル「だんろ」の皆さんとの交流会に備え、質問を考え、英語での絵本よみの練習をする。 F:あり 宿題：読みたい絵本を選んでおく。 第12回　フィールドワーク3　異文化経験者との交流2　（学内） 多文化親子サークル「だんろ」の皆さんとの交流を通して地域の多文化社会について知る。 C：多 第13回　フィールドワーク3　異文化経験者との交流3　（学内） 多文化親子サークル「だんろ」の皆さんとの交流を通して多文化社会経験者の日本での生活、子育てについての苦労、工夫点などを知る。 C：多　F：あり 第14回　フィールドワーク3　異文化経験者との交流3　（学内） フィールドワーク3の体験内容をまとめ、考察する。 A：多　F：あり 宿題：振り返りレポート 第15回　まとめ ３つのフィールドワークで体験したことをまとめ、さらにそれぞれの国の文化、社会について知識を深め、今後どのように活かしていくのか考える。 B：中　E：あり　F：あり 課題：まとめレポート

教育目標との関連	国内における異文化体験を通して、他者や多様性を理解し、豊な感性と愛の心を育てる。グローバル市民として自らの視野を広げ、共感性や豊な表現力を身につけ、さらに自身の生き方について考えることができる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1.国内外での専門職としての保育者として必要な多文化・多様性について理解する。 DP2.グローバルの視点において求められている役割について考え、問題解決に向けて適切に判断することができる。 DP3.他者に傾聴し、自らコミュニケーションを実践・表現する。 DP4.広い世界に関心をもち、自ら積極的に学びを深めることができる。 DP5.他者および多様性を尊重し、深い愛情と共感性をもって他者に接したり、社会に貢献したりできる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	参加状況　60%　フィールドワークの参加状況（貢献度・事前準備を含む） 提出課題　40%　フィールドワーク後のまとめと発表
教科書	なし
参考書	なし
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	予習：各フィールドワークについてあらかじめ調べたり資料を読んでおく。復習：フィールドワークで経験したことを振り返り、自己の課題見いだす。（1時間）
履修上の注意、条件等	やむを得ず休むときは必ず事前に連絡すること。
オフィスアワー	大見：質問はGoogle Classroom または大見研究室にて受け付ける。時間は研究室に掲示する
備考・メッセージ	

講義科目名称：　異文化体験Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択
担当教員			
大見由香、百瀬志麻			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：	ナンバリング：
添付ファイル			
Culture Map.pdf			

講義概要	グローバルな時代において日本国内でも多様な文化社会がある。本科目では実地体験を通して、異文化を理解し、多様な物の見方ができるようになることを目指す。 異文化経験者とコミュニケーションをとる楽しさを経験するとともに、自らの課題を見出す。English Campがメインとなる。英語オンリーの環境の中、収穫祭やクリスマスの制作などを通してアメリカの文化を体験する。本授業は特別授業期間に実施する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　異文化交流のツールである英語体験をする1（学外） Tokyo Global Gatewayにて社会現場での英語でコミュニケーションを体験する。 C：多 第2回　異文化交流のツールである英語体験をする2（学外） Tokyo Global Gatewayにて英語でプロジェクト活動を行う。 C：多 第3回　異文化交流のツールである英語体験をする3（学外） Tokyo Global Gatewayで体験したことを振り返る。 C：多 第4回　異文化経験者との交流1　（学内） 多文化親子サークル「だんろ」の皆さんとの交流会に備え、質問を考え、英語での絵本よみの練習をする。 F:あり 宿題：読みたい絵本を選んでおく。 第5回　異文化経験者との交流2　（学内） 多文化親子サークル「だんろ」の皆さんとの交流を通して地域の多文化社会について知る。 C：多 第6回　異文化経験者との交流3　（学内） 多文化親子サークル「だんろ」の皆さんとの交流を通して多文化社会経験者の日本での生活、子育てについての苦労、工夫点などを知る。 C：多　F：あり 宿題：フィールドワークの体験内容をまとめ、考察する。 第7回　English Camp 1（学内） ネイティブの英語教員と英語のみの環境で会話を学ぶ。 C：多 第8回　English Camp 1　季節の製作1（学内） Thanksgivingについて学び、製作を行う。 C：多 第9回　English Camp 1　季節の製作2（学内） Christmas について学び、製作を行う。 C：多 第10回　English Camp 2　感謝祭について学ぶ1（学内） Thanksgivingについて学び、ターキーの調理を行う。 C：多 第11回　English Camp 2　English Conversation（学内） ネイティブの英語教員と英語のみの環境で会話を学ぶ。 C：多 第12回　English Camp 2　感謝祭について学ぶ2（学内） 感謝祭のディナーの説明を受け、テーブルセッティングを行いディナーを体験する。 C：多 第13回　English Camp 3　English Conversation（学内） ネイティブの英語教員と英語のみの環境で会話を学ぶ。 C：多 第14回　English Camp 3　英語の歌や手遊びを学ぶ（学内） 英語の歌や手遊びを学び、実際に歌う。 F：あり〞 第15回　English Camp 3　まとめ（学内） English Camp で経験したことを各自でまとめ、英語で発表する。 まとめレポート「異文化体験Ⅱの授業で学んだこと」 D：多　E：あり　F:あり
教育目標との関連	国内における異文化体験を通して、他者や多様性を理解し、豊な感性と愛の心を育てる。グローバル市民として自らの視野を広げ、共感性や豊な表現力を身につけ、さらに自身の生き方について考えることができる。

到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1.国内外での専門職としての保育者として必要な多文化・多様性について理解する。 DP2.グローバルの視点において求められている役割について考え、問題解決に向けて適切に判断することができる。 DP3.他者に傾聴し、自らコミュニケーションを実践・表現する。 DP4.広い世界に関心をもち、自ら積極的に学びを深めることができる。 DP5.他者および多様性を尊重し、深い愛情と共感性をもって他者に接したり、社会に貢献したりできる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	参加状況　70%　フィールドワーク・交流イベントの参加状況（貢献度・事前準備を含む） 提出課題　30%　フィールドワーク・交流イベント後のまとめと発表
教科書	なし
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：　異文化体験Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
前学期	2年	1単位	卒業選択	
担当教員				
大見由香、百瀬志麻				
授業形態：演習	担当形態：オムニバス		実務経験：	ナンバリング：
添付ファイル				

講義概要	
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	
教育目標との関連	
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	
教科書	
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な	

時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：　異文化体験Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択
担当教員			
大見由香、百瀬志麻			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：	ナンバリング：
添付ファイル			
カリキュラムマップ ボランティア活動.pdf			
ルーブリック　ボランティア活動.pdf			

講義概要	
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	
教育目標との関連	
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	
教科書	
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的	

内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称： English　Conversation Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： English　Conversation Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年	1単位	選択
担当教員			
Mary　Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E101
添付ファイル			
カリキュラムマップ　ルーブリック評価　English Conversation II.pdf			

講義概要	In order to gain confidence and fluency speaking English it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary. This class will be continued through English Conversation II. Also, as preparation for study abroad, there will be weekly vocabulary tests.　It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as difference between British English and American English, so a textbook focused on British English will be used.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Class One Elementary: Welcome to the Class Be Verb, Subject Pronouns Saying Hello, Saying Goodbye Pre-Intermediate: Are you? Can you? Do you? Did you? Word Order in Questions Exchanging Information Intermediate: Eating in...and out Present Simple and Continous Food and Cooking Talking about Preferences A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第2回　Class Two Elementary:　One World Be Verb: Negative and Questions Where are you from? Where is it from? Pre-Intermediate: The Perfect date? Present Simple Describing People, appearance and personality Intermediate: Eating in...and out Action and non-action verbs Agreeing and disagreeing Predicting content using visual clues A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第3回　Class Three Elementary: What's your email? Possessive Adjectives Giving personal information Classroom Language Pre-Intermediate: The Remake Project Present Continuous Clothes, prepositions of place Describing a picture, talking about preferences Intermediate: Modern Families Future Forms: present continuous, be going to Family Talking about the future A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第4回　Class Four Elementary: Are you tidy or untidy? Singular and plural nouns Saying where things are Pre-Intermediate: OMG! Where's my passport? Past simple: regular and irregular verbs Talking about your last holiday Understanding the key events in a story

		Intermediate: Modern families Future forms: will/won't Retelling a story Identifying reasons A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第5回	Class Five Elementary: Made in America Adjectives & Modifiers Describing things: the same or different? Pre-Intermediate: That's me in the picture! Past continuous Prepositions of time and place Talking about preferences Intermediate: Spending Money Present Perfect Talking about money Listening for facts A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第6回	Class Six Elementary: Slow down! Imperatives & Let's Talking about feelings Pre-Intermediate: One dark October evening Time sequencers and connectors Retelling a story Listening for specific information Intermediate: Spending Money Present perfect & past simple Talking about experiences A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第7回	Class Seven Elementary: Britain: the good and the bad Present simple: positive and negative sentences Things I like and don't like about my country Pre-Intermediate: TripAside Be going to (plans and predictions) Planning a tour Intermediate: Changing Lives Present perfect, for/since Talking about extremes A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第8回	Class Eight Elementary: 9 to 5 Present simple: questions Talking about jobs Understanding specific information Pre-Intermediate: Put it in your calendar! Present Continuous: future arrangements Making arrangements Understanding times, dates and appointments Intermediate: Changing Lives Present perfect continuous How long....? Understanding the order of events A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第9回	Class Nine Elementary: Love me, love my dog Word order in questions Getting to know somebody Pre-Intermediate: Word games Defining relative clauses Describing and paraphrasing Guessing words from definitions Intermediate: Survive the Drive Comparatives Being a tourist Confirming predictions

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第10回　Class Ten

Elementary: Family Photos
Possessive ’s, Whose...?
Talking about family
Identifying the main/supporting information

Pre-Intermediate: Who does what?
Present perfect & yet, just, already
Talking about housework
Understanding text cohesion - connectors

Intermediate: Survive the Drive
Comparatives and Superlatives
Transport
Giving opinions

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第11回　Class Eleven

Elementary: From morning to night
Prepositions of time and place
Daily routine
A typical weekend

Pre-Intermediate: In your basket
Present perfect or past simple
Talking about shopping experiences
Understanding a theory

Intermediate: Men, women, and children
Articles:a/an, the, no article
Generalizing
Understanding the main point in a paragraph

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第12回　Class Twelve

Elementary: Blue Zones
Position of adverbs, expressions of frequency
Retelling the main information in a text
Inferring information

Pre-Intermediate: #greatweekend
Something, anything, nothing, etc
Adjectives ending -ed and and -ing
Describing your weekend

Intermediate: Men, women and children
Collocation: verbs/ adjectives & prepositions
Talking about childhood

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第13回　Class Thirteen

Elementary: Vote for me!
can/can’t
Talking about abilities
Focusing on practical information

Pre-Intermediate: I want it NOW!
Comparatives adjectives and adverbs, as...as
Comparing habits: present and past
Scanning for data

Intermediate: Bad manners?
Obligation and prohibition: have to, must, should
Talking about annoying habits and manners

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第14回　Class Fourteeen

Elementary: A quiet life?
Present Continuous
Spot the differences
Identifying a situation from context

Pre-Intermediate: Twelve lost wallets
Superlatives
Describing a city or town
Talking about memorable experiences

Intermediate: Bad Manners?
Phone language
Understanding problems and advice
Assessing a point of view

	A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第15回　Class Fifteen Elementary: A city of all seasons Present simple or present continuous? The weather and seasons What to do in London Pre-Intermediate: How much is enough? Quantifiers, too, not enough Health and the body Talking about your lifestyle Intermediate: Yes, I can! Ability and possibility: can, could, be able to Talking about ability Understanding tips and examples A:多い　B:中　E:あり　F:あり
教育目標との関連	The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved. 2. Listening ability has improved. 3. Able to communicate effectively in English and use English grammar compentently
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Homework　30%　Short writing assignments Participation　30%　Participation in group work Speaking test　20%　2 short speaking tests Quizzes　20%　Short weekly test なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
教科書	This course will use the English File series. Level will be decided within the first two weeks. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate. 「IELT　必ず出る単　スピードマスター」島津幸樹　著　Jリサーチ　出版
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」　Raymond Murphy　著　Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： English　ConversationⅡ　　授業コード：

英文科目名称： English　ConversationⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	1単位	選択
担当教員			
Mary　Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E201
添付ファイル			
カリキュラムマップ　ルーブリック評価　English Conversation II.pdf			

講義概要	In order to gain confidence and fluency speaking English it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary. This class is continued from English Conversation I in the first semester. Also, as preparation for study abroad, there will be weekly vocabulary tests. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as difference between British English and American English, so a textbook focused on British English will be used.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Class One Elementary: A North African story Object pronouns: me, you, him, etc Reading habits Retelling a story Understanding a traditional story Pre-Intermediate: Think positive...or negative? will/won't: predictions Making predictions Using existing knowledge to predict content Intermediate: Yes, I can! -ed/-ing adjectives Assessing advice Making inferences A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第2回　Class Two Elementary: The third Friday in June like + verb-ing Favorite times Understanding feelings and opinions Pre-Intermediate: I'll always love you will/ won't / shall : other uses Giving examples and reasons Understanding specific details Intermediate: Sporting superstitions Past tense: simple, continuous Relationships Talking about sports A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第3回　Class Three Elementary: Making music Review: be or do? Giving opinions about music Pre-Intermediate: The meaning of dreaming Review: present, past and future Talking about the past, present, and future Checking hypotheses Intermediate: Sporting Superstitions Past tenses: simple, perfect Telling an anecdote Understanding how examples support main points A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第4回　Class Four Elementary: Selfies Past simple of be Talking about selfies and photos Understanding the order of life events

		Pre-Intermediate: First day nerves Uses of the infinitive Retelling a article Understanding content words Intermediate: #thewaywemet Past and present habits and states Talking about present and past habits Understanding facts and supporting information A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第5回	Class Five Elementary: Wrong name, wrong place Past simple: Regular verbs Did you..? When was the last time? Understanding the sequence of events Pre-Intermediate: Happiness is... Uses of the gerund Describing feelings Understanding how something works Intermediate: #thewaywemet Relationships Presenting an opinion Predicting the end of a story A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第6回	Class Six Elementary: Happy New Year? Past simple: irregular verbs A memorable night Understanding extra information Pre-Intermediate: Could you pass the test? Have to, don't have to, must, mustn't Talking about language learning Using topic sentences Intermediate: Behind the scenes Passive: All tenses Listening for content films Understanding the main point in a paragraph A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第7回	Class Seven Elementary: A murder mystery Past simple: regular and irregular Police interview Taking notes and comparing information Pre-Intermediate: Should I stay or should I go? Should Discussing habits and preferences Understanding opinions Intermediate: Behind the scenes Passive: all tenses Cinema Talking about films A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第8回	Class Eight Elementary: A house with a history There is/there are, some/any Describing a house Using evidence to predict outcome Pre-Intermediate: Murphy's Law If + present tense, will, first conditional Using the right word in a conversation Scanning for specific information Intermediate: Every picture tells a story Modals of deduction: might, can't, must Talking about profile pictures Checking assumption A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第9回	Class Nine Elementary: Room 333 There was/ there were Describing a room

		Understanding specific details Pre-Intermediate: Who is Vivienne? Possessive Pronouns Reacting to a story Using information to interpret a story Intermediate: Every picture tells a story Modals of deduction: might, can't, must Making deductions Understanding humor A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第10回	Class Ten Elementary: #mydinnerlastnight Countable/uncountable nouns Food diary for yesterday Food and drink Pre-Intermediate: Beware of the dog If +past, would: second conditional Would you know what to do? Animals and insects Intermediate: Live and Learn First conditional and future time clauses & when, until, etc Education Assessing opinions Understanding points of view A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第11回	Class Eleven Elementary: White gold Quantifiers: how much/ how many, a lot of How much salt and sugar do you have a day? Categorizing information Pre-Intermediate: Fearof.net Present perfect + for and since How long...? Taking notes Intermediate: Live and learn First conditional and future time clauses Talking about school Understanding points of view A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第12回	Class Twelve Elementary: Facts and Figures Comparative adjectives Asking and answering quiz questions Understanding instructions Pre-Intermediate: Scream queens Present perfect or past simple? Biographies Talking about life events Intermediate: The hotel of Mum and Dad Second conditional Houses Discussing pros and cons A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第13回	Class Thirteen Elementary: The most dangerous place.. Superlative adjectives Places and buildings Tourist information Pre-Intermediate: Into the net Expressing movement Responding to opinions Intermediate: The hotel of Mum and Dad Choosing between conditionals Describing ideal situations Using prediction to understand content A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第14回	Class Fourteeen Elementary: Five continents in a day

	Be going to (plans), future time expressions City holidays Taking notes Pre-Intermediate: Early birds Word order of phrasal verbs Retelling a person's day Understanding reasons Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Work Listening and making notes A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第15回　Class Fifteen Elementary: The fortune teller be going to: predictions Making predictions Following the events of a story Pre-Intermediate: International inventions Passive Passives quiz Understanding historical information Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Making a presentation Predicting from evidence A:多い　B:中　E:あり　F:あり
教育目標との関連	The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved. 2. Listening ability has improved. 3. Able to communicate effectively in English and use English grammar compentently
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Homework　30%　Short writing assignments Participation　30%　Participation in group work Speaking test　20%　2 short speaking tests Quizzes　20%　Short weekly quizzes なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
教科書	This course will use the English File series. Level will be decided within the first two weeks. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate. 「IELT　必ず出る単　スピードマスター」島津幸樹　著　Jリサーチ　出版
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」　Raymond Murphy　著　Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称： English Conversation Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称： English Conversation Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年	１単位	選択
担当教員			
橋元知子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：
添付ファイル			

講義概要	In order to gain confidence and fluency in speaking English, it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary. This class is continued from English Conversation II in the first year. Also, as preparation for study abroad, there will be weekly vocabulary tests. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as the difference between British English and American English, so a textbook focused on British English will be used.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Class One Elementary: Welcome to the Class Be Verb, Subject Pronouns Saying Hello, Saying Goodbye Pre-Intermediate: Are you? Can you? Do you? Did you? Word Order in Questions Exchanging Information Intermediate: Eating in...and out Present Simple and Continous Food and Cooking Talking about Preferences A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第2回　Class Two Elementary: One World Be Verb: Negative and Questions Where are you from? Where is it from? Pre-Intermediate: The Perfect date? Present Simple Describing People, appearance and personality Intermediate: Eating in...and out Action and non-action verbs Agreeing and disagreeing Predicting content using visual clues A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第3回　Class Three Elementary: What's your email? Possessive Adjectives Giving personal information Classroom Language Pre-Intermediate: The Remake Project Present Continuous Clothes, prepositions of place Describing a picture, talking about preferences Intermediate: Modern Families Future Forms: present continuous, be going to Family Talking about the future A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第4回　Class Four Elementary: Are you tidy or untidy? Singular and plural nouns Saying where things are Pre-Intermediate: OMG! Where's my passport? Past simple: regular and irregular verbs Talking about your last holiday Understanding the key events in a story Intermediate: Modern families

		Future forms: will/won't Retelling a story Identifying reasons A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第5回	Class Five Elementary: Made in America Adjectives & Modifiers Describing things: the same or different? Pre-Intermediate: That's me in the picture! Past continuous Prepositions of time and place Talking about preferences Intermediate: Spending Money Present Perfect Talking about money Listening for facts A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第6回	Class Six Elementary: Slow down! Imperatives & Let's Talking about feelings Pre-Intermediate: One dark October evening Time sequencers and connectors Retelling a story Listening for specific information Intermediate: Spending Money Present perfect & past simple Talking about experiences A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第7回	Class Seven Elementary: Britain: the good and the bad Present simple: positive and negative sentences Things I like and don't like about my country Pre-Intermediate: TripAside Be going to (plans and predictions) Planning a tour Intermediate: Changing Lives Present perfect, for/since Talking about extremes A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第8回	Class Eight Elementary: 9 to 5 Present simple: questions Talking about jobs Understanding specific information Pre-Intermediate: Put it in your calendar! Present Continuous: future arrangements Making arrangements Understanding times, dates and appointments Intermediate: Changing Lives Present perfect continuous How long....? Understanding the order of events A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第9回	Class Nine Elementary: Love me, love my dog Word order in questions Getting to know somebody Pre-Intermediate: Word games Defining relative clauses Describing and paraphrasing Guessing words from definitions Intermediate: Survive the Drive Comparatives Being a tourist Confirming predictions A:多い　B:中　E:あり　F:あり

	第10回	Class Ten Elementary: Family Photos Possessive ’s, Whose...? Talking about family Identifying the main/supporting information Pre-Intermediate: Who does what? Present perfect & yet, just, already Talking about housework Understanding text cohesion - connectors Intermediate: Survive the Drive Comparatives and Superlatives Transport Giving opinions A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第11回	Class Eleven Elementary: From morning to night Prepositions of time and place Daily routine A typical weekend Pre-Intermediate: In your basket Present perfect or past simple Talking about shopping experiences Understanding a theory Intermediate: Men, women, and children Articles:a/an, the, no article Generalizing Understanding the main point in a paragraph A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第12回	Class Twelve Elementary: Blue Zones Position of adverbs, expressions of frequency Retelling the main information in a text Inferring information Pre-Intermediate: #greatweekend Something, anything, nothing, etc Adjectives ending -ed and and -ing Describing your weekend Intermediate: Men, women and children Collocation: verbs/ adjectives & prepositions Talking about childhood A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第13回	Class Thirteen Elementary: Vote for me! can/can’t Talking about abilities Focusing on practical information Pre-Intermediate: I want it NOW! Comparatives adjectives and adverbs, as...as Comparing habits: present and past Scanning for data Intermediate: Bad manners? Obligation and prohibition: have to, must, should Talking about annoying habits and manners A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第14回	Class Fourteeen Elementary: A quiet life? Present Continuous Spot the differences Identifying a situation from context Pre-Intermediate: Twelve lost wallets Superlatives Describing a city or town Talking about memorable experiences Intermediate: Bad Manners? Phone language Understanding problems and advice Assessing a point of view A:多い　B:中　E:あり　F:あり

	第15回　Class Fifteen Elementary: A city of all seasons Present simple or present continuous? The weather and seasons What to do in London Pre-Intermediate: How much is enough? Quantifiers, too, not enough Health and the body Talking about your lifestyle Intermediate: Yes, I can! Ability and possibility: can, could, be able to Talking about ability Understanding tips and examples A:多い　B:中　E:あり　F:あり
教育目標との関連	The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved. 2. Listening ability has improved. 3. Able to communicate effectively in English and use English grammar competently
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Homework　30%　Short writing assignments Participation　30%　Participation in group work Speaking test　20%　2 short speaking tests Quizzes　20%　Short weekly test なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
教科書	This course will use the English File series. Level will be decided within the first two weeks. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate.
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」　Raymond Murphy　著　Cambridge University Press 出版 「IELTS　必ず出る単　スピードマスター」島津幸樹　著　Jリサーチ　出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	Students will be notified beforehand in the event that the method of class delivery is altered.

講義科目名称： English Conversation Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称： English Conversation Ⅳ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	２年	１単位	選択
担当教員			
橋元知子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：
添付ファイル			

講義概要	In order to gain confidence and fluency in speaking English, it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary. This class is continued from English Conversation III in the first semester. Also, as preparation for study abroad, there will be weekly vocabulary tests. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as the difference between British English and American English, so a textbook focused on British English will be used.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Class One Elementary: A North African story Object pronouns: me, you, him, etc Reading habits Retelling a story Understanding a traditional story Pre-Intermediate: Think positive...or negative? will/won't: predictions Making predictions Using existing knowledge to predict content Intermediate: Yes, I can! -ed/-ing adjectives Assessing advice Making inferences A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第2回　Class Two Elementary: The third Friday in June like + verb-ing Favorite times Understanding feelings and opinions Pre-Intermediate: I'll always love you will/ won't / shall : other uses Giving examples and reasons Understanding specific details Intermediate: Sporting superstitions Past tense: simple, continuous Relationships Talking about sports A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第3回　Class Three Elementary: Making music Review: be or do? Giving opinions about music Pre-Intermediate: The meaning of dreaming Review: present, past and future Talking about the past, present, and future Checking hypotheses Intermediate: Sporting Superstitions Past tenses: simple, perfect Telling an anecdote Understanding how examples support main points A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第4回　Class Four Elementary: Selfies Past simple of be Talking about selfies and photos Understanding the order of life events Pre-Intermediate: First day nerves

		Uses of the infinitive Retelling a article Understanding content words Intermediate: #thewaywemet Past and present habits and states Talking about present and past habits Understanding facts and supporting information A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第5回	Class Five Elementary: Wrong name, wrong place Past simple: Regular verbs Did you..? When was the last time? Understanding the sequence of events Pre-Intermediate: Happiness is... Uses of the gerund Describing feelings Understanding how something works Intermediate: #thewaywemet Relationships Presenting an opinion Predicting the end of a story A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第6回	Class Six Elementary: Happy New Year? Past simple: irregular verbs A memorable night Understanding extra information Pre-Intermediate: Could you pass the test? Have to, don't have to, must, mustn't Talking about language learning Using topic sentences Intermediate: Behind the scenes Passive: All tenses Listening for content films Understanding the main point in a paragraph A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第7回	Class Seven Elementary: A murder mystery Past simple: regular and irregular Police interview Taking notes and comparing information Pre-Intermediate: Should I stay or should I go? Should Discussing habits and preferences Understanding opinions Intermediate: Behind the scenes Passive: all tenses Cinema Talking about films A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第8回	Class　Eight Elementary: A house with a history There is/there are, some/any Describing a house Using evidence to predict outcome Pre-Intermediate: Murphy's Law If + present tense, will, first conditional Using the right word in a conversation Scanning for specific information Intermediate: Every picture tells a story Modals of deduction: might, can't, must Talking about profile pictures Checking assumption A:多い　B:中　E:あり　F:あり
	第9回	Class Nine Elementary:　Room 333 There was/ there were Describing a room Understanding specific details

Pre-Intermediate: Who is Vivienne?
Possessive Pronouns
Reacting to a story
Using information to interpret a story

Intermediate: Every picture tells a story
Modals of deduction: might, can't, must
Making deductions
Understanding humor

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第10回　Class Ten

Elementary: #mydinnerlastnight
Countable/uncountable nouns
Food diary for yesterday
Food and drink

Pre-Intermediate: Beware of the dog
If +past, would: second conditional
Would you know what to do?
Animals and insects

Intermediate: Live and Learn
First conditional and future time clauses & when, until, etc
Education
Assessing opinions
Understanding points of view

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第11回　Class Eleven

Elementary: White gold
Quantifiers: how much/ how many, a lot of
How much salt and sugar do you have a day?
Categorizing information

Pre-Intermediate: Fearof.net
Present perfect + for and since
How long...?
Taking notes

Intermediate: Live and learn
First conditional and future time clauses
Talking about school
Understanding points of view

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第12回　Class Twelve

Elementary: Facts and Figures
Comparative adjectives
Asking and answering quiz questions
Understanding instructions

Pre-Intermediate: Scream queens
Present perfect or past simple?
Biographies
Talking about life events

Intermediate: The hotel of Mum and Dad
Second conditional
Houses
Discussing pros and cons

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第13回　Class Thirteen

Elementary: The most dangerous place..
Superlative adjectives
Places and buildings
Tourist information

Pre-Intermediate: Into the net
Expressing movement
Responding to opinions

Intermediate: The hotel of Mum and Dad
Choosing between conditionals
Describing ideal situations
Using prediction to understand content

A:多い　B:中　E:あり　F:あり

第14回　Class Fourteeen

Elementary: Five continents in a day
Be going to (plans), future time expressions

	City holidays Taking notes Pre-Intermediate: Early birds Word order of phrasal verbs Retelling a person's day Understanding reasons Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Work Listening and making notes A:多い　B:中　E:あり　F:あり 第15回　Class Fifteen Elementary: The fortune teller be going to: predictions Making predictions Following the events of a story Pre-Intermediate: International inventions Passive Passives quiz Understanding historical information Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Making a presentation Predicting from evidence A:多い　B:中　E:あり　F:あり
教育目標との関連	The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved. 2. Listening ability has improved. 3. Able to communicate effectively in English and use English grammar compentently
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Homework　30%　Short writing assignments Participation　30%　Participation in group work Speaking test　20%　2 short speaking tests Quizzes　20%　Short weekly quizzes なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
教科書	This course will use the English File series. Level will be decided within the first two weeks. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate.
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」　Raymond Murphy　著　Cambridge University Press 出版 「IELTS　必ず出る単　スピードマスター」島津幸樹　著　Jリサーチ　出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	Students will be notified beforehand in the event that the method of class delivery is altered.

講義科目名称：　国際こども教育概論　　授業コード：

英文科目名称：　Introduction to Global Early Childhood Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	1年専攻科	２単位	1年　専攻科　選択
担当教員			
橋元知子、長谷山康一			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C101
添付ファイル			
「国際こども教育概論」ルーブリック.pdf		「国際こども教育概論」ルーブリック	
「国際こども教育概論」カリキュラムマップ(到達目標）.pdf		「国際こども教育概論」カリキュラムマップ（到達目標）	

講義概要	国際的な保育を学ぶ上での基礎となる事柄をさまざまな角度から取り上げ、内容の理解を促す授業を展開する。海外における保育の潮流、研究の動向、子どもの権利の尊重、多文化共生社会における多様性の尊重等について、受講生が主体的に学び、保育実践に活かすことのできる知識と方法を授業を通して獲得できるようにする。 担当教員らはイングリッシュプレスクールの教員経験があり、長期に渡る海外在住経験がある。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション：本授業の概要と目的を理解する（本科目はハイブリッド科目であり、対面と遠隔授業により実施する。どの回が遠隔授業かは初回授業で提示する。） 科目説明（目的、内容、評価などについて） 担当教員の紹介 ※課題(1)「世界の子どもの暮らし」の課題についての説明 予習：シラバスを読み、本授業の概要と目的を知る（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり 第2回　諸外国における幼児教育への注目（1）OECDの国際調査報告 国際調査報告の概要について学ぶ 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことについて調べる（1時間） 課題(1)に取り組む（30分） A：中 B：多 E：あり F：あり 第3回　諸外国における幼児教育への注目（2）国際条約「子どもの権利条約」 国際条約「子どもの権利条約」の内容を理解し、子どもの権利への考え方を学ぶ 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） 課題（1）に取り組み、発表準備をする（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり 第4回　「世界の子どもの暮らし」の課題発表 課題(1)「世界の子どもの暮らし」の課題発表 予習：発表資料の作成と練習（1時間） 復習：自分と他者の発表を振り返り、そこから学び、自身の保育にどのようにつなげることが出来るかについて自分の考えをまとめる（30分） 発表から生じた疑問点などについて書籍やインターネットで調べて文字化する（1時間） B：中 D：多 E：あり F：あり 第5回　国際的視点から見る保育者の専門性 保育者の専門性に関するOECD調査報告を用い、保育者の専門性についての理解を深める 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり 第6回　国際的視点から見る保育者の勤務環境 OECD調査報告を用い、保育者の勤務環境についての理解を深める。 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり 第7回　保育者、こども、保護者間のプロセスの国際比較

		保育者、こども、保護者間のプロセスについて国際比較をし、理解を深める。 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり
	第8回	多文化共生保育について 多文化共生教育・保育の概要についての理解を深める 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり
	第9回	SDGsとESD(1)「持続可能な開発のための教育」 ESD（持続可能な開発のための教育）の概要について理解し、環境と子どもに関する国際的潮流を知る 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） 課題（2）について考える（30分） A：中 B：多 E：あり F：あり
	第10回	SDGsとESD(2)「持続可能な開発のための教育」の実践 ESDの概念を保育に活かすための方法を考える 予習：明示された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） 課題（2）の資料作成と練習（1時間） A：中 C：多 E：あり F：あり
	第11回	「私が考えるESDの実践」の課題発表 課題（2）「私が考えるESDの実践」の課題発表 予習：課題（2）に取り組み、発表準備をする（1時間） 復習：自分と他者の発表を振り返り、そこから学び、自身の保育にどのようにつなげることが出来るかについて自分の考えをまとめる（30分） 発表から生じた疑問点などについて書籍やインターネットで調べて文字化する（1時間） B：中 D：多 E：あり F：あり
	第12回	「私にとっての国際的な保育実践」について 課題（3）「私にとっての国際的な保育実践」についてクラスメイトと意見交換をし、自分の目指すべき保育について理解を深める。 予習：今までの授業内容を踏まえ、自分の感想と意見をまとめておく（1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） 「私にとっての国際的な保育」についてまとめ、発表資料を作成する（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり
	第13回	個人テーマによる国際的な保育のプレゼンテーション(1) 「私にとっての国際的な保育」を発表し、クラスメイトと考えを共有する 個人的な関心を魅力的に人に伝える技術を学ぶ 予習：発表準備と練習（1時間30分） 復習：自分の発表について振り返り、他の人の関心を自らの関心につなげ、学びを広げる（30分） A：中 D：多 E：あり F：あり
	第14回	個人テーマによる国際的な保育のプレゼンテーション（2）& 「私にとっての国際的な保育」を発表し、クラスメイトと考えを共有する 個人的な関心を魅力的に人に伝える技術を学ぶ 予習：発表準備と練習（1時間30分） 復習：自分の発表について振り返り、他の人の関心を自らの関心につなげ、学びを広げる（30分） A：中 D：多 E：あり F：あり
	第15回	授業の総括（2）授業全体を通して学んだことと今後の課題 本科目を通して学んだことを振り返り、理解度チェックを行う。 国際的な保育を学ぶ意味と今後の展望について考察する。 予習：第1～14回まで授業内容を整理し、自分の感想と意見をまとめておく（1時間） 復習：授業で取り組んだ内容の全体を振り返り、関心を持ったことを調べる（1時間） A：中

	B：多 E：あり F：あり
教育目標との関連	国際こども教育学科で学ぶ意義を意識し、世界に視野を向ける。高い専門性を備えた保育者になり、自らのやりがいを感じると同時に、社会や地域に貢献できる力を身につける
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	※添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照 1.国際化が進む世界における幼児教育の概要と状況を理解し、説明することができる。 3.多文化共生保育について理解し、その方法や内容について論じ合うことができる。 5.保育における子どもの権利や多様性の尊重について考え、実践の方法を知ることができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	提出課題（振り返りノート含む）発言による授業への貢献、参加の姿勢もルーブリック評価の対象とする 成績評価は添付資料のルーブリックを参照 ＊欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる
教科書	必要に応じてプリントを配布する
参考書	OECD編著；星美和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳（2011）『OECD保育白書―人生の始まりこそ力強く:乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較』明石書店 泉千勢・一見真理子・汐見稔幸編著（2008）『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店 咲間まり子編（2020）『保育者のための外国人保護者支援の本』かもがわ出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	上記に記載の通りとする
履修上の注意、条件等	事情により初回授業に欠席する場合には、あらかじめ連絡すること。 好奇心を持ち、主体性を持って授業や課題に積極的に取り組むことが望まれる。 シラバスの内容は、履修学生のスケジュール、理解度、また、ゲストスピーカーに来て頂くことなどにより、変更の可能性がある。
オフィスアワー	質問は授業の前後に受け付ける。
備考・メッセージ	一部の回は遠隔授業で行う。どの授業がそうであるかは授業内で連絡する。 グローバル社会において、保育者として国際的な視野を持つことは不可欠です。未来を生きる子どもたちのために、保育者としてできることを一緒に考えていきましょう。

講義科目名称：　乳幼児と脳科学　　授業コード：

英文科目名称：　Developmental brain science for early childhood

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年　専攻科	2単位	2年　専攻科　選択
担当教員			
佐治量哉			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：無し	ナンバリング：B303
添付ファイル			
乳幼児と脳科学ルーブリック2022.pdf			
乳幼児と脳科学カリキュラムマップ2022.pdf			

講義概要	近年、子どもの発達に関する学術的・社会的関心は高まっている。とりわけ脳科学を標榜する書籍は数多く書店に並んでいる。しかしながら、それらの中には科学的根拠のない情報も多く、保育者として信頼できる情報と信頼できない情報を判断することが必須となっている。 この講義では、子どもの発育（成長と発達）や凸凹をとらえる視点として、最新の発達科学や脳科学研究の有用性を示すとともに、その限界にも言及する。全15回の講義を通して、乳幼児期の脳の発達、睡眠、言語、運動、記憶、情動などを中心に取り上げ、さらには発達に関わる諸問題（遺伝・環境、神経発達症候群など）についても議論する。第14回目には、学習到達度の確認テストを実施する。 他の科目との関連：「保育の心理学I」「子どもの保健I」で習得する項目を、発達科学・脳科学研究の視点からさらに掘り下げて学び、保育士として必要なスキルのさらなる向上を目指す。また心理学特論と共に学ぶことで、人間の理解はさらに深まることが期待される。 乳幼児の発達科学研究・脳科学研究に従事してきた経験に基づき、最新の知見を保育現場にどのように活かすべきなのか、活かすことができるのかを授業の中で述べていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション 近年の技術革新によって、生きている意識のある人間の脳内の活動をリアルタイムに可視化することができるようになってきた。このような脳科学研究は、乳幼児の心の理解にどのように役立つのか？限界はあるのか？脳科学を標榜する育児本や教育法は枚挙にいとまがない。しかし科学的根拠がない誤った知識が独り歩きしている実情もある。この講義では、現在の脳科学研究が人間を理解するために欠かせないものであることを学ぶ。 予習の問い：「私たちは、どうして保育（子育て）で赤ちゃんを抱っこするのか」について自分の意見を発表できるようにまとめる【1時間】 D：少、F：あり 第2回　胎児期から乳幼児期の脳の発達 人の場合、産まれたばかりの赤ちゃんの頭部に脳があることは周知の事実である。それでは脳はいつ形成されるのか？この問いに答えるために、この授業では脳の成り立ちと脳内の神経細胞ネットワークの発達について、胎内から乳幼児期までの期間を中心に学ぶ。 予習の問い：「母親の胎内で最も早く働き始める感覚（5感）は何か」について自分の意見を発表できるようにまとめておく【1時間】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 D：少、E：あり、F：あり 第3回　胎児期から乳幼児期の脳の発達に関わる諸問題 喫煙や飲酒と胎児の発育の関係や虐待など胎児期から乳児期における脳発達に影響を及ぼす諸問題について学ぶ。 予習の問い：「同居家族の喫煙は妊娠中の母体と赤ちゃんにどのような影響を与えるのか」について自分の意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 B：少、E：あり、F：あり 第4回　乳幼児の睡眠 眠ること（睡眠）は、乳幼児期の脳のみならず心や身体の発達にとっても欠かせません。この授業では、乳幼児期の眠りの特徴について学ぶと共に、眠りが脳の働きによってコントロールされていることを学ぶ。 予習の問い：「どうして眠るときに布団を掛けるのか」について自分の経験を踏まえて自分の意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 D：少、E：あり、F：あり 第5回　乳幼児の睡眠に関わる諸問題：午睡、夜泣き 乳幼児期には眠りが大切であると思えば思うほど、眠りに関する諸問題が顕在化してくる。たとえば、午睡は何時間とるべきなのか、夜泣きにはどのように対応するべきなのかなど、保育園でよく直面する眠りに関する諸問題について考察する。 予習の問い：「保育園で午睡をしたくない子どもがいた時、あなたならどのような対応をする

か」に対ついて、自分の意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

B：少、E：あり、F：あり

第6回　乳幼児に適切な刺激

乳幼児の発育において適切な静けさとは何か？適切な触覚刺激や運動とは何か？適切な匂いとは何かという点について、保育環境の在り方と共に学ぶ。

予習の問い：香水やにおいの強い柔軟剤は、（特）乳児の保育現場では避けたほうが良いといわれています。その理由について、自分の意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

D：少、E：あり、F：あり

第7回　乳幼児の言語

人間の言語能力は生後36カ月の間に、音声、語彙、文法の獲得とめざましい発達変化を遂げる。その後も徐々に発達は続けるが、最も急激な言語発達が観察されるのが乳幼児期である。この講義では、言語の一次的機能に焦点を当てて言語知覚と言語発話の2つの側面から、特に生後1年の言語獲得過程について学ぶ。

予習の問い：「スマホやテレビは乳幼児のことばの発達に影響を与えるのか」という問いに対して自分の意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

B：少、E：あり、F：あり

第8回　乳幼児の言語と身体を育むための遊び

近年注目されていることばを育めための関わり方（インリアルアプローチ）について、SOULの視点から学ぶ。

予習の問い：「ことばを話さない乳幼児に対して絵本の読み聞かせをすることは意味があるのか」という問いに対して、自分の意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

D：少、E：あり、F：あり

第9回　乳幼児の記憶

記憶は私たちの日常生活の中心をなすものである。生まれたばかりの赤ちゃんに記憶はあるのでしょうか？この講義では、生後1カ月の乳児であっても潜在記憶が存在することや、生後8－10ヶ月頃に顕在記憶技能が顕著に向上することなど乳児の記憶研究の知見を学ぶ。

予習の問い：「あなたが最も子どもの時にさかのぼれる思い出」を整理しておく。それは何歳ごろの出来事なのか、具体的に発表できるようにまとめておく。【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

B：少、E：あり、F：あり

第10回　乳幼児の情動

表情は人間だけが持つ感情表現の一つである。基本6感情と言われる「喜び、悲しみ、怒り、嫌悪、恐怖、驚き」は、文化を超え、全人類に共通に存在する表情である。さらに生後1週間の乳児であっても母親を識別するという新生児の顔選好性はよく知られていることから、人間にとって表情認識は大変に重要なコミュニケーションツールであることが分かる。この講義では、乳幼児の表情認知能力がどのように発達していくのか、表情認識に関わる脳の神経基盤について学ぶ。

予習の問い：「赤ちゃんはどうして笑うのか」という問いに対する意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

D：少、E：あり、F：あり

第11回　乳幼児の発達に関する諸問題：遺伝と環境

子どもの発達において、親（家庭）の役割は絶対的に重要である。しかし、成育環境や個性を調べて分かることは、遺伝子は環境により、環境は遺伝子によってお互いに繋がっているという点である。つまり遺伝 or 環境という捉えかたではなく、遺伝 and 環境という考え方で子どもの発達をとらえる必要があると思われる。この講義では、一卵性双生児の研究などを紹介しながら、人間の心理的・行動的気質形成に及ぼす、遺伝の影響と環境のかかわりについて学ぶ。

予習の問い：どうして兄弟姉妹なのに性格が異なるのか。この問いに対する自分なりの意見を発表できるようにまとめておく。【1時間】

【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。

B：少、E：あり、F：あり

第12回　乳幼児の発達に関する諸問題：神経発達症候群（１）ＡＳＤ

自閉症スペクトラム症（ASD）は、社会性及び対人コミュニケーションの困難さ、過度に強いこだわりや常同行動によって定義される発達障害である。この講義では、自閉症スペクトラムの中心的な問題であると考えられる非定形な自己について解説する。また自己と心の理論の問題に関する脳科学研究を紹介しながら、ASD児に見られる心の理論の不全の原因について学ぶ。

予習の問い：「“自閉的”な行動とはどんな行動か」という問いに対して具体例を挙げて発表できるようにまとめておく。【1時間】

	【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 B：少、E：あり、F：あり 第13回　乳幼児の発達に関する諸問題：神経発達症候群（２）ＡＤＨＤ＆LD 注意欠陥多動症（ADHD）は、一般社会のみならず教育・保育に関わる専門家の中でもまだ十分に認知されているとは言えない。その理由の一つに、ADHDの行動特徴は正常行動からの質的な逸脱がなく、ややあいまいな基準で診断されていることも考えられる。この講義では、最近のADHDの遺伝学的な研究、脳科学的知見、二次障害の有病率の高さ、薬物治療の状況などについて学ぶ。 限局性学習症（LD）の概念は教育現場の立場と医療診断の立場では差異がありあいまいさを含んだ概念である。この講義では、現在LDの中で最も研究が進んでいるディスレクシア（Dyslexia）の基本病態や脳科学研究の知見について学ぶ。 予習：「多動な子ども」と言えばどのような子どもをイメージするか、具体的に発表できるようにまとめておく。【1時間】 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 B：少、E：あり、F：あり 第14回　総括とテスト 1～13回目までの授業について総括を行い、その後に学習到達度の確認テストを実施する。 予習：これまでの授業プリント・スライドを参照しながら、自らのノートに授業内容を整理する。【2時間】 第15回　テストの振り返り 第14回で実施したテストの振り返りを行い、講義内容の理解度・学習到達度を確かめる。到達度が低い項目に関しては、復習用プリントを用いて事後学習する。 F：あり
教育目標との関連	子どもの発育を「大人中心主義」の「経験側」で見極めることは危険である。この科目では、子どもの発育（成長・発達）を捉える新しい視点として、発達科学研究や脳科学研究を紹介していく。人間（特に乳幼児）理解のための高い意欲関心を有し、そのための新しい知識、思考、判断を修得することに熱意があることが望まれる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1：乳幼児の基礎的な発育を発達科学や脳科学の知見と関連付けて説明することができる。 DP2：乳幼児の発育の凸凹に対して、科学的な知見に基づいた工夫や歩み寄りの筋道を保育環境に即して立案することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	・期末試験：60％（15回の授業時間内に期末試験を実施し、授業内容全般についての理解度を評価する） ・予習課題、振り返り：20％（各回のはじめに前回の授業の振り返りを行い、理解度の確認をする） ・出席等平常点：20％（出席状況や授業態度、授業内の発言などを総合的に評価する） なお、評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと
教科書	授業中に随時紹介する
参考書	乳幼児の発達と保育（秋田喜代美監修、朝倉書店）など
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通りである。
履修上の注意、条件等	「保育の心理学」を履修済みかつ、1年次終了時のGPAが2.0以上であること
オフィスアワー	講義資料・プリントはGoogle classroomを利用してダウンロード可能にします。各自、必要に応じてダウンロードすること。また、講義の内容に関する質問は限定コメント欄を利用してください。
備考・メッセージ	本講義は「対面授業」で行う予定である。ただし、社会状況によってはGoogleMeetによる配信（受講）の可能性もあります。

講義科目名称： 比較乳幼児教育論　　授業コード：

英文科目名称： Comparative Early Childhood Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	2年専攻科	2単位	2年　専攻科　選択
担当教員			
橋元知子、長谷山康一			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C302
添付ファイル			
「比較乳幼児教育論」カリキュラムマップ(到達目標）.pdf		「比較乳幼児教育論」カリキュラムマップ（到達目標）	
「比較乳幼児教育論」ルーブリック .pdf		「比較乳幼児教育論」ルーブリック	

講義概要	多様化する社会において、次世代の保育を担う保育者には国際的な視点を身につけることが求められている。国際化とは、相手の立場を認め尊重し、自分の考えも充分に伝えられることであり、互いの違いを知り理解しようとする姿勢が重要である。本演習では、異なった歴史、文化、社会の背景をもとに展開してきた世界各国の保育について様々な角度から考察し、多様な価値観や、共通する子ども観についての考えを深める。 担当教員らはインターナショナルプレスクールでの教員経験や北アメリカでの在住経験を持つ。実務経験を活かし、世界の絵本、遊び、保育形態、保育制度への理解を通じ、様々な文化や考え方を知り、視野を広げるための授業を多面的に展開する。保育者として子どもたちへ国際化教育を行う際の具体的な方法について、履修学生同士が学び合い、互いを高め合えるアクティブラーニングスタイルでの演習授業を行う。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション―比較乳幼児研究の意義 本授業説明（目的、課題、評価などについて）（本科目はハイブリッド科目であり、対面と遠隔授業により実施する。どの回が遠隔授業かは初回授業で提示する。） 担当教員紹介 予習：シラバスを読み、本演習の内容と意義を理解する（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） Ａ：少 Ｂ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり 第2回　世界の保育の質改革の動向について① OECD　Starting Strongの提言内容などについての知識を深める。 予習：資料を読み、感想を言えるように、自分の考えをまとめておく（約30分） 復習: 授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） ※個人課題に使用する翻訳絵本を探し、分析の視点を探す（30分） Ａ：中 Ｂ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり 第3回　世界の保育の質改革の動向について② EU（欧州連合）の保育改革の取り組みや保育カリキュラムの動向などについて学ぶ。 予習：資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく。（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） ※個人課題に使用する翻訳絵本を探し、分析の視点をの紹介の準備をする（約30分） Ａ：中 Ｂ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり 第4回　北欧の保育１：ノルウェー王国 ノルウェーの保育の歴史、内容、環境、質などについて学び、日本の保育へ示唆することについて学習する。 予習：資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） 個人課題に使用する翻訳絵本と、分析の視点の紹介の準備をする（1時間） Ａ：中 Ｂ：多 Ｄ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり 第5回　北欧の保育２：スウェーデン王国 スウェーデンの保育の歴史、内容、環境、質などについて学び、日本の保育へ示唆することについて学ぶ。 予習：資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） ①個人課題に使用する翻訳絵本と、分析の視点の紹介の準備をする（1時間） Ａ：中 Ｂ：多 Ｄ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり 第6回　多様な保育1：イングリッシュプレスクール 国内外におけるイングリッシュプレスクールの実情について知識を深める。 予習：配布された資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） Ａ：中

		Ｂ：多 Ｄ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり
	第7回	多様な保育2：レッジョ・エミリア レッジョ・エミリアの保育の概要と歴史を知る。 レッジョ・エミリアの保育実践における、子どもたちの主体性の尊重の姿勢と保育者との関わりについて理解する 予習：資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） Ａ：中 Ｂ：多 Ｄ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり
	第8回	アジア・オセアニアの保育：ニュージーランド ニュージーランドの保育について学習する。 個人課題「翻訳絵本をジェンダーやダイバーシティの視点から考える」についての説明 予習： 配布資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習： 授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） Ａ：中 Ｂ：多 Ｄ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり
	第9回	北米の保育1：米国 米国の保育についての知識を習得する。 予習： 配布資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習： 授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） 個人課題の準備を行う（約30分） Ａ：中 Ｂ：多 Ｄ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり
	第10回	多様な保育3：イマージョン教育について イマージョン教育の歴史と内容について学ぶ。 予習：資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約1時間） 個人課題の準備をする（30分） Ａ：中 Ｂ：多 Ｄ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり
	第11回	翻訳絵本から学ぼう（個人プレゼンテーション、共有）―多様性を伝える保育 個人課題「翻訳絵本をジェンダーやダイバーシティの視点から考える」発表と共有 翻訳絵本と分析の視点について紹介する。意見を共有し、多様な視点と、子どもへの影響について考える 予習：個人課題に使用する翻訳絵本と分析の視点を紹介するための準備をする（約30分） 復習：授業発表について振り返ると共に関心を持ったことを調べる（約1時間） Ｂ：中 Ｄ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり
	第12回	翻訳絵本から学ぼう（個人プレゼンテーション、共有）―多様性を伝える保育 個人課題「翻訳絵本をジェンダーやダイバーシティの視点から考える」発表と共有 翻訳絵本と分析の視点について紹介する。意見を共有し、多様な視点と、子どもへの影響について考える 予習：個人課題に使用する翻訳絵本と分析の視点を紹介するための準備をする（約30分） 復習：授業発表について振り返ると共に関心を持ったことを調べる（約1時間） Ｂ：中 Ｄ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり
	第13回	北米の保育2：カナダ カナダの保育の内容について学習する。 グループ発表の説明。 予習：資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） Ａ：中 Ｂ：多 Ｄ：多 Ｅ：あり Ｆ：あり
	第14回	グループ発表（準備） 授業内での発表準備。 予習：発表準備と情報収集（1時間30分） 復習：本科目での学びについて振り返り、他の人の関心を自らの関心につなげ、学びを広げる（30分） A：中

	D：多 E：あり F：あり 第15回　グループ発表　（共有）／授業の総括 発表と科目総括。 予習：発表準備と練習（1時間30分） 復習：グループ発表の内容やプロセスについて振り返る（30分） A：中 D：多 E：あり F：あり
教育目標との関連	世界の子どもを取り巻く状況や保育についての理解を深め、国際的な視野を持つと同時に、子どもたちに幼児期からの平等の意識を育む国際化教育の方法を知ることを目標とする
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	※添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照 1.国際的な保育を学ぶ意味について理解し、世界の保育を比較乳幼児研究の観点から説明することができる 4.平等や子どもの権利、多様性について理解し、保育実践に活かす具体的方法を主体的に考えることができる 5.多文化共生社会における保育者の役割について理解し、子どもや保護者に対しての配慮を学ぶことができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1.提出課題（振り返りノート含む）、発言による授業への貢献、参加の姿勢をルーブリックによる評価基準に照らし評価する 2.成績評価は添付資料のルーブリックを参照 ＊欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	泉千勢編（2017）『なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか―子どもの豊かな育ちを保障するために―』ミネルヴァ書房 OECD編著；星美和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳（2011）『OECD保育白書―人生の始まりこそ力強く:乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較』明石書店 その他、授業内に提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習復習は、上記の通りである。
履修上の注意、条件等	事情により初回授業に欠席する場合には、あらかじめ連絡する。 好奇心を持ち、主体性を持って授業や課題に積極的に取り組むことが望まれる。 シラバスの内容は、履修学生のスケジュール、理解、またゲストスピーカーによる授業により、変更の可能性がある。 一部の回は遠隔で実施する。どの回がそうであるかは授業内で明示する。
オフィスアワー	授業の前後に質問を受け付ける。
備考・メッセージ	自ら積極的に好奇心を持って学ぼうとする保育者は、子どもに良い影響を与え、自ら積極的に学ぶ姿勢を持つ子どもを育てることにつながります。共に楽しく学び合い、新しい知識を得ることに喜びを感じましょう。

講義科目名称： 保育英語I　　授業コード：

英文科目名称： English for Nursery Schools I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年	１単位	国際こども教育コース　選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E301
添付ファイル			
カリキュラムマップ　ルーブリック評価　保育英語I.pdf			

講義概要	In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such as nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the basic English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten. In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day. Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Children's Garden In this class, we will study English used to introduce yourself and give basic information. A:中　B:少　E: あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. 第2回　The First Day of the Internship In this class, we will study places in the school and things that are used in a nursery school. A;中　B:少　E: あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours 第3回　Out We Go! In this class, we will study the English used when taking the students for a walk and talking about places around the nursery school. A;中　B:少　E: あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours 第4回　Splish, Splash In this class, we will learn the English used when children are playing in the pool, including common pool play things. A;中　B:少　E: あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours 第5回　Pancake Day In this class, we will learn the English used when cooking with children and talking about food. A;中　B:少　E: あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours 第6回　Read Me, Tell Me Stories In this class, we will learn the English used during story time with a focus on talking about stories after listening to them. A;中　B:少　E: あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours 第7回　Activites with Watermelons In the class, we will learn the English used when doing arts and crafts with children. We will also study the English used when talking about Japanese holidays and events. A;中　B:少　E: あり　F:あり

	Study/Homework time: Approximately 2 hours 第8回 Happy Birthday! In this class, we will learn the English used during birthday parties and other celebrations. A;中 B:少 E: あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours 第9回 Children at Play In this class, we will learn the English used when playing with children, including common games and toys. A;中 B:少 E: あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours 第10回 Baby News In the class, we will learn the English used when taking of infants including talking about their delevelopment. A;中 B:少 E: あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours 第11回 The Tooth Fairy In the class, we will learn how to talk about health and sickness in English, including dental care. A;中 B:少 E: あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours 第12回 The Green-Eyed Witch In this class, we will learn the English needed to talk about plays and other presentations children give. We will also discuss common plays and themes used in these presentation. A;中 B:少 E: あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours 第13回 Review We will prepare for review for the final exam. We will also decide pairs and themes for the final presentations. A多 B:少 E: あり F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours 第14回 Final Exam Students will take a final exam covering this course. There also will be time for practice and preparation for the final presentations. B:少 E: あり F:あり Study/Homework time: Approximately 1 hour 第15回 Presentations Final exams will be returned and discussed. Each group will also give their presentation. F:あり
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	3. Students will be able to express themselves using basic English and communicate in an early childhood education situation. 2. Students will have a better understanding of the differences between Japan and other cultures. 1. Students will gain the vocabulary needed to work with children.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法 2.ルーブリックによる評価基準	Final Exam 30% Presentations 30% Vocabulary Tests 20% Homework 20%

	There will be multiple sort writing assignments which will be graded using a rubric. The presentations will also be graded a rubric.
教科書	「Children's Garden」　赤松　直子著　成美堂　出版　2018年
参考書	None.
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	These classes will be conducted in person.

講義科目名称： 保育英語Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： English for Nursery Schools II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
春学期	2年　専攻科	１単位	2年　専攻科　国際こども教育コース選択	
担当教員				
Mary Jones				
授業形態：演習	担当形態：単独		実務経験：あり	ナンバリング：E302
添付ファイル				
カリキュラムマップ　ルーブリック評価　保育英語II.pdf				

講義概要	In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten as an assistant teacher. In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day. This class will be conducted entirely in English. Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Looking for a Good Preschool Asking for Directions to the Preschool Getting Information In this class, we will study telephone English and how to take a phone message. And also questions used when signing up for a nursery school. A:中　B:少　E: あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. 第2回　Starting Preschool A snowy day First Day of School In this class, we will study greetings and questions used on the first day of nursery school. We will also learn how to write a questionnaire about the family and make a daily schedule for a nursery school. A:中　B:少　E: あり　F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours 第3回　Going to Preschool Going to school on a rainy day Going to school on a hot day In this class, we will study the English used when talking about the weather. We will also learn about the passive voice and how it is used in written announcements or letters. A:中　B:少　E: あり　F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours 第4回　Playing Inside Making Decorations for Children's day Kamishibai In this class, we will learn the English used when talking about Children's Day events and customs. A:中　B:少　E: あり　F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours 第5回　Playing Inside 2 Dancing In this class, we will learn the English used when talking about dancing or rhythm. We

		will also learn how to explain Japanese radio exercise. A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第6回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Playing Inside 3 Drawing and Painting Folding Origami Paper In this class, we will learn the English used when talking about arts and crafts. We will also begin preparations for the arts and crafts presentations. A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第7回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations - Arts and Crafts In this class, students will give their arts and crafts presentations. A:中　E: あり　F:あり
	第8回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Eating Lunch Getting ready for lunch Second helping and cleaning time In the class, we will learn the English used during lunch or talking about meals.　We will also learn how to create a menu in English. A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第9回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Snack Time Snack time In this class, we will learn the English used during snack time.　We will learn how to write a personal letter or notice to a parent. A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第10回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Playing Outside Playing Tag Playing Jump Rope In this class, we will learn the English used when playing outside. We will learn how to explain common outdoor games. A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第11回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours School Trip Preparing for the school trip Going on a school trip In the class, we will learn the English used in planning and executing a school trip. We will also learn how to write a letter telling parents about the trip. A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第12回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Sickness Getting a stomachache Getting a fever In the class, we will learn how to talk about health and sickness in English, including calling parents to inform them. A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第13回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Getting Hurt Falling down and getting hurt

	In this class, we will learn the English needed to talk about injuries, including how to describe pain. A:中　B:少　E: あり　F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours 第14回　Presentations - Preperation We will prepare for the group presentations. Each pair of students will choose one theme of this course and prepare a presentation for the next class. A:多い　E: あり　F:あり Study/ Homework Time: Approximately 1 hour 第15回　Presentations & Review Each group of students will give their presentations. We will also review and look back over the course. A:多い　C:あり　D: あり　F:あり
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	3. Students will acquire the basic English skills needed to work as an assistant teacher. 2. Students will acquire greater understanding of cultural differences. 3. Students will be able to communicate effectively in a teaching situation.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Writing assignments 40% Presentations 40% Vocabulary Tests 20%
教科書	「幼保英検2級テキスト」幼児教育・保育英語検定協会　著　株式会社ブックフォレ　　出版　2019年
参考書	None
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称：　多文化保育論　　授業コード：

英文科目名称：　Early childhood education and care for multi-cultural preschool

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	１年	2単位	１年　選択
担当教員			
萩原元昭			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C305
添付ファイル			
「多文化保育論」ルーブリック.xlsx			
「多文化保育論」カリキュラムマップ（到達目標）.xlsx			

講義概要	日本語を母語としない外国籍の乳幼児や保護者の生活習慣のちがい、子育ての観念や考え方のちがいや人間関係の文化的なちがいを理解し、乳幼児や親の要求によりそう現実的な支援の方法について学ぶ。あわせて、外国籍の乳幼児にとっては、母国の文化を表現する機会が尊重され、日本の乳幼児にとっては、異文化を理解するだけでなく、日本の伝統的文化を発信するよい機会となり、多文化保育が目指す人権、民族、性別、年代のちがいを超えて多文化共生の感性と思考力、行動力を身につけ、次世代の乳幼児を一地球市民としての資質を向上させる保育の内容方法、環境のあり方について学ぶことを意図している。 他の科目との関連性については、専攻科における「多文化間心理学」「家族と多文化社会」等との関連がある。 担当教員は、群馬大学教育学部付属幼稚の園長として2年間の実務経験があり、海外視察研修等の経験もあわせて、より多角的な視点から授業をおこなう。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回　イントロダクション　多文保育の意味と意義を学ぶ ・多文化保育の意義、実践の必要性について、事例（２）をあげ学ぶ Ｂ：中 Ｄ：少 Ｅ：あり 予習：シラバスを読んでくる（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間） 第２回　外国籍の園児と保育者の二者間の意識のズレの調整を学ぶ ・外国籍の保護者の園・保育者への要望と、保育者の外国籍の保護者に対する保育者の要望の調整の仕方を学ぶ Ｂ：中 Ｄ：少 Ｅ：あり Ｆ：あり 予習：テキストＰ７～１１、多文化保育の必要性を読んでくる（1時間） 復習：今日の学びの振り返り（1時間） 第３回　多文化保育の鍵概念としてのアコモデーションについて学ぶ ・保育者や保護者が乳幼児の心理的要求によりそい、適応しようとする働きとしてアコモデーションaccomodationの概念を学ぶ Ｂ：中 Ｅ：あり 予習：テストＰ１１～１７まで読んでくる（1時間） 復習：本日学んだことをノートに要約する（1時間） 第４回　多文化保育の鍵概念としての最善の利益の保障について学ぶ ・多文化保育の中核概念としての最善の利益の保障について学ぶ Ｂ：中 Ｅ：あり 予習：乳幼児にとって最善の利益の場面を探してくる（1時間） 復習：学んだことの振り返り（1時間） 第５回　園児のＥＳＤ／ＳＤＧｓへの参画について学ぶ ・ＥＳＤやＳＤＧｓの意味、意義について学ぶ ・参加（passive participation）と参画（active participation）とのちがいを理解する ・園児のＥＳＤ（ＳＤＧｓ）への参画の意義について学ぶ Ａ：少 Ｂ：少 Ｄ：少 Ｅ：あり 予習：テキストＰ１８～７９を読んでくる（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間） 第６回　参画実現のファシリテーターとしての保育者の役割を学ぶ ・参画支援の方法としてのファシリテーとfacilitateの概念を学ぶ ・多文化保育の方法としての保育者のファシリテーターとしての役割について、事例にそって学ぶ Ａ：少 Ｂ：少 Ｄ：少 Ｅ：あり 予習：テキストＰ５８の事例とＰ６０事例２を読んでくる（1時間） 復習：参画支援のファシリテータとしての保育者の役割を要約する（１時間） 第７回　多文化保育の内容方法についてアンチ・バイアスカリキュラムを中心に学ぶ ・アンチバイアスカリキュラムの意義について学ぶ ・当日、human inequality　（人間関係の不平等）の資料を配布し、検討する

	Ａ：多 Ｂ：中 Ｄ：少 Ｅ：あり 予習：テキストＰ８～２３多文化保育の内容と方法を読んでくる（1時間） 復習：アンチ・バイアスカリキュラムについて要約する（1時間） 第８回　多文化保育環境の構成の視点 ・構成の視点として、１）異文化性、２）多様性、３）アンチバイアス性、４）環境を通しての保育、５）園児の内容・方法についての選択の自由度、６）園児の参画支援のファシリテーターとしての保育者の役割の重要性について理解する Ｂ：中 Ｄ：少 Ｅ：あり 予習：テキストＰ２６～２９多文化保育環境の構成（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間） 第９回　多文化保育環境の2つのシステムの構成のちがいを学ぶ ・園児の保育内容と保育方法を選択する自由度から析出される多文化保育環境の2つのモデル：ドミネーションシステムとアコモデーションシステムの構造の違いについて学ぶ Ｂ：中 Ｄ：少 Ｅ：あり 予習：テキストＰ２９～４０をよく読んでくる（1時間） 復習：２つの多文化保育環境を要約する（1時間） 第１０回　多文化保育環境としてのアコモデーション・システム―バーンステイン理論を中心に学ぶ ・多文化保育内容の分析の視点としての類別と多文化保育方法の分析視点としての枠づけの概念について学び、両視点のクロスによるアコモデーション・システムモデルの理念型について学ぶ Ｂ：中 Ｅ：あり 予習：テキストＰ３５～４０読んで理解してくる（1時間） 復習：テキストＰ１１の事例１、Ｐ１２の事例２、Ｐ１６の事例３・４について、学んだアコモデーション・システムについて確認してみる（1時間） 第１１回　多文化保育と地域保育システムとの関係について学ぶ ・個性閉鎖系地域保育システム（Ａタイプ）と個性開放系地域保育システムのちがいについて学ぶ Ｂ：中 Ｅ：あり 予習：テキストＰ４０～４９をよく読んでくる（1時間） 復習：Ｂタイプの地域保育システムについて自分の考えを要約する（1時間） 第１２回　外国籍の幼稚園児をふくむ施設を訪問、観察し、フィールドワークを実施する もし、不可能な場合は、事例を収集し、図書館に於いて各自プレゼンテーションを作成する作業ワークを実施する Ａ：グループワーク又はＣ：フィールドワーク Ｄ：中 Ｅ：あり 予習：現地集合地の確認と観察記録の準備（1時間） 復習：観察された記録の整理（1時間） 第１３回　第１２回に実施したフィールドワーク又は事例調査の事例について、記録されたものにもとづくグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを実施し、「多文化保育環境の実践」についてグループ別にまとめ、発表し、グループ別に講評を行う Ａ：多） Ｂ：ディスカッション（中） Ｄ：プレゼンテーション（中） Ｅ；振り返り（あり） Ｆ：宿題（グループ発表・講評をまとめ総括する） 第１４回　多文化保育環境における園児のＥＳＤ／ＳＤＧｓへの参画とファシリテーターとしての保育者の役割を促進する園環境への変革の試み―ＯＭＥＰ ＥＳＤ rating scaleオメップＥＳＤ評定尺度（第２版）を用いての試みについて学ぶ ・具体的な例示資料を当日配布し、多文化保育環境の変革の方法について学ぶ Ｂ：中 Ｅ：あり 第１５回　第１回～第１４回まで学んだ、多文化保育に関するキイワード：参画、ファシリテート、アコモデーション、アンチバイアスカリキュラムや保育者として、多文化保育において留意すべき事項について、テストを実施し、終了後正解の解説を実施する。
教育目標との関連	外国籍の乳幼児の要求を理解し、異文化を尊重し、愛の教育の基礎に基づいて支援可能なファシリテーターとしての保育者の多文化保育の支援力を育成する。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．多文化保育の概念・意義について理解し、外国籍ならびに日本の乳幼児の最善の利益を保障できる保育者としてのファシリテートの技術を用いて、コミュニケーションできる能力を培う。 ２．地域一市民としての園児のESD／SDGｓへの参画支援のファシリテーターとして多文化保育の内容・才能・環境づくりへの関心と意欲を身につけることができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．評価方法 テスト　８０％（第15回の期末テストの結果の成績） レポート　２０％（第13回のフィールドワークのレポートの評価） ２．ルーブリックは添付参照

教科書	「多文化保育論」萩原元昭　学文社
参考書	「世界のＥＳＤと乳幼児期からの参画　ファシリテーターとしての保育者の役割を探る」萩原元昭　北大路書房
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は授業計画のとおり。 外国籍乳幼児、日本の乳幼児の発達心理についての理解については、中村麻衣子先生の「多文化間心理学」の講義を参考にすること。
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は履修学生の理解度により変更もあります。
オフィスアワー	授業終了後質問に応ずる。
備考・メッセージ	第１回～第14回　対面授業　　第12回　対面・フィールドワーク併用 第14回　グループワーク併用　第15回　総括として多文化保育テストを実施、正解を解説

講義科目名称： 国際理解　　授業コード：

英文科目名称： Basics of International Understanding

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
クラスにより異なる	１年２年専攻科	２単位	国際こども教育コース（１年２年専攻科）　選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：講義形式	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：H301
添付ファイル			
カリキュラムマップ　ルーブリック評価　国際理解.pdf			

講義概要	As students of the International Early Education Course, you will have multiple opportunities to study abroad in different countries. While it is important to have English skills before studying abroad, it is also important to have a basic understanding of world cultures and history and how they affect the world today. In this class, you will learn basic world geography and history with a focus on English-speaking countries. We will also cover world religions and languages. The first four classes will be an overview, including basic world history, major world religions and language. We will then spend each of the next five classes focusing on one continent. The last four classes will focus on English speaking countries. Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1　Introduction ・About this class - textbooks, folders ・Using Wikipedia to research ・About maps 　・How to read 　・Kinds of maps ・Continents・Oceans・Hemispheres・Time-Zones ・Size Vs Population ・United Nations・NATO・G7・G20 A: 中　B:少　E:あり　F:あり Writing Homework time: 1 hour Quiz Study time: 1 hour Class 2　World History ・Eras of world history ・Major empires through history ・Major world events A: 中　B:少　E:あり　F:あり Writing Homework time: 1 hour Quiz Study time: 1 hour Class 3　Religions of the World ・Major Religions of the world 　・Christianity / Islam / Buddhism / Hinduism / Judaism / Shintoism 　・Basic tenants 　・Date founded / Major figures 　・Rules and forbidden food 　・Important dates and events ・Ancient Religions and Mythologies 　・Norse / Greek / Roman 　・Dates 　・Examples of effects on English and cultures now A: 中　B:少　E:あり　F:あり Writing Homework time: 1 hour Quiz Study time: 1 hour Class 4　Language ・Most spoken languages in the world ・Writing systems ・Language Families ・Relationship of Japanese to English ・Japanese words in English ・Foreign words in Japanese that are not English ・Brief history of the English language A: 中　B:少　E:あり　F:あり Writing Homework time: 1 hour Quiz Study time: 1 hour

	Class 5 - 9 Continents ・One continent per class: Asia / Africa / North America / South America / Europe ・Major physical features (seas, rivers, mountains, desert,etc) ・Regions ・Major countries and cities ・Major historical events ・Famous buildings and sightseeing sites A: 中 B:少 E:あり F:あり Fact sheet preparation time: 3 hours Quiz Study time: 1 hour Class 10 Country Presentations Each student will give a 3-5 minute PowerPoint presentation about one country. Class 11-14 English Speaking Countries ・One or two countries per class: UK and Ireland / Australia and New Zealand / Canada/USA ・Government ・Geography ・Major historical events ・Major cities A: 中 B:少 E:あり F:あり Fact sheet preparation time: 3 hours Quiz Study time: 1 hour Class 15 Presentation and Review Each student will give a 3-5 minute PowerPoint presentation about a topic related to the previous four classes.
教育目標との関連	Students will gain a basic understanding of world history and geography.
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1. Students will show basic knowledge of world facts including geography and history DP2. Students will gain ability to see how culture affects thinking and world events DP4. Students will gain more appreciation of other cultures and peoples
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法 2.ルーブリックによる評価基準	30% Weekly Quizzes 30% Writing Assignments 30% Final Presentation 10% Notebook
教科書	「ベーシックアトラス　世界地図帳」平凡社出版
参考書	「英語の歴史　過去から未来への物語」寺澤　盾　著　中央公論新社　出版 「読むだけですっきりわかる　世界地理」後藤　武士　著　宝島社　出版 「エリア別だから、ながれがつながる世界史」　朝日新聞　出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	If you miss a class, you must come to the instructor's office and get the notes you missed before the next class.
オフィスアワー	Office hours will be posted on the instructor's door.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称：　世界のＥＳＤと保育　　授業コード：

英文科目名称：　Education for Sustainable Development in the World from the Early Childhood

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	専攻科	2	専攻科選択
担当教員			
萩原元昭			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：
添付ファイル			
「世界のＥＳＤと保育」カリキュラムマップ（到達目標）.xlsx			
「世界のＥＳＤと保育」ルーブリック.xlsx			

講義概要	子どもは未知への探検というべき遊び（spielen）が大好きです。子どもが夢中になって遊んだり、活動している時の輝きに満ちた表情や身体の動きを見せるのは、子どもが自ら選ぶ主体的な参画活動としての遊びの中に、ワクワクするような「未知への探検への喜び」が含まれているからでしょうか。地球上のすべての子どもたちが一人残らず仲間とこの自然の「センスオブワンダー」と出合い、相互にたすけあいながら協働して、ＥＳＤやＳＤＧｓに参画し、地球の温暖化や気候変動の阻止、貧困の根絶、核廃絶、資本優先の経済から人命尊重の経済への変革、ジェンダー、不平等問題の解決など、２０３０年までのＳＤＧｓへの行動目標への参画が一人一人の地球市民の課題となり、民族、宗教、国を超えて連帯やパートナーシップが求められています。この科目では、日本、スウェーデン、中国、韓国、ニュージーランド、イギリス、アメリカなど世界の乳幼児からのＥＳＤ、ＳＤＧｓへの参画とそれを支援するファシリテーターとしての保育者、教師、親の役割のあり方、それを可能とする保育環境のあり方を共に考え、民主的な地球市民の保育者、教師の養成に資することを目標としております。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回　イントロダクション　「世界のＥＳＤと保育」を学ぶ ・子どもにとってのＥＳＤ参画の必要性 ・ＥＳＤとＳＤＧｓとのちがい、関係 ・乳幼児からＥＳＤ実践への参画の必要性について学ぶ Ｂ　：中 Ｄ　：少 Ｅ　：今回の学びの振り返り（３０分） 予習：テキスト２章（１０頁～２４頁）を読んでくる 重要と思われる部分に下線を引いてくる 復習：２６頁の２の事例について、あなたの考えをのべ、次回に提出する 第２回　日本におけるＥＳＤの現状と課題について学ぶ 特に、乳幼児期の子どもの自然体験にＥＳＤのルーツがあることを事例をふまえて学ぶ Ｂ　：中 Ｄ　：少 Ｅ　：あり Ｆ　：あり 予習：３章（２５頁～３９頁）まで読んで重要と思われる部分に下線をひいてくる 復習：２６頁の２の事例について、あなたの考えをのべ、次回に提出する 第３回　「持続可能な開発」（Sustainable Development）の意味およびＥＳＤのＯＭＥＰのプロジェクト、特に７つのＲ’ｓについて学ぶ Ａ　：少 Ｂ　：中 Ｄ　：少 予習：テキスト２８頁～３２頁よく読んでくる 復習：「持続可能な開発」の意味、およびＥＳＤの３つの主要な柱と７つのＲ’ｓについての関係をまとめて次回に提出する 第４回　スウェーデンの就学前学校にこけるＥＳＤのジェンダー問題、民主主義の価値観、子どもの権利の尊重、世代間の交流などの取り組みについて学ぶ スウェーデンの就学前学校のＥＳＤへの取り組みの特徴について、アクティブラーニングを実践 Ａ　：少 Ｂ　：少 Ｄ　：少 Ｅ　：少 Ｆ　：次回までに、個人別にスウェーデンのＥＳＤの特徴についてまとめレポートを提出する 第５回　ニュージーランドにおけるＥＳＤへの取り組みについて学ぶ ワカリ幼稚園、マンゲレ・ブリッジ幼稚園、スタツフォード保育園の３園の事例から、マオリ文化の尊重、持続可能な学び、菜園づくりによる自然環境に親しむ経験などの特徴を学ぶ Ａ　：中 Ｂ　：中 Ｄ　：少 予習：テキスト９２頁～１０６頁までよく読み、マオリ文化の尊重、継承や持続可能な学びなどのニュージーランドのＥＳＤの特徴についてまとめてくる 復習：ニュージーランドのＥＳＤへの子どもの参画について、あながた学んだことを次回までにレポートする 第６回　アメリカにおけるＥＳＤへの取り組みについて学ぶ ５０の週および連邦直轄特別区からなるＵｎｉｔｅｄ　Ｓｔａｔｅｓ　ｏｆ　Ａｍｅｒｉｃａでは、乳幼児、幼児教育、保育に関しても州が司り、多種多様である。ここでは、テキストで取りあげられたＮＡＥＹＣ（全米乳幼児教育協会）とＡＣＥＩ（国際乳幼児教育協会）におけるＥＳＤへの取り組みを中心に学ぶ。前者は、ＥＳＤの根柢に欠かせない人間の存在と文化の継承への尊重を表しているＤＡＰの取り組み、後者におけるＥＳＤの取り組みとして、５歳児クラスの「種比べと種まき」などの実践事例をとりあげ、学ぶ

		Ａ　：少 Ｂ　：少 Ｄ　：少 Ｅ　：少 予習：テキスト１３２頁～１４５頁をよく読んで重要な特徴に下線をひいてくる
	第７回	韓国におけるＥＳＤへの取り組みについて学ぶ ・幼児教育ナショナルカリキュラムにおけるＥＳＤ ・事例１　緑の地球キーパー ・事例２　クラスの文化と「本の病院」の下級生への引き継ぎ：年長組の特権とは何か。 特に持続可能ではない社会問題の実状への問題点への「意思決定」や「問題解決」のプロセスに積極的な参画が可能であることを学ぶ Ａ　：中 Ｂ　：中 Ｄ　：少 Ｅ　：あり 予習：テキスト１４９頁～１６１頁をよく読み、重要な部分に下線をひいてくる 復習：２つの実践事例を通してあなたが学んだことをレポートする
	第８回	イギリスにおけるＥＳＤへの取り組みについて学ぶ ナショナルカリキュラムは１９９８年に制定され、３～１８歳までをキーステージ０ー５歳までに段階づけ、指導と評価システムの体系化をはかり、教育が機会均等、健康、民主主義、経済、そして持続可能な発展に重要な役割を果たすことを認めている。 ・イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランド ・幼児期のＥＳＤの実践に学ぶ Ｂ　：少 Ｄ　：少 Ｅ　：あり 予習：テキスト７２～９１頁をよく読んで、イギリスのイングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド、別々のＥＳＤ参画の特徴についてまとめてくる 復習：フレーザーという名前のクマのプロジェクトとマタラジオ・プロジェクト、ジェンダーの平等について要約して、提出する
	第９回	アフリカにおけるＥＳＤへの取り組み ・wash from the start ・プリスクールの実践 ・統合された乳幼児期の保育と教育 ・強靭性とリスク軽減などについて学ぶ Ａ　：少 Ｂ　：少 Ｄ　：少 予習：テキスト１０８頁～１２８頁をよく読んで、重要な部分に下線をひいてくる 復習：結論についてのあなたの感想をレポートすること
	第１０回	子どものＥＳＤ参加のための変革の課題と方法について学ぶ ・参加型実践システムから参画型実践システムへの変革方法としてのＳＤＧｓ１７の行動目標 ・参画主体としての幼児のＥＳＤの認知傾向をとらえる研究事例 ・子どものＥＳＤ参画に不可欠な保護者・教師のファシリテーターとしての質の高い専門的能力 ・これからの乳幼児期からの子どものＥＳＤ、ＳＤＧ参画の促進に向けての５つの課題と提言について学ぶ Ａ　：少 Ｂ　：中 Ｄ　：中 Ｅ　：あり 予習：テキスト１６６頁の評１０－１各国における子どもの発語の類別化の表から日本の場合についてどのような傾向が読みとれるか考えてくる 復習：テキスト１６８頁のブルガリアの保育者のファシリテーターとしての役割について、あなたはどんなことを学んだかレポートする
	第１１回	これからの乳幼児期からの子どものＥＳＤ、ＳＤＧｓ参画に向けての５つの課題について学ぶ Ａ　：多 Ｂ　：多 Ｄ　：多 Ｅ　：あり 予習：テキスト３節、１７１頁～１７５頁をよく読み、重要な部分に下線をひいてくる 復習：ＡからＥを通して、これからの乳幼児期からのＥＳＤ、ＳＤＧｓへの参画を促進するためになにが必要か、あなたの考えをのべ、次回に提出する
	第１２回	ＯＭＥＰ、ＥＳＤ評定尺度（第２版、２０１９年）を用いて、保育所、幼稚園、こども園の乳幼児期からのＥＳＤ、ＳＤＧｓの参画を促進するためのアコモデーション・システムの保育環境をいかに構築したらよいかを学ぶ Ａ　：多 Ｂ　：多 Ｄ　：多 Ｅ　：あり 予習：テキスト１７６頁から１８０頁までよく読んできてグループワークに備えておくこと
	第１３回	乳幼児期からのＳＤＧｓ・ＥＳＤへの主体的参画を促進し、ファシリテーターとしての保育者、教師、親、地域のおとなの支援力の質を向上させるアコモデーション・システムについて学ぶ 保育環境としての理念型としてドミネーション・システムＶＳアコモデーション・システムを学生に表示し、乳幼児期からのＥＳＤ、ＳＤＧｓへの参画の機会の拡充として、その表現を支援する保育者、教師のファシリテーターの支援力の質的向上をはかれるアコモデーション・システム構築について、徹底したアクティブ・ラーニングにより学ぶ Ａ　：最多 Ｂ　：最多 Ｃ　：フィールドワーク又は実習などの体験、エピソード Ｄ　：プレゼンテーションを実施する 復習：アコモデーション・システムの構築方法について自分の意見を述べる

	第１４回　　「世界のＥＳＤと保育」の模擬試験 「世界のＥＳＤと保育」で学んだ、主に乳幼児期からのＳＤＧｓ、ＥＳＤへの主体的に参画の意義、ファシリテーターとしての保育者、教師のファシリテートの多種多様な方法、これらを持続可能なかんきょうとしてのアコモデーション・システムの特徴などについて、学習の総括を模擬試験という形で、学習の総括を行う ・模擬試験の実施　５０分（１５：２０～１６：１０） ・正解の解説、質疑応答　あわせて５０分（１６：１０～１７：００） 第１５回　　「世界のＥＳＤと保育」の試験 試験実施　５０分（１５：２０～１６：１０） 正解、解説、質疑応答　５０分（１６：１０～１７：００）
教育目標との関連	ＥＳＤ、ＳＤＧｓは地球温暖化、気候変動を阻止し、次世代に持続可能な社会づくりに必要な人間の発達、自律心、判断力、批判力などの人間性を含み、個人、社会、自然とのつながりを尊重する地球市民性を養成する教育目標は、本学の愛の教育に基礎をおく、乳幼児の人間力、保育支援力の向上の目標と軌を一つにするものである。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．園児のＥＳＤへの参画において生ずる課題が理解できる ２．園児がＥＳＤ参画のファシリテーターとしての保育者のあり方について論じあえる ３．園児のＥＳＤ参画についての価値観、多様性を受け入れられる ４．園児のＥＳＤ参画でファシリテートで最善の利益をもたらす環境づくりに提案できる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．評価方法 テスト８０％（第１５回の期末テストの結果） レポート、出席率２０％ ２．ルーブリックは添付参照
教科書	「世界のＥＳＤと乳幼児期からの参画　ファシリテーターとしての保育者の役割を探る」萩原元昭編著　北大路書房
参考書	「多文化保育論」萩原元昭　学文社
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習は授業計画の通り 異文化接触、多文化環境や保育者のあり方などについては、中村麻衣子先生の「多文化間心理学」の講義を参考にされたい
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は、履修学生の理解度により、変更があります
オフィスアワー	授業終了後などで質問すること
備考・メッセージ	第１回～第１４回　対面授業 第１４回　総括として、模擬試験を実施。終了後、正解、解説を行う

講義科目名称：　言語教育と幼児教育　　授業コード：

英文科目名称：　Additional Language Education and ECE

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	専攻科	2単位	専攻科　選択
担当教員			
長谷山　康一			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E305
添付ファイル			
言語教育と幼児教育カリキュラムマップ.pdf			
言語教育と幼児教育ルーブリック.pdf			

講義概要	国際こども教育の現場では、学び手のこども達にとっても、教え手の教育者にとっても非母国語の教育的性質の重要性は、昨今の国際幼児教育の場でも国内外で共に顕著であることは否めない。本科目では特に、この言語教育を幼児教育における資源として捉える視点を持つものとする。イマージョン教育など、昨今耳にする機会の増えた概念などの事例を通して触れ、検討することで、言語教育と幼児教育の関係性および意味を考えるとともに、その可能性や問題点について考える。先行して履修している「保育内容」系の科目等での学びを幼児教育に係る考察要素の一部土台とする。 他の科目との関連：国際こども教育概論で一定に位置付けられた言語教育と幼児教育の共存性とその特徴を考察する。他の英語系科目での学びも、その言語的基礎知識として基となる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	1　イントロダクション シラバス内容をクラス全体で確認し、本科目全体のあり方、意義や目標を理解する。 予習：シラバスを読んでおく。　復習:自己省察　（約２時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 2　言語教育概論 国内外の言語教育、特に付加言語としての英語の指導方法論と実践例を通じて、言語教育の昨今の基礎を理解する。 予習：指定文献を読む。　復習:自己省察　（約２時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 3　こども英語教授法 － 理論 前回授業を、「こども」と「英語」という視点で掘り下げる。英語コミュニケーションⅡなどで扱われる「言語としての英語」とリンクして、言語というもの自体に焦点を当てる一方で、幼児期を中心に発達心理、教育心理、認知科学などの分野から基礎的な概念や理論を借りて、考察をする。 予習：指定文献を読む。　復習:自己省察　（約２時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 4　こども英語教授法 － 実践 前授業内容に基づき、昨今のこども英語教授法の実践方法について、事例を通し、理解し、その応用性、有効性などを検討する。 予習：指定文献を読む。　復習:自己省察　（約２時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 5　近代の国際教育と語学教育の位置付け１（国内インターナショナルスクール・こども英会話事業の事例から） 国内のインターナショナルスクール等による国際教育活動における言語教育の位置付け、意味について考察する。 観察プロトコルについて。 予習：指定文献を読む。　復習:自己省察　（約２時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 6　近代の国際教育と語学教育の位置付け２（IB/Oxfam/Australia） 国際教育の国際的機関による教育活動における言語教育の位置付け、意味について考察し、国内での国際教育活動と比較検討する。 予習：指定文献を読む。　復習:自己省察　（約２時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 7　フィールド・ワーク１ カナダ・日本語イマージョンクラスを観察。 予習：観察プロトコルの完成。　復習:自己省察　（約２時間） C：多　E：あり　F：あり 8　言語教育と幼児教育の関係１（言葉・表現）

	幼児教育の中でも「言葉」と「表現」という側面に焦点を当て、国際こども教育という枠組みの中で、言語教育のあり方、意味、教育資源としての価値を考える。 予習：指定文献を読む。　復習:自己省察　（約２時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 9　言語教育と幼児教育の関係２（造形・音楽） 幼児教育の中でも「造形」と「音楽」という側面に焦点を当て、国際こども教育という枠組みの中で、言語教育のあり方、意味、教育資源としての価値を考える。 予習：指定文献を読む。　復習:自己省察　（約２時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 10　言語教育と幼児教育の関係３（環境） 幼児教育の中でも「環境」という側面に焦点を当て、国際こども教育という枠組みの中で、言語教育のあり方、意味、教育資源としての価値を考える。 予習：指定文献を読む。　復習:自己省察　（約２時間） A：中　B：中　E：あり　F：あり 11　プレゼンテーションの意義とあり方（準備） プレゼンテーション課題の提出に向け、プレゼンテーションの基礎、各種手法を学ぶ他、国際教育との関わりを検討する。 予習：観察準備。　復習:自己省察　（約２時間） A：多　B：中　E：あり　F：あり 12　フィールド・ワーク２ 初期観察における考察及びその後の授業での学びを前提知識として、他の施設を観察。 予習：観察プロトコル改訂版の完成。　復習:自己省察　（約２時間） C：多　E：あり　F：あり 13　Mini Project: テーマの模索 フィールドワークやこれまでの授業内容から個別のミニ研究・発表プロポーザルを作成。グループやクラス全体での共有と検討し、各自（グループまたは個人）のテーマの意味付け視点及び視野を探し求め、決定する。 予習：プロポーザル作成。　復習:自己省察　（約２時間） A：多　B：中　E：あり　F：あり 14　Mini Project: テーマの探求 前回の授業で得たテーマの基盤的内容を教員のガイダンスに基づき、深め、一つのプレゼンテーションとして発表できるレベルまで内容、質を究める。 予習：原稿作成。　復習:自己省察　（約２時間） A：多　B：中　E：あり　F：あり 15　プレゼンテーションと共有と考察　（ペーパー・プレゼンテーション/ラウンド・テーブル/ポスター・セッション） 独自のテーマにおける探究成果物の発表、共有と考察。 予習：指定文献を読む。　復習:自己省察　（約２時間） D：多　E：あり　F：あり
教育目標との関連	保育現場等での円滑な国際レベルでの他言語コミュニケーション能力の必要性や有用性に関わるステークホルダーは、こども達に限らず、教員、職員、保護者など多岐にわたる。本科目では教育・保育資源としての言語教育の理論と実践への検討を通して、先述の各ステークホルダーの視点から言語教育と幼児教育について考察し、さらにはそれらを包括的に検討する。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1 【知識・理解】　本科目では教育や保育現場で有用な関連知識および考察力を身につけ、独自の環境のへの応用ができる。 DP2【思考・判断】　言語を教育の対象および手段の両側面での意味付け及び融合性の検討に有用な理論や概念、及びそれらを事例における各側面に結びつけることができる。 DP5 【人間性・社会性】　教育者としての外国語運用力自体と教育資源としての言語の扱いにおいて自己能力と社会の観点から個々の考えを構築できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．評価方法 学習ノート　２０％　授業毎に自己省察を行い、各授業における学習への理解度や内在的積極性を評価します。 プレゼンテーション（グループ・個人）　３０％　各自に設定した関連テーマにおいて学びを深めた度合いを評価します。 小論文　３０％　ドラフト及び最終版の提出を持って学習理解度と積極性を評価します。 フィールド・ワーク　２０％　実践現場を観察し、報告する。講義での学びとの関連した思考力を評価する。 ２．ルーブリックは添付のとおり

教科書	授業中に指示します。 購入するものはありません。
参考書	無
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習・復習に関してはシラバス内に指定通り。その他、学期を通し、各自、授業内容及び自己省察を継続的に行い、試験や課題に備えること。
履修上の注意、条件等	特になし。
オフィスアワー	毎週、授業前後に設定する。
備考・メッセージ	本授業は全回をオンライン（Zoom）でおこなう。 自ら「卒業後は何をしたいのか」、そのためには「何を学びたいのか」を見つけ、取り組もうとする意欲を持って授業に参加してほしい。授業内容などで枠組みや制限はあるが、その中で、学生として自分のやりたいことを教員とともに考えていく態度を持って取り組んでほしい。

講義科目名称：　保育内容特論　　授業コード：

英文科目名称：　Practical Approach to Contents of Childcare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	1単位	専攻科　選択
担当教員			
福地昭輝　古徳麗子			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：F302
添付ファイル			
ルーブリック　保育内容特論.xlsx			
カリキュラムマップ　保育内容特論.pdf			

講義概要	こどもはあそびがすべてである。五感を駆使して事物現象を探り、そして自らのものにする能力は、持って生まれた人間として環境に生きるための術である。五感を研ぎ澄ますにはどうすれば良いのか。そこに環境の構成と体験をしやすい状況を作り、自らの好奇心を揺さぶらせる仕掛けが必要である。こどもは楽しみながら一人で、やがて友達と一緒に遊ぶ快感を共有しながら、あそびを作り出し成長する。 創造性の原点となる幼児期を逃してはならない。会話や表現も活発になり、気づきや新たなる疑問が生まれ、探索行動は深まる。生きている自然は、子どもにとって学びの原点であり、保育者はどんなことに興味を持ち、そこで起こす様々な行動を注視するかの能力が問われる。 短大に附属する認定こども園行事などに参加することで学びの場を持ち、本学の有する自然をフィールドとした活動を元に、その能力の形成の基礎的考え方を学ぶ。理論を検証するために、事例を実際に保育者自身が体験したり実際の保育活動の観察や、時には海外研修の成果を活かした記録と実習体験を比較検討しながら大切な要素を取り出し類別して、方法を身につける。 保育における環境構成や保育内容構成には、わが国の風土や文化の成り立ちをもとに、季節の移り変わりや伝統文化を継承する活動として、暦を時間軸として24節季の中から活動につなげる素材を選び出し製作活動へと発展させる 演習形態をとり、課題研究的に行う。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　大学キャンパスフィールドワーク　①「自然発見」の調査 キャンパス内及び付近でどのような自然物（樹木や草花や虫など）が存在するのか、写真を撮ってGoogle Lenzで植物名を同定するとともにその成育特徴、毒性なども調査し、年間で活用できる教材データベース図鑑の作成計画を練る。 24節季カレンダーを読み解く。 タケノコ掘り体験をする。 A：小、C：多、E：あり、F：あり 第2回　大学キャンパスフィールドワーク　②「自然発見」図鑑の教材作成 幼児の興味・関心から考えて、自然発見の要素を取り入れた図鑑をどのような作成したらよいかを考え設計する A：小、D:多、E：あり、F：あり 第3回　「自然発見」に関する活動の指導案作成 幼児の興味・関心を大切にしながら、自然との関わりや生命を大切にする気持ちをもって関わることをねらいとした指導案づくりを行う。 A：小、D:多、E：あり、F：あり 第4回　幼稚園・保育所・認定こども園による実践論文の輪読① 一例として幼稚園・保育所・認定こども園による保育実践論文（ソニー教育財団入選）を各自が選び、その内容を発表する輪講を行うことで、具体的な活動を理解を深める。 A：小、D:多、E：あり、F：あり 第5回　幼稚園・保育所・認定こども園による実践論文の輪読② 一例として幼稚園・保育所・認定こども園による保育実践論文（ソニー教育財団入選）を各自が選び、その内容を発表し、輪読を行うことで、具体的な活動の相互理解を深める。 A：小、D:多、E：あり、F：あり 第6回　幼児の生活環境とあそびの調査 通常保育において必要な❶園庭の遊具等を調べたり、幼児の外あそびの実際を観察する ❷室内あそびの設えと室内あそびの様子を観察する　A：小、C：多、E：あり、F：あり 第7回　幼児の季節のあそびや伝統文化継承の取り組みを調べる 季節の自然を活かしたあそびの取り組み・伝統文化や日本の諸行事への取り組みのの様子を調べる A：小、D:多、E：あり、F：あり 第8回　第１回～第７回の振り返りとまとめ 春～夏にかけて通常保育や季節とかかわる活動の中にこどもが主体的に「自然発見」できるような環境と教材づくりを課題のめあてとして、実践活動の優れた事例から学びつつ、幼稚園児が獲得する能力に注目する。 A：小、D:多、E：あり、F：あり 第9回　わが国の体験活動の活発な取り組み事例と討議　その1　対象としての自然のとらえかたと幼児の活動を結び付けて事例を考察する。 DVDによる事例をもとに、その特徴を見極めて背景となっている教育の考え方を探る 視点 ①森や林　川や池　山や丘などを環境にして、環境を形作る自然物（樹木や落ち葉　木の実　石土など）と成り立つ環境を要素的にとらえる　②幼児の身体能力やことばや絵や図形表現などの発達に着目する ③草はら　砂場　林などのなかで幼児はどのような遊びをするか ④自然豊かな環境の中での幼児の遊びから、幼児は何を獲得し成長するか 指導要録には、幼児のどのような能力が獲得されているかについてその評価を示すことである。その表現について検討する。 第10回　わが国の体験活動の活発な取り組み事例と討議　その２

	五感（幼児の生まれながらに持っている感覚センサー）について、ディスカッションする。 第11回　諸外国の体験活動の活発な取り組み事例と討議　その１ DVDによる事例をもとに、その特徴を見極めて背景となっている教育の考え方を探る 視点　　その国の風土（気候　民族的な特徴をふまえて） ①森や林　川や池　山や丘などを環境にして、環境を形作る構成する自然物（樹木や落ち葉　木の実　石　土など）と成り立つ 　環境を要素的にとらえる ②草はら　砂場　林などのなかで幼児はどのような遊びをするか ③自然豊かな環境の中での幼児の遊びから、幼児は何を獲得し成長するか 第12回　諸外国の体験活動の活発な取り組み事例と討議　その２ レイチェル・カーソン著「センス オブ ワンダー」を読んで、幼児からセンサーがどのように発達していくのか ディスカッションする B:多 第13回　課題のまとめ　報告書作成 これまでの学習内容を振り返り、課題に取り組んだ成果の報告について、レポートの書き方及びプレゼンテーション報告の方法を示す。 発表に関する構想を示して個別に助言する。 E:あり 第14回　発表および今後の課題研究　その１ 一人１５分のプレゼンテーションをもとに各自の発表内容について　フリーにディスカッションしながら成果と課題を確認する B:多 第15回　発表および今後の課題研究　その２ 課題について　今後どのようにアプローチして教材や活動の開発を進めるかを考察する B:中
教育目標との関連	こどもの遊びを通しての指導、働きかけの意味を学び、理解を深める。更にはこどもの発達段階に応じた指導計画を立案し実践する力を身につける。 　あそびに含まれる保育5領域の内容を常に意識し、関連を図りながら、幼児ひとり一人の発達に応じた支援の能力を習得する。 同時に学習成果の把握の仕方を学び、指導要録に反映できるように文章表現能力も培う。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．幼児のあそびの姿から、心・技・体の萌芽を見つけて、それらがどのように発達をしていくか。教育の基礎理論に基づく知識を体系的に自分自身の学びの学習成果として理解して、更に向上しよう学びを深める自己目標を設定することができる。 ２．幼児のあそびの姿から、その活動の原点となる子どもの好奇心・疑問・興味・関心などに注意し、こどもの絵画表現などの情報をもらさずとらえて、的確な支援やことばかけができるよう、学習成果を実践現場の事象から判断類別し、保育や子育て支援に活かすことができる。 ３．あそび活動やものづくりの支援やモデルを示すとき、自らの体験で感じたり考えたりしたことを幼児に分かりやすく、かみくだいて説明できるなど、実習や演習科目の保育技術の実践経験を振り返り、保育内容から自分の得意分野などの技能を自覚し、保育現場での表現方法として活かすことができる。 ４．日ごろから幼児のあそびや好奇心や興味ある活動に関心を寄せ、指導法や教材の開発を進んですることができ、保育現場が抱える保護者対応や幼児の健康保持や安全などの問題意識・グローバル社会の保育事例などを問題意識として関心を持ち、解決を共に図る意欲を高めることができる。 ５．学習内容をふりかえり課題設定を行い、その解決に向けた取り組み方、および、学んだことをまとめ発表でき、保育現場で教員として常に責任感を持ち、深い愛情と共感性を備えて、チーム保育者として行動できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	評価方法　　活動の取り組み度チェックリストをもとに、態度を評定する。各回の内容と到達目標のマトリックスをもとにした学習成果チェックを実施する。情報収集能力　まとめて整理する能力　成果を示す表現力などを5段階評定する。課題発表時の発表内容と説明の仕方（プレゼンテーション能力）を評定する。これらの評定や発言内容、学習態度などを含めて総合評価する。 評価基準 第1～12回提出物ワークシートを評価する　60%　　第13～14回の評価点　20%　　第15回　評価点　20%
教科書	自然観察入門　　日本自然保護協会　　（短大で貸与）
参考書	文部科学省　幼稚園教育要領　　幼保連携型認定こども園保育要領　厚生労働省　保育所保育指針 保育内容「環境」　「表現」　「言葉」　「人間関係」　「健康」　で使用した教科書 レイチェル カーソン著　上遠 恵子訳　「センス　オブ　ワンダー」　新潮社
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	体験活動重視の授業形態から、幼稚園および預かり保育とコラボレーション企画もあり、3コマの連続授業もある。4月16日（土）又は23日（土）春の自然活動　10月22日（土）秋の自然活動　1月21日（土）昔あそび　幼稚園　2月4日（土）冬の自然活動に参加することで、シラバスで示す関連したテーマの授業に振り替えとなる。
オフィスアワー	研究室に掲示する
備考・メッセージ	授業形態：大学キャンパスフィールドワークFW①キャンパスの林の中に入る。および、畑仕事ができるよう長袖の服装と帽子を着用のこと　長靴や軍手などは短大が用意する あそびのすがたと園の環境構成に関連するフィールドワークFW②附属幼稚園こども園預かり保育などによる交流 　訪問にふさわしい服装で

講義科目名称：　異文化コミュニケーション演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	2年 専攻科	1単位	専攻科　選択
担当教員			
袈岩　ナオミ			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：有	ナンバリング：C301
添付ファイル			
map Ibunka.pdf			
rubric Ibunka.pdf			

講義概要	異文化コミュニケーションの体験的集中講義。今年度は社会情勢を鑑みICTを活用した双方向型授業を行う。 地球温暖化が危機的レベルに達し未曾有の事態が発生している今、国境を越え地球規模の課題に各人が協力して取り組む時代に入った。 この新時代に生きるグローバル市民として必要な意識(Interbeing Awareness)とコミュニケーション・スキル(情報収集・編集力、共感力など）を身につける講座。 身体への気づきとアートの活用も促す体験型。 多様な文化において正解は必ずしも一つではない。しかしいかなる多様性の中でも決して揺るがないたった一つの正解がある。それは「命の尊重」。本講座では自分の命、子どもの命はもちろん人間だけではなくあらゆる生命への尊重を最も大切な基本価値として各課題に取り組んでいく。 実務経験 大手企業教育事業部主任として複数企業の国際化教育をデザイン、実施。独立したのちも多くの自治体、企業の国際化研修、海外派遣者・帯同家族研修に携わる。英国I社と日英で企業のリーダーシプトレーニング、アウトドア研修にて体験的手法を磨く。異文化対応の専門家として建設省河川局諮問委員、日本の水辺環境のユニバーサルデザイン化に参画、文部省の委員としては海外成長体験と研究を基に海外子女教育の施策提言をまとめた。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第一回　異文化コミュニケーション演習概要 オンライン授業上の約束、進め方、評価基準など確認 まず わたし自身とつながろう 実習 持ち物（各回共通）：テキスト、専用ノート、ドローイングパッド、クレパス（クレヨン）色数任意 動きやすい服装は毎回着用のこと A,B多　EF あり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第二回　Global ecosystemの現状 地球で何が起きてるの？ 持ち物（各回共通）：専用ノート、ドローイングパッド、クレパス（クレヨン）色数任意 動きやすい服装は毎回着用のこと A,B多　EF あり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第三回　異文化は海を渡らない 国内・家庭内・学内の異文化 コミュニケーション スキル実習 聴き方を選ぶ・質問の種類 動きやすい服装で A,B多　EF あり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第四回　日本語ってすごい 物語の世界へ 日本語の特徴を知って外国語が上達！ コミュニケーション スキル実習 動きやすい服装で A,B多　EF あり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第五回　保育士さんは読み聞かせのプロ メディア リテラシー 情報と事実の違い すでに加工されている情報　語る 実習 My Favourite Storyを持ち寄る 動きやすい服装で A,B多　EF あり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第六回　語る 実習 2 五感でつながる 自分、子ども、世界 動きやすい服装で A,B多　EF あり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第七回　買い物は投票だ コンビニで買うことが政治参加 グループで集まる　相談・予備日 動きやすい服装で A,B多　EF あり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第八回　買い物は投票だ レポート 動きやすい服装で A,B多　EF あり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～

	第九回　聴く 実習 多様な聞き方・共感 実習 動きやすい服装で A,B多　EFあり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第十回　ストーリー・テラーの魅力 グローカル レポート global＋local = glocal 動きやすい服装で A,B多　EFあり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第十一回　読み聞かせ 発表 グローカル レポート 学びを実践、生活習慣へと 動きやすい服装で A,B多 EF あり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第十二回　読み聞かせ 発表 学びの実践報告 動きやすい服装で A,B多 EF あり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第十三回　発表 まとめ 新しい可能性の領域と新しい習慣 動きやすい服装で A,B多 Eあり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第十四回　発表 全体ふりかえり 動きやすい服装で A,B多 Eあり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～ 第十五回　まとめ 動きやすい服装で A,B多 Eあり 課題に１時間～　調査・準備に１時間～
教育目標との関連	本講座では多文化共生に必要な基本を学び、日常生活での実践課題や習慣を見直す稽古を年間通じて行なう。これらの体験学習は自らを知り、社会生活に応用できるコミュニケーションスキルを身につけるだけでなく、身体感覚を磨き、さまさまな刺激を通じ感性を豊かに耕し、祈り心が自然と育まれるプロセスとなると期待される。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP１．【知識・理解】異文化交流・多文化環境において生じる諸問題とその構造、さらにそれを取り巻く地球社会で今起きていることを理解し、新習慣を実践する DP２．【思考・判断】価値観の違いによる誤解や対立がどのように生じるか理解し、自分の言葉で説明し、それに代わる方法を複数考え付、その意味を説明できる DP４．【関心・意欲】日本内外で起きている情勢へ高い関心を持ち、自分ごととして調べ、それについて積極的に掘り下げ、日常生活に反映させる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．試験等の評価方法： 受講態度・積極性３０％　課題提出７０％ ２．ルーブリックは添付参照
教科書	「星の王子様」サン・テ・クジュペリ著　河野万里子　訳　新潮文庫 「おれは無関心なあなたを傷つけたい」　村本大輔　著　ダイヤモンド社　2020年
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業終了直後にふりかえり用紙を書く（30分～）。復習・予習はこのふりかえりをあらためて読みかえし問いを立て関連図書を探して調べる、気になったことを自由に掘り下げてシェアする（１時間前後）指定図書を読み込む（各自のスピードに応じて毎日少しづつでも）
履修上の注意、条件等	Zoom事前チェック、授業開始までに入室してください 授業中は画面をオンにし、スマホは切るなど通常授業と同じ条件での出席が前提。 欠席する場合、欠席届けをGoogle Classroomにて申告。欠席日の課題は免除されないので、出席日同様各自の責任において次回までに提出すること。
オフィスアワー	授業のある曜日 原則として授業後、またはアポイントメントによる。
備考・メッセージ	本講座では人間だけではない「あらゆるいのちの尊重」を基軸に自分と世界の現状を知る。 授業はオンライン（Zoom）でおこなう。各家庭における環境チェック、問題のある場合は早めに教務へ相談。 大学で受講する際の指定教室もあらかじめ確認しておくこと。

講義科目名称： 海外フィールドワークⅡ　　授業コード：

英文科目名称： International Fieldwork Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	1年2年	3	選択
担当教員			
大見由香			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：	ナンバリング：G104
添付ファイル			
海外FW2CMR.pdf			

講義概要	本科目では、ニュージーランド・ティマルでの４週間の語学研修を中心に、現地大学等の高等機関に関連する乳幼児教育保育施設、及び現地社会活動の場の視察や学びを行う。ホームステイにより現地家庭での交流や海外での体験を通して、異文化理解を深め、グローバルな視野で保育を実践することに繋がるものである。 他の科目との関連：本科目は本学における乳幼児教育保育に関するすべての科目と関連している。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回【対面】　事前学習　（１）海外フィールドワークIIの意義と、渡航準備・手続き① ・海外フィールドワークの概要を把握し意味と意義を確認する ・渡航に必要な心構えと下準備の確認を行う 予習：シラバスを読む　（１時間） 復習：ティマルでの日程表を読み込む　（１時間） A：中、B:中、C:該当なし、D：該当なし、E：あり、F：あり 第２回【配信】　事前学習　（２）　海外フィールドワークIIの意味と、渡航準備・手続き② ・アプリケーションフォームを作成し、異文化での生活への意識を高める ・ニュージーランド、ティマルについて理解する 予習：ニュージーランドについてのクイズを考える 復習：今後の自分の課題を認識する　（２時間） A：中、B:中、C:該当なし、D：該当なし、E：あり、F：あり 第３回【対面】　事前学習　（３）ニュージーランドの文化・生活について理解する ・ニュージーランド・ティマルの文化・生活について理解する ・ニュージーランドについてのクイズを行う 予習：ニュージーランドの文化・生活についてインターネットなどで調べておく　（１時間） 復習：アプリケーションフォームの内容を確認し完成させる　（２時間） 宿題：ARAホームページのよくある質問を読み、現地アドバイザーへの質問を考えておく A：中、B:多、C:該当なし、D：少、E：あり、F：あり 第４回【対面】　事前学習　（４）研修先について理解する（現地アドバイザーとの対話） ・ティマル滞在関連の具体的な情報を得て、フィールドワークへの意識を高める 予習：ARAホームページを観ておく（１時間） 復習：研修先での生活について理解する。（２時間） A：中、B:中、C:該当なし、D：少、E：あり、F：あり 第５回【対面】　事前学習　（５）ニュージーランド 滞在経験者との対話 ・ニュージーランドの生活、習慣について学ぶ ・折り紙の説明の仕方を学ぶ。 予習：ティマル滞在における注意事項等考える　（１時間） 復習：図書館で折り紙について調べ、説明方法やの留意点について考える 自己紹介を考える。（２時間） A：中、B:中、C:該当なし、D：小、E：あり、F：あり 第６回【対面】　事前学習　（６）レベル分けテストと手続き ・オンラインテストを受ける ・入国に必要な手続きを行う（NZeTAなど） 予習：入国に必要な手続き（NZeTAなど）について調べておく。 復習：海外フィールドワークIIにおける探究課題の焦点を定める E：あり　F:あり 第７回【対面】　事前学習　（７）ニュージーランドの乳幼児教育について理解する ・ニュージーランドの乳幼児教育について理解する。 ・ティマルの乳幼児教育視察施設のポイントについて理解する 予習：ニュージーランドの乳幼児教育についてHPを確かめる　（１時間） 復習：学生個人の課題に取り組む、NZの乳幼児教育カリキュラムガイドライン”Te Whariki”を読む ティマルの乳幼児教育視察施設における問いを考える　（２時間） A：中、B:中、C:該当なし、D：少、E：あり、F：あり 第８回【対面】　事前学習　（８）ニュージーランドにおける海外フィールドワークでの学びの目標を定める ・研修のしおりの内容を確認し、渡航準備、手続きについて理解を深める ・記録の仕方や、情報の扱いへの配慮について学ぶ ・ホームステイでの留意点について確認する 予習：（１時間） 復習：しおりを読み込む

	B:中、C:該当なし、D：少、E：あり、F：あり 第９回【対面】　事前学習　（９）海外安全研修と最終確認 ・渡航時や滞在国の安全対策について理解し、演習を行う。 ・しおりの最終確認を行う。 予習：海外での安全について確認する　（１時間） 復習：安全研修で学んだ留意点について振り返る。 A：多　E：多　F:中 第10回【対面】　海外研修：フィールドワーク ニュージーランドティマル市にて研修 ・英語学習・保育施設視察・フィールドトリップ・ホームステイ 第11回【対面】　事後学習　海外フィールドワークIIでの学びの振り返りと今後の展望 ・海外フィールドワークを振り返り、プレゼンテーションを行う ・今後の学びへの課題を口頭で発表し、履修者間で分かち合う。。 予習：プレゼンテーション（パワーポイントの作成）を準備する　（２時間） 復習：学生個人の課題について認識する　（１時間） A：中、B:中、C:該当なし、D：多、E：あり、F：あり
教育目標との関連	国際こども教育学科の学生としての自覚を高めると同時に、グローバルな視座で身の回りの事象を捉え、一人ひとりの子どもの最善の利益を保障する保育実践者としての知識・スキル・態度を養うことにつなげる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．国際的な社会環境における教育と他の人間的営みに関する体験を通じて、専門職としての高度な教育力の基礎知識の習得、ならびに実践力の基礎となる知識を修得する。 ２．異国での生活と学習体験を通し、多文化や多様な社会及び人間の営みに対し、柔軟かつ理論的な視点を持つことができる。 ３．専門職として必要な説明や日本の紹介など、コミュニケーション能力を試行錯誤しながら体得し、表現できるようになる。 ４．実際に海外のこども教育に触れる体験を通じて、世界のこどもの育ちやこども教育の発展に関心を持ち、自らのテーマを見出して取り組むことができる。 ５．海外での学びや生活を通して異文化に直接触れる事により、ダイバーシティを尊重できるようになる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	・　授業への参加・貢献（海外フィールドワーク実習を含む）　６０％ ・　プレゼンテーション　４０％ 評価方法は添付資料のルーブリックを参照すること
教科書	授業にてプリントを配布する。
参考書	使用しない。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	学期を通し、各自、授業内容及び自己省察を継続的に行い、課題に備えること。
履修上の注意、条件等	特になし。事前面談を行う。
オフィスアワー	大見研究室のドアに掲示する　その他質問はGoogle Classroomにて受け付ける
備考・メッセージ	世界中の子ども、生活・文化との出会いと驚き、発見を大切にするように。「何故？何だろう？知り合い？」という好奇心を持って履修者、教員と共に学び成長したい、との心持ちで受講されたい。

講義科目名称： Intensive EAL　　授業コード：

英文科目名称： Intensive EAL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	2単位	専攻科選択
担当教員			
橋元　知子			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：E306
添付ファイル			
Intensive EAL2022ルーブリック.pdf			
Intensive EAL カリキュラムマップ2022.pdf			

講義概要	During the third year of the Global Early Childhood Education course, students spend 12 weeks living and studying early childhood education in Canada. This class will focus on obtaining the English skills students need to study abroad. We will focus on studying English that is needed in the classroom as well as learn English communication skills needed in daily life. Class participation is very important. Tomoko Hashimoto has taught English to learners in nursery schools to young adults. She works to create an enjoyable classroom environment through communicative activities where students will motivate themselves to study English.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1　Introduction and Practice test 1-1 Students will be introduced to the course content and grading. The instuctor will take any questions students may have. A practice test will be administered to assess English ability. A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 2　Quizzes 1-7 and checking comprehension Students will take review quizzes 1 through 7 in the text book, go over answers, and review questions that they have missed. They will also increase their understanding of areas that need to be fortified. A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 3　Quizzes 8-14 and checking comprehension Students will take review quizzes 8 through 14 in the text book, go over answers, and review questions that they have missed. They will also increase their understanding of areas that need to be fortified. A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 4　Practice test 1-2 A practice test will be administered to assess English ability. Afterwards, answers will be reviewed. A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 5　Assessment test: Level 3 An assessment test will be conducted to decipher English understanding. A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 6　Quizzes 15-21 and checking comprehension Students will take review quizzes 15 through 21 in the text book, go over answers, and review questions that they have missed. They will also increase their understanding of areas that need to be fortified. A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 7　Practice test 2-1 A practice test will be administered to assess English ability. Answers will be given and missed problems will be reviewed. A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 8　Assessment test: Level 2 An assessment test will be conducted to decipher English understanding. A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 9　Checking comprehension Students will check their level of English by taking practice quizzes and reviewing material they have covered in class so far. A: 中　B:少　D:少　E:あり　F:あり Class 10　Practice test 2-2 A practice test will be administered to assess English ability. An answer and review session will follow.

	A: 中 B:少 D:少 E:あり F:あり Class 11 Assessment test: Level 3 An assessment test will be conducted to decipher English understanding. Students will go over their answers following the test. A: 中 B:少 D:少 E:あり F:あり Class 12 Preparing for test and learning English used at homestay family (1) Students will prepare themselves for the test and learn the vocabulary and expressions needed to communicate with their homestay families. A: 中 B:少 D:少 E:あり F:あり Class 13 Preparing for test and learning English used at homestay family (2) Students will get ready for the test and learn the vocabulary and expressions needed to communicate effectively with their homestay families. A: 中 B:少 D:少 E:あり F:あり Class 14 Preparing for test and learning English used at homestay family (2) Students will review material for the test and hone their English skills to communicate with their homestay families. A: 中 B:少 D:少 E:あり F:あり Class 15 Review We will review the course, the test and talk about the upcoming study abroad program. A: 中 B:少 D:少 E:あり F:あり
教育目標との関連	In this class, students will acquire the English they need to live abroad.
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. Students will be gain a new understanding and appreciation of foreign customs and languages. 2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. 3. Students will acquire the English skills needed to study abroad.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法 2.ルーブリックによる評価基準	50% Tests 30% Quizzes 20% Homework & Participation
教科書	「中学英語をもう一度ひとつひとつわかりやすく」学研プラス
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	Please review basic English grammar through junior high school education in Japan.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	The instructor will be available to take questions during, before and after class.
備考・メッセージ	

講義科目名称： 英語で伝える日本文化　　授業コード：

英文科目名称： Explaining Japanese Culture in English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	1単位	専攻科　選択
担当教員			
橋元知子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：H302
添付ファイル			
2022英語で伝える日本文化_ルーブリック様式 uploaded20220107 (1).pdf			
2022英語で伝える日本文化_カリキュラム・マップ様式 uploaded20220107.pdf			

講義概要	Japan's unique culture such as anime, hot springs, shrines, and cuisine continues to fascinate people from around the world. However, many Japanese students tend to lack knowledge about their own culture as well as the necessary English abilities to express this clearly. In this course, students will learn about Japanese culture and the necessary vocabulary to introduce this to individuals from around the world using English as a medium. The lecturer will bring her expertise acquired through her experience of teaching English to people of all ages from children to adults in various settings.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1　Introduction An explanation about the course, evaluation, and textbook will be provided. In addition, the instructor will introduce herself to the class. Students will discuss their opinions on what Japanese culture is. A：中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 2　The Spirit of Japanese Hospitality We will learn about the spirit of Japanese hospitality, 'omotenashi', and the vocabulary associated with this. A: 中 B：中 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 3　Superb! Tokyo Skytree We will learn about Tokyo Skytree and the vocabulary associated with this. A: 中 B：中 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 4　Japanese Seasonal Charms: The Bewitching Beauty of Kimono We will go over facts about the beauty of the 'kimono' and the vocabulary and phrases associated with this. A: 中 B：中 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 5　Japanese High-Quality Technology We will learn about Japan's high-quality technology, leading companies, and facts surrounding this subject. We will also go over the vocabulary necessary to explain this in English. A: 中 B：中 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 6　Healthy and Colorful Japanese Cuisine We will talk about Japanese cuisine and discuss what makes it so intriguing to people from around the world. Vocabulary and phrases associated with this will be covered. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 7　Destruction and Creation: Japanese Stage Art

	We will talk and learn about the beauty of Japanese stage art and discover the vocabulary needed to express this in English. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 8 Hospitality and Peace in Japanese Robots We will learn how robot technology in Japan is for peaceful purposes and how to explain this in English to individuals who may not be familiar with this concept. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 9 Samurai Spirit We will learn about the samurai spirit and how this can still be seen in Japanese individuals acting as leading figures around the world. Expressions used to explain this will be learned. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 10 Anime: A Japanese Soft Power We will discuss anime, and how this is perceived worldwide. Related vocabulary will be discussed. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 11 Hot Springs: Let's Become Healthy and Beautiful! We will learn how to explain hot springs in Japan and how to enter one. The culture and vocabulary will be introduced. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 12 Tranquility and Dynamism in Competitive Calligraphy We will familiarize ourselves with competitive calligraphy and how to describe this in English. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 13 Kawaii Going Global We will discuss the concept of 'kawaii' and how this is more than being cute. The history and the popularity it has gained around the world will be explained. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 14 Epilogue and Explanation About Final Presentation We will review and discuss the material covered in class and discuss the final presentation. A: 中 B：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 15 Final Presentations Students will give their final presentations. B：中 D：多 E：あり F：あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours
教育目標との関連	In this course, students will learn the basic English skills to talk about and explain Japanese culture. They will also acquire knowledge about different customs as well as learn to appreciate their own traditions.
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現	1. Students will acquire the English skills needed to talk about and explain different aspects of Japanese culture. 2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. 3. Students will gain a better understanding and an appreciation of Japanese culture.

４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	1. Students will be graded based on assignments, class participation and presentations using the rubric provided. 2. Refer to the rubric for evaluation criteria.
教科書	Kinuyo Koikawa, Kentaro Yamada, David Farnell, and Motoko Yakushiji (2016) 『Let's Introduce Japanese Culture!』英宝社
参考書	Will be presented in class
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	Every week there will be reading, listening, and writing homework (1 hour). Students are also required to review class material and investigate inquiries that may arise (1 hour). At the end of the semester, there will be a final presentation about Japanese culture that students must prepare for (2 hours).
履修上の注意、条件等	Active participation in class is required.
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	Classes will be held in-person unless otherwise instructed.

講義科目名称：　こどもと国際貢献　　授業コード：

英文科目名称：　Contribution to Young Children and World

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	専攻科	2単位	専攻科　必修
担当教員			
金田利子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：C304
添付ファイル			
子どもと国際貢献カリキュラムマップ.pdf			
子どもと国際貢献ルーブリック.pdf			

講義概要	子どもは、人類の未来である。子ども時代からの国際的交流は、世界平和の礎となり子どもの国際貢献を意味する。今年は、子どもの権利条約の国連における採択から31年、日本批准から26年となるが、子どもの生存と発達はまだまだ保障されているとはいえない。それどころか、一方では飢餓や戦時下の中で苦しい生活を余儀なくされる子どもが多く、また一方では児童虐待が増加するなど、一層子どもたちが生きにくい社会になってきている。ここでは、子どもの権利条約の視点から国際的視野で持続可能な社会のありようを考えていく（子どもとESD）。 「子どもと国際貢献」の学びの応用として、外国籍の子どもの保育をインクルーシブな関係になるようにしていくコーディネーターになり得る力も養っていきたい。 以下の授業内容は、参加者の意見と討論により適宜変わることがある。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション：国際貢献とは？子どもと国際貢献の視点 ・国際貢献とは？子どもを取り巻く世界から考える ・子どもの位置：①子ども自身の国際貢献と、②子どもを育てる大人の側の貢献 ・授業の内容説明・担当教員と参加学生の相互紹介 B　多 第2回　世界の子どもの現状と国際貢献―世界の子どもの今― ・世界の子どもを取り巻く世界情勢について理解を深める ・その中での子どもの実態を探る―光と影 ・国際貢献の取り組みの事例 A,B 多 第3回　世界の子どもの現状と国際貢献―日本の子どもの今― ・日本の子どもを取り巻く日本の情勢について理解を深める。 ・新聞記事文献等からワークショップを試みる ・年間に適宜入れるフィールドワークを計画する。 A, B　多 第4回　子どもの国際貢献とESD（外国籍の子どもの保育を考える中で） ・ESD(Education for Sustainable Development）とは？ ・ESDと国際貢献をつなぐOMEP（世界幼児教育・保育機構） A,B多 第5回　子ども自身の国際貢献 ・幼児期からの多文化理解教育 ・子ども自身が次世代に継続（持続）する存在であること ・子どもの心に平和のタネを A、B　多 第6回　子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献:　①ESDとSDと子どもの権利条約 ・ESDと子どもの権利条約の理解 ・上記両者の関連の理解 A,B　多 第7回　子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：保育者・保育学生にできること ・OMEPにおける子どもの権利条約の絵本作りとその効果 ・上記のテーマで討論する―子どもに自身の権利を知らせるための参加者による教材づくり A,B 多 第8回　子どもの関わるNGO/NPOの酷使貢献の国際貢献：①OMEP ・OMEPのこれまでの取み―7つのR ・World OMEP　のESDに関する取り組みと日本の取り組み　世代間交流における子どもの意味 A,B　多 第9回　子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：Save the children Japan ・活動についての聞き取り ・自身の理解を冊子のまとめる A,B　C　多 第10回　子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：ユネスコ・ユニセフ 子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：ユネスコ・ユニセフ 第11回　子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：IPA(国際遊び協会) 子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：IPA(国際遊び協会) 第12回　外国籍の子どもの保育と日本の貢献 ・文献に学ぶ ・実態の把握 A、B　多 第13回　子どもと国際貢献のまとめ－これまでの学びから ・これまでの振り返りからの整理―子ども自身の国際貢献

	・保育者及び社会的機関の取り組み A、B　多 第14回　子どもの国際貢献のまとめ―改めて子どもの権利条約との関係から ・子どもの権利条約に当たって考える。 ・報告してあって考えをまとめる。 A,B　多 第15回　学びの振り返りと今後の展望 ・これまでのまとめを整理しプレゼンテーションをする　。 ・学ぶ前と今を比較し自己評価をする。 B,D,E、多
教育目標との関連	子どもも国際貢献の担い手であると認識して、受講者が国際貢献者であるという当事者意識を高めること、そして保育現場における国際貢献の働きについての考え、実践する力を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.　子どもを取り巻く事象について地域・社会・世界視座から捉え、理解し説明できる。 2.　子どもの理解者・探究者・代弁者として、国際貢献のあり方について専門家意識を蓄え、考えることができる。 5.　保育の専門家として歩むための学びであるとしての意識を持ち、他者と学び合うことを理解し、協調できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業態度・参加状況・提出課題とプレゼンテーションを総合的に評価。 授業態度・参加・課題への取組み　30% 提出課題・個人プロジェクトとプレゼンテーション　70% ＊欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる
教科書	授業にて提示・紹介します。（OMEP・ユネスコ・ユニセフ・全国私立保育園連盟等の発刊図書を授業で購入することもある。）
参考書	五島敦子・関口知子編著『未来をつくる教育ESD』明石書店、2010年、2,160（税込） 萩原元昭著『多文化保育論』学文社、2008年、1,200（税別）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	毎授業の課題について文献等を探索・探究する姿勢で読み、問題意識・課題を持って授業に臨むこと。授業後は振り返りを行い、不明な用語・内容について理解しておくよう努めること。
履修上の注意、条件等	・授業を構成する当事者として臨みましょう。 ・携帯電話等の教室内における使用を控えましょう。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解等により変更も有ります。
オフィスアワー	講師滞在時間内
備考・メッセージ	・受講生のスケジュールやフィールドワークにより、授業のスケジュールが変更する可能性があります。 ・子ども・保育について知りたい、分かち合いたいとの思いで履修しましょう。

講義科目名称： 保育英語研究　　授業コード：

英文科目名称： Research in English for Nursery Schools

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	専攻科	2単位	専攻科　選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：E304
添付ファイル			
カリキュラムマップ様式 保育英語研究.pdf			
ルーブリック様式 保育英語研究.pdf			

講義概要	In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten as an teacher. In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day. This class will be conducted entirely in English. Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　Going to School Asking for Directions to the Preschool A Snowy Day In this class, we will study English for talking about coming to school and weather. We will also how to write a sign-up sheet. A:中　B:少　E: あり　F:あり Study/Homework time: Approximately 2 hours. 第2回　Fun School Events - Summer Tanabata Festival A Day in the poll In this class, we will study English to describe and explain Japanese events and playing in the pool. A:中　B:少　E: あり　F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours 第3回　Fun School Events - Fall Horizontal Bar Sports Day In this class, we will study the English used when talking about sports day. A:中　B:少　E: あり　F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours 第4回　Fun School Events - Winter Performance Day Omochitsuki Event In this class, we will learn the English used when talking about performance day and omochitsuki. A:中　B:少　E: あり　F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours 第5回　Fun School Events- Spring Setsubun Hinamatsuri In this class, we will learn the English used when talking about Japanese events, setsubun and hinamatsuri.

		A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第6回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations - Preperation Drawing and Painting In this class, students will prepare their presentations A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第7回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations - Arts and Crafts In this class, students will give their arts and crafts presentations. A:中　E: あり　F:あり
	第8回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours The Developmental Stage of an Infant Infant (0-2 months) Infant (3-5 months) Infant Daycare program In the class, we will learn the English used during lunch or talking about infants. A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第9回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours School Absence and Illness A Painful Cavity Taking Precautions against the Flu School Closure In this class, we will learn the English used when talking about illnesses and how they effect the school. A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第10回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Emergency Drill Emergency Pick-Up Drill Evacuation Drill In this class, we will learn the English used when running emergency drills. A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第11回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Education Prior to Enrollment Listen to a Story and Visualize Learning Hiragana and the Alphabet In the class, we will learn the English used in teaching the children how to tell time and how to read. A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第12回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Education Prior to Enrollment Learning to Tell Time Learning about Numbers In the class, we will learn the English to teach children about numbers. A:中　B:少　E: あり　F:あり
	第13回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Phonics In this class, we will learn about phonics and how it can be used to help children. A:中　B:少　E: あり　F:あり

	第14回 Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations - Preperation We will prepare for the group presentations. Each pair of students will choose one theme of this course and prepare a presentation for the next class. We will watch several videos from the Teaching Phonics in Early Childhood open education course from Queensland University of Technology. A:多い E: あり F:あり 第15回 Study/ Homework Time: Approximately 1 hour Presentations & Review Each group of students will give their presentations. We will also review and look back over the course. A:多い C:あり D: あり F:あり
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	3. Students will acquire the basic English needed to be an assistant teacher at a nursery school or kindergarten. 2. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. 3. Students will be able to communicate effectively in a teaching situation.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法 2.ルーブリックによる評価基準	Writing assignments 40% Presentations 40% Vocabulary Tests 20%
教科書	「幼保英検準1級テキスト」幼児教育・保育英語検定協会 著 株式会社ブックフォレ 出版 2019年
参考書	None
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	This class will be conducted in person.

講義科目名称：　多文化間心理学　　授業コード：

英文科目名称：　Cross-cultural psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	2単位	専攻科選択
担当教員			
中村　麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	ナンバリング：B301
添付ファイル			
多文化間心理学 .pdf			

講義概要	文化・社会的要因が人の心の形成に与える影響を学ぶ。文化による人の行動の差異や普遍性を理解するとともに、多文化接触・体験や多文化環境において生じる心理的現象について学び、多文化共生社会をめざす保育者のあり方を考える。 他の科目との関連：「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「子ども家庭支援論」「子ども理解と相談・援助」で学んだ心理学や支援の基礎知識を基に、異文化接触の心理学理論およびその支援を学び、グローバルな視点を獲得する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　あなたの常識は私の非常識。多文化心理学への招待 現在進行中であるグローバル化社会にいる私たちの周りで起こっていることを概観し、文化に関する心理学的な知見を学ぶ。また、認知発達の視点から文化の問題を考え、多文化理解の心理学を学ぶことの意義を理解する。 予習：あなたが常識だと思っていることが、他の人にとってそうではなかった経験」、あるいは逆に、「他の人の常識が、あなたにとって非常識だったという経験」を考えておく。(約１時間) 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第2回　日本在住外国人の心理 日本に住む外国人はどのように日本の社会に適応しているのか、または、どのような不便さを感じているのかを理解する。特に、子どもの教育においては、日本の学校についていけないため未就学になっているような児童が相当数存在している現状などを、事例を通して学ぶ。 予習：偏見やステレオタイプがなぜ起こるのかについて考えておく。（約1時間） 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第3回　共文化コミュニケーション 共文化とは、居住地域、年代、職業、ジェンダーなどの差異や、障害の有無など、「日本文化」という1つの文化の中に存在しているが、独自の考え方や行動様式を備えているグループが持っているものである。私たちは、同じように日本で育ったとしても、それぞれ育った地域、性別、職業などによって大きな影響を受けており、若者文化、女性文化、教員文化など、さまざまな共文化を併せ持つことになる。この共文化の違いによる諸問題や現象を理解する。 予習：ある朝起きたら、あなたの性が変わっていた。さて、あなたの生活はどのように変化すると思いますか。また、将来の夢や希望も含めて、あなたが経験するであろう変化について、できるだけ具体的に考えておく。（約1時間） 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第4回　帰国日本人の心理 一定期間海外に暮らした後で日本に帰国した場合、母国日本においてさまざまな問題に遭遇し、困惑するということがよくある。この現象をスクールカウンセラーとしての経験を持つ教員の事例を通して理解する。 予習：あなたの周りに帰国児童・生徒はいただろうか。また海外生活が長かった有名人・芸能人の言動で気になったことについて考えておく。（約1時間） 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第5回　海外留学での多文化経験 日本人が外国に出かけて現地で異文化と出会ったとき、心に何が起きるのかについて、自らの体験や事例をもとにグループディスカッションを通して具体的に考える。 予習：インターネットを使って、今まで日本人留学生が何らかの事件に巻き込まれた例を探しておく。（約1時間） 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第6回　海外駐在での多文化体験 海外赴任者と、それに同伴する家族の心を理解する。現地での生活は、日本で得られたような普通の便利さが大幅に欠乏すると感じることが多い。また、子どもは現地の言葉をいかに習得し、学校に適応するのか。これらの現象について、事例をもとにケーススタディーを通して理解する。 予習：海外に赴任することが決まったら、どのような準備をしたら良いと思うか考えておく。(約１時間) 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第7回　国際舞台で起きる多文化交流の諸相① 国内外で起きているさまざまな交流活動の諸相を、本講から3回にわたり、国際交渉、国際協力、マスメディアの観点から考察する。本講では、国際交渉に欠かせない多文化コミュニケーション能力とは何かについて理解する。 予習：捕鯨問題について概略を調べておく。(約１時間) 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり

	第8回　国際舞台で起きる多文化交流の諸相② 国内外で起きているさまざまな交流活動の諸相を、国際協力の視点で考察する。国際協力とは、社会や経済の開発、平和問題、人命や人権など人道上の問題、環境問題などに対して、国を越えて行われる援助活動のことである。このような援助の実態と、そこで起こる援助する側・される側の心の問題について、事例をもとにグループディスカッションを通して考える。 予習：青年海外協力隊について、文献やインターネットなどで調査しておく。(約１時間) 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第9回　国際舞台で起きる多文化交流の諸相③ 国内外で起きているさまざまな交流活動の諸相を、マスメディアとパーセプションギャップについて考察する。映画「パッチギ」を視聴し、グループディスカッションを通して考える。 予習：外国人が登場する映画やドラマを見たことがあるだろうか。あるいは、逆に外国映画に日本人が登場する映画やドラマは見たことがあるだろうか。その中に出てくる人物の国籍、職業、性別、外見、性格、役について書き出しておく。(約１時間) 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第10回　英語圏のマンガから見える子どもの生活文化とユーモア 文化が人間の発達や認知に与える影響をマンガを通して楽しく学ぶ。 予習：スヌーピーなど英語圏のマンガを読んでおもしろいと感じられない、意味がわからない、という経験はあるだろうか。考えておくこと。(約2時間) 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第11回　多言語アイデンティティー 複数の文化と言語環境で成長する子どもたちの生活と心理について考える。また、カナダなどにおける二言語教育やそれに関する研究の知見から、二言語併用が子どもの認知過程やその発達に与える影響について考察する。 予習：日本での外国語教育について、今のままで良いと思いますか。自分の考えをまとめておく。(約2時間) 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第12回　多文化共生をめざす保育者のあり方 多文化共生保育とは、さまざまな違いを認めあい、すべての子どもが自分らしく生きるために必要な力を身につけることである。多文化をもつ子どもは園内では比較的早期に適応したかに見えるために、保育者は「慣れたら問題なし」としてしまいがちである。ここからは多文化共生の保育は生まれてこない。保育者の多文化をもつ子どもや保護者に対して、相手の文化を尊重する深い配慮をもった関わり方、それを周囲の子どもが見て学ぶことが多文化共生保育の重要なポイントの一つである。また、保育者が日常の保育上困ったこととしてあげていることには、多文化を持つ保護者との言葉・文化の違いに起因する様々な行き違いに端を発していることが多い。保育を行う上では保育者と保護者間の信頼関係の構築とそのための保育者の多文化理解が必須であることを理解する。 予習：実習やボランティア活動などで異文化の子どもと関わった経験はあるだろうか。その時に感じたことをまとめておく。(約2時間) 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第13回　多文化コミュニケーションスキル 文化背景の異なる人々と共生していくには相手を理解しようとオープンな心で接することが大切だが、自分の考えや感じたことを相手に正確に伝えることも大切である。本講ではコミュニケーションスキルの１つであるアサーティブ・コミュニケーションについて実践的に学ぶ。 予習：これまで、自分の思っていることや考えていることが相手にうまく伝わらなかった経験や、そもそも伝えることを諦めてしまった経験はあるだろうか。その原因を考えておく。(約１時間) 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） A：中　B：中　D：中　E：あり　F：あり 第14回　まとめと理解度確認テスト これまでの授業の総まとめを行い、理解度確認テストを行う。 予習：これまでの授業の総復習をしてテストに臨むこと（約2時間） 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） E：あり 第15回　理解度確認テストのフィードバックと学習成果の振り返り 理解度確認テストのフィードバック、および、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して質問などを考えて授業に臨むこと（約2時間） 復習：授業内容を振り返る。（約１時間） E：あり
教育目標との関連	グル―バルな視野を持ち、文化的背景の異なる人々を理解するための知識、技法、態度を習得する。国際社会に生きる一員として、多文化共生社会をめざす保育者のあり方について、自分なりの考えを持てるようにする。また、文化的背景の異なる人々が共生する国際社会で活躍できる保育者をめざす。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1：異文化接触・多文化環境において生じる心理的問題を理解し、説明することができる DP3：多文化共生社会をめざす保育者のあり方について、自ら考え、論じ合うことができる DP5：グローバルな視野を持ち、異なる価値観や多様性を尊重し、受け入れることができる。 ＊添付資料のカリキュラムマップを参照
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリッ	理解度確認テスト：50% 提出課題：20%　課題は授業内で指示する。 平常点：30%　授業内での発言・発表やグループワークでの積極性など、授業への貢献度を評価する。 ＊評価基準は添付資料のルーブリックを参照

クによる評価基準	
教科書	なし。授業でレジュメや資料を配布する。
参考書	授業中に指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおり。
履修上の注意、条件等	世界情勢に関心を持ち、多文化共生について自分なりの意見・考えを持つよう心掛けてください。授業内でしばしば意見を求める。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。また、Google Classroomの限定コメントでも随時受け付ける。
備考・メッセージ	授業形態は対面で実施する。

講義科目名称： カナダ保育研究　　授業コード：

英文科目名称： Inquiry Seminar: ECE in Canada

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	専攻科	2単位	専攻科　選択
担当教員			
大見　由香　　百瀬　志麻			
授業形態：演習（実習）	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	ナンバリング：G301
添付ファイル			
rubric.pdf			
curriculum .pdf			

講義概要	本科目では、カナダ保育を包括的に研究するに当たって、カナダ・ブリティッシュコロンビア州での現地保育園の視察、その他現地社会活動の視察及び体験を通じて、海外の保育活動をその社会的文脈を含め、実体験と並行して考察をするものである。 他の科目との関連：本来、在学中に学ぶ全ての科目群の内容は多様な形及び側面で一つの学びとして織り込まれるべきである。その上で、在学期間を通して国際こども教育を考える際、個々の学生の位置によって、その基となったり、きっかけとなる知識や思想、または既得のそれらを深め、より有効なものにするための即社会的見地を、本科目で得る異国の教育現場や社会環境における実体験から見出すことも可能となる。これにより、存在論的にも認識論的にもより学生個々に即した新鮮な材料を提供できるものと考えられる。 教員の本科目関連する実務経験としては、担当教員は、現地保育者資格の保有、現地大学における保育士資格学位プログラムの現役教員及び教育実習指導教員であり、現地社会においても10年ほどの滞在歴を持っており、それらの経験と知識を用いて、「保育」を養成教育及び社会文化的な側面から学生と共に紐解いていく。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	1　カナダ基礎知識 社会文化、社会歴史、社会政治的な方面からの国家としてのカナダを一程度、理解する。 （総括Miniプロジェクト（導入）） A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 2　ブリティッシュコロンビア州保育施設の基礎情報 ブリティッシュコロンビア州保育の基礎的な現状、制度の理解。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 3　カナダ・ブリティッシュコロンビア州政府の乳幼児学習フレームワークについて知る カナダ・ブリティッシュコロンビア州政府の乳幼児学習フレームワークについて、その概要を理解する。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 4　カナダ・ブリティッシュコロンビア州政府の乳幼児学習フレームワークについて考察する 前回授業の内容から、各学生で異なる焦点を担当し、考察・共有する。 A：中　B：中　D: 中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 5　カナダの乳幼児教育（フレンチ・イマージョン／先住民族） カナダ全土の乳幼児教育をフレンチイマージョンやインディジナス教育から考察する。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 6　こども教育と社会的制度 こども教育と社会的制度について考察する。 （総括Miniプロジェクト（プロポーザル作成開始）） A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 7　カナダ・ブリティッシュコロンビア州乳幼児教育者免許課程 州の教育者資格制度を理解し、保育者に求められる質や教育を考察する。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 8　カナダの保育現場　概論 保育現場の社会的位置付けや、その様々な形態の理解を社会文化的側面から掘り下げる。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記

		録ノートに省察（２時間）
	9	現地保育所の実態 前回授業を、さらに細かな「事例」を通じて、考察、理解する。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	10	現地保育士や他のこどもに関わる専門職の現状 働き手に焦点を当て、考察する。 （総括Miniプロジェクト（仮プロポーザル発表/個別調査開始）） A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	11	カナダ現地の社会文化とこども　概論 以下5回の授業では、それぞれのカナダにおける社会的側面から「こども」について考察する。今回は、そのイントロダクション。 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	12	街と人 A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	13	社会的構造と営み A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	14	異文化コミュニケーション A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	15	こども、家族、教育、コミュニティ A：中　B：中　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	16	施設視察１ 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B:中　C: 多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	17	施設視察省察１ 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	18	施設視察２ 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B:中　C: 多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	19	施設視察省察２ 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	20	施設視察３ 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B:中　C: 多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	21	施設視察省察３ 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 （総括Miniプロジェクト（調査中間報告）） B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
	22	施設視察４ 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B:中　C: 多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記

	録ノートに省察（２時間） 23　施設視察省察４ 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 24　施設視察５ 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B:中　C: 多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 25　施設視察省察５ 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 26　カナダ保育者との対話１ 現地保育士及び教育関係者との対談から学ぶ。 B:多 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 27　カナダ保育者との対話２ 現地保育士及び教育関係者との対談から学ぶ。 B:多 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 28　総括プロジェクト　Step 1 Mini研究プロジェクト：プロポーザル共有と協同再考 B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 29　総括プロジェクト　Step 2 Mini研究プロジェクト：付加リサーチ B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間） 30　総括プロジェクト　Final Mini研究プロジェクト：発表・共有 B:中　D:多　E：あり　F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（１時間）　復習：授業内容を記録ノートに省察（２時間）
教育目標との関連	国際こども教育者としての実践力、すなわち行動力は発揮されることを前提と考えると、実際に国際社会的環境を身をもって感じ、考える機会がより多く必要である。これは、その核となる経験と学びを提供するものである。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	１．学生個々にとって国際的な社会環境における教育と他の人間的営みに関する比較的現地化した体験を通じて、専門職としてのより高度な教育力の基礎知識の習得、ならびに実践力の基礎となる知識・思想を深めることができる。 ２．異国での生活と学習体験を通し、多文化や多様な社会及び人間の営みに対し、理論的な視点をより柔軟かつ多様化できる。 ３．専門職として必要かつ、より高度な説明理論や表現、コミュニケーション能力を継続した挑戦から体得し、発揮できるようになる。 ４．実際に多様な海外のこども教育に触れる体験を通じて、世界のこどもの育ちに関し、自らのテーマを幅広い見識から見出し、こども教育の発展を主体的に考え、より高度な探究をする技能を得る。 ５．教育という活動において、国外の教育現場体験からなる視点を深めることで、自らのこども愛を能動的に表現する多角的な術を向上できる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	プレゼンテーション　100%　カナダからの帰国後の報告会におけるプレゼンテーションを評価対象とし、各自に設定した関連テーマにおいて学びを深めた度合いを評価します。
教科書	授業中に指示します。
参考書	使用しない
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	学期を通し、各自、授業内容及び自己省察を継続的に行い、課題に備えること。
履修上の注意、条件等	特になし

オフィスアワー	各週の授業前後で設定。
備考・メッセージ	本授業はカナダ滞在中の現地での活動および帰国後の報告会となります。

講義科目名称： 演習ゼミ（成清北斗）　　授業コード：

英文科目名称： International early childhood education Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	2単位	専攻科　必修
担当教員			
成清北斗			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G302
添付ファイル			
演習ゼミ(松田こずえ)・ルーブリック様式.pdf			
演習ゼミ(松田こずえ) カリキュラムマップ様式.xlsx			

講義概要	本演習ゼミでは、世界の幼児教育に関して一人一人の興味や関心に応じて主体的に学びを深め、保育を考える新たな視点を持つことを目指します。 グローバル化の流れを受け、幼児教育にも国際的な視点を持つことが求められる時代になりました。時代の変革のスピードも速く、保育の現場をいかにグローバルな場にするかということに目が向けられがちです。しかし、より良いものを次世代に残したい、保育を通じて幸せな世の中をつくることに貢献したいという世界共通の普遍的な思いに気づくことも大切です。日本の幼稚園教諭としての実務経験と海外在住経験を持つ教員、および他の履修生と討議を重ねながら、視野を広げていきます。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション(ガイダンス) ・シラバス内容と授業概要を理解し、1年間の目標を確認する 予習：シラバスを読む 復習：授業で学んだことを振り返り、授業を通じた自らの目標を立てる(約２時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第2回　研究論文とは何か(国際乳幼児教育の視点から①) ・リサーチクエスチョンの見つけ方、レポートとの違い、情報源の信頼性について理解する 予習：研究論文とレポートの違いについての意見をまとめる 復習：リサーチクエスチョンについて省察する(約2時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第3回　研究論文を探す(国際乳幼児教育の視点から②) ・論文の検索システムの用い方、調べ方について学ぶ 予習：関心のあるテーマについての意見をまとめる 復習：論文の検索方法の基本について省察する(約2時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第4回　研究論文の形式と構成(保育学の視点から①) ・研究プロジェクトのテーマの選択と、仮タイトルの決定を通じて、自らの研究課題についての理解を深める 予習：関心のある論文を入手し、3本以上読む 復習：3本の研究論文についてのポイントをまとめる(約2時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第5回　多様な研究方法(社会学の視点から①) ・質的研究法/量的研究法 ・質的研究法の演習を通じて、多様な研究方法を理解する 予習：自分の関心のある研究方法（メソッド）を調べる 復習：多様な研究方法について省察する(約2時間) A ：中　B：中　C：中　E：あり　F：あり 第6回　フィールドワーク法についての学び(社会学の視点から②) ・写真を用いたフィールドワークの演習を通じて、研究法についての理解を深める 予習：フィールドワークについて自分なりの意見をまとめる 復習：写真を用いたフィールドワークのレポートを完成する(約2時間) A ：少　B：少　C：多　E：あり　F：あり 第7回　先行文献の収集(歴史学の視点から) ・文献・資料の収集方法、図書館の利用（発展） ・引用文献の書き方について学ぶ 予習：自分の研究テーマに関連する先行文献について調べる 復習：先行文献を調べ、論文における記載の仕方を理解する(約2時間) A ：多　B：中　C：少　E：あり　F：あり 第8回　論文における倫理（社会学の視点から③) ・オリジナリティーと剽窃（ひょうせつ）、インフォームドコンセントについて学ぶ 予習：論文における倫理についての指定文献を読む 復習：論文における倫理と剽窃についての理解を定着させる(約2時間) A ：中　B：多　E：あり　F：あり 第9回　人に伝わるプレゼンテーション（基礎） ・プレゼンテーションの作成とディスカッションを通して、より良く人に伝える方法について理解する 予習：プレゼンテーションを作成し、発表リハーサルの準備をする 復習：教員や他の履修学生からのアドバイスをもとにプレゼンテーションを修正・改善する(約2時間) B：中　D：多　E：あり　F：あり 第10回　履修者の研究プロジェクトの中間発表 ・準備、実施、ディスカッション、振り返りを通して、研究課題についての考察を深める 予習：中間発表のプレゼンテーションのナレーションを準備する 復習：教員や他の学生からのアドバイスをもとに、研究論文について修正を加え、改善する(約2時間)

	B：中　D：多　E：あり　F：あり 第11回　論理的な文章の書き方(保育学の視点から②) ・論理的な文章、要旨、本文、文献註の書き方について理解する 予習：指定文献を読む 復習：自分の研究論文の要旨を書く(約2時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第12回　統計的データの扱い方(子どもをめぐる社会的状況の理解) ・説得力のある論文を書くための数字の扱い方、比較について考える 予習：指定文献を読む 復習：統計的データを用いた比較について調べる(約2時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第13回　思考を深めるディスカッション(多文化教育への理解) ・自分の意見を言うことと人の意見を取り入れることについて、演習を通じて理解する 予習：指定文献を読む 復習：有意義なディスカッションの方法についての考察を深める(約2時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第14回　人に伝わるプレゼンテーション（発展） ・効果的なプレゼンテーションの方法と実践をプレゼンテーションのリハーサルを通して学ぶ ・タイムマネジメントや、ポインターの使い方などを学ぶ 予習：自分の研究論文に関するプレゼンテーションを準備する 復習：教員や他の履修学生からのアドバイスをもとにプレゼンテーションを修正・改善する(約2時間) B：中　D：多　E：あり　F：あり 第15回　履修者の研究プロジェクトの発表とディスカッション(国際乳幼児教育の視点から③) ・自分の研究プロジェクトのプレゼンテーションを実施し、今後の展望を見据える 予習：自分の研究論文に関するプレゼンテーションのリハーサルを実施する 復習：自らの研究プロジェクトに関し得られた学びについて省察する（約2時間） B：中　D：多　E：あり　F：あり
教育目標との関連	国際乳幼児教育の視点から、多様な方法で保育について学ぶ。履修者は、さまざまな研究方法を知り、人や自らと対話することを通じて自らの問いを探求する。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	３．　国際乳幼児教育に関し、多様な方法で、自らの考えや主張を発表することができる ４．　保育者が知的好奇心を持つことにより、子どもの知的好奇心の育成につながることを理解できる ５．　主体的に調べ、意欲的に学び、グローバルな視点で考えることの面白さを味わうことができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．毎回の授業への準備、参加の貢献度　40% ２．個人研究プロジェクト(論文/発表)　60% ３．ルーブリック評価による(添付資料参照のこと)
教科書	演習授業内で適宜指示する
参考書	演習授業内で適宜指示する
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	シラバスの各回の欄に記載する、Googleclassroom による課題の提出
履修上の注意、条件等	授業は対面で行う。諸般の状況を鑑み、遠隔（Googlemeetを使用した双方向）に変更することがある。 欠席等の扱いについては、「履修要綱」に準ずる やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ教員に連絡をし、課題に関する指示を受ける
オフィスアワー	授業の前後、及びメールにて受け付ける
備考・メッセージ	専攻科の学生としての高い意識と倫理観をもち、積極的に学んでいきましょう

講義科目名称：　幼児音楽入門Ⅰ（ピアノ）　　授業コード：

英文科目名称：　Introduction of Musical Study for Child Education (piano)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1単位	卒業選択
担当教員			
平井　敬子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：有	
添付ファイル			
幼児音楽入門（うた）ルーブリック.pdf			
幼児音楽入門（うた）カリキュラムマップ（到達目標）.pdf			

講義概要	こどもの頃、どのようにこどもの歌と接してきたかを思い起こすと、育ててくれた周りの大人達からの口伝えが大きな影響を与えていることに気づくと思う。この授業は、ピアノ初心者のための入門のコースである。こどもの歌を弾けることが、保育者としてのひとつの大事な役目であることをふまえ、ピアノを弾くことを中心に、ピアノを弾くために必要な知識を身につけていく授業である。音楽的な知識がなくても簡単に弾ける曲から難易度を少しづつ上げていき、ピアノに親しむ気持ちを無理なく身につけていく。同時に、理論的な事も学んでいく。 担当教員（平井）は、音楽高校や音楽大学に入学するための受験対策をする音楽教室に勤めていた経験を活かし、初心者でもこどもの歌をピアノで弾けるための簡単な伴奏譜の作成に取り組んでいる。自身が演奏活動も行っていることから、ただピアノを弾くだけでなく、人前でピアノを弾く時の心理状態の研究もしている。 他の科目との関連：「幼児音楽入門（ピアノ）Ⅱ、Ⅲ」、「幼児音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」、「声楽Ⅰ、Ⅱ」、「幼児と表現」、「保育内容（表現）の指導法Ⅰ、Ⅱ」に関連がある。また実習で弾くことになる「こどものうた」を学習するので、実習に関連がある。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回目　授業の進め方についての説明 ふたつの「ドレミファソラシ」のポジション（ト音記号とヘ音記号）を、五線に書いてみる。 メリーさんの羊、ちょうちょを、ドレミを楽譜に書きこんでから右手を弾いてみる。 ステップ１（根音での伴奏）で伴奏をつけてみる。 指番号について学ぶ。 復習　ふたつのポジションでのドレミファソラシを覚える。ちょうちょ、メリーさんの羊、ぶんぶんぶん　をステップ１（根音での伴奏）で弾く（毎日２０分） Ａ：中　Ｆ：あり 第2回目　ドレミファソで弾けるこどもの歌（１） ふたつのポジションでのドレミファソラシを書く復習。 左手のコード（ドミソ、ドファラ、シファソ）について、説明し、実際弾いてみる。 ちょうちょ、メリーさんの羊、ぶんぶんぶんを、コードの伴奏で弾いてみる。 復習　カデンツの練習。ちょうちょ、メリーさんの羊、ぶんぶんぶんをコードの伴奏で練習する。（毎日２０分） Ａ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第3回目　ドレミファソで弾けるこどもの歌（２）、左手をコードの伴奏で弾く ふたつのポジションでのドレミファソラシを書く。コード。をもう一度確認して弾く。 ちゅうりっぷ（ラが出てくるポジション）の指使いを学ぶ。 ちゅうりっぷをステップ１（根音での伴奏）とコードの伴奏で弾いてみる。 復習　ちょうちょ、メリーさんの羊、ちゅうりっぷを、どのステップでもよいので練習する。（毎日２０分） Ａ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第4回目　新しいポジション「ミソラシド」 右手のポジションを、ドレミファソ以外のミソラシドについて学習する。 どんぐりころころ、めだかの学校、たきびをステップ１（根音での伴奏）で弾いてみる。 復習　どんぐりころころ、めだかの学校、たきびをステップ１で練習する。（毎日２０分） Ａ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第5回目　左手の伴奏～コードから分散和音へ ちょうちょ、メリーさんの羊を、ステップ１（根音の伴奏）からステップ２（分散和音での伴奏）で弾いてみる。 他の曲も同じようにステップ２で弾いてみる。 復習：ステップ２の伴奏で、今まで習得した２曲を練習する。（毎日２０分） Ａ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第6回目　様々なポジションについて学ぶ 「音の高さ」について、プリントを使用して復習する。 「音の長さ」について学ぶ。（四分音符、八分音符、二分音符等） もう少し高い音域や低い音域について知識を増やす。 今までステップ１でやった曲を、ステップ２や３の伴奏で弾いてみる。 きらきら星、大きな栗の木の下でを配る。右手の様々なポジションについて知識を深める。 復習　色々な曲を難しいステップや分散和音の伴奏で練習する。（毎日２０分） Ａ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第7回目　シャープ、フラットについて学ぶ（１） ♯を使っている曲（おはようのうた）を使って、黒鍵が含まれたポジションについて説明する。 プリントで、♯とｂの鍵盤の位置を学習する。 おはようのうたを弾いてみる。 復習　おはようのうた、今までにやった曲を練習する。（毎日３０分） Ａ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第8回目　シャープ、フラットについて学ぶ（２）

	♭を使っている曲（メリーさんの羊ヘ長調、まつぼっくり）を説明する。 メリーさんの羊ヘ長調、まつぼっくり、山の音楽家を弾いてみる。 復習　メリーさんの羊ヘ長調、まつぼっくり、山の音楽家を練習する。（毎日３０分） 　Ａ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第9回目　他の言語でのドレミファソラシの呼び方、様々なポジションのこどもの歌 ドレミファソ、ＣＤＥＦＧ，ハニホヘトの呼び方をあらためて説明する。 ドレミファソ、ミソラシドだけでなく様々なポジションの曲を弾いてみる。 今までやった曲をひとつ上のステップで練習する。 復習　今までやった曲を３曲以上、難しいステップで練習する。（毎日３０分） 　Ａ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第10回目　言葉、リズム遊び 音楽を使った言葉遊びをする。 音程（音と音との幅）について学ぶ。 復習　音程のプリントを仕上げる。弾ける曲を一通り練習する。（毎日３０分） 　Ａ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第11回目　ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調 ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調のカデンツについてあらためて学ぶ。 こどものうたのハ長調の曲を１曲選び、ヘ長調とト長調に移調する。 復習　移調した楽譜で弾いてみる。今までやった曲を練習する。（毎日３０分） 　Ａ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第12回目　カデンツのテスト、絵日記をかく カデンツのテストを行う。 絵日記を、色鉛筆などを使用し、かく。 復習　今まで練習した曲を一通り弾いてみる。（毎日３０分） 　Ａ：少　Ｂ：中　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第13回目　難しい曲にチャレンジ。楽器を作る 少し難しい曲（ビリーブ、さんぽ、あめふりくまの子のうち一曲か数曲）を弾いてみる。 ヨーグルトの空き容器で、楽器を作る。 復習　今日選んだビリーブ、さんぽ、あめふりくまの子の中の一曲または数曲を練習する。（毎日３０分） 　Ａ：多　Ｂ：中　Ｄ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第14回目　筆記テストと実技テスト 筆記テストを行う。 別室で実技試験としてカデンツを弾いてもらう。 復習　配られたテスト解説に目を通しておく。今まで取り組んだ曲を一通り練習する。（毎日３０分） 　Ａ：少　Ｅ：あり　Ｆ：あり 第15回目　振り返り、まとめ 前回の欠席者は再試を受ける。 試験の解説を行う。 どのような保育者になりたいか、あらためて考えてみる。 　Ａ：中　Ｂ：少　Ｄ：少　Ｅ：あり
教育目標との関連	「こどものうた」をたくさん知ることにより、保育者として実践できる力を身につける。歌だけでなく、歌をもとに、工作や作文、お絵かきなど、他の活動とも繋げるアイデアを出せるようにする。異なる価値観や多様性にも柔軟に対応し、尊重できるためにも、様々な角度から歌う曲を選ぶ。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.(DP1)：基本的な知識を理解し、季節や年齢など、保育場面に応じたこどもの歌を選ぶことができる。 2.(DP4)：歌うことだけでなく、他の活動につなげるアイデアを提案することができる。 3.(DP3)：取り組んでいるこどもの歌から、他の活動につながるアイデアを提案することができる。 添付資料のカリキュラムマップ（到達目標）を参照。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	プリント課題　50%　毎回のプリント学習（小テスト）の成果を評価する。 実技課題　30%　ピアノの課題の取り組みと仕上がりを評価する。 平常点評価　20%　課題の取り組みの意欲や成果を評価する。
教科書	毎回、資料を用意する。
参考書	『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第１巻』大海由佳他　学研パブリッシング2019　1500円（税抜き） 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第２巻』大海由佳他　学研パブリッシング2019　1500円（税抜き） 他、授業内で適宜紹介する
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	前回や過去に習った曲を練習する。（前日までに30分） 授業を受けたあと、今日習った曲や過去に習った曲を復習する。（１日に20～30分） 毎日練習すると実力がつくので、自宅もしくは学校で練習する。
履修上の注意、条件等	毎回の配布資料を持参する。
オフィスアワー	授業の前後や、昼休みや放課後に受け付ける。
備考・メッセージ	ピアノを弾いたことがない、もしくは弾き方を忘れてしまった者に履修を勧める。 工作やお絵かき時の色鉛筆や文房具などは、こちらで準備。

講義科目名称：　子どもと世代間交流　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年生	1単位	卒業選択
担当教員			
金田利子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：	ナンバリング：
添付ファイル			
子どもと世代間交流　ルーブリック.pdf			
子どもと世代間交流　カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	子どもは社会の一員として子どもの世界で生きるとともに多様な世代の大人と共に生きている。しかし、そのことを積極的に意識し、双方の発展に活かそうとする取り組は、必ずしも社会的に大きな力になっているとは言えない。そこの視点を置き、実践的に発展させつつ理論的にも確かなものとしていこうとしているのが世代間交流学であると言える。 異世代の存在は、自覚的に見ていくと居ながらにして双方を必要としあう関係にある。 「人は必要とされるとき輝く。そこから本当の笑顔が生まれる（惣万佳代子）」 この講義では、子どもと他世代との関係における相互互恵性について、本学附属のフェリシア幼稚園の延長保育（かしの木クラブ）の取り組み（地域の中高年の方が培ってきた文化との交流）ともかかわりながら、子どもと中高年の方々の双方にどんな互恵性が形成されてきたかを学び、学生自身の参画も得て、新たなに世代間交流実践を創造する力の基礎を養う。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション ・世代間交流とはどんなこと可?世代間交流学とは？等について、これまでの歩みと実績から導入する。 ・参加者それぞれの経験や思いつくことについて語りあい、イメージを作る。 B：多 E：あり 第2回　注目されてきた世代間交流のビデオから学ぶ ・施設を拠点に。「このゆびとーまれ」等を観る。 地域を拠点に。「むくどりホーム」の実践例 ・感想を語り合う B：多 E：あり 第3回　典型的な実践事例の紹介 1. 東京江戸川区江東園（1970年代からの幼老統合保育） 2. 桑名市のウェルビーイングの紹介 第4回　世代とは何か　生涯発達における世代　各世代における主導的活動 ・異なる世代の主導的活動と主導的活動の響き合いにこそ、真の世代間交流があることを学ぶ ・授業担当者の世代間交流学の展開 B：中 E：あり 第5回　実践的研究事例の報告Ⅰ ・遊びを介した多世代主導的活動の相互交流 ・世代と世代の主導的活動の相互響き合い ・高校の福祉関係の実験的授業実践における総合関係の研究 ・幼児は遊び、高齢者は省察労働、高校生は学習、大学院生（修論）は職業・学習活動、高校教員と大学教員は生産的労働 B：多 E：あり 第6回　実践的研究事例の報告Ⅱ ・高齢者と幼児の関りでこそ可能な交流 ・幼児の労働的遊びにおいて生涯過程の基礎の「指導」を行う高齢者の社会的使命 B：多 E：あり 第7回　幼児と中高年の文化を通した交流と相互の学び合い ・本学附属フェリシア幼稚園の事例から1 ・典型的な実践　2例 B：多 E：あり 第8回　幼児と中高年の文化を通した交流と相互の学び合い ・本学附属フェリシア幼稚園の事例から2 ・典型的な実践　2例 B：多 E：あり 第9回　学生参画 ・学生と保育者としてというより近所のお姉さんとして、子どもに伝えたい何かを持って関わってみる ・フェリシアの延長保育（かしの木クラブ）との交流のための準備をする ・グループで案を立てる。 A：多 D：中 E：あり 第10回　実際にかしの木クラブで実践してみる

	・受け入れ側の条件により日程は変わることがある C：多 E：あり 第11回　世代間交流学会で出されている代表的な研究事例の紹介・リプリント ・東京都健康長寿医療センター研究所の仕事 B：多 E：あり 第12回　ESDと世代間交流 ・「持続可能な発展のための教育」にとって世代間交流の役割はどこにあるか ・次世代を生きる子どもの在り方と世代間交流の関係を講じる B：多 第13回　総括 ・「子どもと世代間交流」という視点からこれまでの内容を総括する ・参画者としての総括のレポート試験の方向について提示する B：多 E：あり F：あり 第14回　レポート試験 第15回　振り返り ・試験の振り返りを行う B：中 E：あり
教育目標との関連	幼児教育・保育の担い手として、乳幼児だけではなく視野を広げ、子どもたちと関わる他の世代との関連を捉え、双方の発展を幼児教育・保育の中に導入していく実践力を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. 各世代の主導的活動を理解し、相互関係をつくる視点が育つ。 3. 各世代の主導的活動のアセスメントができる技術が育つ。互いに関わる際の表現的な能力が身につく。 5. 世代間交流へのコーディネート等を通して人間性、社会性が豊かになる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業態度・参加状況・提出課題とプレゼンテーションを総合的に評価。 授業態度・参加・課題への取組み　30% 提出課題・個人プロジェクトとプレゼンテーション　70% ＊欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる
教科書	草野・柿沼・金田・藤原・間野編著『世代間交流学の創造』あけび書房
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	シラバスに記載されている授業テーマに関して、インターネットなどによって事前に調べるとともに、授業後の復習によって学習内容の理解を深めること。
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は、履修学生の理解度等により変更もある。
オフィスアワー	授業を行う日の空き時間
備考・メッセージ	授業形態は対面で実施する

講義科目名称：　演習ゼミ（相澤京子）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	２単位	専攻科　必修
担当教員			
相澤　京子			
添付ファイル			
演習ゼミ（相澤京子）2022.pdf			

講義概要	演習ゼミでは、世界の乳幼児教育に関する研究テーマを自ら設定し、調査研究をすることによって、探究することの面白さを体験的に学んでいく。このことを通じて、現代の乳幼児が抱える保育・教育上の諸問題について理解を深め、これからの保育・教育のあり方や保育の質に関する論文を作成することにより、自身の保育・教育観を構築することを目的とする。 本研究室では、特に絵本をはじめとする児童文化財を研究テーマとして取り組みたい学生を歓迎する。児童文化財は国内外の保育現場でも多く活用され、そのテーマも多岐にわたっている。本研究室では各自が興味のある児童文化財(または作品）を選択し、多様な視点から作品に表れた各国の文化の特徴を明らかにするとともに、それらを保育の現場でどのように生かせるのかを一緒に探っていきたいと考えている。 他の科目との関連性：本学で開講されているすべての科目が関連している。特に、本研究室では「児童文化」での学びを踏まえ、各自で研究テーマを設定することが望ましい。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション―演習ゼミとは何か― シラバスを用いて、本演習とねらいと内容、年間スケジュール、及び受講上の注意点等を説明する。 予習：シラバスをよく読んでおく（約30分） 復習：自身の興味のある研究テーマを考えておく。（約1時間） B:中　D:中　F：あり 第2回　論文と何か 論文とは何か、論文作成に対してどのような手順で取り組めば良いのかについて学ぶ。 それぞれの興味のある研究テーマについて理解を深めるための方法を考える。 予習：レポートと論文の書き方について、学生ハンドブックを読んでおく。（約1時間） 復習：自身の興味のある研究テーマについて理解を深めておく。（約1時間） B:中　D:中　F:あり 第3回　情報検索の方法 児童文化に関する文献の検索方法について学ぶ。 それぞれの研究テーマについてさらに理解を深めるための方法を考える。 予習：情報検索の方法について調べておく。（約1時間） 復習：各自の研究テーマに関する文献を探しておく。（約1時間） B:中　D:中　F:あり 第4回　研究文献の読み方 研究文献の読み方と自身の論文に生かす方法を学ぶ。 それぞれの研究テーマに関する文献リストを作成する。 予習：各自の研究テーマに関する文献を読んでおく。（約1時間） 復習：文献リストにある論文を読み、内容をまとめておく。（約1時間） B:中　D:中　F:あり 第5回　資料の収集方法 各自のテーマに関する資料の収集方法を学ぶ。 資料の整理・分析を行い、アドバイスと受ける。 予習：各自のテーマに関する資料を読む。（約1時間） 復習：アドバイスをもとに考察を書いてみる。（約1時間） B:中　D:中　F:あり 第6回　資料の整理と分析 各自のテーマに関する資料を整理し、分析を行う。 アドバイスをもとに分析・考察を書いてみる。 予習：各自のテーマに関する資料を読む。（約1時間） 復習：アドバイスをもとに考察を修正しておく。（約1時間） B:中　D:中　F:あり 第7回　資料の分析と考察 各自のテーマに関する資料を整理し、分析を行う。 アドバイスをもとに分析・考察を書いてみる。 予習：各自のテーマに関する資料を読む。（約1時間） 復習：アドバイスをもとに考察を修正しておく。（約1時間） B:中　D:中　F:あり 第8回　プレゼンテーションの方法 プレゼンテーションのための準備と練習、ゼミ内でのディスカッションを行う。 予習：プレゼンテーションのためのスライドを作成する。（約2時間） 復習：プレゼンテーションのためのスライドを修正する。（約1時間） B:中　D:多　E:あり　F:あり 第9回　中間発表（合同ゼミ） プレゼンテーションを実施するとともに、他の学生のプレゼンテーションを見て学ぶ。 質疑応答を受け、今後の課題を明確にする。 予習：プレゼンテーションのための原稿を作成する。（約2時間） 復習：今後の課題を明確化する。（約1時間） B:中　D:多　E:あり

	第10回　原稿の作成と添削①アウトライン アウトラインの考え方について学ぶ。 各自で作成した原稿に対してアドバイスを受ける。 予習：各自のテーマに関する資料の分析をもとに原稿を作成する。（約1時間） 復習：アドバイスをもとに原稿を修正しておく。（約1時間） B:中　D:中　F:あり 第11回　原稿の作成と添削②肉付け アウトラインに肉付けしていく方法を学ぶ。 各自で作成した原稿に対してアドバイスを受ける。 予習：各自のテーマに関する資料の分析をもとに原稿を作成する。（約1時間） 復習：アドバイスをもとに原稿を修正しておく。（約1時間） B:中　D:中　F:あり 第12回　原稿の作成と添削③注と参考文献 注と参考文献の書き方を学ぶ。 各自で作成した原稿に対してアドバイスを受ける。 予習：各自のテーマに関する資料の分析をもとに原稿を作成する。（約1時間） 復習：アドバイスをもとに原稿を修正しておく。（約1時間） B:中　D:中　F:あり 第13回　プレゼンテーションの準備 プレゼンテーションのための準備と練習、ゼミ内でのディスカッションを行う。 予習：プレゼンテーションのためのスライドを作成する。（約2時間） 復習：プレゼンテーションのためのスライドを修正する。（約1時間） B:中　D:多　E:あり　F:あり 第14回　最終プレゼンテーション（合同ゼミ） プレゼンテーションを実施するとともに、他の学生のプレゼンテーションを見て学ぶ。 質疑応答を受け、今後の課題を明確にする。 予習：プレゼンテーションのための原稿を作成する。（約2時間） 復習：今後の課題を明確化する。（約30分） B:中　D:多　E:あり
教育目標との関連	演習ゼミにおける論文作成は、専攻科での学びの集大成である。世界の乳幼児教育に関する自身の問いに対して様々な研究方法によって調査研究を行い、その成果を論文としてまとめることは、保育者としての確かな知識の獲得と自身の強い意志を育成することにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP1.論文作成やプレゼンテーションの基本的なルールを理解し、身につけている DP3.自身の研究テーマに関して、十分な根拠に基づく主張を論文としてまとめることができる DP4.自身の研究テーマに関する調査研究を主体的・意欲的に取り組むことができる 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	授業への取り組み　40%　・研究テーマに対する取り組み姿勢やプレゼンテーションの内容を評価する。 提出課題　60%　・提出されたゼミ論文の内容を評価する。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	特になし。
参考書	個々のテーマに合わせた参考文献を授業時に紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。授業時間以外にも論文作成のための調査研究を自主的に進めていくことが求められる。
履修上の注意、条件等	問題意識を持ち、自ら学ぶ意欲のある学生の参加を期待します。
オフィスアワー	授業の前後、及び103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

講義科目名称：　演習ゼミ（大見由香）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	２単位	専攻科　必修
担当教員			
大見　由香			
添付ファイル			
C Map OMI seminar 2022.pdf			
Rubric OMI seminar 2022.pdf			

講義概要	本演習ゼミでは日本、また海外のこどもの感性と音楽表現について見つめ、自己のテーマを見出し探求する。ディスカッション、フィールドワークの他各自の音楽の実技や経験を生かすなど、様々な視点からアプローチしていく。論理的思考と日頃からの自らの感性の両面を大切に研究していく。 他の科目との関連性：本学で開講されている全ての科目と関連するが、特に幼児音楽Ⅰ、Ⅱ、幼児と表現、保育内容（表現）の指導法と関連する。 実務経験： インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション　演習ゼミの概要 演習ゼミの概要を学びスケジュールを確認し、計画を立てる。グローバルな視点でこどもと音楽表現について触れ、ディスカッションする。 B：中　E：あり　F：あり 第2回　自己のテーマを見つける 自己の体験や調べ学習から問題意識、興味から研究テーマを見い出す。 B：中　E：あり　F：あり 第3回　テーマへのアプローチ テーマを探求するための必要なデータなど、アプローチの方法を考える。 B：中　E：あり　F：あり 第4回　情報収集の方法 PCや図書館を利用し、検索の方法を学び必要な文献を見出す。また情報源について信頼性や、データや事実に基づくもの、主観によるものなどの違いを学ぶ。 B：小　C：中　E：あり　F：あり 第5回　調査の方法 フィールドワークやアンケートによる調査の方法について学ぶ。 C：多　E:あり　F：あり 第6回　資料の分析 収集した資料を整理し、分析、考察を行う。 B：中　E：あり　F：あり 第7回　中間発表の準備 プレゼンテーションを行うための原稿、パワーポイント の準備をする。 B：中　E：あり　F：あり 第8回　中間発表 自己の発表体験、また他の発表やフィードバックから、プレゼンテーションの方法を学び、今後の研究へのアプローチの仕方を見出す。 B：中　D：中　E：あり　F：あり 第9回　中間発表の振り返り 研究内容の修正、データの追加などを行う。 B：中　E：あり　F：あり 第10回　研究内容の概要 論文作成に向けて研究内容の概要をまとめる。 B：中　E：あり　F：あり 第11回　原稿作成１ 原稿を作成する。 B：小　E：あり　F：あり 第12回　原稿作成２ 参考文献などの最終確認を行う。 B：中　E：あり　F：あり 第13回　プレゼンテーションの仕方　１ 伝わりやすいパワーポイント作成について学ぶ B：中　E：あり　F：あり 第14回　プレゼンテーションの仕方　２ 口頭発表のポイントを学び、練習する B：中　D：中　E：あり　F：あり 第15回　口頭発表 口頭発表を行う B：小　D：中　E：あり

教育目標との関連	国際こども教育専攻科生として、グローバルな視点でこどもの感性に関心を持ち、こども教育の発展を主体的に考え、探究する。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.世界のこどもの育ちやこどもの感性、表現に関して理解することができる。 2.世界のこどもの育ちやこどもの感性、表現に関して理論的な視点を持つことができる 3.世界のこどもの育ちやこどもの感性、表現に関して自ら主張し、発表することができる。 4.世界のこどもの育ちやこどもの感性、表現に関心を持ち、自らのテーマを見出して取り組むことができる。 5.異文化、ダイバーシティ、こどもの感性を尊重し、受け入れることができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．授業への参加度（準備、意欲を含む）　　40% ２．個人研究論文、発表　60% ルーブリック評価は添付資料参照
教科書	授業内で必要に応じて提示する。
参考書	授業内で必要に応じて提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	研究の進捗状況により、長期、短期課題を各回提示する。（2時間）
履修上の注意、条件等	授業は対面で行う。状況に応じて、Google Meet での授業もある。課題は口頭に加えGoogle Classroom 上での提示、提出を基本とする。
オフィスアワー	質問等は授業前後、もしくはメールにて受け付ける。
備考・メッセージ	論文、発表にあたっては自主的に取り組む姿勢が求められる。

講義科目名称： 声楽Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Vocal Study Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	２年	１単位	卒業選択
担当教員			
大見由香			
添付ファイル			
声楽1CMR.pdf			

講義概要	子どものうたや合唱曲に取り組む。授業では毎回ウォームアップ体操、呼吸、発声、音程などの基礎練習を行う。フレージング、歌詞の意味、曲の構成などを理解し、表現豊かな演奏を目指す。合唱ではお互いのバランスや調和をとる事を学ぶ。学修の成果は、わらべうた歌を用いたグループ発表、子どもの歌や、合唱曲や子どもの歌を用いた発表作品を準備し、子どもの前で発表する。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ、Ⅱ」で習得したうたの技能、表現力をさらに高める。本授業で習得した子どものうたの理解、表現、レパートリーは「保育内容（表現）の指導法Ⅰ、Ⅱ」「幼児音楽Ⅲ、Ⅳ」において、伴奏法、楽器演奏、身体表現、指導案作成の学習に関連する。 大見先生の実務経験 インターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。子どものミュージカルやティータイムショーの企画、監督なども手がけている。海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイント、また楽器を用いた表現法をなじみやすい方法で紹介できる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　授業の概要　呼吸と発声について 授業概要・呼吸と発声について説明を受け、実際に行う。 各自選んだ子どものうたを独唱し、各自の声質と声域を確認する。 復習：授業で行った呼吸と発声の練習とうたの練習。（20分） E：あり　F：あり 第2回　2部合唱・春のうた・歌詞について 「Believe」を2部で歌う。　歌詞の意味とフレーズを理解して表現する。 グループで選んだ曲の歌詞を模造紙にわかりやすく書くことを想定して縮小版を作成する。 音程（重唱）の練習。 予習・復習：春のうたを覚え、両パートともいつでも歌えるようにする。（20分） A：中　E：あり　F：あり 第3回　保育現場における歌唱活動（１） 春のこどもの歌の歌唱のポイントを学び練習する 予習・復習　春のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。各自のパートを練習する。（20分） E：あり　F：あり 第4回　保育現場における歌唱活動（２）　わらべ歌 保育現場における歌唱活動について：弾き歌い、手遊び、わらべうた。わらべうたのグループ練習。 予習・復習：『幼児のための音楽教育』のわらべうたをうたい遊び方を覚える。（20分） A：中　D：中　F：あり 第5回　保育現場における歌唱活動（３） わらべうたのグループ発表を鑑賞し保育現場でのわらべ歌について考える 予習・復習：授業で歌った歌を練習する。（20分） E:あり　F：あり 第6回　クラス別プロジェクト（1）計画 クラス別プロジェクトの内容を決定し、役割分担、準備計画を立てる。 予習・復習：授業で歌った歌を練習する。（20分） B：多　F：あり 第7回　クラス別プロジェクト（2）準備 クラス別プロジェクトの練習をし、必要な道具などを準備・作成する。 予習・復習：授業で決まった役割の練習、準備をする。（20分） B：あり　F：あり 第8回　クラス別プロジェクト（3）作成 クラス別プロジェクトの練習をし、必要な道具などを準備・作成する。進捗状況を確認し、課題を見出す。 予習・復習：授業で決まった役割の練習、準備をする。（20分） B：あり　E:あり　F：あり 第9回　クラス別プロジェクト（４）発表 クラス別プロジェクトの作品を鑑賞し振り返る 振り返りと次への課題（20分） E：あり　F：あり 第10回　全体プロジェクト（１）計画 グループごとにリハーサルを行い、見え方、音の伝わり方、機器類を確認する。 予習・復習：授業で決まった役割を暗譜で演じられるように練習し、準備をする。（20分） A：あり　B：多　F：あり 第11回　全体プロジェクト（２）準備 リハーサルを振り返り、改善点を見出す。 予習・復習：各自の役割の練習、準備をする。（20分） E:あり　F：あり

	第12回　全体プロジェクト（３）準備 最終確認をする。 予習・復習：各自の役割の練習、準備をする。（20分） E:あり　F：あり 第13回　全体プロジェクト（４）作成 全体プロジェクトの録画を各自で作成する。 予習・復習：個々の役割の練習と準備を行い、全体の流れを確認する。（20分） F：多 第14回　クラス別プロジェクト（５）発表 発表作品の準備段階や、最終作品を振り返る。振り返りアンケートを行う。 夏・秋のうたを歌う。 予習・復習：夏のうたを覚え、いつでも歌えるように練習する。（20分） E：あり　F:あり 第15回　幼児音楽Ｉまとめ 本授業で得たレパートリーや自身の歌唱について振り返り、今後の課題を見出す。 予習・復習：夏のうたを覚え、いつでも歌えるように練習する。（20分） E：あり　F:あり
教育目標との関連	保育者として必要な声楽の技術と知識を身につける。 子どものうたや、学生自身が共感できる曲に取り組むことにより、豊かな知性と愛の心、歌ごころを育てる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. 歌に込められたメッセージを理解し、状況にあった表現を理解している。 2. 童謡のレパートリーが増え、子どもやその時期の状況にあった歌を提示し、指導できる。 3. 子どもの歌を各音域で通る声で歌い、他者に伝わる表現で歌える。 4. うたの楽しみを感じ、表現の仕方を工夫することに関心を持つ。 5. お互いに聴き合う感覚を磨き、協働の重要性を理解している。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	受講態度　40%　課題への取り組み、またお互いに協力する姿勢、事前・事後の個人での練習を含む。 実技発表　60%　グループ発表、こどものうたや合唱曲を用いたプレゼンでの演奏。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	改訂『幼児のための音楽教育』神原雅之　編著　教育芸術社　2019年　2,000円（税抜） その他授業内にてプリントを配付する。
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	予習・復習：授業で取り組んだ子どものうたは、暗譜でいつでも歌えるようにしておく。（45分）
履修上の注意、条件等	うたを学びたいという気持ちのある者。グループでの発表に際しては、リハーサルを円滑に行うための協力、連絡、役割を全うする姿勢が不可欠。ファイルを準備し、授業で配布するプリントを保管し、毎回各自の楽譜を持ってくること。
オフィスアワー	Google Classroomもしくは大見研究室で受け付ける。オフィスアワーは、研究室に掲示する。
備考・メッセージ	本クラス用のYouTubeの練習用音源を活用して、日々の練習を行う事。

講義科目名称：　声楽Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋学期	２年	１単位	卒業選択
担当教員			
大見由香			
添付ファイル			

講義概要	
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	
教育目標との関連	
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	
教科書	
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な	

時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：　保育実習指導Ⅱ（専攻科）　　授業コード：

英文科目名称：　Instruction for Practice Teaching II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	１単位	保育士選択必修
担当教員			
山下　晶子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G206
添付ファイル			

講義概要	これまでの実習における学びを踏まえ、保育実習Ⅱに向けての保育実習の意義・目的・内容を理解し、自己課題を明らかにする。 こども理解に基づいた指導計画を立案し、模擬保育を通して実践する力・省察する力を養う。 また事後指導では、総括、評価を行い、今後の保育活動に活かせるよう、自己課題を明確にする。 他教科との関連：保育実習指導Ⅰ（保）・教育実習指導及び保育実習指導Ⅰ・教育実習において学んだ保育者としての心構えや保育技術の習得の上に、望ましい保育者像を追求する。 担当教員（山下）は、保育所での保育者経験があり、それを活かして、より現場をイメージできるような説明をしながら実習に向けての準備をすることができるよう、授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　オリエンテーション　保育士の仕事と役割 学内オリエンテーション①「実習参加に向けての準備」 これまでの実習を振り返り、実習生としての心構え・実習生に求められるものについて考える。また、アメリカにおける実習の在り方を知り、本学の実習の在り方について改めて理解を深める。 B:中　E:あり　F:あり 予習：シラバスを熟読しておく（30分） 復習：次の実習に向かうにあたり、どのような準備が必要であるか、各自で考える（30分） 第2回　こども理解と日誌の書き方① こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。(流れ記録) 流れ記述式の記録の取り方についてそのポイントを確認する。 B:中　E:あり　F:あり 予習：今までに行った実習の日誌を見返す（1時間） 復習；授業内でのVTRを思い出しながら、流れをまとめる（1時間） 第3回　こども理解と日誌の書き方② こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。（エピソード記録） エピソード記述式の記録の取り方についてそのポイントを確認する。 B:中　E:あり　F:あり 予習：今までに行った実習の日誌を見返す（1時間） 復習：授業内でのVTRを思い出しながら流れをまとめる（1時間） 第4回　乳児の指導計画 ０・１・２歳児指導計画の立案の仕方について学ぶ。生活場面における個別配慮事項について理解する。 実際に計画を立てる練習をする。 B:中　E:あり　F:あり 予習：乳児の発達について教科書を見て復習する（1時間） 復習：授業内で立てた計画を見直す（1時間） 第5回　乳幼児の活動提案 ０・１・２・３・４・５歳児の発達の理解に基づいた活動の提案を行う。活動内容が発達を踏まえたものであるか、またこどもたち自らが工夫を加えることができる発展性のある教材となっているか意見交換をし検討する。B:中　E:あり　F:あり 予習：幼児の発達について教科書を見て復習する（1時間） 復習：授業内に出た他者からの意見をまとめておく（1時間） 第6回　乳幼児の活動提案② ０・１・２・３・４・５歳児の活動の提案を行う（続き）。 責任実習を想定し、改良を加える。 Ｂ：多　Ｆ：あり 予習：活動案を決めシミュレーションする（1時間） 復習：授業内でまとめた計画を見直す（1時間） 第7回　学内オリエンテーション 学内オリエンテーション② 実習前の心構えと諸注意について 予習：保育実習Iを振り返り実習前の心構えを各自まとめる（1時間） 復習：実習園についてまとめたうえで、実習前オリエンテーションの質問事項をまとめる 第8回　全日指導案の作成 活動提案型の全日指導案を作成する。 課題：全日指導案の作成 A:多　E:あり　F:あり 予習：各自の選択した歳児の発達について十分理解しておく（1時間） 復習：授業内で決めた計画の詳細をシミュレーションする（1時間） 第9回　模擬保育の準備 乳児グループ、幼児グループに分かれて、模擬保育に向けた準備をする。 A:多　E:あり　F:あり 予習：主活動（模擬保育）に向けての準備物をまとめる（1時間） 復習：その活動に参加する実際の子どもをイメージする（30分）

	第10回　模擬保育① グループごとに、保育実習Ⅱをイメージし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価し、互いの評価も行う。 Ａ：多　Ｆ：あり 予習：模擬保育の準備をする（1時間） 復習：自身の振り返りをまとめる（1時間） 第11回　模擬保育② グループごとに、保育実習Ⅱをイメージし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価し、互いの評価も行う。 Ａ：多　Ｆ：あり 予習：模擬保育の準備をする（1時間） 復習：自身の振り返りをまとめる（1時間） 第12回　日誌点検 実習に向け、日誌の在り方について再確認し、内容の点検を行う。 Ｆ：あり 予習：保育実習Ⅰの日誌を見返す（1時間） 復習：実習日誌を書く際のポイントをまとめる（1時間） 第13回　保育実習Ⅱにおける学びについてディスカッション 保育実習Ⅱにおける学びについてディスカッションを以下の観点で行う。 ・園の特徴 ・保育者の姿勢や助言から学んだこと ・困ったことへの対応 ・これまでの実習と比較して成長したところ ・自分の保育観 Ｂ：多　F:あり 予習：実習を振り返る（1時間） 復習：自身の保育観について考える（1時間） 第14回　実習の振り返りとまとめ（学生によるプレゼンテーション及び自己評価と課題設定） 保育実習Ⅱにおける学びや自身への気づきについてプレゼンテーションを行う。 専門職としての保育士に必要な知識、態度、技能を身につけるために、保育実習Ⅱの自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 D:多 予習：実習を振り返り、プレゼンの下準備をする（1時間） 復習：次のステップに向けての自身の課題をまとめる（1時間）
教育目標との関連	保育者として、理論に基づいた確かな保育技術を身につける。また実習生としての立場を理解し、謙虚に誠実に、かつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行う。社会生活に必要な教養を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.保育実習Ⅱの意義、目的、心構え、法令上の事項について理解できる。 子どもの発達,子ども理解につとめるとともに、社会の中の保育園の存在意義について説明できる。 2.保育内容を観察・計画・実践・評価し、目標の達成に向けた改善及び方法について思考・判断することができる。 3.実習指導案、日誌、自己の課題等について規定及び文章作法に基づいてまとめることができる。 4.保育実習を振り返り、自身の良かった点や今後の課題について分析・自己評価することができる。 5.実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協働することができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	１．評価方法 提出課題50%　：提出された課題は確認後、各学生へのコメント・添削をして返す。 受講態度50%
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』小櫃智子他　わかば社　1400円 『保育所保育指針解説』　厚生労働省　　フレーベル館　250円
参考書	『保育学生のための実践国語表現』原田/留美　おうふう　1100円
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各授業前にはシラバスを確認し、授業に向けての準備を整えておく。その他、具体的予習内容は各授業会に記載している。
履修上の注意、条件等	保育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。
オフィスアワー	質問等は各教員の研究室で、オフィスアワーに受け付ける。
備考・メッセージ	原則として全て対面授業でおこなう。

講義科目名称： 保育実習Ⅱ（専攻科）　　授業コード：

英文科目名称： Nursery Practice Teaching　Ⅱ(Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春学期	専攻科	２単位	保育士選択必修
担当教員			
山下　晶子			
授業形態：実習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：G205
添付ファイル			

講義概要	本科目は保育所における実習である。 各保育所での指導を受け、保育観察・保育参加・責任実習などを行い、乳幼児理解をはじめ、実習記録の取り方、保育指導案の作成など保育の実際を学ぶことにより、使命感や責任感を持って教育実践できる能力を身につけることを目的とする。また事前に立てた個々の実習課題を追究する。保育所実習においては子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識し、常に学ぶ姿勢を持ち、体調に留意しながら実習に臨む必要がある。 担当教員（山下）は、保育所での保育者経験があり、それを活かして、より現場をイメージできるような説明をしながら実習に向けての準備をすることができるよう、授業を展開する。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約１１日間の実習を行う。教員が訪問指導を行う。 １．保育所の役割や機能の具体的展開 （１）養護と保育が一体となって行われる保育 （２）保育所の社会的役割と責任 ２．観察に基づく保育理解 （１）子どもの心身の状態や活動の観察 （２）保育士等の動きや実践の観察 （３）保育所の生活の流れや展開の把握 ３．子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （１）環境を通して行う保育、生活や遊びを通じて総合的に行う保育の理解 （２）入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 （３）地域社会との連携 ４．指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 （１）保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価とカリキュラムマネジメントの理解 （２）作成した指導計画に基づく保育実践と評価 ５．保育士の業務と職業倫理 （１）多様な保育の展開と保育士の業務 （２）多様な保育の展開と保育士の職業倫理 ６．自己課題の明確化
教育目標との関連	保育実習を通して学生は、本学の目標である幼児の心身の発達について広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場という社会で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身に着けることができる。さらに、自分の体調を管理しながら乳幼児と共に過ごすことにより、豊かな感性と愛の心を育む。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1.保育実習Ⅱの意義、目的、心構え、法令上の事項について理解できる。 子どもの発達,子ども理解につとめるとともに、保護者対応や支援の意義を理解できる 2.保育内容を観察・計画・実践・評価し、目標の達成に向けた改善及び方法について思考・判断することができる。 3.実習指導案、日誌、自己の課題等について規定及び文章作法に基づいてまとめることができる。 4.保育実習を振り返り、自身の良かった点や今後の課題について分析・自己評価することができる。 5.実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協調することができる。

評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習先が与えた評価　４０％ 実習日誌などの評価　６０％ 授業内でルーブリックを示し評価方法を解説する。 また保育・教職の手引きを参照すること。
教科書	なし
参考書	『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	保育実習Ⅰの指導内容、さらには保育実習指導Ⅱの授業内容を復習しておくこと。実習日誌に毎日記録をおこなう。（約2時間）提出された日誌は園でのチェックを受け、実習後に教員との評価票面談を通して振り返りをおこなう。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ（保育所および施設）を修了し、かつ保育実習指導Ⅱを履修しなければならない。 本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅱも修得できない。
オフィスアワー	実習中の質問等は実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	すべて対面（園における実習）

講義科目名称：　演習ゼミ（中村麻衣子）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	２単位	専攻科　必修
担当教員			
中村　麻衣子			
添付ファイル			
カリキュラムマップ演習ゼミ.pdf			
ルーブリック演習ゼミ.pdf			

講義概要	演習ゼミでは、世界の幼児教育・保育に関して一人ひとりの興味や関心に応じて主体的に学びを深め、探究することの面白さを体験しながら、国際幼児教育を考える新たな視点を持つことを目指します。 具体的には、子どもの心理をめぐる様々な疑問や課題について、日本国内だけではなく海外の動向・取組みも含め、多角的に分析、考察していくことで、課題解決に挑みます。子どもの幸せを守る！世の中を良くする！という気持ちで、自分の興味・関心のある課題を探究しましょう。 教育現場におけるカウンセラーとしての実務経験と海外留学経験を持つ教員、および、他の履修生と討議を重ねながら、視野を広げていきます。 他の科目との関連性：本学で学ぶすべての科目が関連している。特に「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「子ども理解と相談援助」「幼児と人間関係」などで学んだ理論が基盤となる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション(ガイダンス) ・シラバス内容と授業概要を理解し、1年間の目標を確認する 予習：シラバスを読む（約30分） 復習：授業で学んだことを振り返り、授業を通じた自らの目標を立てる(約1時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第2回　研究論文とは何か ・リサーチクエスチョンの見つけ方、レポートとの違い、情報源の信頼性について理解する 予習：研究論文とレポートの違いについての意見をまとめる（約1時間） 復習：リサーチクエスチョンについて省察する(約1時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第3回　研究論文を探す ・論文の検索システムの用い方、調べ方について学ぶ 予習：関心のあるテーマについての意見をまとめる（約1時間） 復習：論文の検索方法の基本について省察する(約2時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第4回　研究論文の形式と構成 ・研究プロジェクトのテーマの選択と、仮タイトルの決定を通じて、自らの研究課題についての理解を深める 予習：関心のある論文を入手し、3本以上読む（約1時間） 復習：3本の研究論文についてのポイントをまとめる(約1時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第5回　多様な研究方法 ・質的研究法/量的研究法 ・先行研究を基に多様な研究方法を理解する 予習：自分の関心のある研究方法（メソッド）を調べる（約1時間） 復習：多様な研究方法について省察する(約1時間) A ：中　B：中　C：中　E：あり　F：あり 第6回　フィールドワーク法についての学び ・写真を用いたフィールドワークの演習を通じて、研究法についての理解を深める 予習：フィールドワークについて自分なりの意見をまとめる（約1時間） 復習：写真を用いたフィールドワークのレポートを完成する(約1時間) A ：少　B：少　C：多　E：あり　F：あり 第7回　先行研究の収集と整理 ・文献・資料の収集方法、図書館の利用（発展） ・引用文献の書き方について学ぶ 予習：自分の研究テーマに関連する先行文献について調べる（約1時間） 復習：先行文献を調べ、論文における記載の仕方を理解する(約1時間) A ：多　B：中　C：少　E：あり　F：あり 第8回　研究倫理 ・オリジナリティーと剽窃（ひょうせつ）、インフォームドコンセントについて学ぶ 予習：論文における倫理についての指定文献を読む（1時間） 復習：論文における倫理と剽窃についての理解を定着させる(約1時間) A ：中　B：多　E：あり　F：あり 第9回　人に伝わるプレゼンテーション（基礎） ・プレゼンテーションの作成とディスカッションを通して、より良く人に伝える方法について理解する 予習：プレゼンテーションを作成し、発表リハーサルの準備をする（約1時間） 復習：教員や他の履修学生からのアドバイスをもとにプレゼンテーションを修正・改善する(約1時間) B：中　D：多　E：あり　F：あり 第10回　中間発表 ・準備、実施、ディスカッション、振り返りを通して、研究課題についての考察を深める

	予習：中間発表のプレゼンテーションのナレーションを準備する（約1時間） 復習：教員や他の学生からのアドバイスをもとに、研究論文について修正を加え、改善する(約1時間) B：中　D：多　E：あり　F：あり 第11回　論理的な文章の書き方 ・論理的な文章、要旨、本文、文献註の書き方について理解する 予習：指定文献を読む（約1時間） 復習：自分の研究論文の要旨を書く(約1時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第12回　統計的データの分析手法 ・説得力のある論文を書くための数字の扱い方、分析手法（平均値や比較）を知る 予習：指定文献を読む（約1時間） 復習：統計的データを用いた比較について調べる(約1時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第13回　思考を深めるディスカッション ・自分の意見を言うことと人の意見を取り入れることについて、演習を通じて理解する 予習：指定文献を読む（約1時間） 復習：有意義なディスカッションの方法についての考察を深める(約1時間) A：中　B：多　E：あり　F：あり 第14回　人に伝わるプレゼンテーション（発展） ・効果的なプレゼンテーションの方法と実践をプレゼンテーションのリハーサルを通して学ぶ ・タイムマネジメントや、ポインターの使い方などを学ぶ 予習：自分の研究論文に関するプレゼンテーションを準備する（約1時間） 復習：教員や他の履修学生からのアドバイスをもとにプレゼンテーションを修正・改善する(約2時間) B：中　D：多　E：あり　F：あり 第15回　最終口頭発表と質疑応答 ・自分の研究プロジェクトのプレゼンテーションを実施し、今後の展望を見据える 予習：自分の研究論文に関するプレゼンテーションのリハーサルを実施する（約1時間） 復習：自らの研究プロジェクトに関し得られた学びについて省察する（約1時間） B：中　D：多　E：あり　F：あり
教育目標との関連	演習ゼミにおける研究活動は専攻科での学びの集大成である。自身の問いをたて、多様な研究方法を用いて調査、考察し、論文にまとめるという一連の活動は、保育者としての確かな知識を用いた論理的思考力、表現力、学びに向かう意欲を育成することにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP2：自身の問いについて、客観的な根拠に基づき、論理的に考えることができる。 DP3：十分な根拠に基づいた考えや主張を、筋道立てて、わかりやすい文章で表現することができる DP4：研究に主体的・意欲的に取り組むことができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	毎回の授業への準備、参加の貢献度　40% 個人研究プロジェクト(論文執筆/発表)　60% ルーブリック評価による(添付資料参照のこと)
教科書	演習授業内で適宜指示する
参考書	『心理学論文の書き方　おいしい論文のレシピ』都筑学　2006年　有斐閣アルマ　1,800円+税
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。授業時間以外にも論文作成のための調査を自主的に進めていくことが求められる。
履修上の注意、条件等	授業は対面で行う。諸般の状況を鑑み、遠隔（Googlemeetを使用した双方向）に変更することがある。 欠席等の扱いについては、「履修要綱」に準ずる。 やむを得ず欠席する場合は、あらかじめ教員に連絡をし、課題に関する指示を受けること。
オフィスアワー	研究室（104）で受け付ける。時間は研究室に掲示する。随時メールでも受け付ける。
備考・メッセージ	専攻科の学生としての高い意識と倫理観をもち、積極的に学んでいきましょう

講義科目名称： 演習ゼミ（橋元知子）　　授業コード：

英文科目名称： Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	２単位	専攻科　必修
担当教員			
橋元　知子			
添付ファイル			
2022演習ゼミ（TH）ルーブリック.xlsx			
2022演習ゼミ（TH）カリキュラムマップ.xlsx			

講義概要	This seminar goes over the background of applied linguistics to equip students with the basic knowledge of this area of study. This is followed by guidance and consultation in student's area of interest to investigate a question that they wish to pursue. The instructor is an accomplished researcher with a Ph.D. in global Japanese studies and specializes in applied linguistics and English language learning. She has published in domestic and international journals and has presented at global conferences.
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Lesson 1　Introduction Introduction of the course and instructor will be given. Students will create a schedule to write up their graduation thesis. A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 2　What is applied linguistics? ~ Behind the theory ~ Students will acquire the background of applied linguistics and what attracts researchers to this area of study. A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 3　Why do people acquire languages? ~The two theories behind first language acquision ~ Students will learn about Chomsky's and Tomasello's theory of language acquisition. A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 4　How does one's first and second language affect one another? Students will become knowledgeable about the effects of an individual's first language on second language acquisition. A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 5　How did studies in second language acquisition begin? Students will find out how the theory of second language acquisition began and the process in which second languages are acquired. A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 6　The two different approaches to second language acquisition and guidance for graduation thesis Students will read about cognitive and social approaches to second language acquisition. In addition, students will be given guidance for their graduation thesis and prepare for their interim verbal presentation. A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 7　Interim verbal presentation Students will give their interim verbal presentation (five to 10 minutes) in front of colleagues and teachers and receive feedback. D:多、E:あり、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 8　Should learning English start at an early age? and advice following feeback from interim verbal presentation Students will learn about the critical period hypothesis and the theories involving learning English from a young age. Furthermore, students will be given guidance on their graduation thesis following feedback from their interim verbal presentation. A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 9　Guidance on how to write a graduation thesis Students will be given guidance on how to write a graduation thesis. A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 10　Consultation on how to write up a graduation thesis ~ literature review ~ Students will be given consultation on how to write up the literature review of their graduation thesis. A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 11　Consultation on how to write up the final draft of a graduation thesis ~ Methodology ~ Students will be given consultation on how to write up the methodology section of their graduation thesis.

	A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 12　Consultation on how to write up the final draft of a graduation thesis ~ Results and discussion ~ Students will be given consultation on how to write up the results and discussion section of their graduation thesis. A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 13　Consultation on how to write up the final draft of a graduation thesis ~ Introduction ~ Students will be given consultation on how to write up the introduction section of their graduation thesis. A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 14　Guidance and consultation on submitting a graduation thesis and preparing for a final presentation Guidance and consultation on submitting a graduation thesis will be provided. Moreover, students will be given advice for their final presentation. A:多、B:多、F:あり 予習：２時間、復習：２時間 Lesson 15　Final presentation Students will give a final presentation of their thesis in front of colleagues and teachers and receive feedback. D:多、E:あり 予習：２時間、復習：２時間
教育目標との関連	The goal of this course is for students to gain the necessary skills to 1. Come up with a research question 2. Conduct research individually 3. Present findings both verbally and in writing
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	1. Students can investigate a research question on their own. 3. Students can present in front of an audience in an effective manner. 4. Students have an interest in a particular subject matter.
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	Students will be evaluated by 1) their attitude in class and throughout the process of writing their graduation thesis 2) mid and final verbal presentations 3) submitted thesis
教科書	馬場今日子、新多了（著）「はじめての第二言語習得論講義 - 英語学習への複眼的アプローチー」大修館書店
参考書	Will be assigned in class as necessary.
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	Students are required to autonomously conduct research on their graduation thesis before and after class.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	Students may ask questions before and after class as well as schedule appointments with the instructor as necessary.
備考・メッセージ	

講義科目名称：　演習ゼミ（山下晶子）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	２単位	専攻科　必修
担当教員			
山下　晶子			
添付ファイル			

講義概要	
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	
教育目標との関連	
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	
教科書	
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な	

時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：　演習ゼミ（森脇晋）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	２単位	専攻科　必修
担当教員			
森脇　晋			
添付ファイル			

講義概要	
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	
教育目標との関連	
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	
教科書	
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な	

時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：　演習ゼミ（石見容子）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	２単位	専攻科　必修
担当教員			
石見　容子			
添付ファイル			

講義概要	本ゼミナールでは、子どもがより良く育つために保育者である私たちには何ができるのか、どのような経験・知識が必要なのか、調査や文献をもとに保育者としての専門性を高めることを目的とします。 保育者とは？教育者とは？と常に自問しながら、どのような保育者を目指したいか、保育者になったらどのようなことをしたいか、具体的なイメージを持ちながら共に学びを深めましょう。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回　イントロダクション シラバスを確認し、ゼミナール受講の意義について考える 予習：シラバスを読む（30分） 復習：授業内で考えたことを基に、自身の目標を立てる（1時間） A　B中　C　D　Eあり　Fあり 第2回　研究論文とは何か レポートとの違いを理解し、情報の信ぴょう性について学ぶ 予習：研究論文とはなにか、レポートとの違いについて自分なりの意見をまとめる（1時間） 復習：自身の興味のある分野について模索する（1時間） A　B中　C　D少　Eあり　Fあり 第3回　研究論文を探す 文献の探し方について学ぶ 予習：自身の興味ある分野についていくつかの項目にまとめておく（1時間） 復習：実際に興味ある分野についての論文を検索してみる（1時間） A　B中　C　D　Eあり　Fあり 第4回　研究論文の形式と構成について学ぶ 研究テーマについてまとめ、仮タイトルを通じて自身の課題についてまとめる 予習；関心ある論文を2－3本読む（1時間） 復習：入手した論文を基に、自身の論文の方向性について考える（1時間） A　B中　C　D　Eあり　Fあり 第5回　多様な研究方法を知り、自身の研究について、その方法を考える 他者の論文を読みながら、自身の研究の方法について考える （質的研究、量的研究、文系研究、理系研究等） 予習：自身の興味あるテーマについて、どのように研究をしたら良いか考える（1時間） 復習；自身のテーマに合った研究方法について考え、資料をさらに検索する（1時間） A　B中　C　D　Eあり　Fあり 第6回　フィールドワーク法について学ぶ フィールドワークを伴う研究について理解を深める 予習：実際にフィールドワークを伴う研究をしている論文を探す（1時間） 復習：自身の研究テーマとフィールドワークを伴う研究について、その関連の有無を考える（1時間） A　B中　C　D　Eあり　Fあり 第7回　先行研究について 自身のテーマに沿った先行研究を収集し、引用・参考文献の重要性と書き方について学ぶ 予習：自身のテーマに関する先行研究論文をを2－3本探す（1時間） 復習：実際に入手した文献の文献リストを作成してみる（1時間） A　B中　C　D　Eあり　Fあり 第8回　研究の倫理的配慮について学ぶ 研究における倫理、インフォームドコンセントについて学ぶ 予習：論文について倫理とは何か、配布資料を読む（1時間） 復習：授業を振り返り、自身の研究におけるオリジナリティについて確認する（1時間） A　B中　C　D　Eあり　Fあり 第9回　プレゼンテーションについて学ぶ 論文発表としてのプレゼンテーションの意義を知る 予習：発表リハーサルの準備を進める（1時間） 復習：プレゼンテーションの際の大切なポイントをまとめる（1時間） A　B中　C　D中　Eあり　Fあり 第10回　中間発表 今までのまとめをし、最終発表に向けての課題を模索する 予習：中間発表の準備をする（2時間） 復習：他からの助言を基に、自身の論文の修正をする（2時間） A　B中　C　D多　Eあり　Fあり 第11回　論文の書き方とその要旨の書き方について理解する 自身の論文を基に、その要旨の書き方を学ぶ 予習：自分の論文について、400字程度に要約する（1時間） 復習：授業での学びを基に、改めて自分の論文の要旨を作成する（2時間） A　B中　C　D　Eあり　Fあり 第12回　読み手を説得する方法について考える

	論理的な文章の書き方を学び、読み手を説得するための手段について模索する 予習：自身の論文を読み直し、主張するべきところ、今後の課題についてまとめておく（1時間） 復習：授業での学びを基に、論文に加筆・修正が必要性について省察する（1時間） A　B中　C　D　Eあり　Fあり 第13回　読み手を理解することの大切さを知る 読み手の立場になって、あらためて自身の論文を読み直してみる 予習：自分の論分のポイントを整理し、研究としての今後の課題は何か、考える（1時間） 復習：様々な角度から論文を読み直し、授業の省察を深める（1時間） A　B中　C　D　Eあり　Fあり 第14回　プレゼンテーションについて復習する 聞き手に伝わる、説得するプレゼンテーションについて考える 予習：自身の論文の中で、一番強調したい部分、主張するべき箇所についてまとめる（1時間） 復習：最終口頭発表に向けての準備をする（2時間） A　B中　C　D　Eあり　Fあり 第15回　最終口頭発表と質疑応答 自身の研究について口頭発表をする 予習；口頭発表に向けてのリハーサルを行う（1時間） 復習：口頭発表での経験と、その後の質疑応答から学んだことをまとめる（1時間） A　B中　C　D多　Eあり　Fあり
教育目標との関連	専攻科生としての学びんお集大成として、自身の経験や学んできたことを基に、保育者として進むべき方向性について考えるきっかけとし、さらに向上する意欲を持つことに繋げる
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP2：自身の問いについて根拠をもって、論理的に思考することができる DP3：明確な根拠をもち、自身の考えをわかりやすく文章にまとめることができる DP4：研究に対し、主体的・意欲的に取り組むことができる
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	毎回の授業への参加・準備４０％ 個人研究の執筆と発表６０％
教科書	必要に応じ、資料を配布する
参考書	『アカデミック・スキルズ』慶應義塾大学出版会
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業時間以外にも、論文作成に向けて、自主的に行動していくことが求められる
履修上の注意、条件等	授業は基本的には対面で行う。
オフィスアワー	
備考・メッセージ	学生生活の総まとめとして、社会に出る前の段階としてふさわしい学びの態度で進めてまいりましょう

講義科目名称：　演習ゼミ（渡邊眞理）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	２単位	専攻科　必修
担当教員			
渡邊　眞理			
添付ファイル			

講義概要	本ゼミナールでは発達が気になる子ども、障害のある子どもが保育園や幼稚園でどのように過ごしているのか、保育者は子どもをどのように捉えているのか、保育の工夫、生活の工夫などについて研究していきます。現場に出た際に出会う子どもに最善の利益としての保育が提供できるよう保育者としての専門性を探求していきましょう。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第１回　イントロダクション シラバスを確認し授業概要を理解する。 今後の計画を立てる。 予習：シラバスを読む(30分) 復習：授業を通し学んだことをもとに自分の目標を立てる。(1時間) A:　B:中　C:　D:　E:あり　F:あり 第２回　研究論文とは何か 論文とレポートの違いより論文を学ぶ。 情報の信頼性、信憑性について理解する。 予習：レポートについてまとめ研究論部について考える。（１時間） 復習：自分の興味のある分野について考え書き出す。(1時間) A:　B:中　C:　D:　E:あり　F:あり 第３回　研究論文を探す 文献の検索について学び、先行研究を知る。 予習：興味、関心のある分野について整理し書き出す。（１時間） 復習：論文検索の方法を用い実際に興味、関心のある分野の論文を検索する。(1時間) A:　B:中　C:　D:　E:あり　F:あり 第４回　研究論文の形式と構成 研究の流れを学び、研究論文について理解する。 研究テーマについてまとめ、仮タイトルをつける。 予習：興味、関心のある論文を読む。（１時間） 復習：入手し読んだ論文をまとめ自分の研究課題を考える。(1時間) A:　B:中　C:　D:　E:あり　F:あり 第５回　多様な研究方法 先行研究から質的研究・量的研究・文研研究など多様な研究について学ぶ。 予習：自分の興味あるテーマと研究方法について調べる。（１時間） 復習：授業を振り返り自分の興味あるテーマにふさわしい研究方法を考えまとめる。(1時間) A:　B:中　C:　D:　E:あり　F:あり 第６回　フィールドワーク法について学ぶ フィールドワークを用いた研究論文よりフィールドワークについて学ぶ。 予習：フィールドワークを用いた論文を探す。（１時間） 復習：自分の研究とフィールドワークを用いた論文を比較し関連の有無を考える。(1時間) A:　B:中　C:　D:　E:あり　F:あり 第７回　先行研究の収集と整理 自分の研究に沿った先行研究を収集する方法を学ぶ。 引用文献、参考文献の書き方を学ぶ。 予習：自分の研究課題に関連する先行研究を探す。（１時間） 復習：入手した文献の文献リストを作成する。(1時間) A:　B:中　C:　D:　E:あり　F:あり 第８回　研究倫理 研究における倫理とインフォームドコンセントについて学ぶ。 研究における倫理的配慮について知る。 予習：論部における倫理について配布資料を読む。（１時間） 復習：授業を振り返り研究倫理についての重要性を理解し自分の研究のオリジナリティーを考える。(1時間) A:　B:中　C:　D:　E:あり　F:あり 第９回　人に伝わるプレゼンテーション　基礎 プレゼンテーションの意義を知る。 パワーポイントを活用してのプレゼンテーションの仕方を学ぶ。 予習：自分の研究で伝えたいところを明確にする。（１時間） 復習：プレゼンテーションの際の大切なポイントをまとめる。(1時間) A:　B:中　C:　D:中　E:あり　F:あり 第１０回　中間発表 準備、発表、ディスカッション、振り返りを通して研究課題についての考察を深める。 予習：中間発表についての準備をする。（２時間） 復習：他からの助言をもとに自分の論文を修正し改善する。（２時間） A:　B:中　C:　D:多　E:あり　F:あり 第１１回　論理的な文章の書き方 論理的な論文の書き方と要旨の書き方を学ぶ。

	自分の論文の要旨を書く。 予習：自分の論文の要旨をまとめる。（１時間） 復習：授業での学びを振り返り自分の要旨に加筆・修正をしてまとめる。（１時間） A:　B:中　C:　D:　E:あり　F:あり 第１２回　読み手を説得する方法を考える 研究において伝えたいことを的確に伝える方法を学ぶ。 読み手を説得するための手段を考える。 予習：自分の論文を読み直し伝えたい個所を明確にする。（１時間） 復習：授業での学びを振り返り論文の加筆・修正箇所を明確にする。（１時間） A:　B:中　C:　D:　E:あり　F:あり 第１３回　思考を深めるディスカッション 自分の意見を伝えることと、人の意見を取り入れることについて学ぶ。 予習：配布資料を読む。（１時間） 復習：ディスカッションのあり方、意義について整理する。（１時間） A:　B:中　C:　D:　E:あり　F:あり 第１４回　人に伝わるプレゼンテーション　発展 効果的なプレゼンテーションの方法と実践についてプレゼンテーションのリハーサルを通して学ぶ。 聞き手に伝わる、説得するプレゼンテーションを考える。 予習：プレゼンテーションの準備をする。（１時間） 復習：授業での学びを振り返り最終口頭発表に向けての準備をする。（２時間） A:　B:中　C:　D:　E:あり　F:あり 第１５回　最終口頭発表と質疑応答 自分の研究について口頭発表をする。 予習：口頭発表にむけ準備をして、リハーサルを行う。（１時間） 復習：口頭発表での経験と、その後の質疑応答から学んだことをまとめ今後に繋げていく。（１時間） A:　B:中　C:　D:多　E:あり　F:あり
教育目標との関連	専攻科性としての学びの集大成として研修、保育実習、教育実習などの実践を通しての学び、さらに大学における教科の学びを通して自ら明確にした課題を多様な研究方法を用いて考察し論文にまとめる。これら一連の学びは保育者としての探求する学びへとつながっていく。
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	DP2：自身の問いについて根拠に基づき論理的に考えることができる。 DP3：明確な根拠に基づいた考えや主張を自分の言葉でわかりやすい文章で表現することができる。 DP4：研究について主体的・意欲的に取り組むことができる。
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	毎回の授業の準備と参加　40% 個人の研究の執筆と発表　60%
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書	適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	授業時間以外に論文作成に向けて自主的に取り組むことが求められる。
履修上の注意、条件等	授業は基本的には対面で行う。 欠席の扱いについては「履修要覧」に準ずる。 やむを得ず欠席する場合は予め教員に連絡をし、課題に関する指示を受けること。
オフィスアワー	研究室(220)で受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	専攻科学生として、学生生活の総まとめとして高い意識と倫理観をもち主体的に学びましょう。

講義科目名称：　演習ゼミ（安田真紀子）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	２単位	専攻科　必修
担当教員			
安田　真紀子			
添付ファイル			

講義概要	
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	
教育目標との関連	
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	
教科書	
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な	

時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：　留学英語準備講座Ⅰ　　授業コード：30167

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年	１単位	卒業選択
担当教員			
MaryJones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：
添付ファイル			

講義概要	
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	
教育目標との関連	
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	
教科書	
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な	

時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称：　留学英語準備講座Ⅱ　　授業コード：30168

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年	１単位	卒業選択
担当教員			
MaryJones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	ナンバリング：
添付ファイル			

講義概要	
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題　G:ＰＢＬ（課題解決型学習）　H:反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、 知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	
教育目標との関連	
到達目標 カリキュラムマップ １．知識・理解 ２．思考・判断 ３．技能・表現 ４．関心・意欲 ５．人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1.試験等の評価方法　2.ルーブリックによる評価基準	
教科書	
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な	

時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	